

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄	備考						
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジンケンリツヒロシマダイガク 公立大学法人県立広島大学							
フリガナ大学の名称	ケンリツヒロシマダイガク 県立広島大学 (Prefectural University of Hiroshima)							
大学本部の位置	〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号							
大学の目的	地域に貢献する知の創造、応用及び蓄積を図る知的活動の拠点として、主体的に考え、行動し、地域社会で活躍できる実践力のある人材を育成するとともに、地域に根ざした高度な研究を行い、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	地域創生学部では地域社会の実態や課題を浮き彫りにするとともに、課題の解決に向けて地域文化・地域産業・健康科学についての専門知識・技能を活用し、さまざまな個人や組織と協働できる人材を育成する。また主体的に考え、課題解決に向け行動できる実践力、多様性を尊重する国際感覚や豊かなコミュニケーション能力を身に付け、生涯学び続ける自律的な学修者として、地域創生に貢献できる「課題探究型地域創生人材」を育成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	地域創生学部 [Faculty of Regional Development]	年	人	年次人	人	学士 (地域創生) 【Bachelor of Regional Development】	令和2年4月 第1年次	広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号
	地域創生学科 [Department of Regional Development]			—				
	地域文化コース	4	75		300			
	地域産業コース	4	90		360			
健康科学コース	4	35		140				
計			200		800			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	人間文化学部 (廃止) 国際文化学科 (△85) 健康科学科 (△35) ※令和2年4月学生募集停止 経営情報学部 (廃止) 経営学科 (△60) 経営情報学科 (△40) ※令和2年4月学生募集停止 生命環境学部 (廃止) 生命科学科 (△110) 環境科学科 (△55) ※令和2年4月学生募集停止 総合学術研究科 保健福祉学専攻博士課程後期 (5) (平成31年3月許可申請) 令和2年4月 名称変更予定 総合学術研究科保健福祉学専攻 修士課程 → 博士課程前期							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース	146科目	96科目	5科目	247科目	124単位		
	地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース	141科目	50科目	4科目	195科目	124単位		
地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース	121科目	46科目	30科目	197科目	124単位			

教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
組織の概要	新設	地域創生学部 地域創生学科	33人 (34)	19人 (19)	0人 (0)	2人 (5)	54人 (58)	0人 (0)	95人 (91)	※令和元年5月設置届出予定 ※令和元年5月設置届出予定
		生物資源科学部 地域資源開発学科	4人 (4)	5人 (5)	1人 (1)	1人 (1)	11人 (11)	0人 (0)	72人 (72)	
		生命環境学科	14人 (15)	15人 (15)	0人 (0)	3人 (3)	32人 (33)	0人 (0)	60人 (60)	
		計	51人 (53)	39人 (39)	1人 (1)	6人 (9)	97人 (102)	0人 (0)	— (—)	
	既設	保健福祉学部 看護学科	7人 (7)	6人 (6)	8人 (8)	6人 (6)	27人 (27)	4人 (4)	127人 (127)	
		理学療法学科	9人 (9)	1人 (1)	1人 (1)	4人 (4)	15人 (15)	0人 (0)	139人 (139)	
		作業療法学科	9人 (9)	0人 (0)	3人 (3)	1人 (1)	13人 (13)	0人 (0)	141人 (141)	
		コミュニケーション障害学科	5人 (5)	5人 (5)	3人 (3)	2人 (2)	15人 (15)	0人 (0)	139人 (139)	
		人間福祉学科	6人 (6)	9人 (9)	5人 (5)	1人 (1)	21人 (21)	0人 (0)	133人 (133)	
		総合教育センター	2人 (2)	3人 (3)	1人 (1)	1人 (1)	7人 (7)	0人 (0)	0人 (0)	
学術情報センター		0人 (0)	1人 (1)	1人 (1)	0人 (0)	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)		
地域基盤研究機構		0人 (0)	3人 (3)	3人 (3)	0人 (0)	6人 (6)	0人 (0)	0人 (0)		
分	計	38人 (38)	28人 (28)	25人 (25)	15人 (15)	106人 (106)	4人 (4)	— (—)		
合計		89人 (91)	67人 (67)	26人 (26)	21人 (24)	203人 (208)	4人 (4)	— (—)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		大学全体	
	事 務 職 員		55人 (55)		66人 (66)		121人 (121)			
	技 術 職 員		0 (0)		3 (3)		3 (3)			
	図 書 館 専 門 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計		55 (55)		69 (69)		124 (124)			
校地等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		大学全体 (運動場用地のうち、三原市からの借用地面積：9923.12㎡/借用期間：平成29年4月1日～平成39年（令和9年3月31日まで）)	
	校 舎 敷 地	136,062㎡	0㎡		0㎡		136,062㎡			
	運 動 場 用 地	45,604㎡	0㎡		0㎡		45,604㎡			
	小 計	181,666㎡	0㎡		0㎡		181,666㎡			
	そ の 他	121,857㎡	0㎡		0㎡		121,857㎡			
合 計	303,523㎡	0㎡		0㎡		303,523㎡				
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		大学全体	
		86,806㎡ (86,806㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		86,806㎡ (86,806㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体		
	64室	55室	51室	11室 (補助職員0人)		4室 (補助職員0人)				

専任教員研究室		新設学部等の名称			室数					
		地域創生学部 地域創生学科			99 室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学で共用 電子ジャーナル13 [11]		
	地域創生学部	286,732 [29,727] (286,732 [29,727])	272 [37] (272 [37])	13 [11] (13 [11])	4,758 (4,758)	0 (0)	0 (0)			
	計	286,732 [29,727] (286,732 [29,727])	272 [37] (272 [37])	13 [11] (13 [11])	4,758 (4,758)	0 (0)	0 (0)			
図書館		面積		閲覧座席数	収納可能冊数			大学全体		
		6,660㎡		599	571,195					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		6,231㎡		テニスコート 6面			—			
経費の 見及び 維持の 方法の 概要	経費 の見 積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	申請学部全体 ※図書費には電子 ジャーナル、デー タベースの整備費 (運用コストを含む。) を含む。
		教員1人当り研究費等		576千円	576千円	576千円	576千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		8,777千円	8,777千円	8,777千円	8,777千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	21,257千円	31,452千円	31,452千円	31,452千円	31,452千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	345,058千円	183,348千円	75,992千円	35,353千円	35,353千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		※学生納付金は上段 が県内の学生、下段 が県外からの学生
		818千円	536千円	536千円	536千円	— 千円	— 千円			
		931千円	536千円	536千円	536千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			広島県からの運営費交付金等							

大 学 の 名 称	県立広島大学								所 在 地		
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
既設大学等の状況	人間文化学部	年	人	年次人	人					広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号	
	国際文化学科	4	85	—	340	学士（国際文化学）	1.05	平成17年度			※令和2年度より学生募集停止
	健康科学科	4	35	—	140	学士（健康科学）	1.04	平成17年度			※令和2年度より学生募集停止
	経営情報学部									広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号	
	経営学科	4	60	—	240	学士（経営学）	1.11	平成17年度			※令和2年度より学生募集停止
	経営情報学科	4	40	—	160	学士（経営情報学）	1.10	平成17年度			※令和2年度より学生募集停止
	生命環境学部									広島県庄原市七塚町5562番地	
	生命科学科	4	110	—	440	学士（生命科学）	1.02	平成17年度			※令和2年度より学生募集停止
	環境科学科	4	55	—	220	学士（環境科学）	1.03	平成17年度			※令和2年度より学生募集停止
	保健福祉学部									広島県三原市学園町1番1号	
	看護学科	4	60	—	240	学士（看護学）	1.01	平成17年度			
	理学療法学科	4	30	—	120	学士（理学療法学）	1.03	平成17年度			
	作業療法学科	4	30	—	120	学士（作業療法学）	1.03	平成17年度			
	コミュニケーション障害学科	4	30	—	120	学士（コミュニケーション障害学）	1.01	平成17年度			
	人間福祉学科	4	40	—	120	学士（人間福祉学）	1.02	平成17年度			
	大学院総合学術研究科										
	人間文化学専攻	2	10	—	20	修士（人間文化学）	0.85	平成17年度		広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号	
	情報マネジメント専攻	2	10	—	20	修士（経営情報学）	0.85	平成17年度		広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号	
	生命システム科学専攻（博士前期）	2	30	—	60	修士（生命システム科学）	0.51	平成17年度		広島県庄原市七塚町5562番地	
	生命システム科学専攻（博士後期）	3	5	—	15	博士（生命システム科学）	1.00	平成17年度		広島県庄原市七塚町5562番地	
保健福祉学専攻	2	20	—	40	修士（保健福祉学）	1.15	平成17年度		広島県三原市学園町1番1号		
大学院経営管理研究科											
ビジネスリーダーシップ専攻	2	25	—	50	経営修士（専門職）	1.18	平成28年度		広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号		

附属施設の概要	〔名称〕 総合教育センター 〔目的〕 全学共通教育等の教育システムの確立 入学から・就職・進学までの一元的サポート 〔所在地〕 (広島) 広島市南区宇品東一丁目1番71号 (庄原) 庄原市七塚町5562番地 (三原) 三原市学園町1-1 〔設立年月〕 平成17年4月 〔規模等〕 学生相談室, キャリアセンターなど	
	〔名称〕 学術情報センター 〔目的〕 学術情報の収集・発信, 情報化推進等の教育・研究活動の支援 附属図書館の管理・運営 〔所在地〕 (広島) 広島市南区宇品東一丁目1番71号 (庄原) 庄原市七塚町5562番地 (三原) 三原市学園町1-1 〔設立年月〕 平成17年4月 〔規模等〕 図書館, 情報処理演習室 など	
	〔名称〕 地域基盤研究機構 〔目的〕 地域に開かれた大学としての産学官連携や生涯学習の支援 〔所在地〕 (広島) 広島市南区宇品東一丁目1番71号 (庄原) 庄原市七塚町5562番地 (三原) 三原市学園町1-1 〔設立年月〕 平成31年4月 〔規模等〕 地域連携にかかる相談窓口(研究者紹介等) など	
	〔名称〕 宮島学センター 〔目的〕 世界遺産宮島の学術研究と学生教育, 地域連携の一体的推進 〔所在地〕 広島市南区宇品東一丁目1番71号 〔設立年月〕 平成21年4月 〔規模等〕 ー	
	〔名称〕 生命環境学部附属フィールド科学教育研究センター 〔目的〕 地域の研究・食料の知的拠点。高度な研究活動を支え, 多様な人材を育成 〔所在地〕 庄原市七塚町5562 〔設立年月〕 平成23年4月 〔規模等〕 食品加工場, 実験室, 温室, 圃場 など	
	〔名称〕 保健福祉学部附属診療センター 〔目的〕 保健福祉学部における教育研究及び実習の実施, リハビリテーション診療の実施 〔所在地〕 三原市学園町1-1 〔設立年月〕 平成17年4月 〔規模等〕 リハビリテーション施設 など	

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合, 「計画の区分」, 「新設学部等の目的」, 「新設学部等の概要」, 「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず, 斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については, 共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は, 「教育課程」, 「教室等」, 「専任教員研究室」, 「図書・設備」, 「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず, 斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は, 「教育課程」, 「校地等」, 「校舎」, 「教室等」, 「専任教員研究室」, 「図書・設備」, 「図書館」, 「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず, 斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。
- 6 空欄には, 「ー」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要														
(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学共通教育科目	大学基礎セミナーⅠ	1①	1				○		33	19			2	
	大学基礎セミナーⅡ	1②	1				○		33	19			2	
	ICTリテラシーⅠ	1①	1				○		4	2				
	ICTリテラシーⅡ	1④		1			○		4	2				
	英語総合Ⅰ	1①	1				○			1				兼7
	英語総合Ⅱ	1②	1				○			1				兼7
	英語総合Ⅲ	2③		1			○		2					兼6
	英語総合Ⅳ	2④		1			○		2					兼6
	英語表現Ⅰ	1③	1				○		1					兼6
	英語表現Ⅱ	1④	1				○		1					兼6
	英語表現Ⅲ	2①		1			○		1					兼6
	英語表現Ⅳ	2②		1			○		1					兼6
	中国語Ⅰ	1・2②		1			○							兼3
	中国語Ⅱ	1・2③		1			○							兼3
	韓国語Ⅰ	1・2②		1			○		1	1				兼1
	韓国語Ⅱ	1・2③		1			○		1	1				兼1
	ドイツ語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1
	ドイツ語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1
	スポーツ実技Ⅰ	1③		1			○			1				兼1
	スポーツ実技Ⅱ	2②			1		○			1				兼1
	保健体育理論	2④			2		○			1				兼1
小計(23科目)			8	16	0		—		33	19	0	2	0	兼20
学際知	哲学	1・2・3・4①		2			○							兼1
	文学	1・2・3・4②		2			○		1					メディア
	芸術	1・2・3・4③		2			○		1					メディア
	心理学	1・2・3・4④		2			○		1					
	社会学	1・2・3・4①		2			○							兼1
	歴史学	1・2・3・4②		2			○			2				メディア
	倫理学	1・2・3・4③		2			○							兼1
	経済学	1・2・3・4④		2			○							兼1
	科学史	1・2・3・4①		2			○							兼1
	生命倫理	1・2・3・4②		2			○							兼2
	基礎数学	1・2・3・4③		2			○		1					
	統計入門	1・2・3・4④		2			○		1					
	家族社会学	1・2・3・4①		2			○							兼1
	文化人類学	1・2・3・4②		2			○							兼1
	日本国憲法	1・2・3・4③		2			○							兼1
	法学	1・2・3・4②		2			○							兼1
	食と健康	1・2・3・4④		2			○							兼1
いのちと科学	1・2・3・4①		2			○		1			1		兼4	
環境と科学	1・2・3・4②		2			○							兼2	
生活に役立つ科学	1・2・3・4③		2			○							兼1	
地域社会と言語	1・2・3・4④		2			○			1				メディア	
小計(21科目)			0	42	0		—		5	3	0	1	0	兼15
論理思考表	アカデミック・ライティング	1・2③	1				○		33	19			2	0
	クリティカル・シンキング	1・2④		1			○		33	19			2	0
	プレゼンテーション演習	2・3・4①③		1			○		33	19			2	0
	小計(3科目)		1	2	0		—		33	19	0	2	0	兼0
地域課題	ひろしま理解	2・3・4②		2			○		2					兼1
	国際社会の理解	2・3・4③		2			○							兼1
	地域情報発信論	2・3・4④		2			○			1				兼2
	地域教養ゼミナールA	3・4①③		2			○		33	19			2	
	地域教養ゼミナールB	3・4②④		2			○		33	19			2	
小計(5科目)		0	10	0		—		33	19	0	2	0	兼4	

教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学 共通 教育 科目	キャリア開発	キャリアビジョン (デベロップメント)	2・3・4①		2		○								兼1 兼2	メディア 兼中・オムニバス
		ライフデザイン	2・3・4②		2		○			1					兼1	集中
		ボランティア	2・3・4③		2		○								兼1	集中
		インターンシップ	2・3・4④		2		○								兼1	集中
		リーダー論	3・4①		2		○								兼2	メディア
		小計 (5科目)	—	0	10	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼5	
	ダイ バー シテ ィ	多様性理解 (ジェンダー論)	2・3・4①		2		○								兼1	メディア
		人間関係論	2・3・4③		2		○								兼1	メディア
		人権論	2・3・4④		2		○								兼1	メディア
		世界の宗教	2・3・4④		2		○								兼1	メディア
		世界の言語と文化	1・2・3・4④		2		○								兼1	メディア
		海外研修	2・3・4①②③④		2			○		2	1				兼1	
		小計 (6科目)	—	0	12	0	—	—	—	2	1	0	0	0	兼6	
	入 門 演 習	英語入門演習	1①②			1		○							兼1	
数学入門演習		1①②			1		○							兼1		
国語入門演習		1①②			1		○							兼1		
社会入門演習		1①②			1		○							兼1		
生物入門演習		1①②			1		○							兼1		
物理入門演習		1①②			1		○							兼1		
化学入門演習		1①②			1		○							兼1		
	小計 (7科目)	—	0	0	7	—	—	—	0	0	0	0	0	兼6		
専 門 教 育 科 目	学 部 学 科 共 通 科 目	多文化共生入門 I	1④		2		○			6	4				兼1	共同
		多文化共生入門 II	2①		2		○			6	4				兼1	共同
		文化継承入門 I	1④		2		○			5	3				兼3	共同
		文化継承入門 II	2①		2		○			5	3				兼3	共同
		政治学	1①		2		○								兼1	
		国際経済論	1②		2		○								兼1	
		地誌学	1③		2		○								兼1	
		人文地理学	1④		2		○								兼1	
		自然地理学	1②		2		○								兼1	
		国際法	2②		2		○								兼1	
		国際政治論	2①		2		○								兼1	
		経営学概論	1①		2		○			1						
		会計学概論	1②		2		○				1					
		マーケティング概論	1③		2		○			1						
		簿記原理	1③		2		○				1					
		ファイナンス概論	1④		2		○			1						
		ミクロ経済学	1④		2		○								兼1	
		経営管理論	2①		2		○			1						
		中級簿記	2①		2		○				1					
		工業簿記	2②		2		○				1					
		経営戦略論	2②		2		○			1						
		入門統計学	1①		2		○			1						
		IOT・情報システム基礎学	1②		2		○			1						
		経営情報論	1③		2		○				1					
		基礎プログラミング入門	1④		2		○				1					
		基礎情報学入門	1④		2		○			1						
		基礎情報活用演習	2①		2			○			1					
		人工知能概論	2①		2		○			1						
		データサイエンス入門・同演習	2②		2			○		1						
		生命科学	1①		2		○			1						
		基礎化学	1①		2		○								兼1	
		微生物学	3②		2		○								兼1	
予防医学	1③		1		○								兼1			
保健政策論	1③		1		○								兼1			
公衆衛生学	3③		1		○								兼1			
環境衛生学	3③		1		○								兼1			
健康科学情報処理演習	2①		2			○			1							

教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
	小計 (37科目)	—	0	70	0	—	—	—	20	12	0	0	0	兼14
専 門 教 育 科 目	共生社会論	2④		2		○			1					
	多文化共生教育論	2③		2		○				1				兼1
	人口社会論	2④		2		○								兼1
	共生認知心理論	2③		2		○			1					
	英国社会文化論	2③		2		○			1					
	米国社会文化論	2④		2		○				1				兼1
	英語学	2③		2		○								兼1
	英語表現論	2④		2		○			1					
	英語音声学	2③		2		○			1					
	英語コミュニケーション	2④		2		○								兼1
	メディア・イングリッシュ	2③		2		○								兼1
	日本語文化論 (日本語学)	2③		2		○				1				兼1
	日本語音声学	2④		2		○								兼1
	日本語教育学	2③		2		○								兼1
	日本語教授法	2④		2		○								兼1
	日本語・日本事情	2③		2		○								兼1
	中国社会文化論	2③		2		○								兼1
	中国語文化論	2④		2		○								兼1
	中日対照言語学	2③		2		○								兼1
	韓国語文化論	2④		2		○				1				
東アジア比較文化論	2③		2		○			1						
国際関係史論	2④		2		○				1					
小計 (22科目)	—	—	0	44	0	—	—	—	6	5	0	0	0	兼8
多 文 化 共 生 コ ア ・ ユ ニ ツ ト Ⅱ	多文化共生マネジメント	3①	2			○				1				
	共生社会論研究	3①		2			○		1					
	多文化共生教育論研究	3②		2			○			1				兼1
	多文化共生社会と法	3③		2		○								兼1
	人口社会論研究	3①		2			○							兼1
	共生認知心理論研究	3②		2			○		1					
	多文化接触と言語	3②		2		○								兼1
	英国社会文化論研究	3①		2			○		1					
	米国社会文化論研究	3②		2			○			1				
	英語学研究	3①		2			○							兼1
	英語表現論研究	3②		2			○		1					
	英文法	3①		2		○								兼1
	検定英語演習	3②		1			○							兼1
	ディベート・プレゼンテーション	3③		2			○			2				兼1
	日本語文化論研究	3①		2			○			1				兼1
日本語教育実習	3①		2				○						兼1	
中国社会文化論研究	3②		2			○							兼1	
中国語文化論研究	3①		2			○							兼1	
韓国語文化論研究	3②		2			○			1					
東アジア比較文化論研究	3①		2			○		1						
小計 (20科目)	—	—	2	37	0	—	—	—	5	4	0	0	0	兼8
文 化 継 承 コ ア ・ ユ ニ ツ ト	観光まちづくり論	2④		2		○			1					
	宮島学	2③		2		○			1					兼1
	日本地域論	2③		2		○								兼1
	日本地域史論 (日本史)	2④		2		○								兼1
	日本文化史論 (日本文学史)	2③		2		○			1					
	日本文化論	2④		2		○				1				
	日本文学論 (国文学)	2③		2		○			1					
	日本語表象論	2④		2		○			1					
	英語文学論	2④		2		○								兼1
	英米文化史論	2③		2		○								兼1
	英国史論	2④		2		○								兼1
米国史論 (西洋史)	2③		2		○				1					
東アジア地域史論 (東洋史)	2③		2		○				1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
ト I	東アジア交流史論	2④		2		○									兼1
	東アジア文学論 (中国文学)	2③		2		○			1						
	日中比較文学論	2④		2		○			1						
	書誌学	2④		2		○				1					
	書道・書写	2③		2			○								兼1
	博物館概論	2③		2		○			1						
	生涯学習概論	2④		2		○									兼1
小計 (20科目)	—	0	40	0	—	—	—	5	3	0	0	0		兼9	
専 門 教 育 科 目	文化継承マネジメント	3①	2			○			1						
	観光まちづくり論研究	3①		2			○		1						
	宮島観光学 (英語)	3④		2			○		1						兼1
	宮島フィールドワーク	3①②③④		1			○		1						兼1
	日本地域論研究	3②		2			○								兼1
	日本地域史論研究	3①		2			○								兼1
	日本文化史論研究	3②		2			○		1						
	日本文化論研究	3①		2			○			1					
	日本文学論研究	3②		2			○		1						
	日本語表象論研究	3①		2			○		1						
	英語文学論研究	3③		2			○								兼1
	米国史論研究	3①		2			○					1			
	東アジア地域史論研究	3②		2			○					1			
	東アジア文学論研究	3①		2			○		1						
小計 (14科目)	—	2	25	0	—	—	—	5	3	0	0	0		兼4	
地域協 働演習	地域協働演習	3②		2			○		3	3			2		集中
	小計 (1科目)	—	0	2	0	—	—	3	3	0	2	0		兼0	
卒 業 論 文・卒 業 研 究	卒業論文 (専門演習 I)	3①②③④		4			○		11	7					
	卒業論文 (専門演習 II)	4①②③④		4			○		11	7					
	地域課題解決研究 I	3①②③④		4			○		3	3		2			
	地域課題解決研究 II	1①②③④		4			○		3	3		2			
小計 (4科目)	—	0	16	0	—	—	—	33	19	0	2	0		兼0	
専 門 教 育 科 目	上級英語総合(Critical Reading I)	1①		1			○		3	1					兼1
	上級英語総合(Critical Reading II)	1③		1			○		3	1					兼1
	上級英語総合(Cross-Cultural Studies)	2①		1			○			1					
	上級英語総合(Seminar)	2③		1			○		1						
	上級英語表現(Global Communication I)	1②		1			○		3	1					兼1
	上級英語表現(Global Communication II)	1④		1			○		3	1					兼1
	上級英語表現(Presentation I)	2②		1			○		1						
	上級英語表現(Presentation II)	2④		1			○		1						
	中級中国語総合	1④		1			○			1					兼1
	上級中国語総合	2②		1			○			1					兼1
	中級中国語表現	2①		1			○			1					兼1
	上級中国語表現	2③		1			○			1					兼1
	中級韓国語総合	1④		1			○		1	1					
	上級韓国語総合	2②		1			○		1	1					
	中級韓国語表現	2①		1			○		1	1					
	上級韓国語表現	2③		1			○		1	1					
	外国語検定(英語) I (認定)	1①②③④		1			○		3	1					兼1
	外国語検定(英語) II (認定)	1①②③④		1			○		3	1					兼1
	外国語検定(英語) III (認定)	1①②③④		2			○		3	1					兼1
	外国語検定(中国語) I (認定)	1①②③④		1			○			1					兼1
	外国語検定(中国語) II (認定)	1①②③④		1			○			1					兼1
	外国語検定(中国語) III (認定)	1①②③④		2			○			1					兼1
	外国語検定(韓国語) I (認定)	1①②③④		1			○		1	1					
外国語検定(韓国語) II (認定)	1①②③④		1			○		1	1						
外国語検定(韓国語) III (認定)	1①②③④		2			○		1	1						
博物館経営論	2④		2			○		1							
博物館資料論	2③		2			○								兼1	
博物館展示論	3①		2			○								兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	博物館資料保存論	3②		2		○									兼1
	博物館教育論	3③		2		○									兼1
	博物館情報・メディア論	3④		2		○			1						
	博物館実習	4①		3				○	1						兼1
	小計 (32科目)	—	0	43	0	—	—	—	6	4	0	0	0		兼4
その 他 科 目	教育学概論	1③			2	○									兼1
	教職入門	1④			2	○									兼1
	教育社会学	2①			2	○									兼1
	教育心理学	2②			2	○			1						
	特別支援教育	3②			1	○									兼1
	教育課程論	2①			2	○									兼1
	道徳教育論	3①			2	○									兼1
	総合的な学習の時間の指導法	3②			2	○									兼1
	特別活動論	3②			2	○									兼1
	教育方法学	3③			2	○									兼1
	生徒・進路指導論	2③			2	○									兼1
	生徒指導論	2③			2	○									兼1
	教育相談	3①			2	○									兼1
	教育実習指導	4①②			1	○				1					
	教育実習Ⅰ	4①②			2				○	1					
	教育実習Ⅱ	4①②			2				○	1					
	教職実践演習(中・高)	4③④			2			○							兼1
	介護等体験	3①②③④			2				○	1					
	国語科教育法Ⅰ	2④			2	○									兼1
	国語科教育法Ⅱ	3①			2	○									兼1
	国語科教育法Ⅲ	3②			2	○									兼1
	国語科教育法Ⅳ	3③			2	○									兼1
	英語科教育法Ⅰ	2④			2	○									兼1
英語科教育法Ⅱ	3①			2	○									兼1	
英語科教育法Ⅲ	3②			2	○									兼1	
英語科教育法Ⅳ	3③			2	○									兼1	
児童英語教育論	3③			2	○				1						
小計 (27科目)	—	—	0	0	52	—	—	—	2	0	0	0	0		兼12
合計 (247科目)		—	13	369	59	—	—	—	33	19	0	2	0		兼86
学位又は称号		学士 (地域創生)			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
・全学共通「学びスキル・リテラシー」から14単位以上、「学際知」から8単位以上、「論理思考表現」から2単位以上、「地域課題」から4単位以上、「キャリア開発」から4単位以上、「ダイバーシティ」から4単位以上、「学部学科共通科目」から10単位以上、「多文化共生コアユニットⅠ」「多文化共生コアユニットⅡ」「文化継承コアユニットⅠ」「文化継承コアユニットⅡ」から各8単位以上・計28単位以上、「卒業論文・卒業研究」から8単位履修し、124単位以上修得すること。 ・履修制限単位数：年間48単位。								1学年の学期区分		4学期					
								1学期の授業期間		8週					
								1時限の授業時間		90分					

(注)

- 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要															
(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	大学基礎セミナーⅠ	1①	1				○		33	19			2		
	大学基礎セミナーⅡ	1②	1				○		33	19			2		
	ICTリテラシーⅠ	1①	1				○		4	2					
	ICTリテラシーⅡ	1④		1			○		4	2					
	英語総合Ⅰ	1①	1				○			1				兼7	
	英語総合Ⅱ	1②	1				○			1				兼7	
	英語総合Ⅲ	2③		1			○		2					兼6	
	英語総合Ⅳ	2④		1			○		2					兼6	
	英語表現Ⅰ	1③	1				○		1					兼6	
	英語表現Ⅱ	1④	1				○		1					兼6	
	英語表現Ⅲ	2①		1			○		1					兼6	
	英語表現Ⅳ	2②		1			○		1					兼6	
	中国語Ⅰ	1・2②		1			○							兼3	
	中国語Ⅱ	1・2③		1			○							兼3	
	韓国語Ⅰ	1・2②		1			○		1	1				兼1	
	韓国語Ⅱ	1・2③		1			○		1	1				兼1	
	ドイツ語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1	
	ドイツ語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1	
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1	
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1	
	スポーツ実技Ⅰ	1③	1				○			1				兼1	
	スポーツ実技Ⅱ	2②		1			○			1				兼1	
	保健体育理論	2④		2			○			1				兼1	
小計(23科目)			8	16	0		—		33	19	0	2	0	兼20	
学際知	哲学	1・2・3・4①		2			○							兼1	
	文学	1・2・3・4②		2			○		1					メディア	
	芸術	1・2・3・4③		2			○		1					メディア	
	心理学	1・2・3・4④		2			○		1						
	社会学	1・2・3・4①		2			○							兼1	
	歴史学	1・2・3・4②		2			○			2				メディア	
	倫理学	1・2・3・4③		2			○							兼1	
	経済学	1・2・3・4④		2			○							兼1	
	科学史	1・2・3・4①		2			○							兼1	
	生命倫理	1・2・3・4②		2			○							兼2	
	基礎数学	1・2・3・4③		2			○		1					メディア	
	統計入門	1・2・3・4④		2			○		1						
	家族社会学	1・2・3・4①		2			○							兼1	
	文化人類学	1・2・3・4②		2			○							兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4③		2			○							兼1	
	法学	1・2・3・4②		2			○							兼1	
	食と健康	1・2・3・4④		2			○							兼1	
	いのちと科学	1・2・3・4①		2			○		1			1		兼4	
環境と科学	1・2・3・4②		2			○							兼2		
生活に役立つ力学	1・2・3・4③		2			○							兼1		
地域社会と言語	1・2・3・4④		2			○			1				兼1		
小計(21科目)			0	42	0		—		5	3	0	1	0	兼15	
論 表 理 現 思 考	アカデミック・ライティング	1・2③	1				○		34	19		5	0		
	クリティカル・シンキング	1・2④		1			○		34	19		5	0		
	プレゼンテーション演習	2・3・4①③		1			○		34	19		5	0		
	小計(3科目)		1	2	0		—		34	19	0	5	0	兼0	
地 域 課 題	ひろしま理解	2・3・4②		2			○		2					兼1	
	国際社会の理解	2・3・4③		2			○							兼1	
	地域情報発信論	2・3・4④		2			○			1				兼2	
	地域教養ゼミナールA	3・4①③		2			○		33	19		2		集中	
	地域教養ゼミナールB	3・4②④		2			○		33	19		2			
小計(5科目)		0	10	0		—		33	19	0	2	0	兼4		
キ ャ リ ア ア リ ア	キャリアビジョン(デベロップメント)	2・3・4①		2			○							兼1	
	ライフデザイン	2・3・4②		2			○		1					兼2	
	ボランティア	2・3・4③		2			○							集中	
	インターンシップ	2・3・4④		2			○							兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学 共通 教育 科目	開発	リーダー論	3・4①		2		○								兼2	メディア
		小計 (5科目)	—	0	10	0	—		1	0	0	0	0		兼5	
	ダイ バー シテ イ	多様性理解 (ジェンダー論)	2・3・4①		2		○								兼1	メディア
		人間関係論	2・3・4③		2		○								兼1	メディア
		人権論	2・3・4④		2		○								兼1	メディア
		世界の宗教	2・3・4④		2		○								兼1	メディア
		世界の言語と文化	1・2・3・4④		2		○								兼1	メディア
		海外研修	2・3・4①②③④		2			○		2	1				兼1	
		小計 (6科目)	—	0	12	0	—		2	1	0	0	0		兼6	
	入 門 演 習	英語入門演習	1①②			1		○							兼1	
		数学入門演習	1①②			1		○							兼1	
		国語入門演習	1①②			1		○							兼1	
		社会入門演習	1①②			1		○							兼1	
		生物入門演習	1①②			1		○							兼1	
物理入門演習		1①②			1		○							兼1		
化学入門演習		1①②			1		○							兼1		
		小計 (7科目)	—	0	0	7	—		0	0	0	0	0		兼6	
専 門 教 育 科 目	学 部 学 科 共 通 科 目	多文化共生入門Ⅰ	1④		2		○		6	4				兼1	共同	
		多文化共生入門Ⅱ	2①		2		○		6	4				兼1	共同	
		文化継承入門Ⅰ	1④		2		○		5	3				兼3	共同	
		文化継承入門Ⅱ	2①		2		○		5	3				兼3	共同	
		政治学	1①		2		○							兼1		
		国際経済論	1②		2		○							兼1		
		地誌学	1③		2		○							兼1		
		人文地理学	1④		2		○							兼1		
		自然地理学	1②		2		○							兼1		
		国際法	2②		2		○							兼1		
		国際政治論	2①		2		○							兼1		
		経営学概論	1①		2		○			1						
		会計学概論	1②		2		○				1					
		マーケティング概論	1③		2		○			1						
		簿記原理	1③		2		○					1				
		ファイナンス概論	1④		2		○			1						
		ミクロ経済学	1④		2		○								兼1	
		経営管理論	2①		2		○			1						
		中級簿記	2①		2		○					1				
		工業簿記	2②		2		○					1				
		経営戦略論	2②		2		○			1						
		入門統計学	1①		2		○			1						
		IOT・情報システム基礎学	1②		2		○			1						
		経営情報論	1③		2		○					1				
		基礎プログラミング入門	1④		2		○					1				
		基礎情報学入門	1④		2		○			1						
		基礎情報活用演習	2①		2			○				1				
		人工知能概論	2①		2		○			1						
		データサイエンス入門・同演習	2②		2			○		1						
		生命科学	1①		2		○			1						
		基礎化学	1①		2		○								兼1	
		微生物学	3②		2		○								兼1	
		予防医学	1③		1		○								兼1	
		保健政策論	1③		1		○								兼1	
		公衆衛生学	3③		1		○								兼1	
		環境衛生学	3③		1		○								兼1	
		健康科学情報処理演習	2①		2			○				1				
	小計 (37科目)	—	0	70	0	—		20	12	0	0	0		兼14		
経 営 コ ア ・	経営史	2③		2		○								兼1		
	経営組織論	2③		2		○			1							
	流通システム論	2③		2		○			1							
	公共経営論	2③		2		○			1							
	原価計算論	2③		2		○					1					
	金融論	2③		2		○					1					
	マクロ経済学	2③		2		○								兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	ユニット I	ベンチャービジネス論	2④	2		○			1						兼1
	ユニット I	社会調査論	2④	2		○									兼1
	ユニット I	人的資源管理論	2④	2		○			1						
	ユニット I	NPO論	2④	2		○									
	ユニット I	パーソナルファイナンス論	2④	2		○			1						
	ユニット I	地域金融論	2④	2		○				1					
	ユニット I	小計 (13科目)	—	0	26	0	—	—	6	2					兼4
	情報コア・ユニット I	サプライチェーンマネジメント	2④		2		○				1				
	情報コア・ユニット I	マネジメント工学	2③		2		○				1				
	情報コア・ユニット I	応用情報研究序論	2③	2			○		7	6					共同
	情報コア・ユニット I	プログラミング	2③	2			○			1					
	情報コア・ユニット I	線形代数	2③	2			○		1						
	情報コア・ユニット I	情報数学 I	2③	2			○			1					
情報コア・ユニット I	情報数学 II	2④	2			○		1							
情報コア・ユニット I	プログラミング演習	2④	1				○		1						
情報コア・ユニット I	オペレーティングシステム	2④	2			○		1							
情報コア・ユニット I	データベース	2④	2			○			1						
情報コア・ユニット I	音声情報処理	2③		2		○			1						
情報コア・ユニット I	機械学習	2③		2		○			1						
情報コア・ユニット I	知能情報学	2④		2		○		1							
情報コア・ユニット I	小計 (13科目)	—	13	12	0	—	—	7	6						
専門教育科目	経営コア・ユニット II	組織文化論	3①		2		○			1					
	経営コア・ユニット II	商品・ブランド開発論	3①		2		○			1					
	経営コア・ユニット II	財務会計論	3①		2		○				1				
	経営コア・ユニット II	金融システム論	3①		2		○				1				
	経営コア・ユニット II	税務会計論	3①②		2		○				2				共同
	経営コア・ユニット II	イノベーション論	3②		2		○			1					
	経営コア・ユニット II	コンテンツ産業論	3②		2		○			1					
	経営コア・ユニット II	経営法務	3②		2		○								兼1
	経営コア・ユニット II	管理会計論	3②		2		○				1				
	経営コア・ユニット II	コーポレートファイナンス論	3②		2		○			1					
	経営コア・ユニット II	ビジネスモデル論	3③		2		○			1					
	経営コア・ユニット II	組織行動論	3③		2		○			1					
	経営コア・ユニット II	マーケティングリサーチ	3③		2		○								兼1
	経営コア・ユニット II	技術マネジメント論	3③		2		○								兼1
	経営コア・ユニット II	NPO会計論	3③		2		○				1				兼1
	経営コア・ユニット II	証券論	3③		2		○								兼1
	経営コア・ユニット II	リスクマネジメント論	3④		2		○			1					兼1
	経営コア・ユニット II	知的財産権関連講座	3④		2		○								兼1
	経営コア・ユニット II	監査論	3④		2		○				1				兼1
経営コア・ユニット II	パブリックファイナンス論	3④		2		○								兼1	
経営コア・ユニット II	地域産業特別講義	3・4③④		2		○			5					共同	
経営コア・ユニット II	地域金融特別講義	3・4③④		2		○			1	3				オムニバス	
経営コア・ユニット II	小計 (22科目)	—	0	44	0	—	—	6	3					兼6	
専門教育科目	情報コア・ユニット II	数値解析	3①		2		○			1					
	情報コア・ユニット II	データ構造とアルゴリズム	3①		2		○								兼1
	情報コア・ユニット II	情報ネットワーク	3①		2		○			1					
	情報コア・ユニット II	プログラム言語処理	3①		2		○			1					
	情報コア・ユニット II	システム開発論	3①		2		○				1				
	情報コア・ユニット II	ビッグデータ解析演習	3①	1				○			1				
	情報コア・ユニット II	応用情報システム特別講義	3①		2		○								
	情報コア・ユニット II	IoT・AI応用技術	3②		2		○			7	6				共同
	情報コア・ユニット II	確率統計	3②		2		○			1					
	情報コア・ユニット II	情報システム論	3②		2		○				1				
	情報コア・ユニット II	情報セキュリティ	3②		2		○				1				
	情報コア・ユニット II	画像情報処理	3②		2		○			1					
	情報コア・ユニット II	最適化理論	3②		2		○			1					
	情報コア・ユニット II	情報ネットワーク実験	3②		1			○		1					
情報コア・ユニット II	応用プログラミング	3③		2		○				1					
情報コア・ユニット II	データマイニング	3③		2		○								兼1	
情報コア・ユニット II	技術英語講義 I	3②	1				○		1	1					
情報コア・ユニット II	グラフィカルプログラミング	3③		2		○				1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
科目	多変量解析	3③		2		○			1							
	情報セキュリティ実験	3④	1					○		1						
	Webインテリジェンス	3③		2		○				1						
	コンピュータシミュレーション	3③		2		○				1						
	モバイルネットワークシステム	3①		2		○			1							
	技術英語講読Ⅱ	3④	1					○	1	1						
	小計 (24科目)	—		20	23	0			—	7	6					兼1
地域協働演習	地域協働演習	3②		2				○	33	19		2				集中
	小計 (1科目)	—	0	2	0			—	33	19	0	2				
卒業論文・卒業研究	地域課題解決研究Ⅰ	3①②③④		4				○	33	19		2				
	地域課題解決研究Ⅱ	4①②③④		4				○	33	19		2				
	経営学専門演習Ⅰ	3①②③④		4				○	6	3						
	経営学専門演習Ⅱ	4①②③④		4				○	6	3						
	応用情報システム専門演習Ⅰ	3①②③④		4				○	7	6						
	応用情報システム専門演習Ⅱ	4①②③④		4				○	7	6						
小計 (6科目)	—	0	24	0			—	33	19	0	2					
その他科目 自由選択科目	IoTシステム開発プロジェクト演習	3③④			2			○	7	6						共同
	AIシステム開発プロジェクト演習	3③④			2			○	7	6						共同
	知能情報演習	3③		1				○	1							
	ニューラルネットワーク	3③		2		○			1							
	深層学習	3③		2		○			1							
	IoT・AI特別講義	3④		2		○			7	6						
	ITパスポート試験対策演習	1~4③		1				○	1							
	基本情報技術者試験対策演習	2~4③		1				○	1							
	企業法	3①		2		○										兼1
	小計 (9科目)	—	0	0	15			—	7	6	0	0	0	0	兼1	
合計 (195科目)		—	42	293	22			—	33	19	0	2	0	兼76		
学位又は称号		学士 (地域創生)			学位又は学科の分野			経済学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<p>・全学共通「学びスキル・リテラシー」から14単位以上、「学際知」から8単位以上、「論理思考表現」から2単位以上、「地域課題」から4単位以上、「キャリア開発」から4単位以上、「ダイバーシティ」から4単位以上、「学部学科共通科目」から10単位以上 (但し、(1) 経営コアユニット履修予定者は「経営学概論」「会計学概論」「マーケティング概論」「簿記原理」「ファイナンス概論」「ミクロ経済学」「経営管理論」「中級簿記」「工業簿記」「経営戦略論」の10科目から8単位を含む10単位以上修得。(2) 情報コア・ユニット履修予定者は「入門統計学」「IoT・情報システム基礎学」「基礎プログラミング入門」「基礎情報学入門」の4科目8単位を含む10単位以上修得、「経営コア・ユニットⅠ」「情報コア・ユニットⅠ」から20単位以上 (但し、(1) 経営コア・ユニット履修者は「経営コア・ユニットⅠ」の科目から16単位以上 (2) 情報コア・ユニット履修者は「情報コア・ユニットⅠ」の科目から必修科目を含め16単位以上、「経営コア・ユニットⅡ」「情報コア・ユニットⅡ」から30単位以上 (但し、(1) 経営コア・ユニット履修予定者は「経営コア・ユニットⅡ」の科目から26単位以上 (2) 情報コア・ユニット履修は「情報コア・ユニットⅡ」の科目から必修単位を含め26単位以上)、「卒業論文・卒業研究」から選択必修8単位修得し、合計124単位以上修得すること。</p> <p>・履修制限単位数：年間48単位。</p>								1学年の学期区分			4学期					
								1学期の授業期間			8週					
								1時限の授業時間			90分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要																
(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー	大学基礎セミナーⅠ	1①	1				○			33	19		2		
	大学基礎セミナーⅡ	1②	1				○			33	19		2			
	ICTリテラシーⅠ	1①	1					○		4	2					
	ICTリテラシーⅡ	1④		1				○		4	2					
	英語総合Ⅰ	1①	1					○			1				兼7	
	英語総合Ⅱ	1②	1					○			1				兼7	
	英語総合Ⅲ	2③		1				○		2					兼6	
	英語総合Ⅳ	2④		1				○		2					兼6	
	英語表現Ⅰ	1③	1					○		1					兼6	
	英語表現Ⅱ	1④	1					○		1					兼6	
	英語表現Ⅲ	2①		1				○		1					兼6	
	英語表現Ⅳ	2②		1				○		1					兼6	
	中国語Ⅰ	1・2②		1				○							兼3	
	中国語Ⅱ	1・2③		1				○							兼3	
	韓国語Ⅰ	1・2②		1				○		1	1				兼1	
	韓国語Ⅱ	1・2③		1				○		1	1				兼1	
	ドイツ語Ⅰ	1・2②		1				○							兼1	
	ドイツ語Ⅱ	1・2③		1				○							兼1	
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2②		1				○							兼1	
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2③		1				○							兼1	
	スポーツ実技Ⅰ	1③	1					○			1				兼1	
	スポーツ実技Ⅱ	2②		1				○			1				兼1	
	保健体育理論	2④		2				○			1				兼1	
小計(23科目)			8	16	0		—			33	19	0	2	0	兼20	
学際知	哲学	1・2・3・4①		2				○							兼1	
	文学	1・2・3・4②		2				○		1					メディア	
	芸術	1・2・3・4③		2				○		1					メディア	
	心理学	1・2・3・4④		2				○		1					兼1	
	社会学	1・2・3・4①		2				○						兼1	メディア	
	歴史学	1・2・3・4②		2				○			2				メディア	
	倫理学	1・2・3・4③		2				○							兼1	
	経済学	1・2・3・4④		2				○							兼1	メディア
	科学史	1・2・3・4①		2				○							兼1	メディア
	生命倫理	1・2・3・4②		2				○							兼2	メディア
	基礎数学	1・2・3・4③		2				○		1						
	統計入門	1・2・3・4④		2				○		1						
	家族社会学	1・2・3・4①		2				○							兼1	メディア
	文化人類学	1・2・3・4②		2				○							兼1	メディア
	日本国憲法	1・2・3・4③		2				○							兼1	
	法学	1・2・3・4②		2				○							兼1	
	食と健康	1・2・3・4④		2				○							兼1	メディア
	いのちと科学	1・2・3・4①		2				○		1			1		兼4	メディア・オムニバス
環境と科学	1・2・3・4②		2				○							兼2	メディア	
生活に役立つ力	1・2・3・4③		2				○							兼1	メディア	
地域社会と言語	1・2・3・4④		2				○			1				兼1	メディア	
小計(21科目)			0	42	0		—			5	3	0	1	0	兼15	
論理思考表	アカデミック・ライティング	1・2③	1					○		33	19		2			
	クリティカル・シンキング	1・2④		1				○		33	19		2			
	プレゼンテーション演習	2・3・4①③		1				○		33	19		2			
	小計(3科目)		1	2	0		—			33	19	0	2	0	兼0	
地域課題	ひろしま理解	2・3・4②		2				○		2					兼1	メディア
	国際社会の理解	2・3・4③		2				○							兼1	メディア
	地域情報発信論	2・3・4④		2				○			1				兼2	集中
	地域教養ゼミナールA	3・4①③		2				○		33	19		2			
	地域教養ゼミナールB	3・4②④		2				○		33	19		2			
小計(5科目)			0	10	0		—			33	19	0	2	0	兼4	

教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	キャリア開発	キャリアビジョン (デベロップメント)	2・3・4①		2		○								兼1 兼2	メディア 兼中・オムニバス
		ライフデザイン	2・3・4②		2		○			1					兼1	集中
		ボランティア	2・3・4③		2		○								兼1	集中
		インターンシップ	2・3・4④		2		○								兼1	集中
		リーダー論	3・4①		2		○								兼2	メディア
		小計 (5科目)	—	0	10	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼5	
	ダイバーシティ	多様性理解 (ジェンダー論)	2・3・4①		2		○								兼1	メディア
		人間関係論	2・3・4③		2		○								兼1	メディア
		人権論	2・3・4④		2		○								兼1	メディア
		世界の宗教	2・3・4④		2		○								兼1	メディア
		世界の言語と文化	1・2・3・4④		2		○								兼1	メディア
		海外研修	2・3・4①②③④		2			○		2	1				兼1	
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—	—	—	2	1	0	0	0	兼6		
	入門演習	英語入門演習	1①②			1		○							兼1	
数学入門演習		1①②			1		○							兼1		
国語入門演習		1①②			1		○							兼1		
社会入門演習		1①②			1		○							兼1		
生物入門演習		1①②			1		○							兼1		
物理入門演習		1①②			1		○							兼1		
化学入門演習		1①②			1		○							兼1		
小計 (7科目)	—	0	0	7	—	—	—	0	0	0	0	0	兼6			
専門教育科目	学部学科共通科目	多文化共生入門 I	1④		2		○			6	4				兼1	共同
		多文化共生入門 II	2①		2		○			6	4				兼1	共同
		文化継承入門 I	1④		2		○			5	3				兼3	共同
		文化継承入門 II	2①		2		○			5	3				兼3	共同
		政治学	1①		2		○								兼4	
		国際経済論	1②		2		○								兼5	
		地誌学	1③		2		○								兼6	
		人文地理学	1④		2		○								兼7	
		自然地理学	1②		2		○								兼8	
		国際法	2②		2		○								兼9	
		国際政治論	2①		2		○								兼10	
		経営学概論	1①		2		○			1						
		会計学概論	1②		2		○				1					
		マーケティング概論	1③		2		○			1						
		簿記原理	1③		2		○				1					
		ファイナンス概論	1④		2		○			1						
		ミクロ経済学	1④		2		○									兼1
		経営管理論	2①		2		○			1						
		中級簿記	2①		2		○				1					
		工業簿記	2②		2		○					1				
		経営戦略論	2②		2		○			1						
		入門統計学	1①		2		○			1						
		IOT・情報システム基礎学	1②		2		○			1						
		経営情報論	1③		2		○				1					
		基礎プログラミング入門	1④		2		○					1				
		基礎情報学入門	1④		2		○			1						
		基礎情報活用演習	2①		2			○				1				
		人工知能概論	2①		2			○		1						
		データサイエンス入門・同演習	2②		2				○	1						
		生命科学	1①		2			○			1					
		基礎化学	1①		2			○								兼1
		微生物学	3②		2			○								兼1
予防医学	1③		1			○								兼1		
保健政策論	1③		1			○								兼1		
公衆衛生学	3③		1			○								兼1		
環境衛生学	3③		1			○								兼1		
健康科学情報処理演習	2①		2				○			1						

教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	小計 (37科目)	—	0	70	0	—	—	—	20	12	0	0	0	兼14	
運動・ 生体	基礎生化学	1②	2			○				1					
	生化学	1③	2			○				1					
	生化学実験	1③	1					○		1					
	生体防御学	3①		2		○			1						
	免疫学実験	3②		1				○	1						
	解剖学・病理学Ⅰ	1③	2			○			1						
	解剖学・病理学Ⅱ	1③		2		○			1						
	解剖学・病理学実習	2③	1					○	1						
	生理学	1③	2			○				1					
	生理学実験	2②	1					○		1					
	健康スポーツ科学	1②	2			○			1						
	運動生理学	2②		2		○			1						
	運動生理学実験	2③		1				○	1						
	体力科学	2③	2			○			1						
	トレーニング科学	3①		2		○			1						
	体力評価実習	2③		1				○	1						
	スポーツ科学実習	1①	1					○	1						
	スポーツ医学	3①		2		○			1						
	スポーツ環境科学	2③		2		○				1					
	小計 (19科目)	—	16	15	0	—	—	—	4	2	0	0	0		
専門 教育 科目	食	分析化学	1①	2			○								兼1
		分析化学実験	1②		1				○						兼1
		食品学	1②	2			○			1					
		食品化学	3③		2		○			1					
		食品学実験	1③	1					○	1					
		食品加工学	1③	2			○			1					
		食品加工学実験	2②	1					○	1					
		食品衛生学	2③	2			○			1					兼1
		食品衛生学実験	3②	1					○	1					
		調理学	2①	2			○			1					
		調理科学実験	2③	1					○	1					
		基礎栄養学	1③	2			○			1					
		基礎栄養学実験	2①	1					○	1					
		応用栄養学	2①	2			○			1					
		ライフステージ栄養学	2③		2		○			1					
スポーツ栄養学	2②		2		○			1							
応用栄養学実習	2③	1					○	1							
	小計 (17科目)	—	20	7	0	—	—	—	4	0	0	0	0	兼2	
健康	栄養教育概論	1③	2			○			1						
	世代別栄養教育論	2①	2			○			1						
	臨床栄養教育論	2③		2		○			1						
	栄養教育論実習Ⅰ	2②	1					○	1						
	栄養教育論実習Ⅱ	2③	1					○	1						
	臨床医学	2②		2		○			1						
	臨床栄養学Ⅰ	2③	2			○				1					
	臨床栄養学Ⅱ	2③	2			○				1					
	臨床栄養学Ⅲ	3①		2		○				1					
	病態別栄養マネジメント	3②		2		○				1				兼2	
	臨床栄養学実習Ⅰ	3②	1					○		1					
	臨床栄養学実習Ⅱ	3③	1					○		1					
	臨床栄養学実習Ⅲ	3③		1				○		1					
	臨床栄養学実習Ⅳ	3③		1				○		1					
	公衆栄養学	3①	2			○			1						
	地域栄養論	3②		2		○			1						
	公衆栄養学実習	3③	1					○	1						
地域保健臨床実習	3③		1				○	1							

教 育 課 程 等 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 教育科目	給食栄養・安全管理論	2③	2			○			1						兼1 兼1 共同 オムニバス
	給食経営管理論	3①		2		○			1						
	給食経営管理実習	3①	1					○	1						
	給食経営管理臨地実習Ⅰ	3③		1				○	1						
	給食経営管理臨地実習Ⅱ	4①		1				○	1						
	総合演習	3③		1			○		3	1					
	健康科学総合演習	3③		1			○		3	1					
	小計(26科目)	—		18	20	0			—	4	1	0	0	0	兼4
	地域協 働演習	地域協働演習	3②		2			○		3	3		2		集中
	小計(1科目)	—		0	2	0			—	3	3	0	2	0	兼0
卒業論 文・卒 業研究	卒業論文Ⅰ	3①②③③		4			○		9	3					
	卒業論文Ⅱ	4①②③③		4			○		9	3					
	地域課題解決研究Ⅰ	3①②③③		4			○		3	3		2			
	地域課題解決研究Ⅱ	4①②③③		4			○		3	3		2			
	小計(4科目)	—		0	16	0			—	33	19	0	2	0	兼0
その 他科目	学校栄養教育論Ⅰ	3①			2	○			1						兼1
	学校栄養教育論Ⅱ	3③			2	○				1					兼1
	教育学概論	1③			2	○									兼1
	教職入門	1③			2	○									兼1
	教育社会学	2①			2	○									兼1
	教育心理学	2②			2	○			1						
	特別支援教育	3②			1	○									兼1
	教育課程論	2①			2	○									兼1
	道德教育論	3①			2	○									兼1
	総合的な学習の時間の指導法	3②			2	○									兼1
	特別活動論	3②			2	○									兼1
	教育方法学	3③			2	○									兼1
	生徒・進路指導論	2③			2	○									兼1
	生徒指導論	2③			2	○									兼1
	教育相談	3①			2	○									兼1
	教育実習指導	4①②			1	○			1						
	教育実習Ⅰ	4①②			2			○	1						
	教育実習Ⅱ	4①②			2			○	1						
	教職実践演習(中・高)	4③③			2			○							兼1
	介護等体験	3①②③③			2			○	1						
	教育実習指導(栄養教諭)	4①			1			○	3						兼1
	教育実習(栄養教諭)	4①			1			○	1						兼1
	教職実践演習(栄養教諭)	4③			2			○	1						兼1
小計(23科目)	—		0	0	42			—	5	1	0	0	0	兼10	
合計(197科目)		—		63	222	49			—	33	19	0	2	0	兼78
学位又は称号		学士(地域創生)			学位又は学科の分野			家政学・理学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
・全学共通「学びスキル・リテラシー」から14単位以上、「学際知」から8単位以上、「論理思考表現」から2単位以上、「地域課題」から4単位以上、「キャリア開発」から4単位以上、「ダイバーシティ」から4単位以上、「学部学科共通科目」から10単位以上、「運動・生体」から20単位以上、「食」から24単位以上、「健康」から26単位以上、「卒業論文・卒業研究」から8単位以上修得し、合計124単位修得すること。 ・履修制限単位数：年間48単位。 (注)								1学年の学期区分		4学期					
								1学期の授業期間		8週					
								1時限の授業時間		90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科目 全学共通教育 学 び ス キ ル ・ リ テ ラ シー	大学基礎セミナーⅠ	この授業は、大学における学修や研究を円滑に進めるために必要な基本的知識・技能や主体的な学修姿勢を身に付けることを目的とする。少人数グループで演習を行い、大学における授業・評価・単位について理解するとともに、さまざまな学術的テーマや内容に関するリーディング、ライティング、ノートテキング、インターネットによる情報収集、図書館における文献検索、レポート作成、プレゼンテーション等を通じて、基本的な学修方法を身に付ける。	
科目 全学共通教育 学 び ス キ ル ・ リ テ ラ シー	大学基礎セミナーⅡ	大学基礎セミナーⅠで身に付けたことがらを発展させ、情報を正確に読み取り、多角的に問い、自らの考えを適切に表現できる力とともに、多様な他者との協働して課題を解決する力を身に付ける。少人数グループによるPBL (Problem-Based Learning: 問題を基盤とした学修) を導入し、現実的で具体的な問題との出会い、解決すべき課題の発見、自己やグループでの行う知識の獲得、討論を通じた思考の深化、問題解決という過程を経た学びを実践する。	
全学共通教育科目 学 び ス キ ル ・ リ テ ラ シー	ICTリテラシーⅠ	本科目は、全学共通教育科目の学びスキル・リテラシーに区分される科目である。情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力 ・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力 ・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力 テキストとデジタル教材を併用し、以下にあげる内容の授業を行う。 ・インターネット等を使った情報検索 ・情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法 ・文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法 ・プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等	
全学共通教育教育科目 学 び ス キ ル ・ リ テ ラ シー	ICTリテラシーⅡ	本科目は、全学共通教育科目の学びスキル・リテラシーに区分される科目である。情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力 ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力 テキストとデジタル教材を併用し、以下にあげる内容の授業を行う。 ・コンピュータを利用した数値分析の基礎 ・データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法 ・インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等	
全学共通教育科目 学 び ス キ ル ・ リ テ ラ シー	英語総合Ⅰ	英文で書かれた情報や考えなどを、多様な社会的・文化的・歴史的背景を踏まえて読み取る技能を高めるとともに、異なる文化に対する理解を深める。授業では、さまざまな分野の英文に触れることにより、語彙・語法・文法などに関する知識の積み上げを行うと同時に、文章の概要や要点を読み取る読解演習を行い、リーディングに必要な技能の向上を図る。また、読んだ内容について意見をまとめ、平易な英語を用いたグループ・ディスカッションを行うなど、書く・話す・聞く技能とも関連付け、読みの深化を図る活動を行う。	
全学共通教育科目 学 び ス キ ル ・ リ テ ラ シー	英語総合Ⅱ	異文化や社会問題等について書かれたさまざまな英文を、語彙・文法・背景知識や、リーディングに必要な技能等、英語総合Ⅰで学んだことがらを駆使して読み、書き手の意図を正確に捉えることのできる力を養う。授業では、多読や速読を通じて、文章の構成やキーワードを意識して内容を把握する技能を高め、その定着を図る。さらに読んだ内容に対する意見をパラグラフの構成法に従ってまとめ、英語を用いたグループ・ディスカッションやプレゼンテーションを行い、読みの深化から書く・話す・聞く技能につながる活動を行う。	
科目 全学共通教育 学 び ス キ ル ・ リ テ ラ シー	英語総合Ⅲ	英語総合Ⅰ・Ⅱで学んだ英文を正確に読み取る知識・技能をさらに高めることに加え、批判的な読みのできる思考力・判断力と、意見を述べる表現力を養う。授業では、書かれた内容を分析して課題を把握し、問いを立て、多様な解の可能性を踏まえながら英文の理解を深める。このような批判的な読みを通じて自らの意見を組み立て、複数のパラグラフからなる英文で書くとともに、グループ・ディスカッションやプレゼンテーションの場での確に英語で相手に伝える活動を行う。	
科目 全学共通教育 学 び ス キ ル ・ リ テ ラ シー	英語総合Ⅳ	英語総合Ⅰ～Ⅲで学んだことがらを踏まえ、学術的な英文を正確に読んで理解し、自らの意見を的確に表現できる力を養う。授業では、人文・社会・自然科学等の専門分野で用いられる用語や表現に対する理解を深め、内容の正確な把握と、批判的な読みを実践する。さらに読んだ英文の概要や、その内容に関する意見を英文でまとめ、プレゼンテーションを通じて発言の論理性を高める。また、複数のパラグラフを組み合わせたエッセイとしてまとめる活動を行う。	
科目 全学共通教育 学 び ス キ ル ・ リ テ ラ シー	英語表現Ⅰ	さまざまな日常生活や社会的な場面を想定し、定型的・慣用的な表現が自由に使えるよう、スピーキング及びリスニング能力の基礎的なコミュニケーション能力の養成を目的とする。自然な速度で話される英語を聞き取りその内容を理解する力を伸ばすため、多様な素材を用いた十分なリスニング演習を行うとともに、基本的な英語を用いて自発的に表現できる能力の習得を目指す。この科目では、対話において、的確な内容理解に基づく受け答えをし、自らも問いを発するなど会話を発展させる演習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目 学ビスキル・リテラシー	英語表現Ⅱ	英語表現Ⅰで獲得した技能の発展を目指し、日常生活や社会的な場面における実用レベルのリスニング、スピーキング能力の養成を目的とする。自然な速度で話される英語を聞き取りその内容を理解することに加え、日常的、社会的な話題について、基本的な英語を用いて自発的に表現できる能力の習得を目指す。この科目では、対話において、十分な内容を伴う受け答えをし、グループ・ディスカッションやプレゼンテーションなどにおいて、適切かつ十分な自己表現ができることを目指した演習を行う。	
全学共通教育科目 学ビスキル・リテラシー	英語表現Ⅲ	ライティングによる発信を行うための、基礎的な文章作成能力を身につけることを目的とする。基本的な語彙や文法、句型、表現等を再認識しながら、幅広い分野における文章構成のルールを確認するとともに、メールの返事や簡単なビジネスレター、電話に対応した内容のメモ、ポストカードや手紙など、さまざまな英文を書く練習を行ない、発進力の向上を目指す。単に「書く」活動にとどまらず、考えをまとめたり、語彙を拡充したりするために「聞く」「話す」「読む」活動を取り入れ、総合的な英語表現能力を養う演習を行う。	
全学共通教育科目 学ビスキル・リテラシー	英語表現Ⅳ	英語表現Ⅲで獲得した技能の発展を目指し、実用レベルの文章作成能力を身につけることを目的とする。情報や意見を明確に伝えるため、パラグラフ・レベルにおける論理的な文章作成法や、複数のパラグラフからなるエッセイの技法を学ぶ。さらに学術的な分野における文章構成のルールを確認し、英文による研究成果発表の素地を養う。伝えるべき情報や意見をまとめたり、的確に伝える表現方法を学んだりするために「聞く」「話す」「読む」活動も取り入れ、総合的な英語表現能力を養う演習を行う。	
全学共通教育科目 学ビスキル・リテラシー	中国語Ⅰ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 中国語の基本的な文法を学び、初歩的な読解力を養成するとともに、簡単な会話が理解できる能力を養成する。 【授業の内容】 発音の練習、単語の音・意味・漢字表記とを結びつけた練習をするとともに、簡単な会話文を用いて、基本的な語彙・語法の習得を目指す。	
全学共通教育科目 学ビスキル・リテラシー	中国語Ⅱ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 中国語の基本的な文法を学び、初歩的な読解力を養成するとともに、簡単な会話が理解できる能力を養成する。 【授業の内容】 発音の練習、単語の音・意味・漢字表記とを結びつけた練習をするとともに、簡単な会話文を用いて基本的な語彙・語法、及び文法面での基礎の習得を目指す。	
全学共通教育科目 学ビスキル・リテラシー	韓国語Ⅰ	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象として、基礎文法の習得に重点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」ための基礎力を養うことを目標とする。本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられる。本授業では「ハングル能力検定試験」の5級に含まれる語彙や表現を一部使い、基礎文法を学修すると同時に、韓国文化関連CMや歌、視聴覚教材を取り入れ、聞き取りの練習や簡単な会話文の音読や書く練習を行ない、聞く・読む・話す・書くための基礎力を養い、韓国語運用能力を高めていく。合わせて、言語を通して、韓国社会や韓国文化に対する理解を深めていく。	
全学共通教育科目 学ビスキル・リテラシー	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰで学んだ語彙や文法表現などを踏まえながら、初級レベルの韓国語の基礎的な語彙や句型、文法の知識を固めると同時に「ハングル能力検定試験」の5級のレベルに至る韓国語運用能力を身に付けることを目標とする。本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられる。授業では、教科書だけではなく、日常生活における様々なテーマを取り上げ書く練習や話す練習を行い、より実践的な韓国語を駆使できるように学修する。また、韓国文化関連DVDや視聴覚教材を取り入れ、韓国の社会文化についての理解を図る。	
全学共通教育科目 学ビスキル・リテラシー	ドイツ語Ⅰ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】：ドイツ語の単語や簡単な文を発音できる。冠詞や名詞などについて「性・数・格」を判断できる。現在形で書かれた簡単な文を和訳できる。本科目は、「全学共通教育科目」の「学ビスキル・リテラシー」の一つである。【授業の内容】：ドイツ語のアルファベットを覚え、文字や単語の発音、動詞の人称変化、名詞の格変化、人称代名詞、前置詞、名詞の複数形、所有冠詞、形容詞、簡単な挨拶表現などを学ぶ。	
全学共通教育科目 学ビスキル・リテラシー	ドイツ語Ⅱ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】：ドイツ語の文章を発音できる。辞書を使ってドイツ語の文章を和訳できる。簡単な独作文ができる。本科目は、「全学共通教育科目」の「学ビスキル・リテラシー」の一つである。【授業の内容】：数字、命令文、再帰動詞、複合動詞（分離動詞・非分離動詞）、話法の助動詞、動詞の三基本形、現在完了形、受動文、関係文、接続法、比較表現、zu不定詞句、よく使われる簡単な日常会話表現などを学ぶ。	
全学共通教育科目 学ビスキル・リテラシー	アカデミック日本語Ⅰ	この科目は全学共通科目における学ビスキル・リテラシー科目の一つとして、履修者が各学部における専門科目を学修するにあたって必要となるアカデミック日本語の基礎を学ぶ。主な内容は、大学での学修活動に必要な語彙や表現を身に付けるとともに、大学での学修活動に必要な場面（レポートを書く、プレゼンテーションをする、指導教員に向けてメールを書く等）での表現力を高める。さらに、プレゼンテーションでは、自らの発表を分かりやすく伝える方法を身に付けるだけでなく、他者の発表を理解し、その場で公的に質問を行えるように演習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー	アカデミック日本語Ⅱ	この科目は全学共通科目における学びスキル・リテラシー科目の一つとして、「アカデミック日本語Ⅰ」で培った言語力を土台にし、履修者が各学部における専門科目を学修するにあたって必要となるアカデミック日本語の基礎を学ぶ。主な内容は、大学での学修活動に必要な語彙や表現を身に付けるとともに、大学での学修活動に必要な場面（レポートを書く、プレゼンテーションをする、指導教員に向けてメールを書く等）での表現力をさらに高める。特に、レポート、スライドの作成において必要となる日本語を、話し言葉と区別し、場面に適切な表現を用いることができることを重視する。	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー	スポーツ実技Ⅰ	この科目では、生涯にわたって運動・スポーツに携わる上で必要となる基本的知識、技能、態度を身につけることを目標とする。 この科目は、大学で学ぶ基礎・基盤として、全学共通教育科目「学びスキル・リテラシー」に区分されている。 授業の内容として、他者とコミュニケーションを取りながら主体的に運動・スポーツを実践するとともに、バレーボール、フットサル、バドミントンといった様々なスポーツ種目の特性や技術・戦術を修得する。授業は、他者と協働しながら、6名ほどのグループ毎に技能習得の目標と練習メニューの考案、実践および評価を行い、これにより主体的に運動・スポーツに携わる態度を身につける。	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー	スポーツ実技Ⅱ	この科目では、自ら運動プログラムを作成・実践し、生涯スポーツ・健康づくりに必要となる知識・技能を習得することを目標とする。 この科目は、大学で学ぶ基礎・基盤として、全学共通教育科目「学びスキル・リテラシー」に区分されている。 授業内容として、体力評価テストによって自身の体力の現状を知り、目標ならびに運動プログラム（有酸素性運動および筋力トレーニング）を作成・実践し、その効果を自身で把握する。健康づくりに必要な運動トレーニングとは何かを学んだ後、ウォーキングやジョギング、スポーツ種目を行った際の運動強度について心拍数を用いて評価する。さらに、半期に渡る運動の継続が、自身の体力にどのような影響を及ぼすのか実践を通して理解する。	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー	保健体育理論	この科目では、運動・スポーツと健康との関係について理解し、生涯に渡って運動・スポーツを実施するために必要となる基本的な知識や技能を修得することを目標とする。 この科目は、大学で学ぶ基礎・基盤として、全学共通教育科目「学びスキル・リテラシー」に区分されている。 授業前半は、「健康と運動」について、日本人の健康状態や運動・スポーツと健康との関わり、さらに運動・スポーツの継続に必要な環境や取り組みについて理解する。授業後半は、「運動時の身体の変化」について、運動による身体の変化や適応、さらにそれら身体的変化と健康との関わりを理解する。加えて、「運動・トレーニングの実際」について、実習を交えながら、運動を実施する上で必要となる基本的な技能（適切なウォーミングアップ、ストレッチ、クールダウンの方法および目的に応じた運動トレーニングの種類や方法の選択）を身につける。	
全学共通教育科目	学際知	哲学	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】：哲学の特質と基本問題を理解し、その要点を記述できる。さまざまな哲学的問題について、つねに複数の視点を保ちながら多角的に検討することができる。個々の哲学的問題の解決方法について、分析的・論理的に自分なりの考えを文章にすることができる。本科目は、「全学共通教育科目」の「学際知」の一つである。【授業の内容】「科学」「因果」「心」「身体」「他者」「自由」「正しさ」「功利主義」「定言命法」「知覚」「知識」といったトピックについて、テキストを読み、議論構成の把握に努めながら、哲学的な考え方を学ぶ。	
全学共通教育科目	学際知	文学	本科目は、全学共通科目のうち学際知に区分されている。本科目は、まず、履修学生が文学作品を鑑賞することを楽しむこと、そして、文学に関する基本的な概念、基礎的内容を理解することを目標とする。 現代日本の社会状況に深く根ざし、時代の推移と社会の変貌につれ、その時々の課題に取り組んできた、時代を捉える指標になると思われる作品をテキストとし、現在の我々を考える上で必須の、ジェンダー、仕事と家庭、グローバル化などの問題がどのように表象されているかを読み取っていく。そして、それらの表象がその時々の読者にどのように理解されてきたかを考察する。それを通じて、自らがどのような時代の変化を内包した現在の状況の中で生きているのかを理解し、その中で生きる方を確立していくための問題提起と手がかりとする。	
全学共通教育科目	学際知	芸術	本授業は、映画を中心に、現代の視覚芸術を取り巻く新しい状況に関する知識と方法論を修得するとともに、映像学の基本発想を学び、現代社会において視覚芸術と共存していくための素養を身に付けることを目標としている。 かつては、映画は映画館でしか見ることができなかったが、現在ではスマートフォンなどを通じて、好きな映画をいつでも見ることができる。また、撮影・編集機材の普及によって、映画の制作も身近になった。そうした背景から、本授業では次の内容で構成する。第1段階は映画史の理解である。初期映画から現代の映画に至るまでの流れを概観する。第2段階は映画理論の理解である。映画のフォーマットや映画表現の構成要素などについて説明を加え、理解を深める。第3段階ではいくつかの作品の研究を通じて映画の見方を解説する。また、スマートフォンの動画撮影機能を用いた超短編映画の能動的な制作演習を実施する。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	学際知 心理学	私たちは自分の心の働きについて、ある程度までは自分で知ることが可能である。このような経験に基づいた心理学的知識を「素朴心理学」の知識という。問題なのは、この「素朴心理学」の知識と「学問としての心理学」の知識にしばしば大きな隔りがあることである。本科目では、「学問としての心理学」の全般的な内容について学ぶ。そして、素朴心理学に基づいた、心理学に対する誤解を解き、学問としての心理学を生活の中で役に立つような知識として身につけることを目標とする。この科目は、心理学についてこれまで学習していない学生を対象としており、「全学共通教育科目」の「学祭知」に位置づけられる。	
全学共通教育科目	学際知 社会学	【授業の目標】①社会学における基本的な概念や考え方を習得する。②「私」、友人関係、家族などの身近な関係性や出来事について、社会的に考える力を身につける。【カリキュラム上の位置づけ】この授業は、「全学共通教育科目」の「学際知」に位置づけられる。【授業の内容】①友人関係や家族などの社会関係について講義していく。②統計的差別の問題などの社会問題について、具体的な事例を提示しながら、講義を進めていく。	
全学共通教育科目	学際知 歴史学	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】この科目は全学共通教育科目の学際知に位置づけられており、歴史を動かしてきた科学・技術に焦点を当て、それらに突き動かされる歴史のダイナミズムを検討する。本科目の目標は、まず歴史学の考え方に基づいて歴史の中での科学・技術の役割を分析する思考力を身につけること、その上で科学・技術が人類の歴史と分かち難く結びついてきた有り様を理解することである。 【授業の内容】人類の歴史を動かしてきた科学や技術について、「時空を把握する」「生命を手懐ける」「認識を共有する」という3つのテーマから検討を加える。これらのテーマはいずれも近代以降の「国民国家」形成につながるものであることを確認するために、取り扱う時代としては、16～19世紀のいわゆる「近世」に重点を置くものとする。また、ヨーロッパで発展した現代科学を相対化する立場から、対象地域は基本的にアジアとする。	
全学共通教育科目	学際知 倫理学	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】：倫理学の基本問題（とりわけ生命倫理や環境倫理の諸問題）を理解し、その要点を記述できる。さまざまな倫理的問題について、つねに複数の視点を保ちながら多角的に検討することができる。個々の倫理的問題の解決方法について、分析的・論理的に自分なりの考えを文章にすることができる。本科目は、「全学共通教育科目」の「学際知」の一つである。【授業の内容】：「文化相対主義」「徳」「快楽」「幸福」「善悪」「正不正」「帰結主義」「義務論」「生殖補助医療」「エンハンスメント」「動物の権利」「安楽死」「環境汚染」といったトピックについて、テキストを読み、議論構成の把握に努めながら、倫理的問題を考える。	
全学共通教育科目	学際知 経済学	経済学の利用し、経済学的思考ができることを目指す。経済、経営、社会の仕組みに関する基本的知識を学ぶとともに、社会人としての教養を醸成する科目でもある。本講義では、経済学の基本的な概念（希少性、機会費用、サンクコストなど）について、身近な事例を取り上げながら、わかりやすく説明する。座学を中心とした静的授業だけでなく、動的授業を取り入れながら、経済学的思考を実践する。	
全学共通教育科目	学際知 科学史	今日の科学の諸領域は、過去に遡ると生きるための技術の開発を出発点とし、科学・技術と人間の生活は密接に関わりながら発展してきた。例えば人類にとって最古の産業といえる農業は、その歴史の中で、より多くの食料を生産するための技術の発達が求められた。近現代において科学と技術が大きく進歩し、農業の生産性向上によってより多くの人口を養うことが可能となった。それと同時に、農業以外の産業と文化の発展、社会の変化をみることになる。この講義では、産業革命期（17世紀後半）以降の科学と技術が産業をどのように変化させ、それが私たちの生活に影響を及ぼしたかを理解する。	
全学共通教育科目	学際知 生命倫理	現代の保健医療福祉の分野における倫理的問題を理解するための知識を習得し、自立的に倫理的問題を分析し、とり得る行動の選択肢を考える機会を提供する。専門的実践の場で遭遇する倫理的問題を敏感に感じ取り、よりよい行動を志向する態度を育成する。生殖操作、遺伝子治療、臓器移植、終末期医療などの今日生命倫理の問題について論じる。倫理的問題を理解するための倫理原理や理論について教授し、比較的身近な事例を通して倫理的思考を経験する。自らの価値観と他者の価値観に気づき、ディスカッションを通して自らの認識の深まりを経験する。	
全学共通教育科目	学際知 基礎数学	この科目は全学共通科目における学際知科目の一つとして、履修者が各学部における専門科目を学修するにあたって必要となる線形代数の基礎を学ぶ。主な内容は、ベクトル・行列を定義し、基本的な数学的性質を確認し、基本演算、行列の階数、行列の基本変形、連立1次方程式の解法、行列式、対角化の習得である。本講義を通じて、履修者がこれまで学修したスカラー演算と同様にベクトル・行列演算を身につけることを目標とする。随時、演習や小テストを行い、履修者の理解を深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通 教育 科目	学際知 統計入門	この科目は全学共通科目における学際知科目の一つとして、履修者が各学部における専門科目を学修するにあたって必要となる統計的な考え方の基礎を学ぶ。主な内容は、数値や記号の羅列に過ぎないデータから有用な情報を取り出し要約すること、他者に分かりやすく説明することを目的とした「記述統計学」、一部の調査から調査対象全体の特徴を予想することを目的とした「推測統計学」である。本講義を通じて、データから得られた情報を客観的根拠とした意志決定プロセスの基本的な考え方を理解することを目標とする。随時、演習や小テストを行い、履修者の理解を深めていく。	
全学 共通 教育 科目	学際知 家族社会学	家族はどのように変化し、それらの変化はどのような要因から生み出されているのだろうか。この授業では、まず、歴史社会学的な視点にたつて、家族をめぐる概念の変遷について学ぶ。そして、質的研究の知見を紹介しながら、私たちが当たり前と思っている「家族」像が歴史的社会的に形成されてきたことへの理解を促す。さらに、家族と家族を取り囲む社会や制度のありかたについて、量的なデータを用いたり、外国(他の社会)との比較を行ったりすることで、家族を比較社会学的に捉える方法を学ぶ。以上を通じて、家族問題について多角的な視点から理解する力を身につけることが授業の目的である。	
全学 共通 教育 科目	学際知 文化人類学	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】</p> <p>文化は人間が物事を認識し、行動する基準の体系であるが、文化は時に「常識」という形でマイノリティを抑圧する道具になることもある。その点について世界の生活習慣の多様性から学生が理解し、より良い社会の構築に寄与する思考を身につけることを目標とする。具体的には、①日本とは異なる文化のありようを知る、②異文化の習慣の背景を理解する、③異文化理解の基本的ありかたを深める、④私たちの常識が持つ問題点をマイノリティの観点から指摘できるようにする。</p> <p>【授業の内容】</p> <p>文化とは何か、文化を調べる手法としてのフィールドワークという文化人類学の基本的知識を説明し、セクシャリティ、ジェンダー、多様な婚姻と家族、現代社会の民族について解説する。これらの授業内容を通じて、学生は自文化中心主義の問題点を理解し、文化相対主義的思考を身につける。</p>	
全学 共通 教育 科目	学際知 日本国憲法	<p>【目標】</p> <p>知識・技能の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的人権の内容を説明できる。 2 権力分立の意義と統治構造を説明できる。 <p>思考・判断・表現の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代の社会問題を憲法と関連づけて考察することができる。 2 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。 <p>主体性・協働性の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。 2 他者と協働して課題に取り組むことができる。 <p>【内容】</p> <p>この授業では、憲法の核である人権保障と統治機構の概要を習得し、現代社会が直面している憲法問題を考察する法的思考能力の一端を養うことを目指す。授業のおおまかな内容は、憲法を支える立憲主義の思想の歴史的展開を概観し、次いで日本国憲法が規定する基本的人権の具体的内容と統治機構について解説する。</p>	
全学 共通 教育 科目	学際知 法学	<p>【目標】</p> <p>知識・技能の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法とは何か、現代社会における法や裁判の役割を説明できる。 2 刑法や民法の基本的な考え方を説明できる。 <p>思考・判断・表現の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代の社会問題を法と関連づけて考察することができる。 2 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。 <p>主体性・協働性の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。 2 他者と協働して課題に取り組むことができる。 <p>【内容】</p> <p>この授業では、まず、法とは何か、法の役割や用い方を明らかにする。これらは法を学ぶ上での基本的な知識である。次いで民法や刑法など、市民生活と特に密接に結びついた法の概要について解説する。具体的には、①犯罪と刑罰に関するルール、②家族生活に関するルールなどを取り上げる。</p>	
全学 共通 教育 科目	学際知 食と健康	本科目は、高校までで学んだ化学の知識をより掘り下げて、「食」に関する講義を「健康」と関連づけて展開し、大学における研究活動に必要な化学的知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実を目的とし、初年次学生を想定して、模擬実験や測定機器を直接表示等、対面授業で理解を深める。身の回りにあふれる健康を志向した風潮と食と化学を結びつけた事例を紹介しながら、化学への興味・関心を高め、化学の役割を理解し、化学的な思考ができるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	学際知 いのちと科学	<p>バイオテクノロジーは、日進月歩で急速に進展し、ともすれば社会の受け入れが追いつかないという状況にある。現代人は、バイオテクノロジーの恩恵を受け、かつ、一方でそのリスクと隣り合わせでもある。現代に生きる我々にとり避けては通れないほどその技術が浸透している。これら技術が関わる生命現象の基本について学び、これら技術が関わる領域、すなわち、食と健康、生活習慣病、がん、感染症や、さらに、地球環境問題について幅広く理解し、「いのち」にどのように科学が関わっているかを考えることを目標としている。カリキュラム上では、全学生に必要とされる教養科目として、また理系学生の基礎科目として位置付けられる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (63 入船 浩平 2／15回) バイオテクノロジーの基本技術について概説し、ヒトの社会生活の営みとの関わりから始まって、近代・現代の先端的話題まで講義する。</p> <p>(64 五味 正志 3／15回) 地球環境問題に関して、生物と環境との関係から講義する。</p> <p>(76 長尾 則男 3／15回) 特に、動物やヒトにおけるバイオテクノロジーについて講義する。</p> <p>(55 岡田 玄也 2／15回) 食と健康、加齢や老化について講義する。</p> <p>(27 北台 靖彦 3／15回) 病（生活習慣病、炎症やがん）と健康について講義する</p> <p>(83 加藤 洋司 2／15回) 細胞のメカニズムや遺伝現象などに焦点をあて分子メカニズムの観点から講義する。</p>	オムニバス方式
全学共通教育科目	学際知 環境と科学	<p>今後の持続可能な社会に貢献する理系学生が、知っておくべき下記の環境科学の内容について説明できることを本講義の目的とする。 大気環境（地球環境とのかかわり・汚染の循環・大気汚染問題・汚染物質除去技術） 水環境（地球環境とのかかわり汚染の循環・水質汚濁問題・汚染物質除去技術） 土壌環境（土壌汚染の実態・調査と対策） 環境中の化学物質（生物に及ぼす影響・毒性化学物質） 廃棄と循環（処理・循環型社会）</p>	
全学共通教育科目	学際知 生活に役立つ力学	<p>物理学は自然科学の基礎であり、私たちの生活の様々な場面で役立っている。本授業では、物理学の中で基礎となる力学について、身近な事例を通して深く理解することを目的とする。ニュートン力学、流体力学、熱力学、電磁気力をもとに、人間の体の動きについて、大気圧や水圧について、川や地盤内の水の流れについて、冷房・暖房の仕組み、発電について等を、関連分野の知識とともに理解する。本授業によって、複雑な事象であっても、要因を分けて理解する柔軟な思考力が身に付く。</p>	
全学共通教育科目	学際知 地域社会と言語	<p>【授業の目標】①フィールドワークの経験を通して、積極的に現場に出て、自ら情報を収集しようとする態度を身に付ける。②フィールドワークによって得られた言語データを、整理し、分析し、効果的な方法で提示（プレゼンテーション）できるようになる。【カリキュラム上の位置づけ】この科目は、言語学についてこれまで学習していない学生を対象にしており、「全学共通教育科目」の「学際知」に位置づけられる。【授業の内容】街の言語景観についての調査に基づき、多文化共生社会において求められる言語標識や公共サイン、石碑・記念碑等について考察し、発表する。</p>	
全学共通教育科目	論理思考表現 アカデミック・ライティング	<p>学修や研究の成果を発表するために作成するレポートやレジュメ、卒業論文や研究論文などの学術的な文書を書く技術や行為、または書いた物のことをアカデミック・ライティングと呼ぶ。この授業では、その基本的な技法、いわゆる「論文作法」の基礎を学ぶことを目的とする。情報を整理してまとめ、論理的に主張を展開するための手順や方法とともに、参照した文献を正しく引用し、他者の意見と自らの意見とを明確に区別して述べる方法などを学ぶ。</p>	
全学共通教育科目	論理思考表現 クリティカル・シンキング	<p>クリティカル・シンキング（批判的思考）とは、情報を収集して理解したり、自身の主張を構成して発表したりする際、根拠にもとづいて論理的・合理的に思考し、適切な結論や判断を導く思考過程を指す。この授業では、大学での学問はもちろん、あらゆる生活の場面で重要とされる批判的思考力の向上を目指す。自ら入手したり他者から与えられたりした情報を鵜呑みにするのではなく、さまざまな問いを発しながらその情報を批判的に吟味し、情報を取捨選択して自らの言動を決定するにいたる思考法を身に付ける演習を行う。</p>	
全学共通教育科目	論理思考表現 プレゼンテーション演習	<p>プレゼンテーションに求められる論理的な思考や伝達技術の基礎を学び、設定したテーマのプレゼンテーションを実際に組み立て、実演し、表現力の向上を目指す。授業では、プレゼンテーションの構成法やスライドを作成するソフトウェアの操作法、効果的な発表を実現する技法（発声法やアイコンタクト等を含む）について理解を深めるとともに、各自の設定したテーマに関するプレゼンテーションを学生相互で吟味しあう演習を行い、実践力を身に付ける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目 地域課題	ひろしま理解	全学共通教育科目の地域課題に位置づける科目である。地域への理解を深めるための導入に位置する科目として、最も身近な地域である広島県域を理解するための、初歩的・基礎的事項を学修する。 具体的には、この地域の歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、解決に取り組むための基礎的知識の修得をめざす。必要に応じ、現地見学などのフィールドワークを実施する。	
全学共通教育科目 地域課題	国際社会の理解	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 現在、地域社会で働く外国人、地域での外国人観光客の受入、地域産品の国外展開など、ローカルのグローバル化は地域の重要な課題である。これらの地域での課題を発見し、理解し、対応するため、国際社会に関する基礎的知識を学生が身につけることを目標とする。具体的には①地域社会にみる国際化の現状を理解する、②地域社会の多文化共生の実状と課題を把握する、③主要な関係国の基礎的状況を知る、④地域社会の諸課題を解決する方策を他国から学ぶ視点を持つことができるようにする。 【授業の内容】 人口減など日本の構造的変化、過疎化と高齢化する地域社会などの地域社会の国際化の背景を説明し、学生が観光、労働、ビジネスの現場における外国人の地域社会への貢献と摩擦を見出すようにする。そのため地域社会と関係が深い諸外国の基礎的情報を学生自身で集めさせ、学生の地域の国際化への関心を高める。	
全学共通教育科目 地域課題	地域情報発信論	本講義では、地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び、地域に密着した課題について取材、記事の編集、発信に至る一連の流れを体験することを通じて、地域情報の発信力を身につけることを目的とする。具体的には、新聞で報じられた地域の情報を素材として、新聞の読み方、取材対象の見方、記事作成の手法を学ぶとともに、新聞情報の分析を通じて地域の諸課題を掘り下げていく。その上で、課題を設定し、現地へ向かって取材し、意見交換を経て記事をまとめるなど、地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに、グループで課題解決への提案をまとめ、ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。	
全学共通教育科目 地域課題	地域教養ゼミナールA	広島県内の特定地域に絞ったテーマを設定し、小集団形式で調査や討議、発表を行うことを通じて、各地域固有の課題を発見し解決へ向けて踏み出す力を養う。授業では様々な文献やメディアから情報を集め、テキストを批判的に読み、対話を通じて理解を深める。テーマに関する実地見学や体験を行い、自らの考えを深めて発信する。想定されるテーマとしては、具体的な地域の特性を活かした観光や産業振興、特産品の開発のほか、特色ある歴史や言語、環境や生態系などが考えられる。地域に密着したテーマを掘り下げて学ぶことにより、課題発見、解決、発信能力を身に付ける。	
全学共通教育科目 地域課題	地域教養ゼミナールB	広島県全域にわたるテーマを設定し、小集団形式で調査や討議、発表を行うことを通じて、広島県の課題を発見して解決へ向けて踏み出す力を養う。授業では様々な文献やメディアから情報を集め、テキストを批判的に読み、対話を通じて理解を深める。テーマに関する実地見学や体験を行い、自らの考えを深めて発信する。想定されるテーマとしては、広く県内全域にわたる防災、医療、福祉、教育、行政などが考えられる。テーマに応じて各界との連携をはかり、多様な学びを実践する。	
全学共通教育科目 キャリア開発	キャリアビジョン (デベロップメント)	本科目の目標は、社会や職場で必要となる基礎的・汎用的能力の重要性について認識し、必要なスキルや有用な手法について理解したうえで、能力を高める方法を知ることである。基礎的・汎用的能力には、コミュニケーション力を含む対人関係のスキル、課題発見・問題解決力、ストレスへの対処などの能力が含まれる。この科目では、まず、社会や職場で求められる基礎的・汎用的能力とその重要性について説明し、有用なスキルや手法について具体的に示し、理解を深めるための演習を実施する。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通 教育 科目	キャリア 開発	ライフデザイン	オムニバス方式
		<p>【目標】 知識・技能の観点 1 リプロダクティブヘルス、金融、労働法の基本的内容を理解している。 2 リプロダクティブヘルス、金融、労働法の知識を実生活に応用できる。 思考・判断・表現の観点 1 実生活で直面する課題を、多面的かつ論理的に考察することができる。 2 他者の声に真摯に耳を傾けつつ、集団の中で多様な自己表現ができる。 主体性・協働性の観点 1 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。 2 他者と協働して積極的に課題に取り組むことができる。</p> <p>【内容】 本科目は、将来のライフデザインを描く上で重要となる①リプロダクティブヘルス、②金融、③労働法について学ぶ。グループディスカッションやプレゼンテーションなど協働参加型の学修を積極的に活用する。 オムニバス科目</p> <p>(67 日高陵好 5/15回) 「リプロダクティブヘルス」</p> <p>(17 村上恵子 5/15回) 「資産運用論」</p> <p>(71 岡田高嘉 5/15回) 「労働法」</p>	
全学 共通 教育 科目	キャリア 開発	ボランティア	
		<p>社会や人に関心のある社会人としての感性を磨き、将来積極的に社会貢献に参加し続けることができることを授業の目的としている。また、社会福祉分野でボランティア活動を行い社会福祉の課題を実践的に学ぶことで、社会福祉の対象者を理解し、福祉マインドを備えた社会人となることも目的としている。授業の内容は、 (1) ボランティア活動とボランティアとして関わる社会福祉の対象者に関する基礎的な内容の理解を担当教員の講義・演習とボランティア活動の実践による講義、(2) 受講生のボランティア活動の実習、(3) 担当教員による演習でのボランティア活動の振り返り、が主な内容である。</p>	
全学 共通 教育 科目	キャリア 開発	インターンシップ	
		<p>本科目の目標は、多様な職場や職業に対する関心を持ち、就業体験を通して自身の志や将来の進路・職業選択について深く考えることである。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、プレゼンテーション講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成することにより、あらためて就業体験の振り返りを行う。</p>	
全学 共通 教育 科目	キャリア 開発	リーダー論	
		<p>本科目の目標は、社会や職場で必要となるリーダーシップについて理解し、その重要性について理解することである。職場や社会においてチームのメンバーが協働して仕事を進める場面では、リーダーシップは必要不可欠なものである。そして、キャリア形成という視点で見ると、求められる役割に応じて段階的にリーダーシップを身につける必要がある。この科目では、リーダーシップの6つのタイプとそれぞれの特徴について説明する。そのうえで、リーダーシップに必要なことを具体的に示す。その中でも重要となる傾聴的なコミュニケーションや、問題解決に有効なソリューション・フォーカス・アプローチについては、演習を実施しながら詳細な解説を行う。</p>	
全学 共通 教育 科目	ダイ バー シテ ィ	多様性理解（ジェンダー 論）	
		<p>「多様性」は、誰もがその存在を肯定されて生きる社会を作るための重要概念である。性自認や性指向は、人格や尊厳と結びついており、基本的人権として保障されなければならない。しかしながら、日本社会ではその理解が未だ十分に浸透しておらず、そのためLGBT当事者が必要な医療を受けられずに健康を害したり、家族を形成するといった幸福追求権が奪われていたりする現状がある。この授業では、ジェンダーおよびセクシュアリティの多様性についての理論的な知見や具体的な事例を学んでいくことで、専門職として必要な多様性理解を深め、その実践力を高める。</p>	
全学 共通 教育 科目	ダイ バー シテ ィ	人間関係論	
		<p>本講義は、人間が生活していく上で、人間関係や対人関係がなぜ大事なのか理論的に理解することを目的とする。さらに、それに関わる心理社会的要因を学び、日常生活において人間関係を円滑に結ぶためのポイントを習得するとともに、集団活動や協働作業により主体的に関われるようになることを目指す。授業では個人と社会の関係性に関する様々な意識のあり方を解説し、対人関係を規定している印象形成の心理的要因を詳しく解説する。また、個々人が他者の内面性を推測する際に働く社会的認知のメカニズムを最近の若者の対人態度の特徴を引き合いに出しながら解説する。最後に、円滑な人間関係を結ぶためのポイントを社会的スキルの視点から解説する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	ダイバーシティ 人権論	<p>【目標】 知識・技能の観点 1 多種多様な人権問題の概要、発生原因を説明できる。 2 人権問題の解決策を指摘することができる。</p> <p>思考・判断・表現の観点 1 現代の人権問題を多角的かつ冷静に考察することができる。 2 直観に頼らず、論理的な思考を用いて説得力ある論述ができる。</p> <p>主体性・協働性の観点 1 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。 2 他者と協働して課題に取り組むことができる。</p> <p>【内容】 人権思想の歴史、その発展過程を踏まえ、今日、我々に保障される自由・人権の内容を概観する。その上で、日本の社会における人権問題を考察する。また、人権の尊重は、全人類にとって最重要課題の1つであるから、外国で起こっている人権問題にも目を向ける必要がある。したがって、外国の人権問題についても、日本との関係を意識しつつ、適宜取り扱っていく。</p>	
全学共通教育科目	ダイバーシティ 世界の宗教	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 学生が他者の宗教に配慮し、文化的背景が異なる人々と協働ができる教養と能力の獲得を目的に多様な宗教と現代社会の在り方について理解できることを目標とする。知識・技能の点では、①宗教の機能を知る、②多様な宗教の基本的事項を理解する、③現代社会と宗教の関わりを考える知識を身につけることを目的とする。</p> <p>【授業の内容】 日本では社会と対立する宗教という印象も強く、無宗教と考える人々も多い。授業では、日本社会における身近な宗教行為、複雑化する現代社会にみる宗教の意義、近代の始まりと宗教、国家と宗教（国家統合としての宗教や国家権力と対峙する宗教）、宗教と文明対立、宗教とジェンダーという観点からキリスト教、仏教、イスラム教の世界三大宗教に加え、チベット教やヒンドゥー教、神道、新興宗教などについて論じる。</p>	
全学共通教育科目	ダイバーシティ 世界の言語と文化	<p>本科目は、教育課程上「学びスキル・リテラシー」科目として開講されていない複数の言語について、その成り立ちや仕組みを学ぶとともに当該言語の背景にある多様な暮らしぶりやもの見方・考え方に触れ、世界に暮らすさまざまな文化を持つ人々と分け隔てなく交流できる素地を身に付けることを目的とする。1言語について4時間程度の演習が設定される。これを通じて各言語に関する知識・技能を習得し、あわせて設定された課題に基づき言語と関わりのある文化について知見を広める。また、受講者間の議論を通じ異文化交流のあり方や進め方について理解を深める。</p>	
全学共通教育科目	ダイバーシティ 海外研修	<p>本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる。海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し、その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合、この科目で単位を認定する。海外で、語学研修やその他の活動に自主的に参加した後、所定の書類と研修や活動に関する報告（A4用紙1～2枚、1200字以上）を提出し、その内容が、90時間の学修（2単位分）に相当すると判断されれば、単位を認定する。研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については、各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めること。</p>	
全学共通教育科目	入門演習 英語入門演習	<p>日常の意思疎通に不可欠な語彙、文法、発音の知識と技能を高めるとともに、大学での学びに必要とされる英語4技能（聞く、話す、読む、書く）の基本を学ぶ。授業ではまず英語のインプット量を増やすことを目指し、平易な英語で書かれた文章の多読とともに、基礎的なリスニング練習を繰り返す。さらに発音、音読練習を徹底的に行い、英語に対する苦手意識を克服する。</p>	
全学共通教育科目	入門演習 数学入門演習	<p>大学における幅広い学修に必要とされる数学的知識を正しく理解するために、代数学、解析学、幾何学、確率論といった数学の基礎的内容を学修し、実際の問題を解くことでそれら能力や思考方法も身に付ける。生活や社会における数学の活用・理解から、専門的な数学用語や記号についても学び、学士課程における専門科目を学修・理解する上で必要な基礎計算力及び論理思考能力を身に付ける。</p>	
全学共通教育科目	入門演習 国語入門演習	<p>現代日本語で書かれた文章や名作古典を読むことからはじめ、さまざまなテーマの文章や作品に興味関心を持つことで、自分の考えを深めたり、文章の構成や展開に注意して述べられている論旨を正確に読解する力を身に付ける。また、修辭的表現や、比喩等の表現方法を理解して、描かれた世界観を味わうとともに、論理的かつ適切な文章表現力や言語能力、文章作成能力を身に付ける。授業の中では、精読した文章についてグループ等でのディスカッションを行うことで、他者との討論力を身に付ける。</p>	
全学共通教育科目	入門演習 社会入門演習	<p>幅広い教養と、高度な専門性を身に付けるために必要となる基本的な知識として、過去から現在にいたるまでの歴史的事象、世界各地の文化的背景や地理的關係など、幅広く学んでいく。また、我々が生きる現代社会において用いられている法律や社会的概念、実際に起きた社会的現象、経済の仕組みやその動向などにも触れることで、自分を含めた人と社会の関わりを身近なものとして理解し、様々な社会現象に関する知識を得る。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育 入門演習	生物入門演習	高等学校までに学んだ下記の内容を振り返りながら、生物・細胞の働きや構造といった知識、遺伝子についての仕組みとDNA研究に関する歴史等について、幅広く学ぶ。 テーマ) 生体物質、細胞、代謝、遺伝情報、発生・分化、反応と調節、生態、進化ほか	
全学共通教育 入門演習	物理入門演習	入学後に広く理科系分野を学ぶ学生だけでなく、文系学生であっても必要となる物理学の基礎知識、基礎的概念について学ぶ。生活の中での関わりを意識し、自然科学的な考え方を身に付ける。 テーマ) 運動、力学の基礎法則、エネルギー、運動、剛体、振動、電荷、電流、電位、磁場、電磁誘導、電磁波など	
全学共通教育 入門演習	化学入門演習	理科系の学部学科コースのみならず、文系の在学者も対象として、化学の基本的な知識について、広く学ぶ。また、化学を学ぶことの意義を明確に意識するため、化学の知識が日常の場面でどのように役立っているかを明らかにしつつ、化学のおもしろさを掘り下げて理解する。 テーマ) 物質の構成・構造・状態、変化と化学反応、無機物質、有機化合物、光など	
専門教育科目 学部学科共通科目	多文化共生入門Ⅰ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 多文化共生コアユニットにおける学びの具体的なイメージを把握する。個々の専門領域についての基本的な前提と、専門領域相互の関連性について理解する。それらの理解を通じて、自らの適性と問題関心について自覚し、今後の履修方針と専門領域の適切な選択を行う能力を身につける。 【授業の内容】 「異文化との接触」という共通テーマに対して、複数の教員の専門領域からアプローチしてゆく授業である。様々な視点からの講義を受講しながら、多文化共生コアユニット専門科目の多様性と、それらの相互の関連性を理解し、自身の興味や関心の方向性を探る手がかりとする。	共同
専門教育科目 学部学科共通科目	多文化共生入門Ⅱ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 「多文化共生入門Ⅰ」に引き続き、多文化共生コアユニットにおける学びの具体的なイメージを把握する。個々の専門領域についての基本的な前提と、専門領域相互の関連性について理解する。それらの理解を通じて、自らの適性と問題関心について自覚し、今後の履修方針と専門領域の適切な選択を行う能力を身につける。 【授業の内容】 「多文化共生と地域社会」という共通テーマに対して、複数の教員の専門領域からアプローチしてゆく授業である。様々な視点からの講義を受講しながら、多文化共生コアユニット専門科目の多様性と、それらの相互の関連性を理解し、自身の興味や関心の方向性を探る手がかりとする。	共同
専門教育科目 学部学科共通科目	文化継承入門Ⅰ	学部学科共通科目として文化継承コアユニットの入門に位置づける科目で、文化研究に必要とされる基本的な方法論を学修する。 日本・東アジア、英米という3つのフィールドを設定し、授業を進める。それぞれの地域の伝統文化がこれまでどのような形で継承され、あるいは他地域の文化の影響のもとにどのように変容してきたのかを、具体的な事例に拠りながら学修する。最終回には、その成果をグループごとに発表し、相互に評価する。	共同
専門教育科目 学部学科共通科目	文化継承入門Ⅱ	学部学科共通科目である文化継承入門Ⅰを発展させた科目である。 この授業では、文化継承ユニットに配置された諸科目を履修する際の基本となる原資料の特質や解読方法の基礎を学修する。日本・東アジア・英米の3地域それぞれのフィールドにおいて、現在の研究の到達点や、議論されている学問上の課題が、原資料のどのような読み解きのなかから形成されてきたのかを学修することにより、それぞれの専門領域研究の魅力に触れる。最終回には、その成果をグループごとに発表し、相互に評価する。	共同
専門教育科目 学部学科共通科目	政治学	学部学科共通科目に位置づける科目で、日本やそれをとりまく諸地域の政治を、民主主義と自由という観点から議論できるようになることを目的とする。 授業は講義と学生による発表、それにもとづく議論によって進める。まず、民主主義という考え方について、その成立に大きく関与した権利章典から理解を発展させていく。つづいて、日本と米国の政治形態の違いや特徴を理解するため、日本国憲法と米国憲法を比較することにより、議院内閣制と大統領制、小選挙区制、政党政治などの概念を具体的な事例によりながら学修を深める。さらに、多文化主義や安全保障などについて、自由と民主主義との関係を考えながら理解する。	
専門教育科目 学部学科共通科目	国際経済論	学部学科共通科目に位置づける科目である。国際社会において各国経済が相互依存・相互補完によって成り立っている現実を根ざし、さまざまな活動の基盤となる経済取引や企業の動きを理解しながら社会を見る目を養うことを目的としている。グローバル化の進化のスピードは、この20年あまりで顕著なものが多くあり、その結果として、各国間の経済格差、所得格差が地球全体で広がっている現状を理解する。これらの要因や解決策を探るため、モノ（製造業）のみでなくサービスを含めた貿易の動向、国際社会の中心的アクターである多国籍企業、国際金融などについての理解を深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部学科共通科目	地誌学	学科専門科目を履修していく上で基礎的な視点を提供する科目として、「地域性」が理解できるよう、具体的事例をもとに、地域固有の生活様式とその形成に関与した自然環境と人文・社会環境を学修する。世界各地で人々は地形・気候・経済・政治・社会・文化に適合した生活様式を築き上げ、またその変化にも対応してきた。よりよい生活を求めて、この過程は常に反復される。学生は一連の過程を理解し地域や環境を自分のものとして考えることができるよう、日本・インド・英国を中心に関連諸地域の事例にふれ、最近の各国情勢や国際関係にも目を向け、地誌学的視点に立った地域の見方を獲得していく。	
専門教育科目	学部学科共通科目	人文地理学	学科専門科目を履修していく上で基礎的な視点を提供する科目として、人文地理学の諸領域における分析事例を検討することにより、系統地理学的な視点と方法を学修する。地表面には人間の諸活動が営力となって一定の空間構造が形づくられる。その検討において地域区分は重要な意味をもつ。区分された地域単位を等質地域ととらえるか、機能地域ととらえるかによっても地域に対する見方は大きく異なってくる。機能論に立脚すれば、ネットワーク・人口移動・機能的地域分化・立地論等は有効な分析枠組みとなる。学生はこれらの空間構造を地域の実態に即して考え、人文地理学的視点に立った地域の見方を獲得していく。	
専門教育科目	学部学科共通科目	自然地理学	学部学科共通科目に位置づける科目で、人間が多様な営みを展開する地球上のそれぞれの地域の自然環境の特性を、地理学的な視点から理解するための基礎知識を学ぶ。履修生が自然環境に関する文献を検索し、理解するうえで必要なキーワードの意味を理解することが、本科目の最大の目的である。そのため、前半ではプレートテクトニクス理論から日本列島の成り立ちと地震・火山活動のしくみを学び、活断層・火山がつくる地形についてをテーマに、後半では気候変動によって生じた地形や植生の変化をテーマに取り上げる。また、宮島でのフィールドワークを実施し、地質と地形、土石流災害の跡を見学する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	国際法	学部学科共通科目に位置づける科目である。グローバル化の進展により、日常生活のなかでも国際法の知識が問われる場面が増えているため、テレビ・新聞等でも話題になる世界情勢も題材にしつつ、生きた国際法の知識を身に付けることを目的とする。まず、国際の平和と安全の観点を中心に、平和実現のための国際諸機関の役割、戦後の平和構築に向けての取り組み、さまざまな兵器の軍縮・不拡散について、被爆地・広島での立場に留意しながら理解する。続いて、世界平和と人権をめぐる問題を扱い、国際人道法、国際刑事司法制度などについて学修を深める。	
専門教育科目	学部学科共通科目	国際政治論	学部学科共通科目に位置づける科目で、世界各国の政治・経済状況に関し、いろいろなシンクタンクのサイトから素早く情報を得る能力を学ぶ。さらにその情報を使い、特定の国の状況を発表する能力を身に付ける。欧米の有力なシンクタンクである“Freedom in the World 2018”, “Freedom of the Press”, “Freedom on the Net”, “2018 Index of Economic Freedom”の使い方を学修し、そこから得た情報によって、ある一つの国の状況を発表する。その内容を学生相互で議論・批判することにより、情報収集、プレゼンテーション、ネゴシエーションの能力を身に付ける。サイトはすべて英語で書かれているため、ある程度の英語力は必要であるが、発言・発表は日本語でも英語でもかまわない。	
専門教育科目	学部学科共通科目	経営学概論	経営学概論は1年次以上の学部共通専門科目として、これから初めて企業の経営学を学ぶとする学生の基礎・専門科目として位置づけられる。本授業の目的は、1. 地域企業を含め、企業経営とは何か。経営学全般の基礎的な専門知識を身に付ける。2. 現代組織におけるビジネスパーソンとして必要な基礎的・実践的スキルやマナーをグローバルな視点から身に付ける。3. 地域を含め、現代経営者の生き方を学ぶことを通じて、学生個々人が自らの人生の経営を考えることができるように幅の広い視野や器量、倫理性、人間性を養う。そして、4. 今日だけでなくも広範囲な経営諸問題の理解から、地域における経営的諸課題を発見し、その課題解決のための新しい方法や実践的に課題解決できる能力を養う。具体的には、現代経営学の目的や体系及び方法、企業論（現代企業の本質と活動）、企業の社会的責任（CSR）論、コーポレート・ガバナンス論、経営学説史、現代経営者論とマネジメント論等、幅広く学ぶ。	
専門教育科目	学部学科共通科目	会計学概論	本講義の目的は、ビジネスの共通言語と呼ばれている会計の役割・機能について理解を深め、会計の基礎となる簿記の基本的知識と技術を身に付けることにある。講義の前半では、会計情報が組織や経済社会においてどのように利用されているのかを概観し、会計の役割・機能について理解を深める。講義の後半では、会計の基礎となる簿記の知識や技術を解説する。本講義を履修することにより、企業会計、公会計、非営利会計など多様な会計実務の基礎である複式簿記の基本的知識と技術を習得することが出来る。また、会計学を含む社会科学全般を専門的に学ぶための土台を築くことが出来る。	
専門教育科目	学部学科共通科目	マーケティング概論	この講義では、統合的マーケティングの本質を理論体系から理解するとともに、実際の企業活動を事例にして、われわれの生活と密接に関連していることを理解します。まず、モダンマーケティングの基本的概念を理解した上で、顧客価値と顧客満足・環境分析・消費者行動・マーケティングのSTPとブランド戦略・コミュニケーション戦略・サービスマーケティングなどを取り上げます。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部学科共通科目	簿記原理	本講義の目的は、財務諸表を作成するための一連の簿記手続きを理解することにある。講義では、複式簿記の基礎を整理したうえで、財務諸表を作成する簿記手続き（決算手続き）について解説する。簿記は一組の基本的な手続きの集合体であり、会計実務においてはその手続きの合理性を理解することが重要となる。本講義を履修することにより、日商簿記検定3級に相当する簿記の知識と技術を習得することが出来る。また、より複雑な取引についても会計処理を行い、有用な情報にまとめ上げるための基礎的知識を築くことが出来る。	
専門教育科目	学部学科共通科目	ファイナンス概論	本授業の目標は、これまでファイナンスについて学習したことのない学生が、ファイナンスの基礎的な知識を修得し、その考え方や活用法を理解することにある。この科目は、金融・ファイナンスを学ぶ上での導入科目であり、地域創生学部の学部学科共通科目に位置付けられる。学生は、ファイナンスの基本的概念である「貨幣の時間価値」や「機会費用」の考え方を知り、企業のファイナンス（コーポレートファイナンス）と家計のファイナンス（パーソナルファイナンス）の基礎概念を学ぶ。具体的には、家計の資産・負債管理、企業の資本・負債管理と投資管理、ペイアウト政策、ファイナンス理論のコアである資産価値の評価（債券価値の評価、株式価値の評価）の理解を目指す。また、ファイナンスの新しい研究領域である「行動ファイナンス」の考え方も学ぶことができる。	
専門教育科目	学部学科共通科目	ミクロ経済学	本授業の目標は、はじめて経済学を学ぶ学生が、経済学の考え方の基本となるミクロ経済学の基礎理論を習得し、社会・経済の現象を読み解いたり、社会・経済問題への対策を考えたりできるようになることにある。この科目は学部学科共通科目に位置付けられる。学生は、ミクロ経済学の基本的な考え方や分析方法を学ぶ。具体的には、消費者や生産者の行動原理と、市場経済のしくみと役割について学ぶ。さらに、市場経済が私たちに与えるどのような意味で優れているのか、市場にはどのような限界が残り、それに対してどのような対応が考えられるのかを考察する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	経営管理論	本講義の目的は2つある。第1に、学生が、経営管理論の基礎的な概念と枠組みを理解することである。第2に、学生が、これらの概念および枠組みを活用し、多様な経営現象に関して論理的に考える能力・スキルを修得することである。本講義では、経営管理論の歴史的な系譜を、科学的管理法、人間関係論、知識経営論等の概要を順に学習し、その現代的な意義を考察する。今日の企業環境の変化に注意しながら、授業を通して次の問題意識を深めてほしい。(1)生産性の概念の発達と変化 (2) 創業者や専門経営者の登場、および、起業家の社会的役割 (3) 生活の質的变化やグローバル化がもたらす外部環境の変化 (4) 組織の競争優位構築における知識創造の役割	
専門教育科目	学部学科共通科目	中級簿記	日商簿記検定(2級)レベルの知識を身に付けることを目標とします。日商簿記検定(2級)は、高校卒業程度の商業簿記及び工業簿記(初歩的な原価計算を含む。)を習得し、財務諸表を作成並びに読解できる力をつけ、企業の財政状況も理解できるようになり、株式会社の経営管理に役立つ知識を習得を目標とします。日商簿記(2級)レベルの知識は、大学生にとって、将来、経理及び財務関連業務に従事するかどうかに関わらず、ビジネスパーソンとして割いて最低限、身につけなければならない知識です。	
専門教育科目	学部学科共通科目	工業簿記	(目標)受講生が、日商簿記2級程度の工業簿記の知識を身につけ、財務諸表作成や原価管理・利益管理への工業簿記の役立ちを理解できるようになること。 (カリキュラム上の位置づけ)1年次会計学科目の発展編として、製造業の製造活動に特化した工業簿記の手続きを学ぶ。 (授業の内容)この講義では、製造業を念頭に置きながら、財務諸表の作成や原価の管理を目的とした、ものづくりの活動を記録するための基本的な手法を学ぶ。より具体的には、1年次会計学科目で学習した内容を振り返りながら、日商簿記2級レベルの工業簿記を学ぶ。	
専門教育科目	学部学科共通科目	経営戦略論	本講義の目的は、Garth Salonerらの『戦略経営論』を参考文献として用いながら、代表的な理論であるM. E. Porterのポジションニング戦略とJ. B. Barneyの経営資源に基づく戦略について学び、両理論の共通点と相違点を理解することで実際の企業の経営戦略について理解を深めることである。本講義を履修することにより、学生は代表的な経営戦略論としてポジションニング戦略と経営資源に基づく戦略について理解できる。さらに、学生はこれらの概念および枠組みを活用しながら、多様な企業の経営戦略について論理的に考える能力・スキルを修得することになる。	
専門教育科目	学部学科共通科目	入門統計学	この科目は地域創生学部における学部学科共通科目の一つとして、履修者が同学部における専門科目を学修するにあたって必要となる統計学の理論的基礎を学ぶ。主な内容は、履修者が身の回りで目にするデータの特性を正しく理解し、実社会で使われている統計情報から得た知識を意思決定に活用するために必要な統計学の理論基礎である。本講義を通じて、データから得られた情報を客観的根拠とした意志決定プロセスを構築する基本的なスキルを身につけることを目標とする。随時、演習や小テストを行い、履修者の理解を深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部学科共通科目	IoT・情報システム基礎学	本科目は、地域創生学部（仮称）の学部学科共通科目に区分される科目である。情報システムの基本的な構成と、応用されている要素技術に関する理解を深めることを第一の目標とする。さらに、身近な情報システムの実例を題材にして、UML（Unified Modeling Language）を用いたシステム記述を学習することにより、情報システムのモデリング手法を身につけることを第二の目標とする。具体的には、コンピュータ構成要素（プロセッサ、記憶装置、入出力デバイス等）の機能と役割、情報システムを構成するハードウェアおよびソフトウェアの基礎知識、技術要素（ヒューマンインタフェース、マルチメディア、データベース、ネットワーク、セキュリティ等）について講義する。また、UMLを用いたモデリング手法について解説し、これを取り入れた情報システムのモデリング演習を行う。	
専門教育科目	学部学科共通科目	経営情報論	本講義では、経営と情報の関わりを理解し、情報を経営に上手く生かす方法を習得することを目的とする。経営に対する情報の関わりは2種類存在し、1つ目としては従来の経営学でも扱っているヒト、モノ、カネに加えて情報も資産として扱う考え方、もう1つは情報を経営問題に対する問題解決のツールとして捉える考え方である。前者に関しては経営情報システムとして扱う事が多く、前半で種々の経営情報システム及びその活用方法・問題点について講義を行う。後半では、問題解決のツールとしていくつかの問題に対して情報を用いて解決する事例およびツールとして用いる場合についておくべき技術者倫理について講義する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	基礎プログラミング入門	プログラミングは、コンピュータに行わせる命令を書くことであるが、希望通りに動作するようにプログラムを書くためには論理的な思考力が必要である。この科目では、プログラミングの導入として、ブロックによるビジュアルプログラミングを行う。プログラミング言語の仕様や構文にとらわれず、視覚的および直感的にプログラムを作成することにより、プログラムの基本的な構造（順次、反復、分岐）を理解し、論理的な思考力を養うとともにプログラミングの楽しさを体験することを目的とする。特に演習を中心として授業を行う。	
専門教育科目	学部学科共通科目	基礎情報学入門	本科目は、地域創生学部（仮称）の学部学科共通科目に区分される科目である。情報学とは、情報によって世界に意味と秩序をもたらすとともに社会的価値を創造することを目的とし、情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求する学問であると定義されている。情報学は裾野がとて広い学際的な学問分野であるため、最も基本的な事項を体系的に学び理解することを目標とする。具体的には、情報一般の原理、コンピュータで処理される情報の原理、情報を扱う機械および機構を設計し実現するための技術、情報を扱う人間社会に関する理解、社会において情報を扱うシステムを構築し活用するための技術・制度・組織について講義する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	基礎情報活用演習	情報を活用するためには、得られた情報を適切に整理・加工する力が必要である。この科目では、情報処理に関する総合的なスキルアップを目指す。具体的には、文書作成、表計算、プログラミング等の各処理を通じて情報処理に関する総合的な知識と技術を学ぶ。これらの処理方法を学ぶことで、独力で情報を整理・加工し活用できる力を身につけることを目的とする。また、後に続く高度な専門科目を学ぶための基礎を固めることに重点を置く。特に演習を中心として授業を行う。	
専門教育科目	学部学科共通科目	人工知能概論	人工知能に関する基礎概念とその方法論を修得し、実社会における応用可能性と計算機による知能の実現について、人工知能に対する基本的な知識の修得を目的とする。代表的な人工知能の方法として、「知識表現、論理と推論、探索、知識表現、機械学習、自然言語処理」を取り上げ、基礎的な概念と問題解決の考え方、実社会におけるAIの応用可能性を、コンピュータ演習を取り入れながら、講義形式で学修する。また、新しい情報科学の展開を達観するために、コンピュータによる感情表現・分析を事例ベースで学修する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	データサイエンス入門・同演習	この科目は地域創生学部における学部学科共通科目の一つとして、履修者が同学部における専門科目を学修するにあたって必要となるデータマネージメントおよびデータ分析の基礎を統計ソフトウェアによる演習を交えて学ぶ。主な内容は、身の回りのデータを収集・加工・解析するために必要なデータハンドリング、入門統計学で学修した理論を実際のデータ分析に応用するために必要なプログラミング技術を身につけることである。本講義を通じて、これまで学修した統計理論を実データに応用する基本的なプロセスを身につけることを目標とする。随時、演習や小テストを行い、履修者の理解を深めていく。	
専門教育科目	学部学科共通科目	生命科学	この科目では、正常な人体の仕組みの理解に資する遺伝子や細胞レベルから組織や器官レベルまでの構造や機能に関する基礎的内容を学び、併せて暮らしの中の生命科学の話題を理解し評価できる力の修得を目標とする。学部・学科共通科目である本科目は、管理栄養士養成課程に係る専門基礎分野「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」の科目の一つとして位置づけられている。初めに、分子や細胞レベルでのミクロの事象（生体物質の構造や機能・代謝、細胞の構造や機能）を中心に、生命の基本的な仕組みを学ぶ。次に、遺伝子の形・働き・制御、細胞増殖や生殖に関する項目を取り上げ、遺伝子と生命の連続性を学ぶ。また、ゲノム情報の医学への応用、再生医学の現状と将来、植物バイオテクノロジー、生体における安全性、感染症との関わり、先端医療技術と生命倫理など、暮らしや社会における生命科学の話題を提示し、私たちが直面している課題を理解し評価できる力の修得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	学部 学科 共通科目	基礎化学	この科目では、物質の基礎的・化学的性質に関する知識を修得することを目標とする。特に、化学結合、分子構造、濃度、化学平衡、反応速度、有機化学という、化学の基礎的内容を理解することを主たる目標とする。本科目は、専門科目・「学部学科共通科目」に位置付けられ、専門科目の他の応用化学的科目の基礎となっており、それらの応用化学的科目を学ぶための基礎知識としての化学について、初歩的なことから、身近な事例についての説明を含む専門的内容（物理化学、無機化学、分析化学、有機化学）の全般について学ぶ。有機・生体化学の導入として、化学と人間との関わり合いに始まり、物質のマクロな性質とミクロな原子の構造との関係、化学結合の成り立ち、物質の状態変化（気、液、固）と性質、化学反応の基本となる酸塩基と酸化還元、化学反応とエネルギーの関係を学ぶ。化学を苦手とする学生は、環境や生命と化学の接点についての具体的な例を参考にして学力を修得する。
専門 教育科目	学部 学科 共通科目	微生物学	管理栄養士や食品衛生監視員として必要な微生物学の知識を身につけることを目的としている。本科目の目標は、どのような種類の微生物がいて、どのような生活をしているかを知り、微生物とどのように共存するか、あるいは微生物から身を守るかを説明できるようにすることである。具体的な授業の内容は、下記のとおりである。①細菌、酵母、かび、きのこ、放線菌、微細藻類、ウィルスの形態的特徴や性質②食中毒を含む感染症とその感染の仕組み③発酵食品や抗生物質④遺伝学や遺伝子治療の基礎的研究に使われている微生物。尚、本科目は、地域創生学部の学部共通科目に区分されている。
専門 教育科目	学部 学科 共通科目	予防医学	主に生活習慣病を主体とした予防活動について、地域保健、母子保健、学校保健、産業保健など、いろいろな側面からとらえ、また、メタボリックシンドローム予防のための運動療法や禁煙支援について理解する。授業の内容は、メタボリックシンドローム予防、運動療法、禁煙支援、生活習慣病予防、地方分権の推進と地域保健予防サービス提供体制、学校保健での予防対策、母子保健での予防対策、感染症予防対策、インフルエンザ予防対策、ノロウイルス感染症予防対策などである。
専門 教育科目	学部 学科 共通科目	保健政策論	健康危機管理の具体的な対応、医療安全対策の考え方、地域保健、学校保健、産業保健など、さまざまな分野における保健医療福祉の現状と課題について理解する。授業の内容は、地域保健サービスの提供体制と地方分権の推進、精神保健福祉サービスと社会復帰支援サービス、障害者総合支援法、学校保健安全法、過重労働による健康障害、労働者のメンタルヘルス、アスベスト健康障害対策、健康危機管理について、食と感染症、医療安全対策、地方分権の推進と地域保健医療の課題などである。
専門 教育科目	学部 学科 共通科目	公衆衛生学	地域保健、産業保健、学校保健、健康危機管理のなどいろいろな分野における実践事例について検討する。予防医学からの観点から、生活習慣病・メタボリックシンドローム予防について、適切な食生活、適度な運動をする習慣、禁煙などについて、災害時における公衆衛生活動についても学習する。授業の内容は、地域保健・母子保健サービス、産業保健、精神保健福祉サービス、学校保健、結核予防対策、ノロウイルス感染症予防対策、食中毒対策、エイズ予防対策、鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ対策などである。
専門 教育科目	学部 学科 共通科目	環境衛生学	公衆衛生の中の特に環境要因が、疾病の発生あるいは健康の保持増進に関連することを学ぶ。この科目は学部学科共通科目として区分され、管理栄養士専門科目においては、「社会・環境と健康」として位置づけられ公衆衛生学と連続して学習する。授業の内容としては、①疫学の定義、公衆衛生の歴史、②環境と健康（1）環境汚染と健康、③環境と健康（2）環境保健、④食中毒発生時の疫学調査（演習）、⑤産業保健・国際保健、⑥感染症対策、⑦情報の入手と取扱い、⑧生活習慣の現状と課題について学修する。
専門 教育科目	学部 学科 共通科目	健康科学情報処理演習	この科目では、基本的な情報処理演習を通して、実験データ等をコンピュータ上で解析するために必要な知識と実践的なデータ処理の方法を修得することを目標とする。学部・学科共通科目である本科目は、管理栄養士養成課程に係る専門基礎分野「社会・環境と健康」の科目の一つとして位置づけられている。講義内容については、主に表計算ソフトウェアを用いたデータ処理およびインターネットに関する演習を行い、データの収集と整理に関する基本技術、収集したデータに基づく検定や回帰分析などの統計処理の方法、関数の利用法、データのデータベース化ならびにグラフ化の方法などを修得する。また、インターネット上での文献検索、データベース検索、ソフトウェア解析などを通してコンピュータの多様な利用法を身につける。
専門 教育科目	多文化 共生 コア・ ユニット I	共生社会論	【授業の目標とカリキュラム上の位置付け】 知識・理解：授業で取り上げるアジェンダについて説明できる。思考・判断：情報や知識を複眼的、論理的に分析できる。関心・意欲の観点：授業で取り上げるアジェンダについて討議ができ、関心がもて、問題解決の為に行動する意欲が持てる。技能・表現：①合意形成に向けて努力できる。②自分の意見を伝える能力が分かる。③基本的なリサーチができる。態度：①自らを律して行動できる必要性がわかる。②他者と協調・協働して行動のための努力ができる。③他者に方向性を示し目標の実現のために動員しようとチャレンジできる。 専門教育科目の中の多文化共生コアユニットIに位置づけられる。 【授業の内容】 共生社会の実現にむけて、集団討論の中でアジア的な互酬性について学び、ディベートを通して、異文化適応のあり方について考え、身近な事例を用いたアクティビティを通して、民族、人種について考える。

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	多文化 共生コア ・ ユニッ トI	多文化共生教育論	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 わが国における多文化共生社会の実現に向けて、移民受け入れにあたりハード面（行政的措置）、ソフト面（人々の意識改革）の双方からの改革のあり方を検討していく。なかでも、本科目は移民の子どもの教育課題を取り上げ、子どもたちが抱える教育的困難を明らかにし、それに対応するための具体的な提案を導き出すことを目的とする。</p> <p>【授業の内容】 本科目ではサービス・ラーニングを用いた行動型学習を導入する。具体的には、実際に移民の子どもが集住する地域で放課後学習支援活動という社会参加活動を行い（＝サービス）、その過程において子どもたちが抱える課題を明らかにする（＝ラーニング）。</p>
専門 教育科目	多文化 共生コア ・ ユニッ トI	人口社会論	<p>【授業の目標】①人口学の基本を習得する。②人口と、家族、地域あるいは社会がいかにして結びついているのかを理解できるようになる。【カリキュラム上の位置づけ】この授業は「専門教育科目」の「多文化共生コアユニットI」に位置づけられる。【授業の内容】①人口学における出生や死亡、移動などの現象をデータに基づいて説明していく。②人口学的特性の変動が、家族や地域社会にどのような影響を与えるのかを具体的な事例から分析していく。</p>
専門 教育科目	多文化 共生コア ・ ユニッ トI	共生認知心理論	<p>認知心理学は心理学における主要分野の一つであり、その考え方は教育活動、人間の発達、社会行動など、他の心理学分野においても有用である。本科目では、様々な認知心理学的研究からの知見が、現代社会における多文化共生や教育活動をはじめとした、日常生活においてどのような意義をもつのか考える態度を形成し、人間の認知や学習に関する基本的な行動を理解することを目標とする。この授業は、「専門教育科目」の「多文化共生コアユニットI」に位置づけられる。</p>
専門 教育科目	多文化 共生コア ・ ユニッ トI	英国社会文化論	<p>講義形式と演習形式の両方を用いた授業。世界史に多大なる影響を与えた大英帝国時代の英国の文化的状況や、英語圏文化の現代世界における意義を理解し、現代の問題と関係づけて考える力を養成することを目標とする。英語の資料を読み解き、分析し、問題点を明らかにし、自分の意見を発信する力を養成することが目標である。</p> <p>活動としては、イギリスの伝承童話、ヴィクトリア朝期英国の児童文学や大衆向けの小説、冒険小説、イギリス文化や歴史を描いた映画等を取り上げながら、英国文化の歴史的・社会的背景や特質について学び、そして議論する。</p>
専門 教育科目	多文化 共生コア ・ ユニッ トI	米国社会文化論	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 ①文学・映画作品の鑑賞を通し、現代アメリカにおける多文化主義の基礎を学ぶ ②作品の社会的・文化的背景を学び、多角的に社会現象をとらえる ③クラスメートとの討議をとおして、自分の意見を客観的にとらえつつ発表する訓練を行う</p> <p>【授業の内容】 現代アメリカ文学・映画に描かれる人種・階級・ジェンダーの分析・理解を通して、多文化主義の基礎を学ぶ。並行して基礎的な文化批評諸理論にふれ、社会現象を複眼的にとらえる訓練をする。作品批評の基礎とアメリカ史を概観したのち、2週間に1冊のペースで代表的な現代アメリカ文学作品を読み、その文化的・社会的背景をふまえた学生間のディスカッションへとつなげる。</p>
専門 教育科目	多文化 共生コア ・ ユニッ トI	英語学	<p>音声、語構造、文構造、意味構造、文章構造、文字、の各レベルで英語の言語的特徴を考察します。それぞれの言語学的レベルがコミュニケーション全体をどのように形作っているのか検討します。さらに、英語がどのようなプロセスを経て今日の形となったのか、その歴史的变化についても学びます。本科目で習得を目指す技能・能力は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語に関する言語学的知識を身につける ・様々な言語学的レベルでの英語の特徴を指摘できる ・様々な言語学的レベルでの英語の特徴を討議できる ・英語について言語学に基づいた議論ができる ・英語について論理的かつ学術的に思考できる
専門 教育科目	多文化 共生コア ・ ユニッ トI	英語表現論	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 本科目では、英語表現に関するコミュニケーション能力を中上級レベルに発展・強化することを目標とする。本科目はビジネス英語に特化したものではないが、社会におけるビジネスの場面でも使えることを想定した実践的な訓練を行うことになる。</p> <p>【授業の内容】 本科目が重点を置くのは、自然なリスニング能力の向上と、特にビジネスの場面での多文化コミュニケーションにおいて用いられる表現話法である。国際的なビジネスの場で日常的な業務上必要とされる英語能力、eメールをはじめとする初歩的なITコミュニケーション、さらにマーケティングや営業といった観点での英語能力を涵養する。またビジネスのみならず、様々な文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションに有用な多様な英語表現を学ぶことができる。</p>

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 多文化共生コア・ユニットI	英語音声学	英語コミュニケーションの基礎となる英語音声についての知識を深め、日英語音声の違いを把握しながら、英語音声の特徴を理解し、発音向上に役立てることを目標とする。調音及び音響的側面から日英語音声の対照を行い、英語音声の特徴を把握する。適宜、実践的な発音練習を行う。日英語音声の対照分析によって、日本人学習者の英語音声の特徴、及び日本人にとって発音困難な音を明らかにするとともに、その原因を探り、発音向上に向けての実践的演習も取り入れる。母音・子音のみならず、コミュニケーション上重要な機能を持つリズム、イントネーション、アクセント、ストレスや音の弱化、同化、脱落、連結など、発話における音変化も網羅する。 本科目は、専門教育科目の文化継承コアユニットに位置づけられている。	
専門教育科目 多文化共生コア・ユニットI	英語コミュニケーション	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 1. 英語でコミュニケーションを行うための基礎理論を理解し、CEFR-B2レベル(英検準1級、TOEIC 785点)の英語の運用能力を身に付けるのに必要な英語学習を実践すること。 2. さまざまな話題の英語を聞いたり読んだりして理解するとともに、自分の考えを英語で口頭や文章で表現できるようにすること。 3. 英語で表現するための方略を身に付け、実際にパフォーマンスのできる実践能力を身に付けること。 4. 中学、高校の英語授業を想定し、生徒に分かりやすい英語を使える能力を高めること。 【授業の内容】 授業には到達目標(上記)を定め、いわゆる英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)を使って英語でコミュニケーションできる能力を高めます。キーワードは「方略(strategies)」で、英語の運用能力(performance)に重点を置いて学習を進めていきます。	
専門教育科目 多文化共生コア・ユニットI	メディア・イングリッシュ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 国内外の英字新聞および音声・映像メディアに触れ、時事英語に特有な表現形式、文体、語彙などを学び、情報を正確に読み取る・聞き取ることができるようになることを目標とする。また、現在、日本だけでなく世界で起きていることに関心を持ち、自分の視野を広げるようにする。 【授業の内容】 1 英字新聞を読み進めながら、時事英語に特有な形式、文体、語彙などを学ぶ。 2 英字新聞に書かれている記事の概要をつかみ、記事の背景についても理解する。 3 映像・音声を含む様々なメディアに触れ、グローバルな現代社会における政治的・社会的な問題意識を理解しながら、広島と国際社会との接点について考える。	
専門教育科目 多文化共生コア・ユニットI	日本語文化論(日本語学)	【授業の目標】①各時代の日本語の特性・機能・しくみについての基礎知識を得る。②現代日本語の多様性についての認識を深める。③日本語の歴史的変遷過程についての認識を深める。④歴史的視点から物事を見つめ、対処する態度・姿勢を身につける。⑤自らのことばを豊かにしようとする姿勢・態度を身につける。⑥常識を疑い、常に新鮮な視点で物事を見つめ、対処する態度・姿勢を身につける。【カリキュラム上の位置づけ】この授業は、「専門教育科目」の「多文化共生コアユニットI」に位置づけられる。【授業の内容】現代日本語のしくみ・多様性について、具体的な事例に基づいて教授する。「日本語文化論特論A」と同様に、「日本語文化論」系科目の基礎科目として、現代日本語の文法、文章と文体、文字と表記、敬語、地域方言、役割語、および日本音韻史について、幅広く取り扱う。	
専門教育科目 多文化共生コア・ユニットI	日本語音声学	言語に関わる教育・研究においては、それが文法や語彙に関わるものであっても、音声面の正確な観察にもとづかなければ言語事実を十分に把握することができない。この授業では日本語の音声認識と記述に必要な知識と理論を理解すること、実践的なスキルを身につけることを目的としている。具体的には、話し言葉の特徴、子音と母音の分類、国際音声記号、環境による音声変化、アクセント、イントネーション、音声学と音韻論の関係などについて詳述する。	
専門教育科目 多文化共生コア・ユニットI	日本語教育学	この科目は地域創生学部地域文化創生コース(仮)多文化共生コアユニットIの科目の一つであり、「日本語教授法」、「日本語教育実習」の土台となる科目である。主な内容は、国内外の日本語教育事情を理解すること、日本語を教えるための基礎となる分野の知識を概観すること、外国語として日本語を教えるとはどういうことかを理解すること、日本語を母語としない学習者とコミュニケーションを取る方法の一つの手段である「やさしい日本語」とは何かを理解し、実際に使用する実践の機会をもつことで、「地域・ひろしま」における生活者としての外国人に対する情報格差を生まないための多文化共生の在り方を考える機会を得ることである。	
専門教育科目 多文化共生コア・ユニットI	日本語教授法	この科目は地域創生学部地域文化創生コース(仮)多文化共生コアユニットIの科目の一つとして、履修者が日本語を母語としない学習者に日本語を教える日本語教授法を実践的に学ぶ。主な内容は、受講者間の協働で学習者のニーズ・レベルとそれに適した教授法、指導法を考え、日本語授業の組み立てを行う。これを通して、それぞれの学習観、教授観の違いに気づき、「適切な授業」のイメージが一つではないこと知るとともに、異なる考えを持つ受講生が一つの授業を共に作り上げるための解決方法を実践的に学ぶ。受講生個人としては、日本語教育に関わる教授法を理解すること、日本語授業設計の疑似体験を通して授業の組み立て方を理解すること、外国語として日本語を見る目を養うことを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	日本語・日本事情	この科目は地域創生学部地域文化創生コース(仮)多文化共生コアユニットⅠの科目の一つである。主な内容として、留学生が日本社会で直面する様々な疑問や問題の共有を契機とし、日本人学生、留学生がともに、その解決に向けて調査、討論、発表等を行うことを通じて、自らの価値観や文化を相対化し、その多様性を認識し、「正解はひとつでない」ということを実践で理解する機会を持つ。日本人学生、留学生が教える、教えられるという関係を越え、ともに学び、協調し、より良くお互いを理解する場を提供する授業とする。	
専門教育科目	中国社会学文化論	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】</p> <p>①民族誌や映画作品、新聞報道を教材とし、激しく変化する現代の中国社会(華僑・華人を含めた)や文化の現状を学ぶ</p> <p>②中国社会を事例にマジョリティとマイノリティの関係にみる課題を理解する。</p> <p>③多様な中国像を通して、他者を理解する課題と困難さを発見する。</p> <p>【授業の内容】</p> <p>講義形式とする。漢人社会に加え、少数民族や国外の華僑・華人、台湾や香港、マカオと中国との関係も取り上げ、多様な中国社会、国際社会における中国について学生の知見を深める。中国社会の統治システム、経済発展と格差、民族間関係、ジェンダーやセクシャリティなどについて、学生が中国社会の特色と課題を発見できるようにする。</p>	
専門教育科目	中国語文化論	言葉の背景には文化があり、言葉を真に理解するためには文化の視点が不可欠である。本科目は、こうした考え方に基づいて、中国人の発想、中国語の多彩な表現を理解し、日本語や日本文化と対照しながら、中国文化の特質にアプローチしていくものである。この授業を通して、中国語の運用能力を身につけることができるばかりでなく、中国社会、中国文化、中国文学に関する研究に必要な語学的・文化的な基礎を築くこともできる。主に、数字表現・中国人の数字に見られる好き嫌い、挨拶・中国人の挨拶の特徴、動物と植物・中国におけるその象徴性、ボディランゲージ・中国におけるそのジェスチャーの意味、色・中国での象徴性などの内容を学ぶ。	
専門教育科目	中日対照言語学	中国語と日本語は共に漢字を使っているため、共通点が多いと思われがちだが、発音はもちろん、構文においても全く系統が異なる言語である。本科目では、多彩な実例に基づき、課題を設定して、日中両国の学生がディスカッションを行い、中日両言語の共通点と相違点を明らかにしながら、中国語(中国人留学生にとって日本語)への理解を深める一方、外国語を通して母語を再認識する。対照言語学の方法論、世界言語における日本語と中国語の位置といった内容を把握した上で、中国語と日本語の発音の相違、漢字の相違、中国語と日本語における同形語、中国語と日本語の構文の相違、慣用表現の相違などを学ぶ。	
専門教育科目	韓国語文化論	<p>講義形式の対面授業で、「韓国語」を履修する受講生が韓国語の特徴を理解するための概論的内容を重点的に学習する。受講者は、一般言語学研究の視点から韓国語と関連された多様な主題を体系的に理解する。</p> <p>1. 一般言語学の基本概念を基にして、言語を見る視点を持つこと。</p> <p>2. 形態・通辞構造・意味質質の分析など、文法に関して深く理解すること。</p> <p>3. 言語政策、方言、言語史と比較言語学の観点で両言語を考察することなど、様々な主題を扱う。</p> <p>4. 理論的な理解とともに実習を通じて、韓国語使用能力をより高めること。</p>	
専門教育科目	東アジア比較文化論	東アジア地域における課題を発見・解決する力を備えると同時にグローバルな知識基盤社会を支えていく上で欠かせない批判的・合理的・創造的思考力と、21世紀の共生社会を実現してゆける柔軟な思考力を育むことを目標とする。本科目は、地域創成学部専門教育科目の一つとして位置づけられる。授業では、東アジア地域の比較文化に関する研究論文を用い、研究の方法や専門知識を学修した上、学生自ら一つの研究テーマを設定、比較文化的な視点から考察・研究発表を行い、研究を進めるに当たって必要な研究方法の確立や研究資料の活用方法、研究成果を論理的にプレゼンテーションする能力を培う。なお、卒業論文執筆における論旨の組み立て方を身に付ける。	
専門教育科目	国際関係史論	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】</p> <p>この科目は専門教育科目の多文化共生コアユニットⅡに位置づけられており、前近代「東ユーラシア」地域を対象として国際関係史の変遷に対する理解を深めるものである。「朝貢」「冊封」「互市」など、国際関係史にかかわる中国由来の概念を、それぞれの地域の立場に配慮しつつ説明できることを目標とする。</p> <p>【授業の内容】</p> <p>歴史世界としての「東アジア」に対する認識はこの数十年で大きく変化し、その理解のためには必ずしも「中国文化圏」には含まれない隣接地域も含めた「東ユーラシア」地域を視野に入れる必要がある。この授業では中国の諸王朝を軸にした「冊封」「朝貢」「互市」といった国際関係の論理を踏まえつつ、各地域独特の論理や実情にも目を配り、「東ユーラシア」地域における近二千年の国際関係史の変遷を概観して、近代欧米的な国際体制の枠組みを相対化する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットII 多文化共生マネジメント	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 わが国における多文化共生社会の実現に向けて、移民受け入れにあたりハード面（行政的措置）、ソフト面（人々の意識改革）の双方からの改革のあり方を検討していく。</p> <p>【授業の内容】 移民受け入れのための行政措置について、第一に、諸外国とわが国の受け入れ政策の比較分析を行う。第二に、わが国の各地方自治体の対応策の比較分析を行い、温度差が生じる背景的要因について考察する。その上で、実際に移民が集住する地域でフィールドワークを実施し、行政および市民レベルにおける取り組みの具体例を理解していく。</p>	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットII 共生社会論研究	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 知識・理解：授業で取り上げるアジェンダについて説明できる。思考・判断：情報や知識を複眼的、論理的に分析できる。関心・意欲：授業で取り上げるアジェンダについて討議ができ、関心をもって、問題解決の為に行動する意欲が持てる。技能・表現：①合意形成に向けて努力できる。②自分の意見を伝える能力が分かる。③基本的なリサーチができる。態度：①自らを律して行動できる必要性がわかる。②他者と協調・協働して行動のための努力ができる。③他者に方向性を示し目標の実現のために動員しようとチャレンジできる。</p> <p>専門教育科目の中の多文化共生コアユニットIIに位置づけられる。</p> <p>【授業の内容】 グローバル化の進展により、日本は世界の国々とのようにつながっているのか、世界の国々の人とどう共生していくべきかについて、複数のアクティビティを行う中で考える。</p>	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットII 多文化共生教育論研究	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 わが国における多文化共生社会の実現に向けて、移民受け入れにあたりハード面（行政的措置）、ソフト面（人々の意識改革）の双方からの改革のあり方を検討していく。なかでも、本科目は移民の子どもの教育課題を取り上げ、子どもたちが抱える教育的困難を明らかにし、それに対応するための具体的な提案を導き出すことを目的とする。また、研究の方法論として量的分析法、質的分析法の習得を目指し、単なる調査報告書ではなく得られたデータを学術論文として仕上げる技能を養う。</p> <p>【授業の内容】 本科目では第一に、サービス・ラーニングを用いた行動型学習を導入し、移民の子どもが集住する地域で放課後学習支援活動を行い、その過程において子どもたちが抱える課題を明らかにし、得られたデータを質的に分析する。第二に、子どもに加えて保護者を対象とした質問紙調査を実施し、得られたデータを量的に分析する。</p>	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットII 多文化共生社会と法	<p>【目標】 知識・技能の観点 1 法が様々な文化と密接な関係にあることを理解できる。 2 日本や外国の主要な法制度を説明できる</p> <p>思考・判断・表現の観点 1 日本や諸外国の法制度を、それぞれの社会や文化の中で考察することができる。 2 直観に頼らず、論理的な思考を用いて説得力ある論述ができる。</p> <p>主体性・協働性の観点 1 日本だけでなく、諸外国の法制度、法文化について積極的な関心を持つことができる。 2 他者と協働して課題に取り組むことができる。</p> <p>【内容】 本授業では、欧米の法制度と法文化を重点的に取り扱う。また裁判例も取り上げる。例えば、アメリカの裁判を見ると、「なぜこんなことで相手を訴えるのか」と感じる内容のものがある。これは日米の文化の違いに起因する。裁判も、その国の文化に照らして考察することで、よく理解できる。社会に存在する様々な問題、例えば高齢社会や貧困の問題などを外国はどのように扱っているのか、どのような方法で解決を図ろうとしているのかについて考察し、日本への応用可能性を探る。</p>	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットII 人口社会論研究	<p>【授業の目標】人口減少社会の構造を理解し、その中で生じる社会問題について分析する力を習得する。【カリキュラム上の位置づけ】この授業は「専門教育科目」の「多文化共生コアユニットII」に位置づけられる。【授業の内容】①人口減少社会に移行した日本が直面する世代間格差や社会保障の問題について講義を行う。②多様な人々が暮らす地域社会において生じる社会問題（ヘイトスピーチ、外国人技能実習制度など）を取り上げ、説明を行う。③人口減少の中で、地方や地方都市、都市がどのような問題に直面するのかについて教授していく。</p>	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットII 共生認知心理論研究	<p>この科目では、認知心理学をはじめとした、心理学の研究において必要となる統計法および研究法の基礎を講義と演習を通して学ぶ。これまでの心理学関連科目における学習を活かしながら、心理学の学術論文の内容を理解するとともに、自分自身で実施する心理学の研究においてデータを適切に処理し、分析できるようになるための基礎的知識を身につけることを目標とする。この授業は、「専門教育科目」の「多文化共生コアユニットII」に位置づけられる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットⅡ 多文化接触と言語	日本における異文化との接触は古くから行われている。異文化に触れ、その技術や学問などを受容する上で、外国語の習得は大きな役割を果たしてきた。外国語を解し、その学問を日本に定着させる試みは、古くは漢学、蘭学という形で結実した。幕末期には英学がその役割を引き継ぎ、日本の近代化に大きく貢献することとなる。本講義では、他の文化と接触する際、文化や言語はどのように受容されるかを考察するとともに、異言語を日本語に置き換えるために行われた学習法の歴史をたどる。これを通じ、異なるさまざまな文化と接する上で必要とされる知識や態度を養う。	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットⅡ 英国社会文化論研究	講義形式と演習形式（発表を含む）の両方を用いた授業。英国社会文化論に引き続き、英国の歴史と文化が世界に与えてきた影響を考察することを中心テーマとする。英語の資料を読み解き、分析し、問題点を明らかにし、自分の意見を発信する力を養成することが目標である。大英帝国時代の帝国主義や植民地主義を反映した演劇や大衆小説等の原文の精読と分析、異文化の衝突を描いた映画作品の分析、歌詞の分析などの活動を通じて、異文化理解や文化の混交の問題について議論する。また作品に関する評論（英文）や文化研究の研究書を読むことにより英語論文執筆の基礎力を養う。	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットⅡ 米国社会文化論研究	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 ①原文で現代アメリカ文学作品・批評を読み、自分なりの文化批評の手法を確立する ②対象作品と社会・文化との関連を理解する ③さまざまな批評理論にふれ、社会事象を複眼的にとらえる 【授業の内容】 現代アメリカの代表的短編作品を読み、人種・ジェンダー・階級に着目しながらアメリカ社会の諸相を分析する。毎週の授業ではあらかじめ決めておいた担当学生に作品の解説をしてもらい、作品の内容についてコメントを求める。そのうえで、クラス全体のディスカッションを行う。並行してリーディングリストにある文学作品2冊を読み、学生各々が作品を批評し、その発表を行う。リーディングリストの作品は翻訳でも認めることとする。その他、セメスターを通して課題図書（テキスト）を輪読し、多様なアメリカ社会に対する理解を深めてゆく。	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットⅡ 英語学研究	この授業では、英語学（言語学）と他分野（生物学、社会学、脳科学、心理学、コンピュータ科学、哲学、人類学、など）の接点で発達した様々な研究分野を通して、英語の言語的特徴の理解を深化させます。この授業を通して、英語に関する広い知識と多角的な視野を習得することを目指します。本科目で習得を目指す技能・能力は以下の通りです。 ・英語に関する知識を広く習得する ・英語の様々な特徴を指摘できる ・英語について多角的に討議できる ・英語の様々な側面について学術的な議論ができる ・英語の持つ多様な側面について論理的かつ学術的に思考できる	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットⅡ 英語表現論研究	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 本科目では、英語表現に関するコミュニケーション能力を上級レベルに発展・強化することを目標とする。「英語表現論」に引き続き、ナチュラルスピードの英語表現を理解するリスニング能力、およびビジネスの場における多文化コミュニケーションに関する英語能力の向上を目指す。 【授業の内容】 多文化コミュニケーション能力開発のためのテキストを用い、ビジネスの場を含む様々な国際的コミュニケーションで使われる多様な現代的英語表現を学び、演習を行う。旅行および旅行産業、金融、小売業といった業種で用いられる英語能力の向上をはかり、同時に異文化コミュニケーションで起こりがちな相互誤解について英語を用いて学修する。	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットⅡ 英文法	この授業では、高等学校で学習した内容以上の高度な英文法知識の獲得を目指します。英文法運用能力よりは明示的な英文法知識の獲得に重点を置きます。受講者には全員授業期間中に英語検定試験（TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ）を1回受験することを義務として課します。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものでも構いません。英語検定試験の結果は当該期の他の科目と併用できます。本科目で習得を目指す技能・能力は以下の通りです。 ・英文法に関する高度な知識を習得する ・英文の適格性を判断できる ・文法規則の下地となっている言語学的根拠を討議できる ・類似した英文のニュアンスの違いを指摘できる ・話者の態度や文脈の観点から英文法規則を捉えることができる	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットⅡ 検定英語演習	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 語彙、文法、リスニング、リーディングの能力を総合的に向上させ、様々な英語検定試験、特にTOEICのスコアをアップさせることを目標とする。 【授業の内容】 TOEICの問題に即したテキストに沿って授業を進める。リスニングセクションのPart1 写真描写問題、Part 2 応答問題、Part 3 会話問題、Part 4 説明文問題から始め、その後リーディングセクションのPart 5 短文穴埋め問題、Part 6 長文穴埋め問題、Part 7 読解問題を解いていき、解説を行う。また重要事項の説明はプリントを用いて行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットⅡ ディベート・プレゼンテーション	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 現代社会における様々な社会・文化的問題について議論し、英語・中国語・韓国語でのディスカッション・プレゼンテーション技術を身につける。相手を説得するための論理的思考と外国語表現力・語彙力を向上させる。 【授業の内容】 テキストを用い、インプット面では様々な社会・文化的問題についての基本的な知識を身につける。アウトプット面では自分の意見を的確に表現するための作文能力とスピーキング力を身につける。インプット・アウトプットともに高度な外国語表現を学ぶので、それ相応の基礎力と自身の語学力向上のための努力が必要となる。	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットⅡ 日本語文化論研究	【授業の目標】①魅力的かつ説得的な表現力を身につける。②時、場所、相手に応じた表現を学び、身につける。③自らの興味・関心にしたがい、日本語文化に関する研究課題を設定し、資料を収集・分析し、PPT化および論文化する能力を培う。【カリキュラム上の位置づけ】この授業は、「専門教育科目」の「多文化共生コアユニットⅡ」に位置づけられる。【授業の内容】授業の前半では、要約文、論説文、書簡文などの実用文、および俳句、短歌、詩、小説などについて、読む、書く、聞く、話す、推敲するといった作業を繰り返し、【授業の目標】①・②に書いた力を培う。授業の後半では、以上で培われた力を応用し、自らの興味・関心にしたがい、日本語文化に関する研究課題を設定し、資料を収集・分析し、PPT化および論文化する。	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットⅡ 日本語教育実習	この科目は地域創生学部地域文化創生コース（仮）多文化共生コアユニットⅡの科目の一つである。主な内容として、日本語を母語としない学習者に対して、レベルに応じた日本語および日本文化の教授を実際に行う。それを通して、日本語教育の場での立ち振る舞い、効果的な教授技法を実践的に身につけ、教師としての自覚を持ち、より良い教え方とは何かを考える機会を得る。実習前には、授業において生じ得る問題、課題に関する対応を行えるように、受講者同士が問題を提起しつつ、多くに資料に当たりつつ準備を行う。実習中には、「今このとき」に生じる問題について自ら、あるいはチームで考え、解決する機会を得る。実習後には受講者と教員で授業に関する振り返りを行い、次の教授の機会につなげるために、具体的な授業の改善策を話し合う。	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットⅡ 中国社会文化論研究	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 ①中国の社会と文化の多様性とその課題について学生自身が他の文献や史料等から主体的に考察する力を持つ。 ②中国社会と日本社会との関わりについて検討させ、学生が中国社会の問題を自己の在り方と関係させて考察する視点を育成する。 ③発表と学生どうしの討議をとおして、根拠と論理に基づいて議論できる能力を身につける。 【授業の内容】 中国の社会や文化に関する文献の購読と学生の発表を中心とする授業とする。具体的には、香港・マカオや台湾も含めた中国の社会の統治システム、国際関係、経済発展と格差、民族間関係、ジェンダーやセクシャリティ、超高齢化と少子化、対日感情などに関する民族誌もしくは論文集を読み、ディスカッションを行う。学生が事象を多面的に分析する必要性と本質主義的文化論の危険性を理解することで、文化や社会を分析する基本的態度を身につける。	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットⅡ 中国語文化論研究	初級・中級中国語で修得した中国語文法を中心に、既習のさまざまな知識を整理しながら、中国語の会話、読解、作文に必要な不可欠な文法知識を、体系的かつ実践的に学修して、幅広い応用力を身につける。特に、日本人なるがゆえに陥りやすい誤りや、理解し難い面を取り上げて、感性と理性の両面から中国語らしい表現を把握していく。主な内容としては、中国語の品詞、フレーズ、文成分（特に補語に重点を置いて）、文（複文構文を中心に）、中国語の文法要点（アスペクト、兼語文、把字文、存現文、連動文）、また日本人中国語学習者の誤用例検討などである。	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットⅡ 韓国語文化論研究	講義形式の対面授業で、「韓国語」を履修する受講者が、「韓国語文化論」で扱った内容の理解の土台上、言語学的研究の視点から実際の多様な言語資料と現象の分析を重点的に学習する。韓国語学と言語文化に関心がある受講者が、韓国語の言語資料を通して、世界を見る論理的な観点を得られるように導く。 1. 言語と社会文化を考える視点から、言語史、言語政策、方言、言語と社会現象、基本的造語法（理解、口語と文語の差異、語彙体系の比較対照、言語礼節や話法の比較、日本語との比較対照などを 具体的な言語資料を用いて行う。 2. 関連主題に関する論文講読、論文主題の選定、分析方法論、作成法を練習する。	
専門教育科目	多文化共生コア・ユニットⅡ 東アジア比較文化論研究	東アジアの地域における文化的多様性と特殊性、相互の関連性について理解を深めることを目標とする。本科目は、地域創成学部専門教育科目の一つとして位置づけられる。21世紀の多文化共生社会の実現に向けて、アジア地域の文化的多様性を探究することは、重要な意味を持つ。特に、服飾はその国の多様性と特殊性を表す要素の一つとして、アジア地域の社会文化的特徴を端的に示す。この授業では、東アジアにおける服飾の歴史をたどりながら、お互いの異なる服飾文化の中で、服飾がどのように位置づけられ、どのような役割を果たしてきたのかについて幅広く理解する。また、服飾は生活文化の一端であることから、食と住まいについても東アジアの全般を見渡し理解を広める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	文化継承コア・ユニタス I 観光まちづくり論	本科目は地域文化コース専門教育科目（文化継承コアユニット I）に位置づけられる。学生は、地域社会が持つ潜在力（地域文化等）と内発的な力を組み立てることにより、身近な居住環境を改善し、まちの活力と魅力を高めようとする「まちづくり」の考え方と実践方法を学ぶ。具体的に、まちづくりの定義や歴史、体制、手法、課題、地方創生との共通点・相違点等を学び、まちづくりの現状を理解し、問題点を指摘できるとともに、自らまちづくりに関わろうとする意欲をもつようになる。また、まちづくりの 1 手法としての「観光」の基礎的概念と実践手法を学ぶ。	
専門教育科目	文化継承コア・ユニット I 宮島学	〈カリキュラム上の位置づけと授業の目標〉文化継承コアユニットに位置づけられるこの授業では世界遺産「厳島神社」を有する宮島について、歴史・文化・文学など多様な視点で総合的・学際的について学び、外部講師による特別授業やフィールドワークを通じて地域の現状と課題を認識する力を養う。 〈授業の内容〉日本史・考古学・日本文化史・日本文学・中国文学等を専門とする教員による多様な視点とそれぞれの方法論による宮島の歴史と文化についての講義、産業や伝統文化の継承に携わる外部講師による特別講義、及び各講師が提示した課題に沿って実施するフィールドワークを通じて、宮島の現状と伝統・文化の継承、発展について考える。 〈オムニバス方式 全15回〉 (87 大知徳子 2 / 15回) 宮島学概説・宮島の祭 (112 秋山伸隆 2 / 15回) 日本史・戦争と平和 (3 鈴木康之 2 / 15回) 中世考古学 (41 高松亮太 2 / 15回) 日本文化史・近世文学 (10 柳川順子 2 / 15回) 中国文学・舞楽の伝来 (7 西本寮子 2 / 15回) 平家の時代と文学 (1 天野みゆき 1 / 15回) 外国人が見た宮島 フィールドワーク 2 / 15回で構成する。	オムニバス方式
専門教育科目	文化継承コア・ユニタス I 日本地域論	地域固有の生活様式が形成された過程に関与した自然環境と人文社会環境を考察し、基本的な地誌学的視点と方法を学修する。国際間、ならびに国内諸地域間で展開されている地域的關係を視野に入れながら、日本の地域性を探求する。現代日本における生活様式を成立させる上で重要な文化景観、食文化、産業構造、土地利用、集落立地、人口構成、人口移動等からなる諸要素を見出し、それらが相互に補完しあって形成された人文環境の全体像を理解するため、学生は各要素の分布と時系列的な発展過程を含む具体的事例に基づいて相互に検討・考察し、理解を深める。	
専門教育科目	文化継承コア・ユニタス I 日本地域史論（日本史）	地域の視座から、中世から近世に至る瀬戸内海・中国地域の歴史的展開を概観し、この地域が持っている歴史的な性格を理解する。また、日本史の概論に相当する内容も含めて学び、日本列島全体の歴史の展開のなかで、この地域が持つ歴史的な特徴を理解する。とくに中世における中央政権と地域権力の相互既定的な関係を理解する。また、海上交通路が、東アジア世界と日本列島および日本国内の中央と地方の政治的・経済的・文化的交流の大動脈であったことを明らかにし、地域史の視点から地域と国家の歴史を見直す。	
専門教育科目	文化継承コア・ユニタス I 日本文化史論（日本文化史）	文化継承コアユニット I に位置づける科目である。 日本列島に暮らす人々の生活を支えてきたさまざまな用具・道具類が、歴史的過程を経て形成されたものに気づき、その背後にある生産・流通・消費などの要因や周辺地域との関係を、多様な歴史資料をとおして読み解くための思考力を身に付ける。 授業では、日本列島において使用されてきた前近代の生活用具をいくつか取り上げ、その変換過程を明らかにするとともに、変遷の背景にあるさまざまな要因を考察することにより、物質文化研究が果たす役割を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	文化継承 コア・ ユニ ット 日本文化論	【授業の目標】江戸文芸のなかからいくつか設定したテーマごとに作品を取り上げて読解することを通して、豊饒な江戸文化の諸相を理解するとともに、現代を客観的に見つめ直す視座を獲得することを目指す。同時に、江戸文芸の歴史の変遷を概観することで、江戸文芸の基本的な流れを理解することも目標の一つとする。【カリキュラム上の位置づけ】本授業は、「専門教育科目」のうち「文化継承コアユニットI」に位置づけられる。【授業の内容】本授業では、まず豊饒な江戸文化を理解するために有効と考えられるテーマをいくつか設定し、そのテーマごとに文芸作品を取り上げて読解することで、江戸文芸の豊かさや面白さを学ぶとともに、江戸時代の人や文化のさまざまな側面について理解する。また、江戸時代の代表的な作者や作品を取り上げながら、江戸文芸の基本的な流れや作品を読み解くための基礎知識を身につける。	
専門 教育科目	文化継承 コア・ ユニ ット 日本文学論（国文学）	<カリキュラム上の位置づけと授業の目標>文化継承コアユニットに位置づけられるこの授業では、日本の代表的な古典文学作品を原文で読み、読解のための基礎知識を身につけることを基盤に据え、読解力・鑑賞力・分析力などを醸成するとともに、和歌文学や物語文学などの概観と享受の様相、後代への影響や広がりへの考察を通じて日本文学の特質の一端と「言葉のちから」を理解、説明できるようになることを目指す。 <授業の内容>代表的な文学作品であるとともに、後代の文化事象に大きな影響を与え、広く受け入れられた『源氏物語』の読解を軸として、(1)ひらがなの発生と展開、(2)中国文学の摂取と和歌の重視、(3)歴史との交錯、(4)享受史と後代文化への影響、(5)日本文学史上の位置づけと世界文学としての魅力、(6)研究史と研究上の課題 等について講じる。教員免許（国語）必修科目。	
専門 教育科目	文化継承 コア・ ユニ ット I 日本語表象論	本科目は、専門教育科目のうち文化継承コアユニットIに区分されている。日本近現代文学を代表する作品の中から、歴史的に新しいテーマを切り開いたエポックメイキングな作品を分析対象とし、テキスト論、都市空間論、精神分析批評、ジェンダー批評などの、テキストの構造分析のための基本的な姿勢、概念、技術を身につける。それぞれの作品内容だけでなく、周辺資料の取り扱いを通して、作品の背景となった諸相について理解を深める。それぞれの作品の歴史的・社会的・文化的・理論的背景を俯瞰し、日本近現代文学についての文学観・歴史観を習得する。	
専門 教育科目	文化継承 コア・ ユニ ット I 英語文学論	(授業の目標とカリキュラム上の位置づけ) 歴史的背景の中でそれぞれの時代の文学の特徴とその流れを知ると同時に英文学の代表的な作家とその作品に関する理解を深める。 専門教育科目の文化継承コアユニットIの枠に位置づけられる。 (授業の内容) ・英語で書かれた英文学史のテキストを読みながら英文学史（アイルランドを含む）全体の概要の流れに沿って解説して行く。 ・それぞれの時代の主要な文学作品からの抜粋を原文で読み、具体的にその作品全体の概要を示す。 ・歴史・社会・文化などの時代背景を考慮に入れながら、文体や主題などについて解説し個々の作家、及び、その時代の文学の特徴を考察。	
専門 教育科目	文化継承 コア・ ユニ ット I 英米文化史論	イギリスの歴史、社会および文化の特徴を学び、そこに見出される価値観を理解する。イギリスの文化と他の国の文化との違いを考察し、文化の多様性と異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。イギリスの代表的な文学作品や絵画、映画等を材料として、歴史・社会・芸術の関連性を探り、宗教、階級社会、ジェンダー等の問題を広い視野から考察する。イギリスの劇団による劇とワークショップを通して、異文化交流を体験する。毎回の授業テーマについてテキストを読み、疑問点や興味あるトピックについて考えることを課題とし、授業での議論や発表を通して自分の考えを深め、コミュニケーション能力を向上させる。	
専門 教育科目	文化継承 コア・ ユニ ット I 英国史論	文化継承CU Iに位置づける科目で、英国文化への理解を深める基盤として、英国近世史、とくに近世都市ロンドンにおける首都行政を、「医と病」の視点から考える。 中近世のヨーロッパにおいて、ペストはたびたび猛威を振るい人々を震撼させてきたことや、それが人々の死生観や人生観さらには医と病に関する独特の考え方を醸成していったことを理解する。16～17世紀のロンドンは急激な発展をとげていたが、ペストの発生により死亡率は急激に上昇しており、それに対する政府やロンドン市の対策、医療のあり方、ロンドン市民の対応について検討しながら、当時のロンドン市の社会構造を考えてみる。	
専門 教育科目	文化継承 コア・ ユニ ット I 米国史論（西洋史）	カリキュラム上の位置づけ：専門教育科目、文化継承コアユニットII 主授業の内容：に19世紀後半から20世紀初頭にかけての米国史について、世界史の中の米国史という観点から、米国国内の工業化にともなう政治的・社会的・経済的変容、および国際関係におけるヘゲモニーへの上昇という国際位置の変化などについて、工業化と独占資本主義の成立、アメリカ帝国主義の成立と展開、革新主義体制などを中心的論点として、検討・考察する。これを通して、今日の米国と世界が直面している国内的・国際的諸問題のその歴史的背景を考察する。 受講生の到達目標：受講生が、社会科学および歴史学の基礎的概念を理解し、現代社会の基礎的性格について説明できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユニ ット I 東アジア地域史論（東洋 史）	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 この科目は専門教育科目の文化継承コアユニットIに位置づけられており、狭義の東アジア史を相対化し、新しい「東アジア」史を理解するための鍵となる東南アジア史を学び、その歴史的文脈を説明するための基礎的な知識を身につける。東南アジア史への理解を通じて、狭義の東アジア史や世界史と関連づけつつ、新しい「東アジア」への地域的理解を深める。</p> <p>【授業の内容】 「東アジア」という地域概念は、従来中国との歴史的關係の中で中国文化を共有する地域を指してきたが、今日の「東アジア」において中国由来の文化的要素による結びつきは必ずしも強くなく、むしろ今後の経済発展と文化交流を前提にしたより広い地域概念としての「東アジア」に注目が集まりつつある。そのような視点から東南アジア史を学修の中心に据え、「東アジア」の歴史を再評価すると同時に、世界の歴史全体の捉え方について再考する。</p>	
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユ ニ ツ ト I 東アジア交流史論	<p>文化継承CU Iに位置づける科目で、中学校社会・高校地歴の教員免許取得のための選択科目でもある。</p> <p>従来、東アジアの歴史は漢字・儒教・中国仏教・律令などの文化を共有する歴史として、その発祥地である「中国」の歴史を軸に、朝鮮半島・日本列島との関係を加える形で理解されてきた。一方で、この地域の歴史において、遊牧民の活動は極めて重要な影響を与えており、その意義を踏まえなければ東アジアの歴史店会を理解することは不可能になっている。授業では10～14世紀の東アジアの歴史展開を学修することにより、東アジアの歴史・文化の多様性を理解し、多角的に歴史を見る視座を獲得する。</p>	
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユ ニ ツ ト I 東アジア文学論（中国文 学）	<p>前近代、日本を含む東アジア一帯では、中国古典文学が普遍的教養基盤として継承されてきた。広島という地域もその例外ではない。本科目では、この中国古典文学の骨格を把握した上で、いくつかの代表的作品を取り上げて、前近代の中国知識人が持っていた世界観や人間観、美意識の特質を探る。現代日本人とは異なる状況を生きていた人々の存在を知り、彼らが残した言葉を読み解くことを通じて、論理的で柔軟な思考力を体得する。文化継承コアユニット科目であり、教免（国語）必修科目。</p>	
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユ ニ ツ ト I 日中比較文学論	<p>ユーラシア大陸の東端に位置する日本列島の人々は、古来大陸の先進文化を吸収しながら、これに改変や洗練の手を加えて自身の文化を形成してきた。広島という地域もその例外ではない。本科目では、東アジア文学論（中国文学）の土台の上に、このような歴史的展開を遂げてきた日本文学と、その生成の契機となった中国文学とを比較対照し、日中双方の文学的特質を探る。終盤には、日本文学が中国文学に影響を与えた近代の事例にも触れる。文化継承コアユニット科目であり、教免（国語）選択科目。</p>	
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユ ニ ツ ト I 書誌学	<p>【授業の目標】日本文化研究における書誌学的な知識の必要性について理解を深めるうえで、和本（日本の古典籍）に関する知識を習得し、その扱い方を学ぶとともに、和本の書誌情報を把握し、データとして提示することができるようになる。また、日本の古典作品や古文書資料を読むための基礎となる、くずし字解読能力を身につける。【カリキュラム上の位置づけ】本授業は、「専門教育科目」のうち「文化継承コアユニットI」に位置づけられる。【授業の内容】日本文化を研究するうえで、また博物館・図書館などで学術的資料や郷土資料を扱ううえで、写本や版本といった日本の古典籍に関する知識は欠かすことはできない。本講義では、日本における書物の歴史を辿りながら、書物の「モノ」としての側面、すなわち書誌学的な知識と和本の扱い方などについて学ぶ。また、書物の「情報」としての側面を理解する基礎として、毎授業くずし字の読解も行う。</p>	
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユ ニ ツ ト I 書道・書写	<p>文化継承CU Iに位置づける科目で、中学校国語免許取得のための必修科目である。中国・日本の文字文化のなかで、書道がどのように形成・発展したかを書風・書体の変遷や書の変遷過程を学修することによって歴史的に理解し、さらには道具としての文房四宝（筆・墨・硯・神）、硬質（鉛筆・ボールペン・万年筆）の特質や、それぞれに適した表現効果などを学ぶ。実際に磨墨から試筆を体験することによって、含墨方や執筆法および姿勢を知るとともに、授業で不可欠な板書の方法についても学ぶ。</p>	
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユ ニ ツ ト I 博物館概論	<p>学芸員資格取得のための必修科目。博物館の専門的業務に従事する学芸員をめざすうえで必要とされる、基礎的知識と能力を養う。学芸員養成に関する諸科目の入門的な役割を担う科目である。</p> <p>博物館の歴史や現行の法律・制度などを理解することにより、博物館とはどのような社会的機能を有しているのか、学芸員はそこでどのような役割を担うのかを包括的に学修し、現在の博物館をとりまく社会的状況を理解するなかから、あるべき学芸員を思い描く。</p>	
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユ ニ ツ ト I 生涯学習概論	<p>文化継承CU Iに位置づける科目で、学芸員資格取得のための必修科目である。</p> <p>生涯学習社会に関する理解を深め、生涯学習社会を構築するにあたり、社会教育が抱える課題を把握できることを目標に、まず生涯学習と社会教育の異同を確認する。そのうえで、海外の生涯学習に関する理論と動向について、ユネスコやOECDにおける理論とその動向を手がかりに理解する。また、日本における生涯学習政策の展開について、学校教育と関連づけながら理解を深める。さらに、生涯学習の方法と内容、生涯学習と社会教育の計画、学習プログラムの編成、生涯学習関連行政の仕組み、社会教育職員と社会教育施設を取り上げて分析を行う。最後に、生涯学習と社会教育をめぐる課題について検討を加える。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユ ニ ツ ト Ⅱ ・ Ⅱ	文化継承マネジメント	
		文化継承ユニットⅡの必修科目として、地域文化の継承が地域社会に果たす役割を理論的に理解するとともに、その実務を学修するための科目である。具体的には、地域に継承されてきた有形・無形のさまざまな文化財をテーマにして、それらを保存・活用するための制度のあり方を、文化財保護法の沿革や理念から理解する。また、制度だけで文化を継承することは不十分で、その隙間を埋めるためのさまざまな努力が繰り返されていることを、文化財の継承を担うさまざまな人々の活動に接するなかから学修する。	
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユ ニ ツ ト Ⅱ ・ Ⅱ	観光まちづくり論研究	
		本科目は地域文化コース専門教育科目（文化継承コアユニットⅡ）に位置づけられる。学生は、地域文化に関わる多様な捉え方（文化本質主義、文化論的転回、地域資源論など）を理解したうえで、地域文化を活用した観光まちづくりの動向や手法、課題等を最新の事例を通じて学ぶ。具体的には、神楽やエイサー、ストリートパフォーマンス、エスニックパフォーマンス等の観光資源化の事例研究を通して、地域文化の観光活用のある方に対する認識を深め、それに対する意見を表明できるようにする。	
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユ ニ ツ ト Ⅱ	宮島観光学（英語）	共同
		〈カリキュラム上の位置づけと授業の目標〉文化継承コアユニットに位置づけられるこの授業では、宮島の歴史や文化に関する基礎知識を身につけ、学生自らが宮島の魅力を発見し、後半に実施する現地でのガイド実践において、自分のことば（英語）で魅力を発信できるようになることを目標とする。 〈授業の内容〉世界文化遺産「厳島神社」を有する宮島の歴史や文化についての基礎知識を学び、国際的な視点で捉え直し、英語でわかりやすく説明する力を養う。授業の前半では宮島の歴史や文化についての基礎知識を学び、少人数のグループでガイド原稿やツールを作成する。その上でフィールドワークを行い、外国人観光客に対するガイドの技術を身につける。後半では前半での成果に基づくバーチャルガイドとディスカッションにより発信力の向上をめざす。最後のガイド実践ではガイドを通じて外国人観光客と交流する力を養う。共同（主として外部講師が担当、西本・大知・馬本が共同で実施）	
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユ ニ ツ ト Ⅱ	宮島フィールドワーク	共同
		〈カリキュラム上の位置づけと授業の目標〉文化継承コアユニットに位置づけられる認定科目である。世界遺産「厳島神社」を有する宮島について、歴史・文化・文学など多様な視点で総合的・学際的について学んだことをもとに、自ら課題を設定し、別に指定する宮島学センター等が主催する事業やフィールドワークの中から関連するものを選択して参加することに加え、宮島での実践的な活動を通じて、宮島が抱える現代的課題を解決する力を養う。 〈授業の内容〉宮島に関わる研究テーマを自ら設定した上で、宮島学センターが主催する公開講座や各種事業、フィールドワーク等、また宮島学センターが指定する事業等から4つ以上選択して参加し、別に指定する課題に沿ってミニレポートを作成すること。併せて、自主的に行う文献調査や資料収集、計画的に行う現地での調査や活動に基づいて、担当教員の助言を得ながら課題の解決に挑み、報告書等を作成すること。これらの取組を積み重ね、その活動内容と取組の成果をもとに単位を認定する。（西本・大知他）	
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユ ニ ツ ト Ⅱ ・ Ⅱ	日本地域論研究	
		「日本地域論」を基礎に、地誌学的調査のための視点と、資料収集からテーマ設定、分析に至る能力を身につけることができるよう、学生が自ら実践的学修活動を行う。現代社会における日本の生活様式を成立させている諸要素を見出し、人文環境の全体像を理解することができるよう分析対象しぼり、日本酒の消費と生産から地域性を探求する。対象地域に向いての学外授業（巡検：プレゼンテーションを伴うフィールドワーク）や、文献（先行研究）講読が平行して実施される。地表面における人間の活動が対象であるから、自然環境の影響や地域の時系列的発展も視野に入れた授業の展開となる。	
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユ ニ ツ ト Ⅱ ・ Ⅱ	日本地域史論研究	
		日本地域史研究の基本史料である古記録・古文書等の読解のための基礎知識と地域史研究の視点と方法を修得する。質量ともに第一級の中国地方の中世文書を中心的な素材として、古記録・古文書等を、一字一句の意味を調べながら徹底的に読み込む作業を繰り返すことによって、史料の読解能力、史料批判能力、史料の分析能力などを身に付ける。	
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユ ニ ツ ト Ⅱ ・ Ⅱ	日本文化史論研究	
		文化継承コアユニットⅡに位置づける授業で、日本文化史論（日本文化史）の内容を発展させるための科目である。自らが暮らす地域に過去の人間集団の活動の痕跡である遺跡が数多く残されていること、また、開発との調整のなかで多くの遺跡や歴史的な景観が消滅している実態に気付く。さらに、それぞれの遺跡の立地や検出遺構、出土遺物などの特徴を調べ、そこから地域のあゆみがどのように復元できるのかを理解すると同時に、遺跡をとおして地域の特徴を発信する方法を身に付ける。	
専門 教育科目	文化 継承 コア ・ ユ ニ ツ ト Ⅱ ・ Ⅱ	日本文化論研究	
		【授業の目標】本授業では、江戸文化・文芸研究の現状を把握し、教室全体で共有するとともに、自ら課題を設定し、解決するための方法を習得する。また、口頭発表および討議を重ねることで、プレゼンテーションスキルやディスカッションスキルの向上を目指す。【カリキュラム上の位置づけ】本授業は、「専門教育科目」のうち「文化継承コアユニットⅡ」に位置づけられる。【授業の内容】具体的には、江戸文芸のジャンルごとに担当を決め、各ジャンルや作品、作家の研究状況について説明したうえで、任意に選んだ先行研究論文の内容についてプレゼンを行う。その後、受講者全員で討議・批評を行い、江戸文化・文芸の分析・研究方法を身につけるとともに、論理的思考力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	文化継承コア・ユニットⅡ 日本文学論研究	<p>〈カリキュラム上の位置づけと授業の目標〉文化継承コアユニットに位置づけられるこの授業では、「日本文学論」で身に着けた知識と読解力をもとに、自ら設定する課題の解決に向けて、研究的視点を持って具体的な作品の分析と注釈・考察を行う。</p> <p>〈授業の内容〉古代中世の文学作品、特に物語文学とその周辺の作品を素材として取り上げ、読む力・課題を設定する力・調べる力・分析する力・先行作品との関係に留意しながら考察する力・発信する力などを伸ばす。講義と演習を併用する。教員免許（国語）選択科目。</p>	
専門教育科目	文化継承コア・ユニットⅡ 日本語表象論研究	<p>本科目は、専門教育科目のうち文化継承コアユニットⅡに区分されている。日本近現代文学研究の基礎的能力、すなわち、情報収集能力、先行研究の読解力、文化的・社会的記号で織りなされた複合的テキストの分析力、論理的な説明能力、討議力の習得を目標とする。日本現代文学を代表する作品を分析対象とし、読解する作業を重ねることで、研究を行うための実践的な手順と方法を身につけ、議論によって解釈を深めることを学ぶ。</p> <p>授業の各回につき1～2名の担当者が、先行研究や基礎的資料の調査収集、テキストの分析と考察、担当者同士の議論、レジュメ作成などの準備の後、研究発表を行う。発表担当者以外の受講者もあらかじめ作品を熟読し、担当者の発表後に質問、意見の交換、問題点の提出など、討議を行う。</p>	
専門教育科目	文化継承コア・ユニットⅡ 英語文学論研究	<p>(授業の目標とカリキュラム上の位置づけ) 20世紀英国(アイルランドを含む)の主要な作家の作品を演習形式で読み、文学作品を原文で正確に読みこなす読解力を養うとともに、英文学研究の基礎を習得させる。</p> <p>専門教育科目の文化継承コアユニットⅡの枠に位置づけられる。</p> <p>(授業の内容) 20世紀英国の代表的な作家の作品を取り上げ、テキストを精読しながら分析・解釈を行い、その作品の意味を探っていく。また、その過程で、文献の検索や利用の方法、研究の方法論、レポートや論文のまとめ方など、英文学研究に必要な基本的知識を習得させることとする。</p> <p>個人またはグループで教ページずつ担当し、和訳、難しい英語表現についての解説、文学的解釈などを記載したハンドアウトを作成して発表し、受講者全員でディスカッションを行う。その後、教員が英語や文学的解釈について解説する。</p>	
専門教育科目	文化継承コア・ユニットⅡ 米国史論研究	<p>カリキュラム上の位置づけ：専門教育科目、文化継承コアユニットⅠ</p> <p>授業の内容：本授業は、米国の近・現代史に関わる重要な研究テーマを、受講生各人の問題意識に応じて自ら主体的に設定させ、そのテーマに関する知識・研究状況・さらなる研究の深化のための課題・論点・方向性を学ぶことを目標として行う。受講生に各テーマについての選考研究書・論文を調べさせ、受講生相互で議論させる形式で授業を進める。これを通して、受講生が自ら主体的に学び理解できるように、指導する。</p> <p>受講生の到達目標：受講生が、社会科学および歴史学の基礎的概念を理解し、現代社会の基礎的性格について説明できるようになることを目標とする。</p>	
専門教育科目	文化継承コア・ユニットⅡ 東アジア地域史論研究(東洋史)	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 この科目は専門教育科目の文化継承コアユニットⅡに位置づけられており、アジアを舞台とした交流に焦点を当てた「海域アジア史」に関する研究状況を踏まえた上で、研究論文や史料文献など資料の収集と分析など、研究活動を行うための必要な基礎的な技能を養う。併せて、その研究成果としての「歴史叙述」のための方法論を学び、実践を行う。</p> <p>【授業の内容】 本授業では、近年研究が進展している前近代海域アジアに関する研究を題材に、東アジア地域の歴史を扱うために必要な基礎的知識と研究の方法論を身につける。前近代海域アジアの歴史の流れを理解することを通じて、現在を生きる私たちの文化・社会と「海」「アジア」とのつながりを考え、ヨーロッパ中心の、あるいは日本中心のものを見方を相対化し、複眼的な思考・分析の手法を実践する。</p>	
専門教育科目	文化継承コア・ユニットⅡ 東アジア文学論研究	<p>古来、中国大陸の先進文化を吸収しながら独自の文化を形成してきた日本は、今も各地に中国古典語で記された貴重な文献を豊富に伝えている。広島という地域もその例外ではない。本科目では、東アジア文学論(中国文学)の土台の上に、こうした中国古典語による文献(日本漢文をも含む)を読み解くための基礎を学ぶ。中国古典に関わる基本的な文献を、自力で現代日本語に翻訳できるだけの読解力を身に付けることを目標とする。文化継承コアユニット科目であり、教免(国語)選択科目。</p>	
専門教育科目	地域協働演習	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 履修生が大学での学びを生かし、それぞれの専門性と相互の協働性をもって、広島を中心とした地域社会における課題解決にむけて主体的に取り組む科目である。</p> <p>【授業の内容】 少人数のセミナー形式で広島の地域問題解決に向けたプロジェクトチームを組織し、異なるコースに所属する学生同士がそれぞれの学びを通して修得した知識・技能を生かしながら、地域社会との実践的な関わり合いを通して協働することの重要性や意義を理解する。社会人として必要とされる互いの専門性を尊重するマインドを身につけると同時に、具体的な地域課題に触れることにより、地域の将来に関わる社会的な問題意識を醸成する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	卒業論文・卒業研究 卒業論文（専門演習Ⅰ）	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学士としてふさわしい資料・文献収集能力、資料・文献分析能力、論理的思考能力、文章作成能力を身につける ・学生それぞれの専門分野における知見をさらに深め、自ら問いを立て、課題解決のためのさまざまな調査研究手法を習得する <p>【授業の内容】</p> <p>学生それぞれの興味関心に基づいて所属するゼミを決定し、4年次の「卒業論文（専門演習II）」での本格的な卒業論文執筆に向けて、特定のテーマに関する多様な研究メソッドの習得と、口頭発表や論文の形式で自らの学びをアウトプットするための論理的思考能力を身につける。</p>	
専門 教育科目	卒業論文・卒業研究 卒業論文（専門演習Ⅱ）	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学士としてふさわしい資料・文献分析能力、論理的思考能力、文章作成能力を身につける ・学生それぞれの専門分野における知見をさらに深め、自ら問いを立て、課題解決のためのさまざまな調査研究手法を習得する <p>【授業の内容】</p> <p>3年次の「卒業論文（専門演習Ⅰ）」に引き続き、特定のテーマに関する多様な研究メソッドの習得と、口頭発表や論文の形式で自らの学びをアウトプットするための論理的思考能力を身につける。ゼミ教員の指導の下、資料収集、分析、考察、執筆という論文執筆の一連の流れを通して、学士としてふさわしい高度な文章作成能力を身につける。卒業論文の評価は、規定のルーブリックに沿って厳正に行うものとする。単位取得のために、中間報告会、卒業論文発表会、口頭試問に参加することが求められる。</p>	
専門 教育科目	卒業論文・卒業研究 地域課題解決研究Ⅰ	<p>本研究着手までに学修した成果を活かし、身に付けた専門知識や課題発見能力、また資料収集などの技法を用いて、本学での学びの集大成となる論文等の成果物の作成に着手する。学生は、各学部・学科・コースが有する専門性に即して、自身が持つ興味・関心・目的に応じて自らテーマや題材を選択し、その専門性を活かしつつ地域や社会に関連する、または地域課題の解決につながる学際的なテーマを設定する。また、選択したテーマ等に応じて、複数教員による指導体制をとることで、多面的な指導を行う。</p>	
専門 教育科目	卒業論文・卒業研究 地域課題解決研究Ⅱ	<p>地域課題解決研究Ⅰを踏まえ、本学での学びの集大成となる論文等の成果物作成を行う。学生は、各学部・学科・コースが有する専門性に即し、興味・関心・目的に応じて自ら設定したテーマや題材について、さらに追及し、同時にその専門性を活かすことで、地域や社会に関連する、または地域課題の解決につながる論文等を作成する。また、地域課題解決研究Ⅰに引き続き、選択したテーマ等に応じて、複数教員による指導体制をとることで、多面的な指導を行う。</p>	
専門 教育科目	ユニツト外科目 上級英語総合（Critical ReadingⅠ）	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】</p> <p>高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読めるようになる。英語による情報収集ができるようになる。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、海外の知識を深める事を目標とする。教材は主として文学作品や新聞・雑誌の記事、エッセイ、研究論文など。</p> <p>【授業の内容】</p> <p>テキストを用い、段落ごとの意味の内容を理解しながら英語を読む訓練をする。メインの講義教材とは別にTOEICの文法問題と英作文の教材を使用し、語彙力、文法力の増強を目指す。</p>	
専門 教育科目	ユニツト外科目 上級英語総合（Critical ReadingⅡ）	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】</p> <p>Critical ReadingⅠに引き続いて、より高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読め、英語による情報収集ができるようになるための訓練を行う。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、社会事象をはじめとする多様な知識を英語メディアを通して深める事を目標とする。</p> <p>【授業の内容】</p> <p>トピックを中心に英文を読み、語彙力・文法力を高め、さまざまな分野の英文を正確に理解できることを目標とする。並行して、トピックごとに書かれている社会的・文化的・歴史的背景を読み取り、異なる文化に対する知識を深めていく。</p>	
専門 教育科目	ユニツト外科目 上級英語総合（Cross-Cultural Studies）	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】</p> <p>英語圏の国々の文学・文化の理解や、または日本文化の英語圏への紹介および発信、つまり異文化理解を主なテーマとし、文化のさまざまな問題を扱う文献を読み、それを材料に発信する練習をする事で英語力を総合的に高めることを目標とする。</p> <p>【授業の内容】</p> <p>このクラスでは異文化コミュニケーションの諸問題を扱ったテキストを読み、英文読解能力の向上を目指すとともに異文化コミュニケーションにおける重要な概念について考える。外国語としての英語のみならず、その文化的背景を含めた包括的な異文化理解のためのトレーニングを行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	ユニット外科目	上級英語総合 (Seminar)	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 少人数のゼミナール形式で、高度な内容の英語文献や資料、あるいは音声や映像等の教材を用いながら総合的な英語力の強化を目指す授業。</p> <p>【授業の内容】 上級英語総合 (Critical Reading I, II, Cross-Cultural Studies) で学修した内容を踏まえ、高度な内容の英語文献や資料を正確に素早く読み取る能力、音声・映像資料に加えてセミナー形式での教員との密接なやり取りを通して論理的な構造を意識しながら英語を聞き取る能力を身につける。また英文の段落ごとの要約・パラフレーズや、複数の段落に渡る英作文能力などを意識したトレーニングを繰り返すことで、実践的な英語運用能力を身につける。</p>	
専門教育科目	ユニット外科目	上級英語表現 (Global Communication I)	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 本科目では、自分自身の意見を英語で表現するために効果的な技術に焦点を当てつつ、自文化と世界における他文化に関する様々なトピックについて討議するために必要なスキルを、どのように向上させるかを学ぶ。履修生は、言語能力の主要な4技能を満遍なく向上させることにより、国際的なコミュニケーションに適應できるようになる。</p> <p>【授業の内容】 この英会話主体の科目では、履修生は日常的なさまざまなトピックについて話すためのトレーニングを行う。特に日本文化について説明することに焦点を当てる。同時に、流暢で自然な英語の発音を身につけるためのストラテジーを学ぶ。</p>	
専門教育科目	ユニット外科目	上級英語表現 (Global Communication II)	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 「上級英語表現 (Global Communication I)」に引き続き、本科目では、自分自身の意見を英語で表現するために効果的な技術に焦点を当てつつ、自文化と世界における他文化に関する様々なトピックについて討議するために必要なスキルを、どのように向上させるかを学ぶ。履修生は、言語能力の主要な4技能を満遍なく向上させることにより、国際的なコミュニケーションに適應できるようになる。</p> <p>【授業の内容】 この英会話主体の科目では、履修生は日常的なさまざまなトピックについて話すためのトレーニングを行う。特に日本文化について説明することに焦点を当てる。同時に、「上級英語表現 (Global Communication I)」で学んだ内容をさらに発展させ、流暢で自然な英語の発音を身につけるためのストラテジーを学ぶ。</p>	
専門教育科目	ユニット外科目	上級英語表現 (Presentation I)	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 本科目ではより高いレベルで様々なトピック—文化、学術およびビジネスに関するもの—について効果的な英語プレゼンテーションを行うために必要とされる技術をどのように向上させるかを学ぶ。履修生は実際にグループあるいは個人でプレゼンテーションを行うことが求められる。</p> <p>【授業の内容】 履修生は聴衆に向かって様々なトピックについてスピーチする技術をどのように発展させるかを学ぶことができる。本科目では特に自分自身の意見をどのように表明するか、また自分自身の視点をどのように説明するかの2点に焦点を当てて授業を行う。</p>	
専門教育科目	ユニット外科目	上級英語表現 (Presentation II)	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 「上級英語表現 (Presentation I)」に引き続き、本科目ではより高いレベルで様々なトピック—文化、学術およびビジネスに関するもの—について効果的な英語プレゼンテーションを行うために必要とされる技術をどのように向上させるかを学ぶ。履修生は実際にグループあるいは個人でプレゼンテーションを行うことが求められる。</p> <p>【授業の内容】 履修生は聴衆に向かって様々なトピックについてスピーチする技術をどのように発展させるかを学ぶことができる。本科目では特に「上級英語表現 (Presentation I)」で学修した多様なスピーチの技術に加え、自分自身の意見を論理的に構成し、聴衆にわかりやすく伝えるデリバリーの観点に焦点を当てて学生の技術向上を支援する。</p>	
専門教育科目	ユニット外科目	中級中国語総合	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 中国語の基礎を固めるために、基本的な語彙・語法・構造を理解できるようにする。</p> <p>【授業の内容】 ピンインを除いた漢字表記の文章を朗読するとともに、中文和訳の練習を通して中国語の表現力を高め、実用的かつ豊かな表現の習得を目指す。</p>	
専門教育科目	ユニット外科目	上級中国語総合	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 ネイティブに近い中国語運用能力の習得を目指すとともに、現代中国社会・文化に対する理解を深める。</p> <p>【授業の内容】 中国の新聞などを用いてピンインを除いた漢字表記の文章を朗読するとともに、中文和訳や和文中訳を通じた翻訳トレーニングを行う。</p>	
専門教育科目	ユニット外科目	中級中国語表現	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 中国語の基礎を固めるために基本的な語彙・語法・構造を理解した上で、豊かな表現力を習得できるようにする。</p> <p>【授業の内容】 ピンインを除いた漢字表記の文章の朗読、中文和訳の練習を通して中国語の表現力を高め、ネイティブに近い中国語運用能力の習得を目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	ユニット外科	上級中国語表現	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 ネイティブに近い中国語運用能力の習得を目指すとともに、現代中国社会・文化に対する理解を深める。</p> <p>【授業の内容】 中国の新聞などを用いてピンインを除いた漢字表記の文章を朗読するとともに、中文和訳や和文中訳を通訳トレーニングを行う。</p>	
専門教育科目	ユニット外科	中級韓国語総合	<p>韓国語の言語能力のレベル向上と現代韓国社会や文化を理解するために開設された講座である。韓国語能力の中級者を主たる対象に、実際コミュニケーション能力を高めることが講座の目標である。</p> <p>授業の内容は、韓国語の音声・語彙・文法の実践的な整理を目標として、高度な会話能力・読解能力の養成を図る。与えられたテーマに対してどう表現するかを練習するための作文や発表、基本的な文章の読解や要約、新聞記事や現代の文章を対象とした話し言葉と書き言葉の比較学習など、言語文化を充実発展させるために総合的な運用能力の向上と社会文化に対する知識理解の深化を図る。</p>	
専門教育科目	ユニット外科	上級韓国語総合	<p>韓国語の言語能力のレベル向上と現代韓国社会や文化を理解するために開設された講座である。韓国語能力の上級者を主たる対象に、実際コミュニケーション能力を高めることが講座の目標である。</p> <p>授業の内容は、韓国語の音声・語彙・文法の実践的な整理を目標として、高度な会話能力・読解能力の養成を図る。与えられたテーマに対してどう表現するかを練習するための作文や発表、基本的な文章の読解や要約、新聞記事や現代の文章を対象とした話し言葉と書き言葉の比較学習など、言語文化を充実発展させるために総合的な運用能力の向上と社会文化に対する知識理解の深化を図る。</p>	
専門教育科目	ユニット外科	中級韓国語表現	<p>韓国語の実践的運用能力を引き上げるために開設された講座である。韓国語能力の中級者を主たる対象として、実際話し書きのコミュニケーション能力を高めることが講座の目標である。</p> <p>授業の内容は、韓国語での表現能力熟達を目標として、中級水準の会話能力・読解能力の養成を図る。与えられたテーマに対してどう表現するかを練習するための作文や発表、基本的な文章の読解や要約、新聞記事や現代の文章を対象とした話し言葉と書き言葉の比較学習など、言語文化を充実発展させるために総合的な運用能力の向上と社会文化に対する知識理解の深化を図る。</p>	
専門教育科目	ユニット外科	上級韓国語表現	<p>韓国語の実践的運用能力を引き上げるために開設された講座である。韓国語能力の上級者を主たる対象として、実際話し書きのコミュニケーション能力を高めることが講座の目標である。</p> <p>授業の内容は、韓国語での表現能力熟達を目標として、上級水準の会話能力・読解能力の養成を図る。与えられたテーマに対してどう表現するかを練習するための作文や発表、基本的な文章の読解や要約、新聞記事や現代の文章を対象とした話し言葉と書き言葉の比較学習など、言語文化を充実発展させるために総合的な運用能力の向上と社会文化に対する知識理解の深化を図る。</p>	
専門教育科目	ユニット外科	外国語検定(英語)Ⅰ(認定)	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 外国語検定試験の受験を促すことで、自主的な語学学習と語学力の修得を促進するとともに、将来的な学習者のキャリア形成に資することを目標とする。</p> <p>【授業の内容】 TOEIC550点ほか、規定の外国語検定試験のスコア獲得/合格をもって単位を認定する。英語を母国語とする学生は本科目の認定を申請することができない。</p>	
専門教育科目	ユニット外科	外国語検定(英語)Ⅱ(認定)	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 外国語検定試験の受験を促すことで、自主的な語学学習と語学力の修得を促進するとともに、将来的な学習者のキャリア形成に資することを目標とする。</p> <p>【授業の内容】 TOEIC700点ほか、規定の外国語検定試験のスコア獲得/合格をもって単位を認定する。英語を母国語とする学生は本科目の認定を申請することができない。</p>	
専門教育科目	ユニット外科	外国語検定(英語)Ⅲ(認定)	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 外国語検定試験の受験を促すことで、自主的な語学学習と語学力の修得を促進するとともに、将来的な学習者のキャリア形成に資することを目標とする。</p> <p>【授業の内容】 TOEIC800点ほか、規定の外国語検定試験のスコア獲得/合格をもって単位を認定する。英語を母国語とする学生は本科目の認定を申請することができない。</p>	
専門教育科目	ユニット外科	外国語検定(中国語)Ⅰ(認定)	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 外国語検定試験の受験を促すことで、自主的な語学学習と語学力の修得を促進するとともに、将来的な学習者のキャリア形成に資することを目標とする。</p> <p>【授業の内容】 中国語検定4級合格をもって単位を認定する。中国語検定4級は大学の第二外国語として1年程度学んだレベルとされ、合格基準は1,000語の語彙を習得した上で、簡単な中国語を使いこなせる程度である。なお、中国語を母国語とする学生は本科目の認定を申請することができない。</p>	
専門教育科目	ユニット外科	外国語検定(中国語)Ⅱ(認定)	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 外国語検定試験の受験を促すことで、自主的な語学学習と語学力の修得を促進するとともに、将来的な学習者のキャリア形成に資することを目標とする。</p> <p>【授業の内容】 中国語検定3級合格をもって単位を認定する。中国語検定3級は中級レベルの試験であり、大学の第二外国語として2年程度学んだレベルとされ、合格基準は1,000語の語彙を習得した上で簡単な中国語を使いこなせる程度である。なお、中国語を母国語とする学生は本科目の認定を申請することができない。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	ユニット外科目	外国語検定（中国語）Ⅲ（認定）	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 外国語検定試験の受験を促すことで、自主的な語学学習と語学力の修得を促進するとともに、将来的な学習者のキャリア形成に資することを目標とする。</p> <p>【授業の内容】 中国政府認定「漢語水平考試験」の4級・5級合格をもって単位を認定する。「漢語水平考試験」の4級・5級とも日常中国語の応用能力を判定するテストであり、4級では「幅広い範囲にわたる話題について、中国語でコミュニケーションをすることができ、中国語を母語とする者と流ちょうに話すことができる」ことが求められ、5級では「幅広い範囲にわたる話題について中国語でコミュニケーションをすることができ、中国語を母語とする者と流ちょうに話すことができる」ことが求められる。なお、中国語を母国語とする学生は本科目の認定を申請することができない。</p>	
専門教育科目	ユニット外科目	外国語検定（韓国語）Ⅰ（認定）	<p>外国語検定試験の受験を促すことで、自主的な語学学習と語学力の修得を促進するとともに、将来的な学習者のキャリア形成に資することを目標とする。本科目は、地域創成学部専門教育科目の一つとして位置づけられる。韓国語の教育評価の標準化と認定基準の公平性を図るため、外国語検定（韓国語）Ⅰにおいては、大韓民国政府（教育省）が実施する「韓国語能力試験」1・2級の合格をもって単位を認定する。韓国語を母国語とする学生は本科目の認定を申請することができない。</p>	
専門教育科目	ユニット外科目	外国語検定（韓国語）Ⅱ（認定）	<p>外国語検定試験の受験を促すことで、自主的な語学学習と語学力の修得を促進するとともに、将来的な学習者のキャリア形成に資することを目標とする。本科目は、地域創成学部専門教育科目の一つとして位置づけられる。韓国語の教育評価の標準化と認定基準の公平性を図るため、外国語検定（韓国語）Ⅱにおいては、大韓民国政府（教育省）が実施する「韓国語能力試験」3・4級の合格をもって単位認定を認める。韓国語を母国語とする学生は本科目の認定を申請することができない。</p>	
専門教育科目	ユニット外科目	外国語検定（韓国語）Ⅲ（認定）	<p>外国語検定試験の受験を促すことで、自主的な語学学習と語学力の修得を促進するとともに、将来的な学習者のキャリア形成に資することを目標とする。本科目は、地域創成学部専門教育科目の一つとして位置づけられる。韓国語の教育評価の標準化と認定基準の公平性を図るため、外国語検定（韓国語）Ⅲにおいては、大韓民国政府（教育省）が実施する「韓国語能力試験」5・6級の合格をもって単位を認定する。韓国語を母国語とする学生は本科目の認定を申請することができない。</p>	
専門教育科目	ユニット外科目	博物館経営論	<p>学芸員資格取得のための必修科目。博物館概論を履修していることを前提に、博物館学芸員として業務を遂行するうえで不可欠な博物館経営の理論と実務を修得する。</p> <p>博物館をとりまく社会情勢が大きく変化するなかで、博物館のめざす姿と現実との間にはギャップが生じがちである。そうしたなか、博物館の使命を明確にすることが経営の基盤として最重要の課題であることを理解し、それを実現していくための計画の策定、評価の方法などについて学修する。</p>	
専門教育科目	ユニット外科目	博物館資料論	<p>博物館資料の収集・整理・保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得する。まず博物館法に定める「博物館資料」の意義と種類を確認した上で、資料の種類と分類に関する方法学を学ぶ。次に、博物館資料の収集理念と方法、受入の手続きや登録の実務に関する知識、資料の分類・整理の方法に関する知識と技術を学ぶ。さらに博物館における調査研究活動の意義と内容について学び、調査研究活動の成果がその館の常設展示として表れることを理解する。</p>	
専門教育科目	ユニット外科目	博物館展示論	<p>博物館法施行規則に定める「博物館展示論」に対応する。対面授業、展示体験ではグループでの作業をおこなう。展示に関する歴史的変遷や展示による教育活動、展示の諸形態について理解し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養うことを目標とする。展示の基本理念と展示の歴史など基礎的な知識を身につけるとともに、展示の実際については、受講者による広島キャンパス図書館における企画展示を実施することで、具体的な展示の方法、解説活動について学ぶ。</p>	
専門教育科目	ユニット外科目	博物館資料保存論	<p>博物館法施行規則に定める「博物館資料論保存論」に対応する。対面授業。博物館法施行規則に定める「博物館資料論保存論」に対応する。博物館資料を保管、保存し後世に伝えるために必要不可欠な知識を学ぶとともに、資料活用に伴う保存と保管という視点から、理想的な博物館資料の保存環境あるいは保存方法について学ぶ。</p> <p>博物館における資料保存の理念を確認し、資料の保存・展示環境について科学的にとらえる。また資料を良好な状態で保存していくための知識を習得する。</p>	
専門教育科目	ユニット外科目	博物館教育論	<p>学芸員資格の取得に必要な必修科目である。博物館における教育活動の基盤となる理論と実践に関する知識と方法を修得し、博物館の教育機能に関する基礎的な能力を養う。全国各地の博物館・美術館等の実践例の検討を通して、博物館教育の意義と理念、博物館の利用と学び、博物館教育の実際に関する基礎的な知識を修得する。とくに広島県内の博物館・資料館・美術館における博物館教育の実践例に学ぶ特別授業も実施し、博物館と学校教育の連携や生涯学習の場としての博物館の役割を学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	ユニット外科目	博物館情報・メディア論	本科目は、地域文化創生コース（仮称）専門科目のユニット外に区分される科目である。 博物館法に規定される学芸員資格取得に必要な「博物館法に関する科目」のうちの「博物館情報・メディア論」に該当する。博物館における情報の意義と活用方法および情報発信の課題について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養うことを目標とする。 現代社会においてはコンピュータやネットワークが高度に発達し、それを支えるデジタル技術がモバイル端末などに象徴されるような身近なコミュニケーション・メディアとして活用されている。博物館においても研究、展示、教育を中心にメディアとしてのデジタル技術の利用が行われている。本講義では、文化、技術、経営等の視点から博物館における情報やメディア・コンテンツの活用について考察する。また、コンピュータを利用した演習を通して情報収集・蓄積・発信の基礎的な方法を身につける。	
専門教育科目	ユニット外科目	博物館実習	学芸員資格取得のための必修科目で学芸員養成課程の最終段階に位置づけられる。授業は学内実習・見学実習・館務実習という三種類の実習から成る。日本の学芸員は、資料の収集・保存、調査・研究、展示の企画・運営、学習支援活動の企画・運営など多様な業務に従事しているが、その基盤にあるのは博物館資料と対峙することである。したがって、実習においては、まず資料取扱の基本的な手順を身に付けるための訓練を繰り返す。さらに、近隣施設において実際の学芸員業務を経験することにより、施設ごとの特徴を活かすためのさまざまな方策を学修する。	共同
その他科目	教職関連科目	教育学概論	本授業は、施行規則に定める科目区分のうち、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に該当する科目である。教育の初学者を対象として、教育学の概要や教育の基本的な概念について講述する。教育の理念について理解すること、主要な人物の教育思想を理解すること、学校教育の成立過程について理解すること、現代の教育の動向に触れることが目標である。 大学入学以前に生徒として関わっていた学校教育について、その成立の過程を教育の通史や教育の思想から考える。それらの内容を踏まえ、教育の意義や目的、現代の教育に関する制度、教育実践、教育問題の解説と考察を行う。教育学の入門としての内容で構成する授業である。受講者がいままでも当然のように接してきた学校教育がどのように成立してきたのか、その一端に触れるとともに、学びは学校に通う時期のみならず、生涯にわたることを理解することを目的とする。	
その他科目	教職関連科目	教職入門	本授業は、施行規則に定める科目区分のうち、教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）に該当する科目である。教職課程の入門科目である。教職に関する基礎知識を身に付け、教職に就くためのプロセスを把握して進路選択を行い、教師としての意識付けを行う。教師の役割について考察すること、教師の職務内容や心がけるべきことにはどのようなものがあるか説明できることになること、自らの教師としての資質能力について省察すること、教師としての使命感を培うことを目標とする。 また近年、学校の担う役割が拡大・多様化している。担当教員単独で対応するのが難しいこともある。学校内外の教職員や専門家等と連携・分担する必要性について理解する。	
その他科目	教職関連科目	教育社会学	本授業は、施行規則に定める科目区分のうち、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校や地域との連携及び学校安全への対応を含む。）に該当する科目である。学校や子ども、教師を巡る近年の社会的状況を理解し、その変化が学校教育に与える影響を理解する。それに対応するための教育政策や学校の取組について、事例を通じて理解する。 近年、我が国では様々な教育改革が進められている。時に児童生徒の人命にも関わるといえるほどの様々な教育課題が山積する現代において、一人の教員のみで対応することには限界がある。従来、児童生徒の指導は担当教員や学校がすべて担うものとされてきたが、これからの教員には学校内外での連携・協働が求められている。教員として勤務し、地域と連携しながら生徒を指導する上で必要な教育法規や教育制度、学校経営、教員の服務に関する事項を学修する。	
その他科目	教職関連科目	教育心理学	この科目では、教員免許取得を希望する学生を対象にして、児童・生徒の発達や学習過程など教育活動に関わる心理学について、基本的な内容を学習する。将来、教育現場に立つときに必要となる教育心理学の基礎知識を身につけること、また、そのような知識をどのようにして教育活動に生かすことができるかを常に考える態度を身につけることを目標とする。本科目は、中・高等学校教諭及び栄養教諭の免許に係る教職に関する必修科目で、教育の基礎理論に関する科目の一つとして位置づけられている。生徒・進路指導論、教育相談等の他の教職に関する科目で扱う内容は扱わない。	
その他科目	教職関連科目	特別支援教育	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解に該当する科目である。到達目標としては、以下の7つが挙げられる。①インクルーシブ教育を含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。③様々な障害のある生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。④特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法を示すことができる。⑤通級による指導、自立活動の教育課程上の位置づけと内容が理解できる。⑥個別の指導計画及び個別の教育支援計画の必要性が理解できる。⑦母語や貧困、生育環境等により、教育や発達援助における特別なニーズのある幼児、児童、生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性が理解できる。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
その他科目	教職関連科目 教育課程論	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）に該当する科目である。教育課程の意義及び編成原理に関する理解を深め、中学校・高等学校におけるカリキュラム・マネジメントの具体的な実践の検討を通して、教育課程編成にかかわる内的要因と外的要因の関係をとらえるとともに、カリキュラムを評価することの意義や課題について理解することが目標である。到達目標としては、教育課程・カリキュラムの概念や類型について説明できること、これらの歴史の変遷について説明できること、これらを編成する上でのポイントが説明できることである。	
その他科目	教職関連科目 道徳教育論	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、道徳の理論及び指導法に該当する科目である。学校における道徳教育の目的と内容・方法について理解することが目標である。子どもの各発達段階の特徴に基づいて道徳の授業は類型化できることを理解し、発問の工夫、板書構成、道徳科の学習指導案作り、模擬授業の実践、道徳授業の評価などを行うことで、発達段階に応じた道徳教育の在り方について理解する。	
その他科目	教職関連科目 総合的な学習の時間の指導法	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、総合的な学習の時間の指導法に該当する科目である。総合的な学習の時間の歴史、目標、内容とその実践についての理解を深め、教師として総合的な学習の時間を指導する力を身につけることが目標である。総合的な学習の時間の目標や内容、その指導法について説明できるようになること、総合的な学習の時間の歴史や教育的意義について説明できるようになること、総合的な学習の時間を自ら計画し、実践の見通しを立てることができるようになることが到達目標である。	
その他科目	教職関連科目 特別活動論	本授業は、施行規則に定める科目区分のうち、特別活動の指導法に該当する科目である。特別活動は、学校内における児童生徒の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、集団や社会における生活や人間関係を形成する重要な役割を持っている。特別活動の目標や意義などの基本理念について理解すること、特別活動の具体的な内容や指導方法について理解すること、特別活動を学校での教育活動の中に位置づけ、地域住民や教職員と連携しながら、特別活動の企画・運営を行う基礎を養うことが目標である。 本授業では、まず、歴史の変遷を踏まえつつ、特別活動の意義、目標、内容を理解する。それとともに、具体的な特別活動の事例を用いながら、学生自身によってその運営と実施について検討し、報告・実践を行う。	
その他科目	教職関連科目 教育方法学	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）に該当する科目である。これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法を理解することが目標である。具体的には、①主体的・対話的で深い学びの実現に向けての教育方法の在り方が理解できる。②教育方法の知見を深めるために、学級・生徒・教員・教室・教材などを歴史的に、実践的に理解できる。③学習評価の基礎的な考え方が理解できる。④生徒理解、説明、発問、指示、語り掛け等の授業を行う上での基礎的な技術を身に付ける。⑤学習理論を踏まえて、学習指導案を作成することができる。⑥生徒の学習課題を明確にしたり、学習内容を深めたりすることができる情報機器を活用して、効果的に教材などを作成・提示することができる。⑦情報倫理などの情報活用能力を育成するための指導法を理解できる。	
その他科目	教職関連科目 生徒・進路指導論	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、生徒指導の理論及び方法、進路指導（キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。）の理論及び方法に該当する科目である。生徒指導の意義や原理、生徒指導の基礎となる生徒理解の方法とその留意点、学級を望ましい教育集団にする学級経営について必要な知識、課題を抱える子供たちへの対応、進路指導・キャリア教育の意義や原理、進路指導の在り方や考え方などについて解説し、教師として生徒指導、進路指導を進める上で必要な知識、スキルを獲得することが目標である。	
その他科目	教職関連科目 生徒指導論	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、生徒指導の理論及び方法に該当する科目である。多くの学生は、生徒指導は生活指導と同義と捉え、本来の生徒指導の意義や目的を理解していない現状がうかがえる。まずは生徒指導とは何を指す教育活動なのかを理解することが目的である。具体的には、生徒指導の意義や原理、生徒指導の基礎となる生徒理解の方法とその留意点、学級を望ましい教育集団にする学級経営について必要な知識、課題を抱える子供たちへの対応などについて解説し、教師として生徒指導を進める上で必要な知識、スキルを獲得することが目標である。	
その他科目	教職関連科目 教育相談	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法に該当する科目である。学校における教育相談の意義と理論、教育相談を進める上で必要となる心理学的な知識（カウンセリングの基礎的な姿勢や技法を含む）等について解説し、それらに必要な知識、スキルを獲得することが目標である。それとともに、教育相談の機能が期待される具体的な事象について提示し、習得した知識やスキルを使って、どのような対応が考えられるか検討することで、知識、スキルが活用できるようにする。	
その他科目	教職関連科目 教育実習指導	教育実習Ⅰ・Ⅱの事前および事後の指導を行う。事前指導では、教育実習の内容・方法、心構え、事前の準備などについて理解することを目標とする。事後指導では、教育実習の内容・体験の反省、総括、評価などを行う。この授業は、「その他科目」の「教職関連科目」に位置づけられる。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
その他科目	教職関連科目 教育実習Ⅰ	すでに教職関連科目で学校教育について理論面を中心に学んできたことを踏まえ、さらに実地での経験をもつために、学校での実習を行う。実習校では担当教員の指導のもとに、実習校の生徒や学習環境に応じて、学習指導、生徒理解、教師と生徒との人間関係など、指導の実際について体験し、学校実務に対する補助的な役割を担いながら、教師としての基本的資質を養い、学校経営、および、教育活動の特色を理解する。この授業は、「その他の科目」の「教職関連科目」に位置づけられる。	
その他科目	教職関連科目 教育実習Ⅱ	すでに教職関連科目で学校教育について理論面を中心に学んできたことを踏まえ、さらに実地での経験をもつために、学校での実習を行う。実習校では担当教員の指導のもとに、実習校の生徒や学習環境に応じて、学習指導、生徒理解、教師と生徒との人間関係など、指導の実際について体験し、学校実務に対する補助的な役割を担いながら、教師としての基本的資質を養い、学校経営、および、教育活動の特色を理解する。この授業は、「その他の科目」の「教職関連科目」に位置づけられる。	
その他科目	教職関連科目 教職実践演習(中・高)	本演習は、施行規則に定める科目区分のうち、教職実践演習に該当する科目である。教職課程の個々の科目の履修により習得した専門的な知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情をもって、学級を経営したり、教科を担当したりしながら、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できるように必要な資質・能力を獲得することが目標である。そのために、役割演技、事例研究、中学校・高等学校などでの授業参観、模擬授業などを実施する。また、教員勤務経験者による演習も実施する。	
その他科目	教職関連科目 介護等体験	義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、介護等体験特例法の規定に基づき、中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行う。これらの体験を通して、教職志望学生が自他の価値観の相違を認め、人の心の痛みがわかるようになることなどを目標とする。この授業は、「その他の科目」の「教職関連科目」に位置づけられる。	
その他科目	教職関連科目 国語科教育法Ⅰ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 本授業は、中学校・高等学校の国語科の授業を担当するための基礎的な知識、技能を習得するためのものである。国語科教育の目標や内容について理解し、具体的な授業を行うための方法について考察する。また、国語科授業の目標や内容、方法、評価について考察することを通して、自身の教育観や教科指導観、学習者観に気づいたり、再構成したりすることも目標とする。 【授業の内容】 講義を中心に、国語科の授業の目標や内容について、知識としての学習・理解を図る。また、国語科の授業作り、授業方法について、演習形式を用いて受講者全員で考え、受講者がそれぞれ自身の教育観や教科指導観、学習者観を意識し、他の受講者との交流の中で再構成していく。演習では、実際の教科書教材を用いて、国語科の授業について具体的に考察を行っていく。	
その他科目	教職関連科目 国語科教育法Ⅱ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 国語科教育法Ⅰに引き続き、中学校・高等学校の国語科の授業を担当するための実践的・専門的な知識、技能を習得する。国語科教育の目標や内容に基づいて授業を構想・実践することのできる力を身につける。また、具体的に授業を構想したり、模擬的に実践したりすることを通して、自身の教育観や教科指導観、学習者観を再構成することも目標とする。 【授業の内容】 国語科の目標と内容に基づいて具体的な授業を構想し、模擬的な実践を行う。中学校・高等学校の国語科の領域、科目において、それぞれの目標と内容がどのように授業として具体化されているのかを学び、考察する。実際の教科書教材を用いて具体的な授業の方法について考察し、複数の授業方法を身につける。また、授業を構想した後、その授業の目標と内容、評価方法などの観点から授業方法について再考し、構想した授業を見直す姿勢を身につける。	
その他科目	教職関連科目 国語科教育法Ⅲ	中・高等学校国語科教員免許取得のための選択科目である。したがって、中・高等学校国語科教員としての資質・能力を身に付けるため次の目標を目指している。 〔知識・技能〕国語科の指導についての基本的な知識と技能を身に付けることができる。〔思考・判断・表現〕国語科の指導内容・方法について理解を深め、学習指導要領の指導事項に応じた学習指導案を書くことができる。〔主体性・協働性〕国語科の指導内容・方法に関心をもち、より良い授業を考えようとしている。〔教職に必要な資質・能力〕コミュニケーションスキル、自己管理力、チームワーク・リーダーシップ力、倫理観、レジリエンス等。これらのことを教材研究、授業参観、学習指導案作成等の演習を通して学ぶ。	
その他科目	教職関連科目 国語科教育法Ⅳ	中・高等学校国語科教員免許取得のための選択科目であるしたがって、中・高等学校国語科教員としての資質・能力を身に付けるため次の目標を目指している。 〔知識・技能〕国語科の指導についての基本的な知識と技能を身に付けることができる。〔思考・判断・表現〕国語科の指導内容・方法について理解を深め、学習指導要領の指導事項に応じた学習指導案を書き、授業を行うことができる。〔主体性・協働性〕国語科の指導内容・方法に関心をもち、生徒の実態を考慮した授業を考えようとしている。〔教職に必要な資質・能力〕コミュニケーションスキル、自己管理力、チームワーク・リーダーシップ力、倫理観、レジリエンス等。これらのことを授業参観、学習指導案作成、模擬授業の体験等を通して学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域文化コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
その他科目 教職関連科目	英語科教育法Ⅰ	英語教育に関する知見を深めるとともに、実践力を高めることを主なねらいとする。特に、中学校及び高等学校学習指導要領（外国語科）に示された目標、内容等について十分理解するとともに、英語学習・指導に関する理論と、それを実践するための技能を身に付ける。授業では次のテーマを取り上げ、資料の講読と授業中のディスカッションを通じて、中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と実践のための基礎を身に付ける。 〔小学校の英語：外国語活動／小学校と中・高等学校の接続／音声・文字／語彙と辞書／文法とテキスト／創造的英語表現／発問の工夫／練習活動の組み立て／例文の選定／イマージョン教育／英語を学びつづける教師／学習指導要領／英語教育の歴史〕	
その他科目 教職関連科目	英語科教育法Ⅱ	英語教育実践の諸問題を歴史的・理論的背景を踏まえて考察し、英語指導力の基礎を養うことを目標とする。特に、中学校及び高等学校の学習指導要領（外国語科）と教科書の内容を十分に理解し、具体的な指導や評価などを行う授業実践力の基礎を身に付ける。授業では次のテーマを取り上げ、資料の講読、ディスカッション、授業観察、授業体験を通じて、中学校及び高等学校における外国語（英語）の授業実践力の基礎を身に付ける。 〔英語教育目的論／学習指導要領／教科書／外国語教授法の変遷／リスニング／リーディング／スピーキング／ライティング／外国語能力評価法／ICTの活用／英語教育実践史〕	
その他科目 教職関連科目	英語科教育法Ⅲ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 英語科教育法Ⅰ～Ⅱに引き続き、中学校・高等学校の英語科の授業を担当するための実践的・専門的な知識、技能を習得する。英語科教育の目標や内容に基づいて授業を構想・実践することのできる力を身に付ける。また、具体的に授業を構想したり、模擬的に実践したりすることを通して、自身の教育観や教科指導観、学習者観を再構成することも目標とする。 【授業の内容】 英語科の目標と内容に基づいて具体的な授業を構想し、模擬的な実践を行う。中学校・高等学校の英語科の領域、科目において、それぞれの目標と内容がどのように授業として具体化されているのかを学び、考察する。実際の教科書教材を用いて具体的な授業の方法について考察し、複数の授業方法を身に付ける。また、授業を構想した後、その授業の目標と内容、評価方法などの観点から授業方法について再考し、構想した授業を見直す姿勢を身に付ける。	
その他科目 教職関連科目	英語科教育法Ⅳ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 英語科教育法Ⅰ～Ⅲに引き続き、中学校・高等学校の英語科の授業を担当するための実践的・専門的な知識、技能を習得する。英語科教育の目標や内容に基づいて授業を構想・実践することのできる力を身に付ける。また、具体的に授業を構想したり、模擬的に実践したりすることを通して、自身の教育観や教科指導観、学習者観を再構成することも目標とする。 【授業の内容】 中学校・高等学校の英語教材を題材に、教材研究・指導案作成・授業・評価の一連のプロセスについて、学生の演習と討議およびそれに対するフィードバックを主体に進める。実際の教科書教材を用いて具体的な授業の方法について考察し、複数の授業方法を身に付ける。また、授業を構想した後、その授業の目標と内容、評価方法などの観点から授業方法について再考し、構想した授業を見直す姿勢を身に付ける。	
その他科目 教職関連科目	児童英語教育論	小学校新学習指導要領の下での英語教育（「外国語活動」および「外国語」）の背景、目的、意義について理解するとともに、第二言語習得理論等を踏まえながら、児童に英語を教えることの意義、及び児童英語教育に関する理論と実践を学ぶことを目的とする。世界の児童英語教育の現状、及び日本の児童英語教育の現状と課題、展望について把握し、中等英語教育との連携を見据えた初等英語教育のあり方を考える。児童を対象とした英語指導に必要となる子どもの認知・言語発達などの特徴や理論的概念を概観しながら、児童の発達段階に応じた英語指導法と評価方法を学ぶとともに、その実践を取り入れた授業を行う。 本科目は、地域文化創生コース専門・関連科目として位置づけられている。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科目 全学共通教育 科目	学びスキル・リテラシー 大学基礎セミナーⅠ	この授業は、大学における学修や研究を円滑に進めるために必要な基本的知識・技能や主体的な学修姿勢を身に付けることを目的とする。少人数グループで演習を行い、大学における授業・評価・評価・単位について理解するとともに、さまざまな学術的テーマや内容に関するリーディング、ライティング、ノートテキング、インターネットによる情報収集、図書館における文献検索、レポート作成、プレゼンテーション等を通じて、基本的な学修方法を身に付ける。	
科目 全学共通教育 科目	学びスキル・リテラシー 大学基礎セミナーⅡ	大学基礎セミナーⅠで身に付けたことがらを発展させ、情報を正確に読み取り、多角的に問い、自らの考えを適切に表現できる力とともに、多様な他者との協働して課題を解決する力を身に付ける。少人数グループによるPBL(Problem-Based Learning: 問題を基盤とした学修)を導入し、現実的で具体的な問題との出会い、解決すべき課題の発見、自己やグループでの行う知識の獲得、討論を通じた思考の深化、問題解決という過程を経た学びを実践する。	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー ICTリテラシーⅠ	本科目は、全学共通教育科目の学びスキル・リテラシーに区分される科目である。情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力 ・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力 ・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力 テキストとデジタル教材を併用し、以下にあげる内容の授業を行う。 ・インターネット等を使った情報検索 ・情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法 ・文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法 ・プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等	
全学共通教育教育科目	学びスキル・リテラシー ICTリテラシーⅡ	本科目は、全学共通教育科目の学びスキル・リテラシーに区分される科目である。情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力 ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力 テキストとデジタル教材を併用し、以下にあげる内容の授業を行う。 ・コンピュータを利用した数値分析の基礎 ・データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法 ・インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー 英語総合Ⅰ	英文で書かれた情報や考えなどを、多様な社会的・文化的・歴史的背景を踏まえて読み取る技能を高めるとともに、異なる文化に対する理解を深める。授業では、さまざまな分野の英文に触れることにより、語彙・語法・文法などに関する知識の積み上げを行うと同時に、文章の概要や要点を読み取る読解演習を行い、リーディングに必要な技能の向上を図る。また、読んだ内容について意見をまとめ、平易な英語を用いたグループ・ディスカッションを行うなど、書く・話す・聞く技能とも関連付け、読みの深化を図る活動を行う。	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー 英語総合Ⅱ	異文化や社会問題等について書かれたさまざまな英文を、語彙・文法・背景知識や、リーディングに必要な技能等、英語総合Ⅰで学んだことがらを駆使して読み、書き手の意図を正確に捉えることのできる力を養う。授業では、多読や速読を通じて、文章の構成やキーワードを意識して内容を把握する技能を高め、その定着を図る。さらに読んだ内容に対する意見をパラグラフの構成法に従ってまとめ、英語を用いたグループ・ディスカッションやプレゼンテーションを行い、読みの深化から書く・話す・聞く技能につながる活動を行う。	
科目 全学共通教育 科目	学びスキル・リテラシー 英語総合Ⅲ	英語総合Ⅰ・Ⅱで学んだ英文を正確に読み取る知識・技能をさらに高めることに加え、批判的な読みのできる思考力・判断力と、意見を述べる表現力を養う。授業では、書かれた内容を分析して課題を把握し、問いを立て、多様な解の可能性を踏まえながら英文の理解を深める。このような批判的な読みを通じて自らの意見を組み立て、複数のパラグラフからなる英文で書くとともに、グループ・ディスカッションやプレゼンテーションの場で的確に英語で相手に伝える活動を行う。	
科目 全学共通教育 科目	学びスキル・リテラシー 英語総合Ⅳ	英語総合Ⅰ～Ⅲで学んだことがらを踏まえ、学術的な英文を正確に読んで理解し、自らの意見を的確に表現できる力を養う。授業では、人文・社会・自然科学等の専門分野で用いられる用語や表現に対する理解を深め、内容の正確な把握と、批判的な読みを実践する。さらに読んだ英文の概要や、その内容に関する意見を英文でまとめ、プレゼンテーションを通じて発言の論理性を高める。また、複数のパラグラフを組み合わせたエッセイとしてまとめる活動を行う。	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー 英語表現Ⅰ	さまざまな日常生活や社会的な場面を想定し、定型的・慣用的な表現が自由に使えるよう、スピーキング及びリスニング能力の基礎的なコミュニケーション能力の養成を目的とする。自然な速度で話される英語を聞き取りその内容を理解する力を伸ばすため、多様な素材を用いた十分なリスニング演習を行うとともに、基本的な英語を用いて自発的に表現できる能力の習得を目指す。この科目では、対話において、的確な内容理解に基づく受け答えをし、自らも問いを発するなど会話を発展させる演習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	英語表現Ⅱ	英語表現Ⅰで獲得した技能の発展を目指し、日常生活や社会的な場面における実用レベルのリスニング、スピーキング能力の養成を目的とする。自然な速度で話される英語を聞き取りその内容を理解することに加え、日常的、社会的な話題について、基本的な英語を用いて自発的に表現できる能力の習得を目指す。この科目では、対話において、十分な内容を伴う受け答えをし、グループ・ディスカッションやプレゼンテーションなどにおいて、適切かつ十分な自己表現ができることを目指した演習を行う。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	英語表現Ⅲ	ライティングによる発信を行うための、基礎的な文章作成能力を身につけることを目的とする。基本的な語彙や文法、文型、表現等を再認識しながら、幅広い分野における文章構成のルールを確認するとともに、メールの返事や簡単なビジネスレター、電話に対応した内容のメモ、ポストカードや手紙など、さまざまな英文を書く練習を行ない、発進力の向上を目指す。単に「書く」活動にとどまらず、考えをまとめたり、語彙を拡充したりするために「聞く」「話す」「読む」活動を取り入れ、総合的な英語表現能力を養う演習を行う。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	英語表現Ⅳ	英語表現Ⅲで獲得した技能の発展を目指し、実用レベルの文章作成能力を身につけることを目的とする。情報や意見を明確に伝えるため、パラグラフ・レベルにおける論理的な文章作成法や、複数のパラグラフからなるエッセイの技法を学ぶ。さらに学術的な分野における文章構成のルールを確認し、英文による研究成果発表の素地を養う。伝えるべき情報や意見をまとめたり、的確に伝える表現方法を学んだりするために「聞く」「話す」「読む」活動も取り入れ、総合的な英語表現能力を養う演習を行う。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	中国語Ⅰ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 中国語の基本的な文法を学び、初歩的な読解力を養成するとともに、簡単な会話ができる能力を養成する。 【授業の内容】 発音の練習、単語の音・意味・漢字表記とを結びつけた練習をするとともに、簡単な会話文を用いて、基本的な語彙・語法の習得を目指す。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	中国語Ⅱ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 中国語の基本的な文法を学び、初歩的な読解力を養成するとともに、簡単な会話ができる能力を養成する。 【授業の内容】 発音の練習、単語の音・意味・漢字表記とを結びつけた練習をするとともに、簡単な会話文を用いて基本的な語彙・語法、及び文法面での基礎の習得を目指す。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	韓国語Ⅰ	はじめに韓国語を学ぶ学生を対象として、基礎文法の習得に重点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」ための基礎力を養うことを目標とする。本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられる。本授業では「ハングル能力検定試験」の5級に含まれる語彙や表現の一部を使い、基礎文法を学修すると同時に、韓国文化関連CMや歌、視聴覚教材を取り入れ、聞き取りの練習や簡単な会話文の音読や書く練習を行ない、聞く・読む・話す・書くための基礎力を養い、韓国語運用能力を高めていく。合わせて、言語を通して、韓国社会や韓国文化に対する理解を深めていく。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰで学んだ語彙や文法表現などを踏まえながら、初級レベルの韓国語の基礎的な語彙や文型、文法の知識を固めると同時に「ハングル能力検定試験」の5級のレベルに至る韓国語運用能力を身に付けることを目標とする。本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられる。授業では、教科書だけではなく、日常生活における様々なテーマを取り上げ書く練習や話す練習を行い、より実践的な韓国語を駆使できるように学修する。また、韓国文化関連DVDや視聴覚教材を取り入れ、韓国の社会文化についての理解を図る。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	ドイツ語Ⅰ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】：ドイツ語の単語や簡単な文を発音できる。冠詞や名詞などについて「性・数・格」を判断できる。現在形で書かれた簡単な文を和訳できる。本科目は、「全学共通教育科目」の「学びスキル・リテラシー」の一つである。【授業の内容】：ドイツ語のアルファベットを覚え、文字や単語の発音、動詞の人称変化、名詞の格変化、人称代名詞、前置詞、名詞の複数形、所有冠詞、形容詞、簡単な挨拶表現などを学ぶ。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	ドイツ語Ⅱ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】：ドイツ語の文章を発音できる。辞書を使ってドイツ語の文章を和訳できる。簡単な独作文ができる。本科目は、「全学共通教育科目」の「学びスキル・リテラシー」の一つである。【授業の内容】：数字、命令文、再帰動詞、複合動詞（分離動詞・非分離動詞）、語法の助動詞、動詞の三基本形、現在完了形、受動文、関係文、接続法、比較表現、zu不定詞句、よく使われる簡単な日常会話表現などを学ぶ。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	アカデミック日本語Ⅰ	この科目は全学共通科目における学びスキル・リテラシー科目の一つとして、履修者が各学部における専門科目を学修するにあたって必要となるアカデミック日本語の基礎を学ぶ。主な内容は、大学での学修活動に必要な語彙や表現を身に付けるとともに、大学での学修活動に必要な場面（レポートを書く、プレゼンテーションをする、指導教員に向けてメールを書く等）での表現力を高める。さらに、プレゼンテーションでは、自らの発表を分かりやすく伝える方法を身に付けるだけではなく、他者の発表を理解し、その場で公的に質問を行えるように演習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー アカデミック日本語Ⅱ	この科目は全学共通科目における学びスキル・リテラシー科目の一つとして、「アカデミック日本語Ⅰ」で培った言語力を土台にし、履修者が各学部における専門科目を学修するにあたって必要となるアカデミック日本語の基礎を学ぶ。主な内容は、大学での学修活動に必要な語彙や表現を身に付けるとともに、大学での学修活動に必要な場面（レポートを書く、プレゼンテーションをする、指導教員に向けてメールを書く等）での表現力をさらに高める。特に、レポート、スライドの作成において必要となる日本語を、話し言葉と区別し、場面に適切な表現を用いることができることを重視する。	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー スポーツ実技Ⅰ	この科目では、生涯にわたって運動・スポーツに携わる上で必要となる基本的知識、技能、態度を身につけることを目標とする。 この科目は、大学で学ぶ基礎・基盤として、全学共通教育科目「学びスキル・リテラシー」に区分されている。 授業の内容として、他者とコミュニケーションを取りながら主体的に運動・スポーツを実践するとともに、バレーボール、フットサル、バドミントンといった様々なスポーツ種目の特性や技術・戦術を修得する。授業は、他者と協働しながら、6名ほどのグループ毎に技能習得の目標と練習メニューの考案、実践および評価を行い、これにより主体的に運動・スポーツに携わる態度を身につける。	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー スポーツ実技Ⅱ	この科目では、自ら運動プログラムを作成・実践し、生涯スポーツ・健康づくりに必要となる知識・技能を習得することを目標とする。 この科目は、大学で学ぶ基礎・基盤として、全学共通教育科目「学びスキル・リテラシー」に区分されている。 授業内容として、体力評価テストによって自身の体力の現状を知り、目標ならびに運動プログラム（有酸素性運動および筋力トレーニング）を作成・実践し、その効果を自身で把握する。健康づくりに必要な運動トレーニングとは何かを学んだ後、ウォーキングやジョギング、スポーツ種目を行った際の運動強度について心拍数を用いて評価する。さらに、半期に渡る運動の継続が、自身の体力にどのような影響を及ぼすのか実践を通して理解する。	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー 保健体育理論	この科目では、運動・スポーツと健康との関係について理解し、生涯に渡って運動・スポーツを実施するために必要となる基本的な知識や技能を修得することを目標とする。 この科目は、大学で学ぶ基礎・基盤として、全学共通教育科目「学びスキル・リテラシー」に区分されている。 授業前半は、「健康と運動」について、日本人の健康状態や運動・スポーツと健康との関わり、さらに運動・スポーツの継続に必要な環境や取り組みについて理解する。授業後半は、「運動時の身体のしくみ」について、運動による身体の変化や適応、さらにそれら身体的変化と健康との関わりを理解する。加えて、「運動・トレーニングの実際」について、実習を交えながら、運動を実施する上で必要となる基本的な技能（適切なウォーミングアップ、ストレッチ、クールダウンの方法および目的に応じた運動トレーニングの種類や方法の選択）を身につける。	
全学共通教育科目	学際知 哲学	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】：哲学の特質と基本問題を理解し、その要点を記述できる。さまざまな哲学的問題について、つねに複数の視点を保ちながら多角的に検討することができる。個々の哲学的問題の解決方法について、分析的・論理的に自分なりの考えを文章にすることができる。本科目は、「全学共通教育科目」の「学際知」の一つである。【授業の内容】：「philosophia」「科学」「因果」「心」「身体」「他者」「自由」「正しさ」「功利主義」「定言命法」「知覚」「知識」といったトピックについて、テキストを読み、議論構成の把握に努めながら、哲学的な考え方を学ぶ。	
全学共通教育科目	学際知 文学	本科目は、全学共通科目のうち学際知に区分されている。本科目は、まず、履修学生が文学作品を鑑賞することを楽しむこと、そして、文学に関する基本的な概念、基礎的内容を理解することを目標とする。 現代日本の社会状況に深く根ざし、時代の推移と社会の変貌につれ、その時々々の課題に取り組んできた、時代を捉える指標になるとと思われる作品をテキストとし、現在の我々を考える上で必須の、ジェンダー、仕事と家庭、グローバル化などの問題がどのように表象されているかを読み取っていく。そして、それらの表象がその時々々の読者にどのように理解されてきたのかを考察する。それを通じて、自らがどのような時代的変化を内包した現在の状況の中で生きているのかを理解し、その中の生き方を確立していくための問題提起と手がかりとする。	
全学共通教育科目	学際知 芸術	本授業は、映画を中心に、現代の視覚芸術を取り巻く新しい状況に関する知識と方法論を修得するとともに、映像学の基本発想を学び、現代社会において視覚芸術と共存していくための素養を身に付けることを目標としている。 かつては、映画は映画館でしか見ることができなかったが、現在ではスマートフォンなどを通じて、好きな映画をいつでも見ることができる。また、撮影・編集機材の普及によって、映画の制作も身近になった。そうした背景から、本授業では次の内容で構成する。第1段階は映画史の理解である。初期映画から現代の映画に至るまでの流れを概観する。第2段階は映画理論の理解である。映画のフォーマットや映画表現の構成要素などについて説明を加え、理解を深める。第3段階ではいくつかの作品の研究を通じて映画の見方を解説する。また、スマートフォンの動画撮影機能を用いた超短編映画の能動的な制作演習を実施する。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	心理学	私たちは自分の心の働きについて、ある程度までは自分で知ることが可能である。このような経験に基づいた心理学的知識を「素朴心理学」の知識という。問題なのは、この「素朴心理学」の知識と「学問としての心理学」の知識にしばしば大きな隔りがあることである。本科目では、「学問としての心理学」の一般的な内容について学ぶ。そして、素朴心理学に基づいた、心理学に対する誤解を解き、学問としての心理学を生活の中で役に立つような知識として身につけることを目標とする。この科目は、心理学についてこれまで学習していない学生を対象としており、「全学共通教育科目」の「学祭知」に位置づけられる。	
全学共通教育科目	社会学	【授業の目標】①社会学における基本的な概念や考え方を習得する。②「私」、友人関係、家族などの身近な関係性や出来事について、社会的に考える力を身につける。【カリキュラム上の位置づけ】この授業は、「全学共通教育科目」の「学際知」に位置づけられる。【授業の内容】①友人関係や家族などの社会関係について講義していく。②統計的差別の問題などの社会問題について、具体的な事例を提示しながら、講義を進めていく。	
全学共通教育科目	歴史学	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】この科目は全学共通教育科目の学際知に位置づけられており、歴史を動かしてきた科学・技術に焦点を当て、それらに突き動かされる歴史のダイナミズムを検討する。本科目の目標は、まず歴史学の考え方に基いて歴史の中での科学・技術の役割を分析する思考力を身につけること、その上で科学・技術が人類の歴史と分かち難く結びついてきた有り様を理解することである。 【授業の内容】人類の歴史を動かしてきた科学や技術について、「時空を把握する」「生命を手懐ける」「認識を共有する」という3つのテーマから検討を加える。これらのテーマはいずれも近代以降の「国民国家」形成につながるものであることを確認するために、取り扱う時代としては、16～19世紀のいわゆる「近世」に重点を置くものとする。また、ヨーロッパで発展した現代科学を相対化する立場から、対象地域は基本的にアジアとする。	
全学共通教育科目	倫理学	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】：倫理学の基本問題（とりわけ生命倫理や環境倫理の諸問題）を理解し、その要点を記述できる。さまざまな倫理的問題について、つねに複数の視点を保ちながら多角的に検討することができる。個々の倫理的問題の解決方法について、分析的・論理的に自分なりの考えを文章にすることができる。本科目は、「全学共通教育科目」の「学際知」の一つである。【授業の内容】：「文化対主義」「徳」「快楽」「幸福」「善悪」「正不正」「帰結主義」「義務論」「生殖補助医療」「エンハンスメント」「動物の権利」「安楽死」「環境汚染」といったトピックについて、テキストを読み、議論構成の把握に努めながら、倫理的問題を考える。	
全学共通教育科目	経済学	経済学概念を利用し、経済学的思考ができることを目指す。経済、経営、社会の仕組みに関する基本的知識を学ぶとともに、社会人としての教養を醸成する科目でもある。本講義では、経済学の基本的な概念（希少性、機会費用、サンクコストなど）について、身近な事例を取り上げながら、わかりやすく説明する。座学を中心とした静的授業だけでなく、動的授業を取り入れながら、経済学的思考を実践する。	
全学共通教育科目	科学史	今日の科学の諸領域は、過去に遡ると生きるための技術の開発を出発点とし、科学・技術と人間の生活は密接に関わりながら発展してきた。例えば人類にとって最古の産業といえる農業は、その歴史の中で、より多くの食料を生産するための技術の発達が求められた。近現代において科学と技術が大きく進歩し、農業の生産性向上によってより多くの人口を養うことが可能となった。それと同時に、農業以外の産業と文化の発展、社会の変化をみることになる。この講義では、産業革命期（17世紀後半）以降の科学と技術が産業をどのように変化させ、それが私たちの生活に影響を及ぼしたかを理解する。	
全学共通教育科目	生命倫理	現代の保健医療福祉の分野における倫理的問題を理解するための知識を習得し、自立的に倫理的問題を分析し、とり得る行動の選択肢を考える機会を提供する。専門的実践の場で遭遇する倫理的問題を敏感に感じ取り、よりよい行動を志向する態度を育成する。生殖操作、遺伝子治療、臓器移植、終末期医療などの今日生命倫理の問題について論じる。倫理的問題を理解するための倫理原理や理論について教授し、比較的身近な事例を通して倫理的思考を経験する。自らの価値観と他者の価値観に気づき、ディスカッションを通して自らの認識の深まりを経験する。	
全学共通教育科目	基礎数学	この科目は全学共通科目における学際知科目の一つとして、履修者が各学部における専門科目を学修するにあたって必要となる線形代数の基礎を学ぶ。主な内容は、ベクトル・行列を定義し、基本的な数学的性質を確認し、基本演算、行列の階数、行列の基本変形、連立1次方程式の解法、行列式、対角化の習得である。本講義を通じて、履修者がこれまで学修したスカラー演算と同様にベクトル・行列演算を身につけることを目標とする。随時、演習や小テストを行い、履修者の理解を深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通 教育 科目	学際 知	統計入門	この科目は全学共通科目における学際知科目の一つとして、履修者が各学部における専門科目を学修するにあたって必要となる統計的な考え方の基礎を学ぶ。主な内容は、数値や記号の羅列に過ぎないデータから有用な情報を取り出し要約すること、他者に分かりやすく説明することを目的とした「記述統計学」、一部の調査から調査対象全体の特徴を予想することを目的とした「推測統計学」である。本講義を通じて、データから得られた情報を客観的根拠とした意志決定プロセスの基本的な考え方を理解することを目標とする。随時、演習や小テストを行い、履修者の理解を深めていく。
全学 共通 教育 科目	学際 知	家族社会学	家族はどのように変化し、それらの変化はどのような要因から生み出されているのだろうか。この授業では、まず、歴史社会的な視点にたつて、家族をめぐる概念の変遷について学ぶ。そして、質的研究の知見を紹介しながら、私たちが当たり前と思っている「家族」像が歴史的社会的に形成されてきたことへの理解を促す。さらに、家族と家族を取り囲む社会や制度のありかたについて、量的なデータを用いたり、外国(他の社会)との比較を行ったりすることで、家族を比較社会的に捉える方法を学ぶ。以上を通じて、家族問題について多角的な視点から理解する力を身に付けることが授業の目的である。
全学 共通 教育 科目	学際 知	文化人類学	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】</p> <p>文化は人間が物事を認識し、行動する基準の体系であるが、文化は時に「常識」という形でマイノリティを抑圧する道具になることもある。その点について世界の生活習慣の多様性から学生が理解し、より良い社会の構築に寄与する思考を身につけることを目標とする。具体的には、①日本とは異なる文化のありようを知る、②異文化の習慣の背景を理解する、③異文化理解の基本的ありかたを深める、④私たちの常識が持つ問題点をマイノリティの観点から指摘できるようにする。</p> <p>【授業の内容】</p> <p>文化とは何か、文化を調べる手法としてのフィールドワークという文化人類学の基本的知識を説明し、セクシャリティ、ジェンダー、多様な婚姻と家族、現代社会の民族について解説する。これらの授業内容を通じて、学生は自文化中心主義の問題点を理解し、文化相対主義的思考を身につける。</p>
全学 共通 教育 科目	学際 知	日本国憲法	<p>【目標】</p> <p>知識・技能の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的人権の内容を説明できる。 2 権力分立の意義と統治構造を説明できる。 <p>思考・判断・表現の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代の社会問題を憲法と関連づけて考察することができる。 2 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。 <p>主体性・協働性の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。 2 他者と協働して課題に取り組むことができる。 <p>【内容】</p> <p>この授業では、憲法の核である人権保障と統治機構の概要を習得し、現代社会が直面している憲法問題を考察する法的思考能力の一端を養うことを目指す。授業のおおまかな内容は、憲法を支える立憲主義の思想の歴史的展開を概観し、次いで日本国憲法が規定する基本的人権の具体的内容と統治機構について解説する。</p>
全学 共通 教育 科目	学際 知	法学	<p>【目標】</p> <p>知識・技能の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法とは何か、現代社会における法や裁判の役割を説明できる。 2 刑法や民法の基本的な考え方を説明できる。 <p>思考・判断・表現の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代の社会問題を法と関連づけて考察することができる。 2 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。 <p>主体性・協働性の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。 2 他者と協働して課題に取り組むことができる。 <p>【内容】</p> <p>この授業では、まず、法とは何か、法の役割や用い方を明らかにする。これらは法を学ぶ上での基本的な知識である。次いで民法や刑法など、市民生活と特に密接に結びついた法の概要について解説する。具体的には、①犯罪と刑罰に関するルール、②家族生活に関するルールなどを取り上げる。</p>
全学 共通 教育 科目	学際 知	食と健康	本科目は、高校までで学んだ化学の知識をより掘り下げて、「食」に関する講義を「健康」と関連づけて展開し、大学における研究活動に必要な化学的知識を理解できるように、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実を目的とし、初年次学生を想定して、模擬実験や測定機器を直接表示等、対面授業で理解を深める。身の回りにあふれる健康を志向した風潮と食と化学を結びつけた事例を紹介しながら、化学への興味・関心を高め、化学の役割を理解し、化学的思考ができるようになることを目指す。

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	学際知 いのちと科学	<p>バイオテクノロジーは、日進月歩で急速に進展し、ともすれば社会の受け入れが追いつかないという状況にある。現代人は、バイオテクノロジーの恩恵を受け、かつ、一方でそのリスクと隣り合わせでもある。現代に生きる我々にとり避けては通れないほどその技術が浸透している。これら技術が関わる生命現象の基本について学び、これら技術が関わる領域、すなわち、食と健康、生活習慣病、がん、感染症や、さらに、地球環境問題について幅広く理解し、「いのち」にどのように科学が関わっているかを考えることを目標としている。カリキュラム上では、全学生に必要とされる教養科目として、また理系学生の基礎科目として位置付けられる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (63 入船 浩平 2／15回) バイオテクノロジーの基本技術について概説し、ヒトの社会生活の営みとの関わりから始まって、近代・現代の先端的話題まで講義する。</p> <p>(64 五味 正志 3／15回) 地球環境問題に関して、生物と環境との関係から講義する。</p> <p>(76 長尾 則男 3／15回) 特に、動物やヒトにおけるバイオテクノロジーについて講義する。</p> <p>(55 岡田 玄也 2／15回) 食と健康、加齢や老化について講義する。</p> <p>(27 北台 靖彦 3／15回) 病（生活習慣病、炎症やがん）と健康について講義する</p> <p>(83 加藤 洋司 2／15回) 細胞のメカニズムや遺伝現象などに焦点をあて分子メカニズムの観点から講義する。</p>	オムニバス方式
全学共通教育科目	学際知 環境と科学	<p>今後の持続可能な社会に貢献する理系学生が、知っておくべき下記の環境科学の内容について説明できることを本講義の目的とする。 大気環境（地球環境とのかかわり・汚染の循環・大気汚染問題・汚染物質除去技術） 水環境（地球環境とのかかわり汚染の循環・水質汚濁問題・汚染物質除去技術） 土壌環境（土壌汚染の実態・調査と対策） 環境中の化学物質（生物に及ぼす影響・毒性化学物質） 廃棄と循環（処理・循環型社会）</p>	
全学共通教育科目	学際知 生活に役立つ力学	<p>物理学は自然科学の基礎であり、私たちの生活の様々な場面で役立っている。本授業では、物理学の中で基礎となる力学について、身近な事例を通して深く理解することを目的とする。ニュートン力学、流体力学、熱力学、電磁気力をもとに、人間の体の動きについて、大気圧や水圧について、川や地盤内の水の流れについて、冷房・暖房の仕組み、発電について等を、関連分野の知識とともに理解する。本授業によって、複雑な事象であっても、要因を分けて理解する柔軟な思考力が身に付く。</p>	
全学共通教育科目	学際知 地域社会と言語	<p>【授業の目標】①フィールドワークの経験を通して、積極的に現場に出て、自ら情報を収集しようとする態度を身に付ける。②フィールドワークによって得られた言語データを、整理し、分析し、効果的な方法で提示（プレゼンテーション）できるようになる。【カリキュラム上の位置づけ】この科目は、言語学についてこれまで学習していない学生を対象としており、「全学共通教育科目」の「学際知」に位置づけられる。【授業の内容】街の言語景観についての調査に基づき、多文化共生社会において求められる言語標識や公共サイン、石碑・記念碑等について考察し、発表する。</p>	
全学共通教育科目	論理思考表現 アカデミック・ライティング	<p>学修や研究の成果を発表するために作成するレポートやレジュメ、卒業論文や研究学術論文などの学術的な文書を書く技術や行為、または書いた物のことをアカデミック・ライティングと呼ぶ。この授業では、その基本的な技法、いわゆる「論文作法」の基礎を学ぶことを目的とする。情報を整理してまとめ、論理的に主張を展開するための手順や方法とともに、参照した文献を正しく引用し、他者の意見と自らの意見とを明確に区別して述べる方法などを学ぶ。</p>	
全学共通教育科目	論理思考表現 クリティカル・シンキング	<p>クリティカル・シンキング（批判的思考）とは、情報を収集して理解したり、自身の主張を構成して発表したりする際、根拠にもとづいて論理的・合理的に思考し、適切な結論や判断を導く思考過程を指す。この授業では、大学での学問はもちろん、あらゆる生活の場面で重要とされる批判的思考力の向上を目指す。自ら入手したり他者から与えられたりした情報を鵜呑みにするのではなく、さまざまな問いを発しながらその情報を批判的に吟味し、情報を取捨選択して自らの言動を決定するにいたる思考法を身に付ける演習を行う。</p>	
全学共通教育科目	論理思考表現 プレゼンテーション演習	<p>プレゼンテーションに求められる論理的な思考や伝達技術の基礎を学び、設定したテーマのプレゼンテーションを実際に組み立て、実演し、表現力の向上を目指す。授業では、プレゼンテーションの構成法やスライドを作成するソフトウェアの操作法、効果的な発表を実現する技法（発声法やアイコンタクト等を含む）について理解を深めるとともに、各自の設定したテーマに関するプレゼンテーションを学生相互で吟味しあう演習を行い、実践力を身に付ける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目 地域課題	ひろしま理解	全学共通教育科目の地域課題に位置づける科目である。地域への理解を深めるための導入に位置する科目として、最も身近な地域である広島県域を理解するための、初歩的・基礎的事項を学修する。 具体的には、この地域の歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、解決に取り組むための基礎的知識の修得をめざす。必要に応じ、現地見学などのフィールドワークを実施する。	
全学共通教育科目 地域課題	国際社会の理解	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 現在、地域社会で働く外国人、地域での外国人観光客の受入、地域産品の国外展開など、ローカルのグローバル化は地域の重要な課題である。これらの地域での課題を発見し、理解し、対応するため、国際社会に関する基礎的知識を学生が身につけることを目標とする。具体的には①地域社会にみる国際化の現状を理解する、②地域社会の多文化共生の実状と課題を把握する、③主要な関係国の基礎的状況を知る、④地域社会の諸課題を解決する方策を他国から学ぶ視点を持つことができるようにする。 【授業の内容】 人口減など日本の構造的変化、過疎化と高齢化する地域社会などの地域社会の国際化の背景を説明し、学生が観光、労働、ビジネスの現場における外国人の地域社会への貢献と摩擦を見出すようにする。そのため地域社会と関係が深い諸外国の基礎的情報を学生自身で集めさせ、学生の地域の国際化への関心を高める。	
全学共通教育科目 地域課題	地域情報発信論	本講義では、地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び、地域に密着した課題について取材、記事の編集、発信に至る一連の流れを体験することを通じて、地域情報の発信力を身につけることを目的とする。具体的には、新聞で報じられた地域の情報を素材として、新聞の読み方、取材対象の見方、記事作成の手法を学ぶとともに、新聞情報の分析を通じて地域の諸課題を掘り下げていく。その上で、課題を設定し、現地へ向かって取材し、意見交換を経て記事をまとめるなど、地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに、グループで課題解決への提案をまとめ、ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。	
全学共通教育科目 地域課題	地域教養ゼミナールA	広島県内の特定地域に絞ったテーマを設定し、小集団形式で調査や討議、発表を行うことを通じて、各地域固有の課題を発見し解決へ向けて踏み出す力を養う。授業では様々な文献やメディアから情報を集め、テキストを批判的に読み、対話を通じて理解を深める。テーマに関する実地見学や体験を行い、自らの考えを深めて発信する。想定されるテーマとしては、具体的な地域の特性を活かした観光や産業振興、特産品の開発のほか、特色ある歴史や言語、環境や生態系などが考えられる。地域に密着したテーマを掘り下げて学ぶことにより、課題発見、解決、発信能力を身に付ける。	
全学共通教育科目 地域課題	地域教養ゼミナールB	広島県全域にわたるテーマを設定し、小集団形式で調査や討議、発表を行うことを通じて、広島県の課題を発見して解決へ向けて踏み出す力を養う。授業では様々な文献やメディアから情報を集め、テキストを批判的に読み、対話を通じて理解を深める。テーマに関する実地見学や体験を行い、自らの考えを深めて発信する。想定されるテーマとしては、広く県内全域にわたる防災、医療、福祉、教育、行政などが考えられる。テーマに応じて各界との連携をはかり、多様な学びを实践する。	
全学共通教育科目 キャリア開発	キャリアビジョン (デベロップメント)	本科目の目標は、社会や職場で必要となる基礎的・汎用的能力の重要性について認識し、必要なスキルや有用な手法について理解したうえで、能力を高める方法を知ることである。基礎的・汎用的能力には、コミュニケーション力を含む対人関係のスキル、課題発見・問題解決力、ストレスへの対処などの能力が含まれる。この科目では、まず、社会や職場で求められる基礎的・汎用的能力とその重要性について説明し、有用なスキルや手法について具体的に示し、理解を深めるための演習を実施する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	キャリア開発	<p>【目標】 知識・技能の観点 1 リプロダクティブヘルス、金融、労働法の基本的内容を理解している。 2 リプロダクティブヘルス、金融、労働法の知識を実生活に応用できる。 思考・判断・表現の観点 1 実生活で直面する課題を、多面的かつ論理的に考察することができる。 2 他者の声に真摯に耳を傾けつつ、集団の中で多様な自己表現ができる。 主体性・協働性の観点 1 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。 2 他者と協働して積極的に課題に取り組むことができる。</p> <p>【内容】 本科目は、将来のライフデザインを描く上で重要となる①リプロダクティブヘルス、②金融、③労働法について学ぶ。グループディスカッションやプレゼンテーションなど協働参加型の学修を積極的に活用する。 オムニバス科目</p> <p>(67 日高陵好 5 / 15回) 「リプロダクティブヘルス」</p> <p>(17 村上恵子 5 / 15回) 「資産運用論」</p> <p>(71 岡田高嘉 5 / 15回) 「労働法」</p>	オムニバス方式
全学共通教育科目	キャリア開発	<p>ボランティア</p> <p>社会や人に関心のある社会人としての感性を磨き、将来積極的に社会貢献に参加し続けることができることを授業の目的としている。また、社会福祉分野でボランティア活動を行い社会福祉の課題を実践的に学ぶことで、社会福祉の対象者を理解し、福祉マインドを備えた社会人となることも目的としている。授業の内容は、(1) ボランティア活動とボランティアとして関わる社会福祉の対象者に関する基礎的な内容の理解を担当教員の講義・演習とボランティア活動の実践者による講義、(2) 受講生のボランティア活動の実習、(3) 担当教員による演習でのボランティア活動の振り返り、が主な内容である。</p>	
全学共通教育科目	キャリア開発	<p>インターンシップ</p> <p>本科目の目標は、多様な職場や職業に対する関心を持ち、就業体験を通して自身の志や将来の進路・職業選択について深く考えることである。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、プレゼンテーション講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成することにより、あらためて就業体験の振り返りを行う。</p>	
全学共通教育科目	キャリア開発	<p>リーダー論</p> <p>本科目の目標は、社会や職場で必要となるリーダーシップについて理解し、その重要性について理解することである。職場や社会においてチームのメンバーが協働して仕事を進める場面では、リーダーシップは必要不可欠なものである。そして、キャリア形成という視点でみると、求められる役割に応じて段階的にリーダーシップを身につける必要がある。この科目では、リーダーシップの6つのタイプとそれぞれの特徴について説明する。そのうえで、リーダーシップに必要なことを具体的に示す。その中でも重要となる傾聴的なコミュニケーションや、問題解決に有効なソリューション・フォーカス・アプローチについては、演習を実施しながら詳細な解説を行う。</p>	
全学共通教育科目	ダイバーシティ	<p>多様性理解 (ジェンダー論)</p> <p>「多様性」は、誰もがその存在を肯定されて生きる社会を作るための重要概念である。性自認や性指向は、人格や尊厳と結びついており、基本的人権として保障されなければならない。しかしながら、日本社会ではその理解が未だ十分に浸透しておらず、そのためLGBT当事者が必要な医療を受けられずに健康を害したり、家族を形成するといった幸福追求権が奪われていたりする現状がある。この授業では、ジェンダーおよびセクシュアリティの多様性についての理論的な知見や具体的な事例を学んでいくことで、専門職として必要な多様性理解を深め、その実践力を高める。</p>	
全学共通教育科目	ダイバーシティ	<p>人間関係論</p> <p>本講義は、人間が生活していく上で、人間関係や対人関係がなぜ大事なのか理論的に理解することを目的とする。さらに、それに関わる心理社会的要因を学び、日常生活において人間関係を円滑に結ぶためのポイントを習得するとともに、集団活動や協働作業により主体的に関われるようになることを目指す。授業では個人と社会の関係性に関する様々な意識のあり方を解説し、対人関係を規定している印象形成の心理的要因を詳しく解説する。また、個々人が他者の内面性を推測する際に働く社会的認知のメカニズムを最近の若者の対人態度の特徴を引き合いに出しながら解説する。最後に、円滑な人間関係を結ぶためのポイントを社会的スキルの視点から解説する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	ダイバーシティ 人権論	<p>【目標】 知識・技能の観点 1 多種多様な人権問題の概要、発生原因を説明できる。 2 人権問題の解決策を指摘することができる。</p> <p>思考・判断・表現の観点 1 現代の人権問題を多角的かつ冷静に考察することができる。 2 直観に頼らず、論理的な思考を用いて説得力ある論述ができる。</p> <p>主体性・協働性の観点 1 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。 2 他者と協働して課題に取り組むことができる。</p> <p>【内容】 人権思想の歴史、その発展過程を踏まえ、今日、我々に保障される自由・人権の内容を概観する。その上で、日本の社会における人権問題を考察する。また、人権の尊重は、全人類にとって最重要課題の1つであるから、外国で起こっている人権問題にも目を向ける必要がある。したがって、外国の人権問題についても、日本との関係を意識しつつ、適宜取り扱っていく。</p>	
全学共通教育科目	ダイバーシティ 世界の宗教	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 学生が他者の宗教に配慮し、文化的背景が異なる人々と協働ができる教養と能力の獲得を目的に多様な宗教と現代社会の在り方について理解できることを目標とする。知識・技能の点では、①宗教の機能を知る、②多様な宗教の基本的事項を理解する、③現代社会と宗教の関わりを考える知識を身につけることを目的とする。</p> <p>【授業の内容】 日本では社会と対立する宗教という印象も強く、無宗教と考える人々も多い。授業では、日本社会における身近な宗教行為、複雑化する現代社会にみる宗教の意義、近代の始まりと宗教、国家と宗教（国家統合としての宗教や国家権力と対峙する宗教）、宗教と文明対立、宗教とジェンダーという観点からキリスト教、仏教、イスラム教の世界三大宗教に加え、チベット教やヒンドゥー教、神道、新興宗教などについて論じる。</p>	
全学共通教育科目	ダイバーシティ 世界の言語と文化	<p>本科目は、教育課程上「学びスキル・リテラシー」科目として開講されていない複数の言語について、その成り立ちや仕組みを学ぶとともに当該言語の背景にある多様な暮らしぶりやものの見方・考え方に触れ、世界に暮らすさまざまな文化を持つ人々と分け隔てなく交流できる素地を身に付けることを目的とする。1言語について4時間程度の演習が設定される。これを通じて各言語に関する知識・技能を習得し、あわせて設定された課題に基づき言語と関わりのある文化について知見を広める。また、受講者間の議論を通じ異文化交流のあり方や進め方について理解を深める。</p>	
全学共通教育科目	ダイバーシティ 海外研修	<p>本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる。海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し、その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合、この科目で単位を認定する。海外で、語学研修やその他の活動に自主的に参加した後、所定の書類と研修や活動に関する報告（A4用紙1～2枚、1200字以上）を提出し、その内容が、90時間の学修（2単位分）に相当すると判断されれば、単位を認定する。研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については、各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めること。</p>	
全学共通教育科目	入門演習 英語入門演習	<p>日常の意思疎通に不可欠な語彙、文法、発音の知識と技能を高めるとともに、大学での学びに必要とされる英語4技能（聞く、話す、読む、書く）の基本を学ぶ。授業ではまず英語のインプット量を増やすことを目指し、平易な英語で書かれた文章の多読とともに、基礎的なリスニング練習を繰り返す。さらに発音、音読練習を徹底的に行い、英語に対する苦手意識を克服する。</p>	
全学共通教育科目	入門演習 数学入門演習	<p>大学における幅広い学修に必要とされる数学的知識を正しく理解するために、代数学、解析学、幾何学、確率論といった数学の基礎的内容を学修し、実際の問題を解くことでそれら能力や思考方法も身に付ける。生活や社会における数学の活用・理解から、専門的な数学用語や記号についても学び、学修課程における専門科目を学修・理解する上で必要な基礎計算力及び論理思考能力を身に付ける。</p>	
全学共通教育科目	入門演習 国語入門演習	<p>現代日本語で書かれた文章や名作古典を読むことからはじめ、さまざまなテーマの文章や作品に興味関心を持つことで、自分の考えを深めたり、文章の構成や展開に注意して述べられている論旨を正確に読解する力を身に付ける。また、修辭的表現や、比喩等の表現方法を理解して、描かれた世界観を味わうとともに、論理的かつ適切な文章表現力や言語能力、文章作成能力を身に付ける。授業の中では、精読した文章についてグループ等でのディスカッションを行うことで、他者との討論力を身に付ける。</p>	
全学共通教育科目	入門演習 社会入門演習	<p>幅広い教養と、高度な専門性を身に付けるために必要となる基本的な知識として、過去から現在にいたるまでの歴史的事象、世界各地の文化的背景や地理的關係など、幅広く学んでいく。また、我々が生きる現代社会において用いられている法律や社会的概念、実際に起きた社会的現象、経済の仕組みやその動向などにも触れることで、自分を含めた人と社会の関わりを身近なものとして理解し、様々な社会現象に関する知識を得る。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 育 科 目 共 通 教 育	入門演習 生物入門演習	高等学校までに学んだ下記の内容を振り返りながら、生物・細胞の働きや構造といった知識、遺伝子についての仕組みとDNA研究に関する歴史等について、幅広く学ぶ。 テーマ) 生体物質、細胞、代謝、遺伝情報、発生・分化、反応と調節、生態、進化ほか	
全 育 科 目 共 通 教 育	入門演習 物理入門演習	入学後に広く理科系分野を学ぶ学生だけでなく、文系学生であっても必要となる物理学の基礎知識、基礎的概念について学ぶ。生活の中での関わりを意識し、自然科学的な考え方を身に付ける。 テーマ) 運動、力学の基礎法則、エネルギー、運動、剛体、振動、電荷、電流、電位、磁場、電磁誘導、電磁波など	
全 育 科 目 共 通 教 育	入門演習 化学入門演習	理科系の学部学科コースのみならず、文系の在学者も対象として、化学の基本的な知識について、広く学ぶ。また、化学を学ぶことの意義を明確に意識するため、化学の知識が日常の場面でどのように役立っているかを明らかにしつつ、化学のおもしろさを掘り下げて理解する。 テーマ) 物質の構成・構造・状態、変化と化学反応、無機物質、有機化合物、光など	
専 門 教 育 科 目	学部学科共通科目 多文化共生入門Ⅰ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 多文化共生コアユニットにおける学びの具体的イメージを把握する。個々の専門領域についての基本的な前提と、専門領域相互の関連性について理解する。それらの理解を通じて、自らの適性と問題関心について自覚し、今後の履修方針と専門領域の適切な選択を行う能力を身につける。 【授業の内容】 「異文化との接触」という共通テーマに対して、複数の教員の専門領域からアプローチしてゆく授業である。様々な視点からの講義を受講しながら、多文化共生コアユニット専門科目の多様性と、それらの相互の関連性を理解し、自身の興味や関心の方向性を探る手がかりとする。	共同
専 門 教 育 科 目	学部学科共通科目 多文化共生入門Ⅱ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 「多文化共生入門Ⅰ」に引き続き、多文化共生コアユニットにおける学びの具体的イメージを把握する。個々の専門領域についての基本的な前提と、専門領域相互の関連性について理解する。それらの理解を通じて、自らの適性と問題関心について自覚し、今後の履修方針と専門領域の適切な選択を行う能力を身につける。 【授業の内容】 「多文化共生と地域社会」という共通テーマに対して、複数の教員の専門領域からアプローチしてゆく授業である。様々な視点からの講義を受講しながら、多文化共生コアユニット専門科目の多様性と、それらの相互の関連性を理解し、自身の興味や関心の方向性を探る手がかりとする。	共同
専 門 教 育 科 目	学部学科共通科目 文化継承入門Ⅰ	学部学科共通科目として文化継承コアユニットの入門に位置づける科目で、文化研究に必要とされる基本的な方法論を学修する。 日本・東アジア、英米という3つのフィールドを設定し、授業を進める。それぞれの地域の伝統文化がこれまでどのような形で継承され、あるいは他地域の文化の影響のもとにどのように変容してきたのかを、具体的な事例に拠りながら学修する。最終回には、その成果をグループごとに発表し、相互に評価する。	共同
専 門 教 育 科 目	学部学科共通科目 文化継承入門Ⅱ	学部学科共通科目である文化継承入門Ⅰを発展させた科目である。 この授業では、文化継承コアユニットに配置された諸科目を履修する際の基本となる原資料の特質や解読方法の基礎を学修する。日本・東アジア・英米の3地域それぞれのフィールドにおいて、現在の研究の到達点や、議論されている学問上の課題が、原資料のどのような読み解きのなかから形成されてきたのかを学修することにより、それぞれの専門領域研究の魅力に触れる。最終回には、その成果をグループごとに発表し、相互に評価する。	共同
専 門 教 育 科 目	学部学科共通科目 政治学	学部学科共通科目に位置づける科目で、日本やそれをとりまく諸地域の政治を、民主主義と自由という観点から議論できるようになることを目的とする。 授業は講義と学生による発表、それにもとづく議論によって進める。まず、民主主義という考え方について、その成立に大きく関与した権利章典から理解を発展させていく。つづいて、日本と米国の政治形態の違いや特徴を理解するため、日本国憲法と米国憲法を比較することにより、議院内閣制と大統領制、小選挙区制、政党政治などの概念を具体的な事例によりながら学修を深める。さらに、多文化主義や安全保障などについて、自由と民主主義との関係を考えながら理解する。	
専 門 教 育 科 目	学部学科共通科目 国際経済論	学部学科共通科目に位置づける科目である。国際社会において各国経済が相互依存・相互補完によって成り立っている現実を根ざし、さまざまな活動の基盤となる経済取引や企業の動きを理解しながら社会を見る目を養うことを目的としている。グローバル化の進化のスピードは、この20年あまりで顕著なものがあつた。その結果として、各国間の経済格差、所得格差が地球全体で広がっている現状を理解する。これらの要因や解決策を探るため、モノ（製造業）のみでなくサービスを含めた貿易の動向、国際社会の中心的アクターである多国籍企業、国際金融などについての理解を深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	学部 学科 共通 科目 地誌学	学科専門科目を履修していく上で基礎的な視点を提供する科目として、「地域性」が理解できるよう、具体的事例をもとに、地域固有の生活様式とその形成に関与した自然環境と人文・社会環境を学修する。世界各地で人々は地形・気候・経済・政治・社会・文化に適合した生活様式を築き上げ、またその変化にも対応してきた。よりよい生活を求めて、この過程は常に反復される。学生は一連の過程を理解し地域や環境を自分のものとして考えることができるよう、日本・インド・英国を中心に関連諸地域の事例にふれ、最近の各国情勢や国際関係にも目を向け、地誌学的視点に立った地域の見方を獲得していく。	
専門 教育 科目	学部 学科 共通 科目 人文地理学	学科専門科目を履修していく上で基礎的な視点を提供する科目として、人文地理学の諸領域における分析事例を検討することにより、系統地理学的な視点と方法を学修する。地表面には人間の諸活動が営力となって一定の空間構造が形づくられる。その検討において地域区分は重要な意味をもつ。区分された地域単位を等質地域ととらえるか、機能地域ととらえるかによっても地域に対する見方は大きく異なってくる。機能論に立脚すれば、ネットワーク・人口移動・機能的地域分化・立地論等是有効な分析枠組みとなる。学生はこれらの空間構造を地域の実態に即して考え、人文地理学的視点に立った地域の見方を獲得していく。	
専門 教育 科目	学部 学科 共通 科目 自然地理学	学部学科共通科目に位置づける科目で、人間が多様な営みを展開する地球上のそれぞれの地域の自然環境の特性を、地理学的な視点から理解するための基礎知識を学ぶ。履修者が自然環境に関する文献を検索し、理解するうえで必要なキーワードの意味を理解することが、本科目の最大の目的である。そのため、前半ではプレートテクトニクス理論から日本列島の成り立ちと地震・火山活動のしくみを学び、活断層・火山がつくる地形についてをテーマに、後半では気候変動によって生じた地形や植生の変化をテーマに取り上げる。また、宮島でのフィールドワークを実施し、地質と地形、土石流災害の跡を見学する。	
専門 教育 科目	学部 学科 共通 科目 国際法	学部学科共通科目に位置づける科目である。グローバル化の進展により、日常生活のなかでも国際法の知識が問われる場面が増えているため、テレビ・新聞等でも話題になる世界情勢も題材にしつつ、生きた国際法の知識を身に付けることを目的とする。まず、国際の平和と安全の観点を中心に、平和実現のための国際諸機関の役割、戦後の平和構築に向けての取り組み、さまざまな兵器の軍縮・不拡散について、被爆地・広島での立場に留意しながら理解する。続いて、世界平和と人権をめぐる問題を扱い、国際人道法、国際刑事司法制度などについて学修を深める。	
専門 教育 科目	学部 学科 共通 科目 国際政治論	学部学科共通科目に位置づける科目で、世界各国の政治・経済状況に関し、いろいろなシンクタンクのサイトから素早く情報を得る能力を学ぶ。さらにその情報を使い、特定の国の状況を発表する能力を身に付ける。欧米の有力なシンクタンクである“Freedom in the World 2018”, “Freedom of the Press”, “Freedom on the Net”, “2018 Index of Economic Freedom”の使い方を学修し、そこから得た情報によって、ある一つの国の状況を発表する。その内容を学生相互で議論・批判することにより、情報収集、プレゼンテーション、ネゴシエーションの能力を身に付ける。サイトはすべて英語で書かれているため、ある程度の英語力は必要であるが、発言・発表は日本語でも英語でもかまわない。	
専門 教育 科目	学部 学科 共通 科目 経営学概論	経営学概論は1年次以上の学部共通専門科目として、これから初めて企業の経営学を学ぼうとする学生の基礎・専門科目として位置づけられる。本授業の目的は、1. 地域企業を含め、企業経営とは何か。経営学全般の基礎的な専門知識を身につける。2. 現代組織におけるビジネスパーソンとして必要な基礎的・実践的スキルやマナーをグローバルな視点から身につける。3. 地域を含め、現代経営者の生き方を学ぶことを通じて、学生個人が自らの人生の経営を考えることができるように幅の広い視野や器量、倫理性、人間性を養う。そして、4. 今日でしかかも広範囲な経営諸問題の理解から、地域における経営的諸課題を発見し、その課題解決のための新しい方法や実践的に課題解決できる能力を養う。具体的には、現代経営学の目的や体系及び方法、企業論（現代企業の本質と活動）、企業の社会的責任（CSR）論、コーポレート・ガバナンス論、経営学説史、現代経営者論とマネジメント論等、幅広く学ぶ。	
専門 教育 科目	学部 学科 共通 科目 会計学概論	本講義の目的は、ビジネスの共通言語と呼ばれている会計の役割・機能について理解を深め、会計の基礎となる簿記の基本的知識と技術を身に付けることにある。講義の前半では、会計情報が組織や経済社会においてどのように利用されているのかを概観し、会計の役割・機能について理解を深める。講義の後半では、会計の基礎となる簿記の知識や技術を解説する。 本講義を履修することにより、企業会計、公会計、非営利会計など多様な会計実務の基礎である複式簿記の基本的知識と技術を習得することが出来る。また、会計学を含む社会科学全般を専門的に学ぶための土台を築くことが出来る。	
専門 教育 科目	学部 学科 共通 科目 マーケティング概論	この講義では、統合的マーケティングの本質を理論体系から理解するとともに、実際の企業活動を事例にして、われわれの生活と密接に関連していることを理解します。まず、モダンマーケティングの基本的概念を理解した上で、顧客価値と顧客満足・環境分析・消費者行動・マーケティングのSTPとブランド戦略・コミュニケーション戦略・サービスマーケティングなどを取り上げます。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部学科共通科目	簿記原理	本講義の目的は、財務諸表を作成するための一連の簿記手続きを理解することにある。講義では、複式簿記の基礎を整理したうえで、財務諸表を作成する簿記手続き（決算手続き）について解説する。簿記は一組の基本的な手続きの集合体であり、会計実務においてはその手続きの合理性を理解することが重要となる。本講義を履修することにより、日商簿記検定3級に相当する簿記の知識と技術を習得することが出来る。また、より複雑な取引についても会計処理を行い、有用な情報にまとめ上げるための基礎的知識を築くことが出来る。	
専門教育科目	学部学科共通科目	ファイナンス概論	本授業の目標は、これまでファイナンスについて学習したことのない学生が、ファイナンスの基礎的な知識を修得し、その考え方や活用法を理解することにある。この科目は、金融・ファイナンスを学ぶ上での導入科目であり、地域創生学部の学部学科共通科目に位置付けられる。学生は、ファイナンスの基本的概念である「貨幣の時間価値」や「機会費用」の考え方を知り、企業のファイナンス（コーポレートファイナンス）と家計のファイナンス（パーソナルファイナンス）の基礎概念を学ぶ。具体的には、家計の資産・負債管理、企業の資本・負債管理と投資管理、ペイアウト政策、ファイナンス理論のコアである資産価値の評価（債券価値の評価、株式価値の評価）の理解を目指す。また、ファイナンスの新しい研究領域である「行動ファイナンス」の考え方も学ぶことができる。	
専門教育科目	学部学科共通科目	ミクロ経済学	本授業の目標は、はじめて経済学を学ぶ学生が、経済学の考え方の基本となるミクロ経済学の基礎理論を習得し、社会・経済の現象を読み解いたり、社会・経済問題への対策を考えたりできるようになることにある。この科目は学部学科共通科目に位置付けられる。学生は、ミクロ経済学の基本的な考え方や分析方法を学ぶ。具体的には、消費者や生産者の行動原理と、市場経済のしくみと役割について学ぶ。さらに、「市場経済が私たちに与えてくれている恩恵の意味で優れているのか、市場にはどのような「限界が」とあり、それに対してどのような対応が考えられるのかを考察する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	経営管理論	本講義の目的は2つある。第1に、学生が、経営管理論の基礎的な概念と枠組みを理解することである。第2に、学生が、これらの概念および枠組みを活用し、多様な経営現象に関して論理的に考える能力・スキルを修得することである。本講義では、経営管理論の歴史的な系譜を、科学的管理法、人間関係論、知識経営論等の概要を順に学習し、その現代的な意義を考察する。今日の企業環境の変化に注意しながら、授業を通して次の問題意識を深めてほしい。(1) 生産性の概念の発達と変化 (2) 創業者や専門経営者の登場、および、起業家の社会的役割 (3) 生活の質的变化やグローバル化がもたらす外部環境の変化 (4) 組織の競争優位構築における知識創造の役割	
専門教育科目	学部学科共通科目	中級簿記	日商簿記検定(2級)レベルの知識を身に付けることを目標とします。日商簿記検定(2級)は、高校卒業程度の商業簿記及び工業簿記(初歩的な原価計算を含む。)を習得し、財務諸表を作成並びに読解できる力をつけ、企業の財政状況も理解できるようになり、株式会社の経営管理に役立つ知識を習得を目標とします。日商簿記(2級)レベルの知識は、大学生にとって、将来、経理及び財務関連業務に従事するかどうかに関わらず、ビジネスパーソンとして割いて最低限、身につけなければならない知識です。	
専門教育科目	学部学科共通科目	工業簿記	(目標) 受講生が、日商簿記2級程度の工業簿記の知識を身につけ、財務諸表作成や原価管理・利益管理への工業簿記の役立ちを理解できるようになること。 (カリキュラム上の位置づけ) 1年次会計学科目の発展編として、製造業の製造活動に特化した工業簿記の手続きを学ぶ。 (授業の内容) この講義では、製造業を念頭に置きながら、財務諸表の作成や原価の管理を目的とした、ものづくりの活動を記録するための基本的な手法を学ぶ。より具体的には、1年次会計学科目で学習した内容を振り返りながら、日商簿記2級レベルの工業簿記を学ぶ。	
専門教育科目	学部学科共通科目	経営戦略論	本講義の目的は、Garth Salonerらの『戦略経営論』を参考文献として用いながら、代表的な理論であるM. E. Porterのポジショニング戦略とJ. B. Barneyの経営資源に基づく戦略について学び、両理論の共通点と相違点を理解することで実際の企業の経営戦略について理解を深めることである。本講義を履修することにより、学生は代表的な経営戦略論としてポジショニング戦略と経営資源に基づく戦略について理解できる。さらに、学生はこれらの概念および枠組みを活用しながら、多様な企業の経営戦略について論理的に考える能力・スキルを修得することになる。	
専門教育科目	学部学科共通科目	入門統計学	この科目は地域創生学部における学部学科共通科目の一つとして、履修者が同学部における専門科目を学修するにあたって必要となる統計学の理論的基礎を学ぶ。主な内容は、履修者が身の回りで目にするデータの特性を正しく理解し、実社会で使われている統計情報から得た知識を意思決定に活用するために必要な統計学の理論基礎である。本講義を通じて、データから得られた情報を客観的根拠とした意志決定プロセスを構築する基本的なスキルを身につけることを目標とする。随時、演習や小テストを行い、履修者の理解を深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部学科共通科目	IoT・情報システム基礎学	本科目は、地域創生学部（仮称）の学部学科共通科目に区分される科目である。情報システムの基本的な構成と、応用されている要素技術に関する理解を深めることを第一の目標とする。さらに、身近な情報システムの実例を題材にして、UML（Unified Modeling Language）を用いたシステム記述を学習することにより、情報システムのモデリング手法を身につけることを第二の目標とする。具体的には、コンピュータ構成要素（プロセッサ、記憶装置、入出力デバイス等）の機能と役割、情報システムを構成するハードウェアおよびソフトウェアの基礎知識、技術要素（ヒューマンインタフェース、マルチメディア、データベース、ネットワーク、セキュリティ等）について講義する。また、UMLを用いたモデリング手法について解説し、これを取り入れた情報システムのモデリング演習を行う。	
専門教育科目	学部学科共通科目	経営情報論	本講義では、経営と情報の関わりを理解し、情報を経営に上手く生かす方法を習得することを目的とする。経営に対する情報の関わりは2種類存在し、1つ目としては従来の経営学でも扱っているヒト、モノ、カネに加えて情報も資産として扱う考え方も、もう1つは情報を経営問題に対する問題解決のツールとして捉える考え方がある。前者に関しては経営情報システムとして扱う事が多く、前半で種々の経営情報システム及びその活用方法・問題点について講義を行う。後半では、問題解決のツールとしていくつかの問題に対して情報を用いて解決する事例およびツールとして用いる場合についておくべき技術者倫理について講義する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	基礎プログラミング入門	プログラミングは、コンピュータに行わせる命令を書くことであるが、希望通りに動作するようにプログラムを書くためには論理的な思考力が必要である。この科目では、プログラミングの導入として、ブロックによるビジュアルプログラミングを行う。プログラミング言語の仕様や構文にとらわれず、視覚的および直感的にプログラムを作成することにより、プログラムの基本的な構造（順次、反復、分岐）を理解し、論理的な思考力を養うとともにプログラミングの楽しさを体験することを目的とする。特に演習を中心として授業を行う。	
専門教育科目	学部学科共通科目	基礎情報学入門	本科目は、地域創生学部（仮称）の学部学科共通科目に区分される科目である。情報学とは、情報によって世界に意味と秩序をもたらすとともに社会的価値を創造することを目的とし、情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求する学問であると定義されている。情報学は裾野がとて広い学際的な学問分野であるため、最も基本的な事項を体系的に学び理解することを目標とする。具体的には、情報一般の原理、コンピュータで処理される情報の原理、情報を扱う機械および機構を設計し実現するための技術、情報を扱う人間社会に関する理解、社会において情報を扱うシステムを構築し活用するための技術・制度・組織について講義する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	基礎情報活用演習	情報を活用するためには、得られた情報を適切に整理・加工する力が必要である。この科目では、情報処理に関する総合的なスキルアップを目指す。具体的には、文書作成、表計算、プログラミング等の各処理を通じて情報処理に関する総合的な知識と技術を学ぶ。これらの処理方法を学ぶことで、独力で情報を整理・加工し活用できる力を身につけることを目的とする。また、後に続く高度な専門科目を学ぶための基礎を固めることに重点を置く。特に演習を中心として授業を行う。	
専門教育科目	学部学科共通科目	人工知能概論	人工知能に関する基礎概念とその方法論を修得し、実社会における応用可能性と計算機による知能の実現について、人工知能に対する基本的な知識の修得を目的とする。代表的な人工知能の方法として、「知識表現、論理と推論、探索、知識表現、機械学習、自然言語処理」を取り上げ、基礎的な概念と問題解決の考え方、実社会におけるAIの応用可能性を、コンピュータ演習を取り入れながら、講義形式で学修する。また、新しい情報科学の展開を達観するために、コンピュータによる感情表現・分析を事例ベースで学修する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	データサイエンス入門・同演習	この科目は地域創生学部における学部学科共通科目の一つとして、履修者が同学部における専門科目を学修するにあたって必要となるデータマネジメントおよびデータ分析の基礎を統計ソフトウェアによる演習を交えて学ぶ。主な内容は、身の回りのデータを収集・加工・解析するために必要なデータハンドリング、入門統計学で学修した理論を実際のデータ分析に応用するために必要なプログラミング技術を身につけることである。本講義を通じて、これまで学修した統計理論を実データに応用する基本的なプロセスを身につけることを目標とする。随時、演習や小テストを行い、履修者の理解を深めていく。	
専門教育科目	学部学科共通科目	生命科学	この科目では、正常な人体の仕組みの理解に資する遺伝子や細胞レベルから組織や器官レベルまでの構造や機能に関する基礎的内容を学び、併せて暮らしの中の生命科学の話題を理解し評価できる力の修得を目標とする。学部・学科共通科目である本科目は、管理栄養士養成課程に係る専門基礎分野「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」の科目の一つとして位置づけられている。初めに、分子や細胞レベルでのミクロの事象（生体物質の構造や機能・代謝、細胞の構造や機能）を中心に、生命の基本的な仕組みを学ぶ。次に、遺伝子の形・働き・制御、細胞増殖や生殖に関する項目を取り上げ、遺伝子と生命の連続性を学ぶ。また、ゲノム情報の医学への応用、再生医学の現状と将来、植物バイオテクノロジー、生体における安全性、感染症との闘い、先端医療技術と生命倫理など、暮らしや社会における生命科学の話題を提示し、私たちが直面している課題を理解し評価できる力の修得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部学科共通科目	基礎化学	この科目では、物質の基礎的・化学的性質に関する知識を修得することを目標とする。特に、化学結合、分子構造、濃度、化学平衡、反応速度、有機化学という、化学の基礎的内容を理解することを主たる目標とする。本科目は、専門科目・「学部学科共通科目」に位置付けられ、専門科目の他の応用化学的科目の基礎となっており、それらの応用化学的科目を学ぶための基礎知識としての化学について、初歩的なことから、身近な事例についての説明を含む専門的内容（物理化学、無機化学、分析化学、有機化学）の全般について学ぶ。有機・生体化学の導入として、化学と人間との関わり合いに始まり、物質のマクロな性質とミクロな原子の構造との関係、化学結合の成り立ち、物質の状態変化（気、液、固）と性質、化学反応の基本となる酸塩基と酸化還元、化学反応とエネルギーの関係を学ぶ。化学を苦手とする学生は、環境や生命と化学の接点についての具体的な例を参考にして学力を修得する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	微生物学	管理栄養士や食品衛生監視員として必要な微生物学の知識を身につけることを目的としている。本科目の目標は、どのような種類の微生物がいて、どのような生活をしているかを知り、微生物とどのように共存するか、あるいは微生物から身を守るかを説明できるようになることである。具体的な授業の内容は、下記のとおりである。①細菌、酵母、かび、きのこ、放線菌、微細藻類、ウイルスの形態的特徴や性質②食中毒を含む感染症とその感染の仕組み③発酵食品や抗生物質④遺伝学や遺伝子治療の基礎的研究に使われている微生物。尚、本科目は、地域創生学部の学部共通科目に区分されている。	
専門教育科目	学部学科共通科目	予防医学	主に生活習慣病を主体とした予防活動について、地域保健、母子保健、学校保健、産業保健など、いろいろな側面からとらえ、また、メタボリックシンドローム予防のための運動療法や禁煙支援について理解する。授業の内容は、メタボリックシンドローム予防、運動療法、禁煙支援、生活習慣病予防、地方分権の推進と地域保健予防サービス提供体制、学校保健での予防対策、母子保健での予防対策、性感染症予防対策、インフルエンザ予防対策、ノロウイルス感染症予防対策などである。	
専門教育科目	学部学科共通科目	保健政策論	健康危機管理の具体的な対応、医療安全対策の考え方、地域保健、学校保健、産業保健など、さまざまな分野における保健医療福祉の現状と課題について理解する。授業の内容は、地域保健サービスの提供体制と地方分権の推進、精神保健福祉サービスと社会復帰支援サービス、障害者総合支援法、学校保健安全法、過重労働による健康障害、労働者のメンタルヘルス、アスベスト健康障害対策、健康危機管理について、食と感染症、医療安全対策、地方分権の推進と地域保健医療の課題などである。	
専門教育科目	学部学科共通科目	公衆衛生学	地域保健、産業保健、学校保健、健康危機管理のなどいろいろな分野における実践事例について検討する。予防医学からの観点から、生活習慣病・メタボリックシンドローム予防について、適切な食生活、適度な運動をする習慣、禁煙などについて、災害時における公衆衛生活動についても学習する。授業の内容は、地域保健・母子保健サービス、産業保健、精神保健福祉サービス、学校保健、結核予防対策、ノロウイルス感染症予防対策、食中毒対策、エイズ予防対策、鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ対策などである。	
専門教育科目	学部学科共通科目	環境衛生学	公衆衛生の中の特に環境要因が、疾病の発生あるいは健康の保持増進に関連することを学ぶ。この科目は学部学科共通科目として区分され、管理栄養士専門科目においては、「社会・環境と健康」として位置づけられ公衆衛生学と連続して学習する。授業の内容としては、①疫学の定義、公衆衛生の歴史、②環境と健康 (1) 環境汚染と健康、③環境と健康 (2) 環境保健、④食中毒発生時の疫学調査 (演習)、⑤産業保健・国際保健、⑥感染症対策、⑦情報の入手と取扱い、⑧生活習慣の現状と課題について学修する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	健康科学情報処理演習	この科目では、基本的な情報処理演習を通して、実験データ等をコンピュータ上で解析するために必要な知識と実践的なデータ処理の方法を修得することを目標とする。学部・学科共通科目である本科目は、管理栄養士養成課程に係る専門基礎分野「社会・環境と健康」の科目の一つとして位置づけられている。講義内容については、主に表計算ソフトウェアを用いたデータ処理およびインターネット利用に関する演習を行い、データの収集と整理に関する基本技術、収集したデータに基づく検定や回帰分析などの統計処理の方法、関数の利用法、データのデータベース化ならびにグラフ化の方法などを修得する。また、インターネット上での文献検索、データベース検索、ソフトウェア解析などを通してコンピュータの多様な利用法を身につける。	
専門教育科目	経営コア・ユニット I	経営史	本授業の目標は、企業経営に関する歴史と分析概念、基礎的内容を理解することである。これによって、経営学の専門的内容を理解するための素地を身につけることができる。この科目は、地域産業コース・経営コアユニットIに位置付けられる。学生は、日米を中心に、企業経営の生成・発展、衰退、再生の歴史を学ぶ。具体的には、産業革命期における近代企業の成立にはじまり、大衆消費社会の出現と大量生産体制の確立、ビッグビジネスの発展、事業部制の確立と分権的体制への移行といった一連の経営的事象を概観する。さらには、個々の企業の事例のなかから、経営者が何を考えどのように行動したのかという、意思決定の領域に関して学ぶ。歴史的な視点から、企業経営の内容と主要な論点についての理解を深めることができる。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	経営 コア ・ ユニ ット I	経営組織論	経営組織論は、地域においても共通している、実際の企業の経営は「組織」を通じて遂行されることから、現代経営学における必要不可欠な専門科目であり、それゆえに確固たる地位を築いている。組織なくして、その管理はありえないのであり、組織なくして、その経営戦略の実行はできない。この意味で、学生の皆さんに、経営学概論で学んだ基礎的専門知識の上に本格的に経営組織論の専門知識をさらに学んで頂き、地域における何らかの組織の一員として貢献できるように、実践に活用可能な知識と組織の立ち上げや組織変革に関する実践的なスキルを学んでもらうことが本授業の中心的なねらいである。具体的には、経営管理の母体である経営組織の本質を究明するとともに、組織形態と組織構造、組織の権限・責任、組織リーダーシップ、組織における人間の動機づけ、今日のグローバルな環境変化に対応した組織変革の問題、組織の合理性と人間性の調和などの問題も学んでいく。
専門 教育科目	経営 コア I・ユ	流通システム論	本講義では、まず流通が果たしている役割、機能を中心に基礎理論を学びます。次に、イノベーションとバリューチェーンをキーワードに、小売業と卸売業の諸形態の特性を理解します。総合商社や百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、通信販売等を事例として取り上げます。また、後半には小売業のマーケティングとしてのマーチャンダイジング（小売の科学）を整理し、資格販売士（リテールマーケティング）3級の合格を目指します。
専門 教育科目	経営 コア I・ユ	公共経営論	本科目は地域産業コース専門教育科目（経営コアユニットI）に位置づけられる。授業では、学生に身近な公共経営として地方自治を取り上げる。具体的に、「公共とは何か」「自治とは何か」という問いから出発し、日本における地方自治体の制度や歴史、政策、経営、主体、課題等を学ぶ。そのうえで、地方自治制度の国際比較も行う。また、講師自身による自治体政策形成への参画経験を踏まえ、卒業後に学生が自治体等に就職した時に役立つ実践的な情報も提供する。
専門 教育科目	経営 コア ・ ユニ ット I	原価計算論	（目標）受講生が、原価についての情報が企業経営においてどのような役割を果たすのかについて理解できるようになること。 （カリキュラム上の位置づけ）一見マーケティングや経営戦略の立案とは別世界に見える原価計算が、いかにそれらと強く結びついたものであり、企業のどのような活動にどのように貢献しているのかについて、理解をはかる。 （授業の内容）この講義では、ものづくり企業を念頭に置きながら、生産・販売されるモノの原価を計算する方法の基礎を学んだうえで、それが企業の経営活動にどのように役立てられているかという点を中心として解説する。その際、原価計算の方法について基礎的な内容を扱い、そのうえで、その計算があるがために企業の活動がどのように工夫されるのか、また原価ではわからないが経営活動において重要なことはどのようなことであるのか、といった点を重点的に学ぶ。
専門 教育科目	経営 コア I・ユ	金融論	金融（お金のやり取り）は、日常生活を送る上では欠かせない現象です。本講義では、金融の基礎及び家計、企業、政府、銀行それぞれの金融取引の基本を理解して説明・議論できるようにすること、関連するニュースを理解できるようにすることを目指します。 はじめに、金融を学ぶために最低限必要となる経済学の内容を確認します。その後は、貨幣や金利の基礎概念、間接金融と直接金融の違い、民間金融機関や日本銀行の役割、政府の金融システム安定化政策と金融規制の順に学習していきます。
専門 教育科目	経営 コア I・ユ	マクロ経済学	本授業の目標は、現代社会を取り巻くさまざまな経済問題と関わらせながら、マクロ経済学の基本的な考え方を修得することにある。この科目は、地域産業コース・経営コアユニットIに位置づけられる。 学生は、マクロ経済学理論の基礎を学ぶ。具体的には、マクロ経済指標の意味と内容を理解するとともに、GDPなどがどのように決まるのか、失業はなぜ生じるのか、金融・財政政策の理論的基礎はどのようなものなのかといった問題について体系的に学ぶ。
専門 教育科目	経営 コア ・ ユニ ット I	ベンチャービジネス論	本授業は、受講生各自がベンチャー企業の経営者であると想定して、それぞれのビジネスアイデアをブラッシュアップし、実際に市場競争に耐えうるような事業として成立する事業計画に練り上げることができる力を養成することを目標とする。具体的には、①各学生が持っているビジネスアイデアについて、その事業化が可能かを調査し、事業立案から会社設立、成長軌道に乗るまでの5年間の事業計画を策定することによって、各自の夢を具体化するための道すじを描けるようになることである。この科目はアントレプレナーシップ系科目の初歩的な内容であり、発展科目として「ビジネスモデル論」がある。 本講義はワークショップ形式を中心にして進める。具体的には、ベンチャービジネスの基礎概念を教示したのち、受講生はチームを編成し、実現可能な収益モデルを策定し、発表、評価を受けるという実践的な内容となる。
専門 教育科目	経営 コア I・ユ	社会調査論	【授業の目標】①実証研究の進め方を理解する。②リサーチ・リテラシーを身につけ、氾濫する情報を精査する力を習得する。③具体的な調査法の特徴を理解した上で実践することができる。【カリキュラム上の位置づけ】この授業は、「専門教育科目」の「経営コアユニットI」に位置づけられる。【授業の内容】この授業では、はじめに実証研究の進め方や考え方を講義していく。次に具体的な調査法（例えば、サーヴェイ・リサーチなど）について説明する。最後に社会調査を学生自身が経験しながら、習得を目指していく。

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	経営 コア ・ ユニ ット I	人的資源管理論	
		<p>本講義の主要な目標は、学生が企業で展開されている多様な人事制度を学習することによって、人的資源管理論に関する理解を深めることである。サービスの経済化・高齢化が進行するわが国の企業経営において、終身雇用制が大きく変貌するとともに、さまざまな雇用形態が登場し多様化している。</p> <p>本講義では、このような経営組織の環境変化の中で、社員のキャリア形成と、経営組織の求める人材の確保のあり方について考察する。特に、社員のキャリア形成を達成すると同時に、新製品や新サービスの開発に必要な戦略的な人材を確保する、という視点から、社内公募制、目標管理制度、専門職制度、教育研修制度、および、給与・賞与などの報酬制度を中心とする総合的な人事制度について、日本企業や外国企業の優れた事例を取り上げながら学習する。</p>	
専門 教育科目	経営 コア ・ ユニ ット I	NPO論	
		<p>本授業の目標は、NPO・NGOについて、歴史的考察、理論研究や事例研究などを用いて、さまざまな角度から分析を行うことにある。そして日本のみならず、海外のNPO・NGOというテーマに取り組むことによって、日本社会が現在の国際関係の中でどのような位置を占めているのか、どのようにこれから関係を構築していくべきなのかを考える契機となることを目指す。この科目は地域産業コース・経営コアユニット1に位置付けられる。</p> <p>学生は、具体的に、NPO・NGOとは何か、なぜNPO・NGOに注目が集まるようになったのか、理論的背景、政治システムとの関係、NPO・NGOは現代の国際社会においてどのような役割を果たし、どのような意義を有すると考えられるのか、課題と展望について学ぶ。</p>	
専門 教育科目	経営 コア ・ ユニ ット I	パーソナルファイナンス論	
		<p>本授業の目標は、ファイナンスの基礎概念を修得済みの学生が、家計に求められる最低限の金融リテラシー（金融に関する知識と判断力）を修得し、在学中そして卒業後に自立的で安心かつ豊かな生活を実現するための実践的スキルを身に付けることにある。この科目は、ファイナンスの応用・発展科目であり、地域産業コース・経営コアユニット1に位置付けられる。</p> <p>学生は、「家計管理」、「生活設計」、「金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択」、「外部の知見の適切な活用」の4分野について学ぶ。具体的には、お金を稼ぐ、お金を管理する、お金を借りる、お金をふやす、リスクに備える、トラブルに強くなる、という6項目について、必要な基礎知識とその活用法の理解を目指す。</p>	
専門 教育科目	経営 コア ・ ユ ニ ット I	地域金融論	
		<p>政府が地方創生を重要政策にあげるなど、地域経済についての関心は高まっています。本講義では、地域経済の見方とそれに対する金融の果たす役割、政府の地域経済活性化政策を理解したうえで、説明・議論できるようになることを、関連するニュースを理解できることなることを目標とします。</p> <p>はじめに、地域経済についての定量的・定性的な分析方法を学習します。その後は、地域経済に対する地方銀行、協同組織金融機関、公的機関の役割、地域通貨の事例、地域金融に関連する政策の順に学んでいきます。</p>	
専門 教育科目	情報 コア ・ ユニ ット I	サプライチェーンマネジメント	
		<p>本講義では、情報技術を用いて供給者から顧客までの一連のつながりを1つの鎖とみなし全体最適化を図る管理手法であるサプライチェーンマネジメントに対して、どのような問題が存在し、どのようなモデルが存在し、どのように解決し最適化を図っているかを理解することを目的とする。更にサプライチェーンマネジメントの困難さを理解するために、受講者は数名のグループを組み、実際にボールゲーム及びロジスティクスゲームを行い体験する。具体的には最初にサプライチェーンマネジメントとは何かについて講義し、サプライチェーンマネジメントに関わるモデル及び概念について講義する。その後、2つのゲームをグループ対抗で行い、更にサプライチェーンに関する最近のトピックスについても述べる。</p>	
専門 教育科目	情報 コア ・ ユニ ット I	マネジメント工学	
		<p>本講義では、マネジメント工学（経営工学）の中核をなす生産マネジメントについてIoT・AIの応用事例を含め講義する。マネジメント工学は製造現場から始まり現在では企業だけでなく社会全般まで範囲は広がっている。その中でも中核をなす生産マネジメントに対して2つの観点（設計・運用）から講義を行い、種々の生産システム及び生産システムを運営するのに必要なスケジューリング技法を理解することを目的とする。具体的には最初にマネジメント工学の歴史を見ていき、原点であるインダストリアルエンジニアリングについて説明する。その後、現在多く用いられている代表的な生産システムを取り上げる。次に生産システムを運営する際に問題となる種々のスケジューリングについて取り上げる。更に生産現場におけるIoT・AIの活用方法や活用事例についても講義する。</p>	
専門 教育科目	情報 コア ・ ユニ ット I	応用情報研究序論	共同
		<p>本科目は、情報コアユニットで学修する科目群と、3、4年次で取り組む応用情報システム専門演習との間のつながりを予め把握することにより、学修の方向性を明確にし、学修のモチベーションを高めることを目的としており、地域産業コース教員10名程度と外部講師5名程度で担当する。コース内の情報コアユニット担当の教員による授業は、各教員の研究に関わる入門的な内容をまとめた講義と、今後の学修に対するアドバイス等を中心とした授業を行う。学外講師による授業は、担当科目に関わる入門的な内容をまとめた講義や、社会的に課題になっている事項（例えば、企業現場の情報システム、情報セキュリティーなど）に対する理解と情報学を用いた問題解決の事例をまとめた講演などを行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	情報 コア・ ユニ ット I プログラミング	<p>授業の目標とカリキュラム上の位置づけ</p> <p>本科目の学修目標は、コンピュータ・プログラミングの基礎を習得することである。プログラミングは、コンピュータのソフトウェアやアプリを作成する作業を意味し、これを習得することにより、コンピュータの動作原理の理解や、問題解決力等を得ることができる。具体的な到達目標は、基礎的なアルゴリズムの理解と、初級レベルのプログラムを独力で作成することが可能となるレベルを設定している。</p> <p>授業の内容</p> <p>本科目では、プログラミングの基礎知識の習得するため、授業の前半に座学でプログラムの基本的なアルゴリズム、データ構造や、フローチャートでの表現などを学ぶ。また、プログラミングスキルを身に付けるため、授業の後半にプログラミング演習（C言語）を行うことにより、コーディング技術やデバッグ手法などのプログラミングの基本スキルを学ぶ。</p>	
専門 教育科目	情報 コア I・ユ ニ ット I 線形代数	ベクトルや空間座標などの基本概念から行列と行列式、連立1次方程式の解法、線形空間と内積など、データサイエンスや人工知能などの応用情報システムに関する学修と研究に必要な数学の基礎知識を修得します。本講の前半では、ベクトルと空間座標の基本、行列とその和、行列の分割、行列の積、行列の階数、正則行列と逆行列、連立1次方程式の解法、行列の簡約化、基本行列について学習します。後半では行列式（定義、特別な行列式の値、計算法、展開、応用）、行列の固有値と固有ベクトル、線形写像、ジョルダン標準形などについて学修する。	
専門 教育科目	情報 コア・ ユニ ット I 情報数学 I	<p>学生の到達目標は、情報社会における情報伝送技術、情報管理技術、情報処理技術の基礎を数学的立場から学習し、利用されている技術を説明できるようになることを目標とする。学修の結果、それぞれの技術において道筋を立て、論理的に演算する手法を習得した技術の中から判断できるようになることが第二の目標である。</p> <p>(授業内容) 情報伝送技術における「いかに情報を効率よくかつ正確に伝送可能か」という観点から、誤り訂正符号の基本となるガロア体（有限体）の考え方を学び、ガロア体の働きについて学習する。次に、大量のデータを効率よく管理する情報管理技術として、関係データベース（RDB）の基礎的なアイデアと操作方法と集合や関係の考え方をを用いて理解する。最後に、情報処理技術として、情報の入出力や通信の状態をグラフで表すグラフ理論の基礎を学ぶ。</p>	
専門 教育科目	情報 コア I・ユ ニ ット I 情報数学 II	情報数学 I に引き続き、コンピュータ科学で扱われる集合、写像、2項関係、順序関係、グラフ理論に関する基礎知識の修得し、事例ベースへの応用を通じた理解を深める。数学等の基礎知識と情報学に関する専門的な知識を有し、これらを実社会における諸課題の探求・解決へ自主的・持続的に応用できるように学修する。具体的には、「集合演算・論理演算」、「写像」、「代数構造（群、環、体）」、「2項関係・順序関係」、「離散グラフ、グラフの連結性」について講義形式で学修する。講義内で諸課題を解決する演習を行い、様々な手法の基礎知識として活用されていることを確認しながら理解を深める。	
専門 教育科目	情報 コア・ ユニ ット I プログラミング演習	<p>授業の目標とカリキュラム上の位置づけ</p> <p>本科目の学修目標は、『プログラミング』で身に付けたプログラミング能力のさらなる向上と、実用的なGUI（Graphical User Interface）やWebプログラミングの基本を習得することである。さらに、主体的な演習を行うことにより、論理的思考や問題解決力の育成を目指す。</p> <p>授業の内容</p> <p>本科目では、演習を通してGUIプログラミング、Webプログラミング、オブジェクト指向の概念の修得を行う。そのため、現在最も重要なWebプログラミング言語の一つである、JavaScriptを用いたプログラミング演習を主として行う。また、主体的に演習に取り組むことにより、問題の自己解決能力と論理的思考力の醸成を副次的な目的とする。最終的に、与えられた条件から、自力でアルゴリズムの考案やソースの作成などをおこない、デバッグまでをこなす能力を身に付ける。</p>	
専門 教育科目	情報 コア・ ユニ ット I オペレーティングシステム	オペレーティングシステム（OS）は、PCやスマートフォン、さらには、TV、DVDレコーダなど、従来は対象とされてこなかった幅広い製品・分野に導入されるようになった。そのため、OSはICT分野に関わる全ての者がその基礎を習得すべき事項となっている。本授業では、ICTを専門分野とする学生が上級学年におけるシステムやソフトウェア開発を学ぶための基礎を養成するために、CPUの仮想化、並行プロセス、主記憶管理、ファイル管理の4つのOS分野の基礎知識を修得する。これらの4つの分野の基礎知識を修得することで、動作速度の異なる様々な要素を効率よく統合し、システムの性能を向上させる仮想化技術、スケジューリング手法を理解する。また、これらの知識を習得することで、将来開発を行う情報システムのあるべき姿を考えるための基礎力を養う。	
専門 教育科目	情報 コア I・ユ ニ ット I データベース	データベースは、情報システムを構築する上で必要不可欠な構成要素である。この科目では、データベースの中でも実社会において広く利用されているリレーショナルデータベースについて、データベースの構築・操作に関する基礎知識の習得を目標とする。講義では、データモデル、データ操作のための代数演算、操作言語SQL、データの正規化、データモデリング、管理システム、トランザクションと同時実行制御、障害回復、分散データベースについて学ぶ。また、NoSQL、OLAPなどデータベース応用技術についても学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育科目	情報 コア I・ユ	音声情報処理	<p>学生の到達目標は、音声情報処理の新しいアルゴリズムの理解とそれを用いた種々の応用方法について説明できるようになることを目標とする。</p> <p>(授業内容) 音声情報処理の分野において音声分析、音声認識を中心に説明を行う。音声波形やピッチについて学び、音声の成分について理解するため、時間領域の音声をフーリエ変換し周波数領域に置き換える方法を学習する。次に、音声モデルに対して、FIRフィルタを用いて雑音処理を行う信号処理法を理解する。最後に雑音処理を行った音声を用いて音声認識技術について学ぶ。</p>	
専門 教育科目	情報 コア I・ユ	機械学習	<p>機械学習は、データ集合に潜む規則を数理・統計的手法を用いて抽出し、未知データの予測に役立てるための方法論である。この科目では、機械学習の基礎概念とモデル生成における重要手法の習得を目標とする。講義では、教師あり/教師なし学習における代表的アルゴリズムの解説を通じて、交差検証法によるモデルの性能評価、過学習と正則化、損失関数と最適化について学ぶ。また、アンサンブル学習、カーネル法、半教師あり学習、オンライン学習、強化学習などの発展的手法についても学ぶ。</p>	
専門 教育科目	情報 コア I・ユ ニ ット	知能情報学	<p>人間を取り巻く現実社会において、人間の認識や評価などに関する情報のように、あいまいさを含むものが多く存在し、また得られる情報は不正確な数値や非数値情報である場合も多い。本科目では、このようなあいまいな情報の処理を可能にするファジ理論を中心に講述する。本科目は、特にこれから重要視されるIoT・AT応用技術においてその利活用に不可欠な基礎内容で、コースの専門科目と位置づける。本科目の主な内容は次の通りである。①ファジ集合、②ファジ関係、③ファジ推論、④ファジモデリング、⑤意思決定などにおけるファジ理論の応用。また、進み具合に応じ、ラフ集合やニューラルネットワークなどの内容追加もありうる。</p>	
専門 教育科目	経営 コア ・ユ ニ ット II	組織文化論	<p>組織文化論は、経営組織論の新たな展開方向として位置づけられる。本授業の目標は、1. これまでの組織文化の理論を体系的に理解する。2. 各々の組織独自の価値観である組織文化を築き上げ、組織および組織における個人自らがより主体的に環境に挑戦することの意義を理解し、これからの新しい経営を考える。3. 組織における合理性と人間の性の調和を図るマネジメント思考とその実践的スキルを身につける。4. 地域企業を中心として、様々な地域企業の組織文化を学び、地域の企業経営の特徴とその意義を組織文化的視点から理解する。具体的な授業内容は、組織文化論の経営学史的意義や経営組織論の中での位置づけをなした上で、現代組織文化論を、アメリカにおける主要な組織文化論研究者の論理を取り上げ体系立てて検討し展開する。また、組織文化と組織および組織構造、経営戦略、組織文化のマネジメントとの相互関係を明らかにし、現代組織文化論の経営学的考察を試み、そこから地域の持続的発展のための企業経営の今後の課題と方向性及び地域企業の新しい組織文化の創造について探究する。</p>	
専門 教育科目	経営 コア II ・ユ	商品・ブランド開発論	<p>新しい商品やブランドの開発は、企業の最も重要な戦略の一つといえます。この講義では、マーケティング概論や流通システム論の理論的理解を発展させて、実践型の開発プロジェクトにチャレンジします。まず、実際の企業からゲストスピーカーを招いて、商品・ブランド開発の実際を事例研究として学びます。次にアイデアの発想法と企画の基本をグループワークを通じて実際に行います。最後に企画シートを作成し、プレゼンテーションを行います。</p>	
専門 教育科目	経営 コア ・ユ ニ ット II	財務会計論	<p>財務会計の主要な目的は、投資家（既存の株主、潜在的投資家）への情報開示による資金調達、債権者と株主の利害調整、税務計算における法人課税のベースとなる税務上の所得の基礎となる利益算定等が挙げられます。財務会計は、これらの規制を行う法令（金融商品取引法、会社法、法人税法等）の理解が重要です。財務会計は一般的にこれら法令に準拠して会計処理・表示・開示等が行われることから「制度会計」とも呼ばれます。日本企業は中小・零細企業も含め急速な国際化・多角化の波に遭遇し、大企業のみならず大企業の下請けとして、海外への子会社関連会社を設立し、また、海外企業と提携などをして進出しており、また企業の規模を問わず、M&A展開を行う時代となっています。すなわち、企業グループとして、財務内容を把握する必要性は高まっており、「連結財務諸表」が、金融商品取引法を適用される大企業等は、正規の財務諸表となっており、それ以外の企業（中小零細企業も含む。）も、金融機関から与信を受けるに際し、「連結財務諸表」の作成を求められることも多くなりました。財務会計論は、会計処理とともに、現代の会計制度を習得することを主要な目的とします。</p>	
専門 教育科目	経営 コア II ・ユ ニ ット	金融システム論	<p>本講義では、金融システムの全体像、具体的には日本銀行や海外の中央銀行の役割、株式・為替・国債等の代表的な金融商品や金融市場の特徴を理解し、説明・議論できるようになることを目標とします。</p> <p>はじめに、資金循環表から家計や企業、政府、海外及び各金融機関の資産運用・資金調達の特徴を確認します。次に、日本銀行のマクロ金融政策について理論的背景から実際の現象まで、海外の中央銀行との比較も交えて学習します。さらに、株式・為替・国債等の代表的な金融商品・金融市場について、実際の統計分析も交えて学びます。</p>	
専門 教育科目	経営 コア II ・ユ ニ ット	税務会計論	<p>本講義は中国税理士会の提供講座であり、中国税理士会に所属する税理士を中心とする15人の講師にて担当する。講義では、租税の全体像と仕組みについて概観すると同時に、法人税、消費税、所得税、相続税など個別の税について解説を行う。企業経営にとって法人税や消費税の理解は不可欠であり、税務会計の知識は必須である。また、個人の生活においても所得税や相続税などの税金とは日常的に接する機会があり、税に関する知識は重要である。</p> <p>本講義を履修することにより、企業経営にとって必須である税務会計に関する知識を習得できると同時に、個人生活においても重要となる税の基本的知識を習得することが出来る。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	経営 コア II・ユ ニ ット	イノベーション論	<p>本講義の目的は、一橋大学イノベーション研究センターの『イノベーション・マネジメント入門』を参考文献として用いながら、イノベーションと経済発展との関係を理解することで、現実において企業のイノベーション活動について理解を深めることである。</p> <p>本講義を履修することにより、学生はイノベーションと技術経営論 (MOT: Management of Technology) について理解できる。さらに、学生はこれらの概念および枠組みを活用しながら、多様なイノベーションの現象について論理的に考える能力・スキルを修得することになる。</p>
専門 教育科目	経営 コア ・ユ ニ ット II	コンテンツ産業論	<p>この授業は、コンテンツ産業全体の国際的な動向を捉えつつ、各業界の特徴とビジネスモデルを学際的な研究成果を利用・応用しながら解明することによって、コンテンツ産業における今後の経営上あるいは社会政策上の課題について、受講生が自ら解決できる能力を育成することを目標としている。</p> <p>この授業は次の3部構成で成り立っている。第1部は、コンテンツ産業の入門的知識の修得である。コンテンツ産業の背景にある経済環境の変化などを分析しながら、コンテンツの特徴と経営上の課題を指摘していく。第2部では、この産業のビジネスモデルや労働環境、法的・政治的環境などの観点から、産業全体を分析する。第3部では、映画・音楽・広告・テレビ放送、ゲームといった個別の産業に特有の事情や経営上の課題を説明する。</p>
専門 教育科目	経営 コア II・ユ ニ ット	経営法務	<p>本授業の目標は、企業活動を行う際の基本法である商法と会社法について、その概略を理解することにある。特に商行為概念から、さまざまなビジネス形態についての概略を理解し、これにより日本経済新聞に掲載されるビジネス記事について理解できるようになることを目指す。この科目は、地域産業コース・経営コアユニット2に位置付けられる。</p> <p>学生は、商法総則・商行為法と会社法を中心に学ぶ。法律そのものの紹介から、さまざまなビジネス形態まで、日本経済新聞の記事を用いて知ることができる。</p>
専門 教育科目	経営 コア ・ユ ニ ット II	管理会計論	<p>(目標) 受講生が、経営活動の管理が会計情報を用いながらどのように行われているのかについて、基本的な理解をはかることができるようになること。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) 2年次までの経営学・会計学科目の内容を土台として、企業の経営活動の管理のあり方について理解をはかる。</p> <p>(授業の内容) この授業では、財務諸表をはじめとした会計情報の経営活動への役立ちを中心に解説する。会計は、社外の利害関係者に対して業績を報告するためのみならず、企業内部においても「どの事業に力を入れるか」「モノをどう売るか」「人をどうやる気にさせるか」といった企業活動の根幹を突き動かすうえで非常に重要な役割を果たす。この点に着目して、この授業では、企業の経営において財務諸表をはじめとした会計情報がどのように役立てられるかという点について、事例なども交えながら解説する。</p>
専門 教育科目	経営 コア ・ユ ニ ット II	コーポレートファイナンス論	<p>本授業の目標は、ファイナンスの基礎概念を修得済みの学生が、企業価値最大化を目的とする企業の資金調達や投資の意思決定に関する理論と手法を修得するとともに、実際の企業の意思決定について知ることにある。この科目は、ファイナンスの応用・発展科目であり、地域産業コース・経営コアユニット2に位置付けられる。</p> <p>学生は、コーポレートファイナンス論の三大テーマである「資金調達」、「企業価値を高めるための実物投資行動」、「企業活動の成果のペイアウト(株主への利益還元)」について学ぶ。具体的には、企業価値評価理論、投資決定理論、資金調達方法とその調達コスト、ペイアウトの方法とペイアウトが企業価値に与える影響に関する理論の理解を目指す。また、日本企業の資本構成政策やペイアウト政策など、実際の企業の財務戦略についても学習する。</p>
専門 教育科目	経営 コア ・ユ ニ ット II	ビジネスモデル論	<p>本授業の目標は、受講生がビジネスモデルに対する知見を深め、地域に根差した新しいビジネスモデルを創出するための力を修得することである。本科目は、「ベンチャービジネス論」の応用科目として位置付けられる。本授業は、1) ビジネスモデルの理論と分析方法を知る、2) ビジネスモデルの個別事例を知る、3) ビジネスモデルを創出するための基礎力を付ける、の3段階で成り立っている。具体的には、まず、ビジネスモデルの定義から始まり、ビジネスモデルの構成要素について解説する。次に、ビジネスモデルの類型について見ていく。ビジネスモデルの代表的なパターンを理解してもらうことになる。さらに、受講生が実際に新しいビジネスモデルを創出するためにはどうすればよいのかについて講義する。最終段階として、受講生自らが起業家として新しいビジネスモデルを創出するための視点を提供する。総仕上げとして、受講生は指定された課題に基づいてプレゼンテーション資料を作成し、授業時間内に発表を行う。</p>
専門 教育科目	経営 コア II・ユ ニ ット	組織行動論	<p>本講義の主要な目標は、組織内で示される人々の多様な行動や態度について学習することによって、組織行動論に関する理解を深めることである。組織は、計画された連絡調整のための公式の構造であり、二人以上の人間が関わって共通の目標を達成する目的を持つ。組織行動論は、このような組織の中で起こる人の行動と態度についての体系的な学問である。本講義では、従業員のリーダーシップ能力の向上やモチベーション、職務満足感を高める「人のマネジメント」を考察する。</p>

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	経営 コア Ⅱ・ユ ニ ット マーケティングリサーチ	本授業の目標は、企業活動としてのマーケティング活動、及びマーケティング・リサーチの基礎を学び、マーケティング・リサーチが果たす様々な役割について身近な事例から、特に消費者購買行動、ライフスタイルの変化について理解を深めることにある。特に、データ分析では、質疑応答しながら授業を進めていく。この科目は、地域産業コース・経営コアユニット2に位置付けられる。 学生は、企業活動としてのマーケティング、マーケティングの諸見解、マーケティング・リサーチとは何か、マーケティング・リサーチの諸類型、マーケティング・リサーチの機能、マーケティング・リサーチの進め方、消費者の捉え方、消費者分類と価値観、消費者とブランドの関連、データ解析について学ぶ。	
専門 教育科目	経営 コア Ⅱ・ユ ニ ット 技術マネジメント論	本授業の目標は、技術経営 (MOT)の基本的な概念・考え方を修得し、技術経営において基本的に抑えるべき視点を理解することにある。この科目は、地域産業コース・経営コアユニット2に位置付けられる。 学生は、製品開発の上位にある製品戦略も含め技術経営の構成要素の基本的内容を理解し、自動車製造企業の実例を見ながら企業の存続～成長には何が必要かを討議を通して考察する。更に、仕上げとして、実際の工場見学を通じて、考察した内容につき技術経営の視点から受講生自ら確認する。	
専門 教育科目	経営 コア ・ユ ニ ット Ⅱ NPO会計論	本講義の目的は、非営利セクターにおける会計の基本的枠組みを理解し、非営利セクターの会計報告の望ましい情報内容について検討することにある。講義の前半では、社会的にも経済的にも重要性が増してきている非営利セクターの歴史的経緯と現状、そして今後の課題等について解説する。講義の後半では、公益法人会計基準とNPO法人会計基準を取り上げ、非営利セクターにおける会計の基本的枠組みについて理解する。そして、企業会計の考え方や海外の会計制度等と比較しながら、非営利セクターにおける会計報告の望ましい情報内容について検討する。 本講義を履修することにより、非営利セクターの歴史的経緯と役割について習得することが出来る。また、非営利セクターにおける会計の基本的枠組みを習得することが出来る。	
専門 教育科目	経営 コア ・ユ ニ ット Ⅱ 証券論	本授業の目標は、①企業などの経済主体にとって主要な資金調達場である証券市場・資本市場の仕組みと機能を学習することにより、経済社会で起こっている様々な事象に対する理解を深めること、②証券市場を通じてあるいは先物やオプションなどのデリバティブを活用して企業が行うリスク管理手法を学習することにより、経営の立場に立った時に必要となる考え方を理解することにある。 学生は、日本の証券市場および証券システムについて理論と実際の両面から理解する。まず相対型金融と市場型金融との違いを明確にし、金融を機能させる前提条件を確認する。証券市場については、証券市場の基礎的知識を学び、その上で証券市場の機能を理解する。証券取引システムについては、証券業務の内容、証券会社の機能・役割からはじめ、証券取引所の諸制度・ルール、さらに最近の証券市場の動向や証券システム改革の現状について学ぶ。	
専門 教育科目	経営 コア Ⅱ・ユ ニ ット リスクマネジメント論	本講義の目的は、上田和勇の『事例で学ぶリスクマネジメント入門』を参考文献として用いながら、「リスクマネジメント」と「企業倫理」においてリスクの根本的な性質と企業の社会的責任を理解することで、現実において企業のリスクマネジメントと企業倫理の諸問題について理解を深めることである。 本講義を履修することにより、学生はリスクマネジメントの本質と企業の社会的責任について理解できる。さらに、学生はこれらの概念および枠組みを活用し、多様な経営上のリスクについて論理的に管理できる能力・スキルを修得することになる。	
専門 教育科目	経営 コア Ⅱ・ユ ニ ット 知的財産権関連講座	広島県には「ものづくり」オンリーワン・ナンバーワン企業に認定された多くの企業がある。一方で県内のTLO機関が廃止されており、益々各企業における知的財産マネジメントが重要となってきている。企業が競争優位性を築くためには、設備などの有形資産だけでなく無形資産となる知的財産を活用していく事が重要である。本講義では、特許権、商標権、著作権など、知的財産権制度の基礎を修得し、更にアイデアを創出・権利化する方法や知的財産の活用法についても学修することにより、知的財産マネジメントの基礎について理解することを目標とする。併せて、特許や商標の調査演習を行うことにより、実際の企業における知的財産に関する活動状況を調査できるようにすることも目標とする。	
専門 教育科目	経営 コア ・ユ ニ ット Ⅱ 監査論	日本の公認会計士監査制度における監査報告書は、米国や国際的な監査報告書の雛形を参考に作成されてきた。基本的には、監査範囲、経営者及び会計監査人の責任、結論、結論に至る理由等を中心に記載する「短文式監査報告書」と呼ばれる1～2枚に亘る監査報告書が利用されてきた。しかし、例えば、監査対象財務諸表に問題なしとする「無限定監査意見」を表明したとしても、被監査会社によっては、監査報告書に記載するほどの質的重要性はないものの、会計監査人が注意を払った会計処理等が存在するのが一般的である。国際的にも、伝統的な短文式監査報告書ではなく、会計監査人が注意を払った事項 (KAM: Key Audit Matters, 「監査上の主要な検討事項」) が存在する場合は通常であり、それを、監査報告書に記載することにより監査報告書の利用者 (ステークホルダー) との対話を重視する中長文式的監査報告書の必要性が議論され導入されることになった。日本においても平成30年7月に『監査基準』が改訂され、国際的な中長文式的監査報告書と同様の監査報告書の様式が導入されることが決定された。講義では、新しい監査報告書の事例に即し、会計監査人とステークホルダーとの対話事項として、どのような事項を分析しつつ監査自体の理解をすることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	経営 コア Ⅱ・ ユニ ツ	パブリックファイナンス論	
		<p>本授業の目標は、政府はなぜ必要なのかという素朴な疑問について考えるところからスタートし、財政の仕組みや財政が人々の生活・行動に及ぼす影響を経済学的に分析することによって、財政のあるべき姿を議論する財政学を理解することにある。この科目は、地域産業コース・経営コアユニット2に位置付けられる。</p> <p>学生は、財政と財政学、公共財、租税の基礎、公債、国と地方の財政関係、社会保障について学ぶ。分析の際には、ミクロ経済学・マクロ経済学的手法を活用し、深刻な財政赤字や少子高齢化への対応など日本の財政が抱える問題についても触れていく。</p>	
専門 教育 科目	経営 コア Ⅱ・ ユ	地域産業特別講義	共同
		<p>この講義は産学連携の一環として、広島を地盤に事業展開を行う企業、NPO等の経営者をお招きして授業を行います。経営の第一線で活躍する方々の講義により企業経営の現場を理解します。まず、地域の企業等の経営戦略、特に地域との関わりを説明し、経営実態の理解・課題等を考察します。次に、地域企業等に対する関心を深め、地方企業の経営戦略について討議や文章の作成ができることを目指します。</p>	
専門 教育 科目	経営 コア ・ ユニ ツ Ⅱ	地域金融特別講義	オムニバス方式
		<p>(目標) 受講生が、地域における金融機関の機能と役割、近年直面している課題について理解して、説明・議論できるようになること。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) この科目は産学連携特別科目であり、理解を深めるためには、他の会計・ファイナンス系科目を履修することが望まれる。</p> <p>(授業の内容) 「金融新時代における地域金融機関とファイナンスの役割」をテーマとし、広島所在の様々な金融機関から金融の最前線で活躍する方々を講師として迎えてオムニバス方式で授業を進める。グループディスカッションも取り入れる。</p> <p>(42 足立 洋1/15回) 授業の進め方について</p> <p>(広島所在の地域金融機関所属の実務家13/15回) 広島所在の地域金融機関所属の実務家による講義</p> <p>(42 足立 洋1/15回) 総括</p>	
専門 教育 科目	情 報 ツ コ ア Ⅱ・ ユ	数値解析	
		<p>問題に対して解を得るためのアプローチとしてコンピュータを用いた数値計算による方法がある。この科目では、解析的に解を求めることが困難な問題について数値を用いて近似的に解く方法について学習する。問題の近似解を有限個のステップで求める直接解法と反復計算によってより精度のよい近似解を求める反復解法の各種方法について学習する。これらの学習を通じて厳密に解くことができない問題に対しての対処方法と考え方を学ぶ。数値例を用いて計算の演習を行う。</p>	
専門 教育 科目	情 報 コ ア ・ ユ ニ ツ Ⅱ	データ構造とアルゴリズム	
		<p>本科目は、地域産業創生コース (仮称) 専門科目の情報CU2に区分される科目である。</p> <p>コンピュータを理解し活用していくために必要となる、論理的なものの見方・考え方とともに、問題を解決するための方法 (アルゴリズム) を熟知し、それを応用する力を身につけることを目標とする。一般に一つの問題を解くためのアルゴリズムは複数存在し、最適なアルゴリズムを選択し利用する力を持つことが求められる。また、効率的なアルゴリズムには、よく考えられたデータ構造が用いられ、それゆえにデータ構造とアルゴリズムは密接な関係を持つことも知っておかねばならない。本講義では以上のことを念頭に、コンピュータプログラミングでしばしば用いられる、代表的なアルゴリズムとデータ構造を学び、自ら設定する演習課題にそれらを適用することで、実践的かつ能動的な学修を展開する。</p>	
専門 教育 科目	情 報 コ ア Ⅱ・ ユ ニ ツ	情報ネットワーク	
		<p>情報ネットワークの仕組、技術、利用などに関する基礎知識を系統的に学修する。まず、ネットワークの設計、構築の際に基礎となる階層 (レイヤー) 化アーキテクチャの概念、各レイヤーの機能及びプロトコルについて学び、データの生成、分割、カプセル化、データグラムの配送、ルーティング制御などを理解する。そして各レイヤー間の機能を相互利用してどのようなネットワークサービスが可能であるかを考え、異なるネットワーク間の相互接続技術などについて学修する。最後様々なメディアの通信基盤になったインターネットを中心に展開される多様な通信サービス及び種々のネットワーク型ビジネスモデルについて学ぶ。</p>	
専門 教育 科目	情 報 コ ア ・ ユ ニ ツ Ⅱ	プログラム言語処理	
		<p>PCやスマートフォンなどを含むコンピュータに我々人間が求める動作を指示するにはプログラム言語を用いてプログラムを記述する必要がある。また、記述したプログラムを実際にアプリケーションとして動作させるには、プログラムを実際のコンピュータが理解できる形式に矛盾なく変換するプログラム言語処理系が必要である。本授業では、プログラム言語処理系で行われる言語処理のうち、字句解析、構文解析、意味解析、コード生成、コード最適化の各基礎知識を修得する。これらの事項を習得することで、文字列あるいは記号等のパターンマッチングのための形式的記述方法を理解できるようになる。本授業で学ぶ事項は、「オペレーティングシステム」、「情報ネットワーク」、「データベース」各授業と合わせて情報技術を専攻する学生として習得すべきソフトウェアの基礎的内容として位置付けられる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	情報 コア II・ユ ニ ット	システム開発論	
専門 教育科目	情報 コア II・ユ ニ ット	ビッグデータ解析演習	
専門 教育科目	情報 コア II・ユ ニ ット	応用情報システム特別講義	
専門 教育科目	情報 コア ・ユ ニ ット II	IoT・AI応用技術	共同
専門 教育科目	情報 コア II・ユ ニ ット	確率統計	
専門 教育科目	情報 コア ・ユ ニ ット II	情報システム論	
専門 教育科目	情報 コア II・ユ ニ ット	情報セキュリティ	
専門 教育科目	情報 コア II・ユ ニ ット	画像情報処理	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	情報 コア II・ ユニ ット	最適化理論	様々な産業機器・機械、通信網、交通網、家電製品、コンピュータなどをシステムと見做し、その振る舞いを数理的に解析し、最適な設計や運用を行うことは必要不可欠な技術といえる。本科目はコースの専門科目と位置づけ、最適化理論の基礎的知識の修得を目的とする。具体的には、①最適化理論の数学的基礎（行列、階数、連立方程式の解法等）、②線形計画問題の定式化・基底解・最適解・シンプレックス法、③非線形計画問題の定式化・最適性条件・解法としての降下法、④非線形計画問題に対する二分法・ニュートン法、⑤応用問題と演習、を主な授業内容とする。授業後半においてMATLABを用いて演習を行い、最適化における基礎技術への理解を深める。
専門 教育 科目	情報 コア II・ ユ	情報ネットワーク実験	本実験は、「情報ネットワーク論」と相俟って、実践的ネットワーク技術を習得する。まず、TCP/IPベースの情報端末のセットアップ、構築から着手し、ネットワークへの接続、ネットワークアドレス管理、経路制御などの実験を通して、各種のソフトウェア・ハードウェアの運用・管理に必要なスキルを修得する。更にインターネットで展開される代表的なサービスを取り上げ、実際にこれらのサービスを提供するサーバを構築してみる。またネットワーク障害などを想定し、実践的にネットワーク設計・構築・運用の能力を身につける。
専門 教育 科目	情報 コア II・ ユニ ット	応用プログラミング	本科目は、TCP/IPネットワーク環境で動作するプログラムを題材にした演習により、応用的なプログラミングについて学習することを目標とする。まず、C言語を用いて、サーバ・クライアント機能を持つソフトウェア開発の演習を行い、ネットワークプログラミングの基礎の習得を行う。さらに、Webサービス上で提供されるWebアプリケーションソフトウェアを題材にして、Webサーバソフトウェア、データベースソフトウェア等の複数のソフトウェアの連携によってネットワークを通じてサービスを提供するWebアプリケーションの開発演習を行なう。Webアプリケーションの開発言語としては、PHP等の言語を想定している。
専門 教育 科目	情報 コア II・ ユ	データマイニング	データマイニングは、大量のデータからまだ知られていない有用な知識を発見するための手続きの総称である。この科目では、データマイニングにおける標準的なデータ処理、ルール・パターン発見アルゴリズムに関する基礎知識の習得を目標とする。講義では、欠損値の補填、ダミー変換、特徴次元の削減といったデータの预处理、相関ルールをはじめとする頻出パターンマイニング、k-Means、SOM、DBSCANなどによるクラスタ解析、外れ値検出に基づく異常検知について学ぶ。
専門 教育 科目	情報 コア II・ ユ	技術英語講読 I	グローバル化が進む社会の中で、あらゆる分野において英語というコミュニケーションツールは大変重要である。特にIoT・AI関連技術などの情報分野においては、技術英語能力は必要不可欠である。本科目はコースの専門科目と位置づけ、コンピュータサイエンスや情報処理システムなどの英語書物又は文献を講読する。具体的に、本コース科目関連資料の講読を通じ、諸概念や専門内容を英語で理解し、情報技術分野における英語表現に慣れることを目的とする。また、英語全般の慣れを念頭に、英文法などの基礎内容を含め、英語に対する心構えの指導も行う。
専門 教育 科目	情報 コア ユニ ット II	グラフィカルプログラミ ング	授業の目標とカリキュラム上の位置づけ 本科目の学修目標は、マルチメディア・コンテンツやアプリケーションの開発実習を通じて、コンピュータ・グラフィックス (CG) やそれらを用いた視覚的なプログラミング技法を修得することである。 授業の内容 本科目は、『プログラミング』『プログラミング演習』で習得したプログラミングの知識とスキルをベースとし、視覚的なアプリケーションの開発を行う。そのため、まずは基礎知識として、人間の視覚特性、2次元CGおよび3次元CG、アニメーションの概念を学ぶ。そして、JavaScript言語を用い、視覚的なコンテンツの作成技法とそれらのプログラムによる制御の基本を学ぶ。最後にそれらを使ったマルチメディア・アプリケーションの開発を行う。
専門 教育 科目	情報 コア II・ ユ	多変量解析	情報社会を象徴的に示すビッグデータのように、様々な変数に関する情報がデータ化されている。このようなデータの中に、情報の本質、即ち変数間の関連が潜んでいる場合は多い。多変量解析とは、複数の変数に関するデータをもとに、これらの変数間の相互関連を分析する統計的な技法の総称である。本科目を履修するためにその基礎理論である科目「確率統計」の履修済みが必要である。本科目はコースの専門科目と位置づけ、重回帰分析、主成分分析、因子分析、判別分析の手法に的を絞り、それらの手法をどのような考え方をもとにしているかを講述する。
専門 教育 科目	情報 コア II・ ユニ ット	情報セキュリティ実験	本科目では、「情報セキュリティ」で学んだ内容のうち、特に技術的内容について、演習を通じてさらに深く理解することを目的とする。組織におけるクライアント機器の管理を想定して、認証技術や暗号技術を実際に利用するための環境構築等の演習を行う他、サーバにおける情報セキュリティ対策に利用されるアクセス制御、侵入検知、ログ分析といった各種手法の演習を行う。また、セキュリティ上のぜい弱性の有無について検査を行う手法や、Webサービス上で提供されるWebアプリケーションソフトウェアの開発の際に、セキュリティに配慮した開発を行うために必要な考え方を学ぶ。
専門 教育 科目	情報 コア II・ ユニ ット	Webインテリジェンス	Webインテリジェンスとは、Webを利用したサービスの基盤技術やWeb上に形成されるネットワーク構造の分析など、Webに関連する知見の総称である。この科目では、特にWeb検索および情報推薦サービスを実現するための基盤技術に焦点を当て、その原理に関する知識および実データへの応用展開能力を習得することを目標とする。講義では、HITS、ページランクなどのリンク解析アルゴリズムや、クローリング、形態素解析、固有表現抽出、トピック解析、ランキング学習といったWeb検索を実現するための各種手法、また協調フィルタリングによる情報推薦アルゴリズムについて学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 情報コア・ユ	コンピュータシミュレーション	実際に実施することが困難な事象や現象を分析する方法としてシミュレーションがある。この科目では、分析対象をシステムとしてとらえてモデル化し、コンピュータ上で模倣・再現する手法について学習する。また、設定を変えることで様々なケースにおけるシミュレーションを行い分析対象の特徴をとらえることなどを通じて、シミュレーション結果を分析・評価する力を習得することを目標とする。疑似乱数を用いることにより確率的な現象についてもシミュレーションを行う。コンピュータを用いてシミュレーション実験の演習を行う。	
専門教育科目 情報コア・ユニットII	モバイルネットワークシステム	スマートフォンやタブレットなどの携帯型情報端末を用いて、移動中や移動先で情報処理を行うモバイルコンピューティングが広く普及している。モバイルコンピューティングでは、端末は無線を通じてブロードバンドネットワークに接続することで、情報の発信、取得、処理、そして共有を行う。本授業では、モバイルコンピューティングを実現する各種ネットワーク技術の基礎的理解を養成する。具体的には、①集中管理型の携帯電話システムや無線LAN、無線PANなどの自律型無線システムの概要やモバイル通信の特性を決定づける電波伝搬の基礎的性質、②非接触ICカード技術であるRFIDの通信のシステム概要、③端末の位置推定のための手法として、電波強度、加速度センサなどを用いる手法の概要、などを学んだのちに、最後に、④本授業で取り扱う技術の応用例として、様々なモバイルアプリケーションの概要とシステムモデルについて学ぶ。	
専門教育科目 情報コア・ユニットII	技術英語講義II	近年、IoT・AIを含む応用情報システム技術は目覚ましい進歩を遂げ、日本を含む先進国のみならず発展途上国においても益々注目されている。特にIoT・AI関連技術の研究開発は競争が熾烈であり、世界規模で繰り広げられている。IT技術者として、その最新情報を入力し、利活用することが極めて重要である。本科目はコースの専門科目と位置づけ、英語によるIT技術情報を読む・理解する基本的な力を鍛錬・育成することを目的とする。具体的には、IoT・AI関連技術に関して、英語による文献(エッセイ、技術評論・報告、レビュー論文など)を教材として選択し講読することにより、IT関係の技術英語における表現や技術的要素の基礎への理解力を高める。	
専門教育科目 地域協働演習	地域協働演習	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 履修生が大学での学びを生かし、それぞれの専門性と相互の協働性をもって、広島を中心とした地域社会における課題解決にむけて主体的に取り組む科目である。 【授業の内容】 少人数のセミナー形式で広島の地域問題解決に向けたプロジェクトチームを組織し、異なるコースに所属する学生同士がそれぞれの学びを通して修得した知識・技能を生かしながら、地域社会との実践的な関わり合いを通して協働することの重要性や意義を理解する。社会人として必要とされる互いの専門性を尊重するマインドを身につけると同時に、具体的な地域課題に触れることにより、地域の将来に関わる社会的な問題意識を醸成する。	
専門教育科目 卒業論文・卒業研究	地域課題解決研究I	本研究着手までに学修した成果を活かし、身に付けた専門知識や課題発見能力、また資料収集などの技法を用いて、本学での学びの集大成となる論文等の成果物の作成に着手する。学生は、各学部・学科・コースが有する専門性に即して、自身が持つ興味・関心・目的に応じて自らテーマや題材を選択し、その専門性を活かしつつ地域や社会に関連する、または地域課題の解決につながる学際的なテーマを設定する。また、選択したテーマ等に応じて、複数教員による指導体制をとることで、多面的な指導を行う。	
専門教育科目 卒業論文・卒業研究	地域課題解決研究II	地域課題解決研究Iを踏まえ、本学での学びの集大成となる論文等の成果物作成を行う。学生は、各学部・学科・コースが有する専門性に即し、興味・関心・目的に応じて自ら設定したテーマや題材について、さらに追及し、同時にその専門性を活かすことで、地域や社会に関連する、または地域課題の解決につながる論文等を作成する。また、地域課題解決研究Iに引き続き、選択したテーマ等に応じて、複数教員による指導体制をとることで、多面的な指導を行う。	
専門教育科目 卒業論文・卒業研究	経営学専門演習I	本演習の目標は、地域産業コースの学生のうち経営学に関心を持つ学生が、経営学の特定の専門領域(経営戦略マーケティングと会計ファイナンスの諸分野)についてより深く学ぶとともに、研究を進める上で必要となるリサーチリテラシーを修得することにある。この科目は、地域産業コース経営コアユニットを主専攻とする学生の3年次必修通年科目であり、少人数のセミナー形式で実施される。学生は、関心を持つテーマの発表や討論を通じて、経営学の特定の専門領域についてより深く学ぶ。また、文献(論文)検索、資料・データ収集、情報整理、文献の読み込み(クリティカル・リーディング)、課題発見、データ分析、プレゼンテーションなど、研究を遂行するために必要な基礎的能力を修得する。研究を進める上での論理的な配慮や研究規範の心得も養成する。	
専門教育科目 卒業論文・卒業研究	経営学専門演習II	本演習の目標は、「経営学専門演習I」を修得した学生が、各自の選択したテーマに沿って研究に取り組み、その成果を卒業論文としてまとめるとともに、一般公開形式で口頭発表することにある。この科目は、地域産業コース経営コアユニットを主専攻とする学生の4年次必修通年科目であり、少人数のセミナー形式で実施される。学生は、4年次までに修得した幅広い教養と経営学に関する専門知識、ならびに経営学専門演習Iで修得したリサーチリテラシーを活用して、研究課題(テーマ)を決定し、テーマに関連する過去の研究成果を十分踏まえた上で、裏付けとなる事実に・理論的根拠を提示しつつ独自の着想で研究を進展させる。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	卒業論文・卒業 研究 応用情報システム専門演習 I	本演習は、3年次の必修通年科目である。地域産業コース情報コアユニット（応用情報システム）を主専攻とする学生が本科目の履修対象者になる。学生は各自が興味関心を持つ研究領域を取り扱うゼミに配属される。配属されたゼミでは、指導教員のもとで、研究環境や情報処理ツール等の習熟、文献（論文）検索、資料収集・整理、結果の検証、問題の発見・疑問の提起（クリティカル・リーディング）などの素養を修得するとともに、データの収集・処理、文献の参照、成果の発表など研究を進める上での倫理的な配慮、研究規範の心得を養成する。	
専門 教育 科目	卒業論文・卒業 研究 応用情報システム専門演習 II	本演習は、4年次の必修通年科目である。「応用情報システム専門演習I」を修得した学生が、指導教員のもとで各自の研究テーマに主体的に取り組む過程を通じて、問題発見・解決における科学的アプローチ及び研究の素養を修得する。具体的には、4年次までに修得した幅広い教養及び応用情報システムに関する知識を応用し、研究課題の絞り込み、研究課題（テーマ）の決定、研究計画の作成、研究の実施などを指導教員のもとで進める。本演習のまとめでは、研究の過程、成果、得られた知見などを卒業論文としてまとめるとともに同論文の内容を一般公開形式により口頭発表する。	
その 他 科 目	自由 選 択 科 目 IoTシステム開発プロ ジェクト演習	遠隔地の対人コミュニケーションや、人が遠隔情報へアクセスすることを可能とするための重要な社会インフラとなったネットワーク基盤は、現在では、センサーやアクチュエータといったあらゆるモノ同士を相互接続する基盤としてその適用範囲を急速に拡大し続けている。本科目では、あらゆるモノをサイバー空間において相互接続・制御するIoTシステムを構築する演習を行う。具体的には、LoRaWANを想定したIoTシステムの構成要素として、①計測・制御デバイスをコンピュータに接続するためのデバイス接続部、②接続されたデバイスをネットワーク経由で遠隔制御するネットワーク制御部、③データベースに収集したデバイスの計測データをユーザに適切に提供するユーザインタフェース部（見える化）の3つに大別し、それぞれが実際に動作するシステムを構築する。この演習を通して、IoTシステムの設計、実装、運用に対する基本的能力を養う。	共同
その 他 科 目	自由 選 択 科 目 AIシステム開発プロ ジェクト演習	人間の知的能力をコンピュータ上で実現する様々な技術・ソフトウェア・コンピュータシステムは人工知能（AI）と呼ばれ、近年その研究開発競争が世界レベルで行われている。生産、電気電子、機械、交通、医療、気象、宇宙をはじめとする様々な分野では、生産性・効率性・安全性・品質等の維持向上やイノベーション創出が課題となっており、AIに寄せる期待が大きい。本科目では、そのようなAIに対する技術・ソフトウェア・コンピュータシステムを開発する演習を行う。具体的には、①ファジー制御・ロバスト制御、②音声復元、③機械学習によるデータ分類、④深層学習による画像解析、⑤時系列予測、⑥データ統計解析、などのテーマについて演習を行う。この演習を通して、AIシステムの設計、実装、利活用に対する基本的能力を養う。	共同
その 他 科 目	自由 選 択 科 目 知能情報演習	情報社会が進む中、特にIoT・AI関連技術などの情報分野においては、あいまいな情報を処理する技術が必要不可欠である。コースの自由選択として本科目は、その基礎理論である「知能情報学」を履修済みと前提に、ファジー理論に関する応用力を演習を通じ高めることを目的とする。具体的に、MathWorks社が開発している数値解析ソフトウェアであるMATLABを用いて、いくつかのトピックスを取り上げ、そのプログラミングを通じシミュレーションを行う。予定のトピックスは次の通りである。①ファジー推論、②ファジィモデリング、③ファジィAHP、④ファジィ制御システム。また、進み具合に応じ、ニューラルネットワークなどの内容追加もありうる。	
その 他 科 目	自由 選 択 科 目 ニューラルネット ワーク	ニューラルネットワークとは、人間の脳内にある神経細胞（ニューロン）とそのつながり（神経回路網）に倣って構成される人工ニューロン網という数式で表現したものである。機械学習における高度な手法である。制御、通信、画像、気象、経済など、実に数多くの分野へ応用され、大きく発展してきた。本科目は、コースの自由選択科目と位置づけ、ニューラルネットワークに関する基礎知識と応用における基本の修得を目的とする。具体的には、①神経細胞の数学モデル、②パーセプトロンと学習アルゴリズム、③多層パーセプトロンと誤差逆伝搬法、④学習データと学習アルゴリズムの選択、⑤その他の代表的ニューラルネットワーク（構成と学習法）、⑥ニューラルネットワークの応用（非線形関数近似、パターン分類、時系列予測への応用をMATLABによる演習を通して体験する。）、を主な授業内容とする。後半の演習を通して、ニューラルネットワークと応用のエッセンスへの理解を深める。	
その 他 科 目	自由 選 択 科 目 深層学習	人工知能技術のうち、深層学習の理論やプログラミングについて学修する。階層型や相互結合型など種々のニューラルネットワークについて、そのモデルと学習方法の数理的基礎について理解する。ニューラルネットワークにおける勾配損失や過学習などの問題を解決することで、近年の深層学習の高い学習能力につながることを学修する。量み込みニューラルネットワークやDeep Belief Networkについて理論的に学ぶ。授業後半においては、Jupyter Notebook+Keras環境でPythonによる深層学習プログラミングを実修し、転移学習を用いた大規模画像データの学習結果を考察し、理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科地域産業コース)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
その他科目	自由選択科目	IoT・AI特別講義	今IoTとAIは「第4次産業革命」をもたらす核と言われている。様々なモノがインターネットにつながり、それを「AI」が制御する。国内外では、近年IoT・AIの研究開発と利活用が急速に進展している。この特別講義では、①大学や公的研究機関でIoT・AIの研究開発の最前線で活躍されている研究者（本学の教員を含む）、②地域の様々な産業や組織でIoT・AIシステムの開発や利活用を精力的に行っている技術者、などの方に依頼し、IoT・AIに関する講義とホットなテーマに対する講演をいただく。この特別講義を受講し、実社会におけるIoT・AI関連技術の研究開発や利活用に関する生の情報に触れて、視野を広げるとともに、卒業研究へのモチベーションを高め、将来社会で活躍するための動機付けを行う。	共同
その他科目	自由選択科目	ITパスポート試験対策演習	本科目は、地域産業創生コース（仮称）専門科目の自由選択科目に区分される科目である。 ITを活用するすべての社会人・学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である『ITパスポート試験』の受験対策を目的とした科目である。企業活動、経営戦略、会計や法務など、ITを活用する上で前提となる幅広い知識をバランス良く習得することを目標とする。 具体的には、『ITパスポート試験』の合格に必要なストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系基礎知識について学習する。本試験に合格することで、以下にあげる力の基礎を固めることができる。 ・企業や組織の経営に資する情報システムの戦略を立案できる力 ・マネジメントの基礎知識を情報システムの開発および運用に活かす力 ・情報科学を支える基礎理論および基礎知識、応用技術の要諦を踏まえ、コンピュータシステムを適切に運用する力	
その他科目	自由選択科目	基本情報技術者試験対策演習	本科目は、地域産業創生コース（仮称）専門科目の自由選択科目に区分される科目である。 情報処理の促進に関する法律に基づき、経済産業省が情報処理技術者としての「知識・技能」が一定以上の水準であることを認定している国家試験『基本情報技術者試験』の受験対策を目的とした科目である。情報技術を活用し戦略を立案する企画提案力と、システムの設計・開発あるいは既存システムのインテグレーションによって、信頼性・生産性の高いシステムを構築する企画実現力を習得することを目標とする。 具体的には、『基本情報技術者試験』の合格に必要なストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系知識とともに、論理的な思考力を鍛えるためプログラミングの基礎（擬似言語）について学習する。	
その他科目	自由選択科目	企業法	本講義の目標は、法律学を初めて学ぶ学生が、企業取引に関わる民法・商法・会社法等の基礎を理解することである。企業法は公認会計士試験の必須科目であり、この科目は副専攻プログラム「会計・金融プロフェッション育成（上級）」の必修科目に位置付けられる。 学生は、企業とは何か、法とは何かを知ることから始め、近代社会・現代社会における企業取引に関わる法の意義を理解した上で、現代経済社会を支える企業（会社）の経済活動の根拠となり、かつそれを規制する法律としての民法・商法の基礎を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科目 全学共通教育	学びスキル・リテラシー 大学基礎セミナーⅠ	この授業は、大学における学修や研究を円滑に進めるために必要な基本的知識・技能や主体的な学修姿勢を身に付けることを目的とする。少人数グループで演習を行い、大学における授業・評価・単位について理解するとともに、さまざまな学術的テーマや内容に関するリーディング、ライティング、ノートテキング、インターネットによる情報収集、図書館における文献検索、レポート作成、プレゼンテーション等を通じて、基本的な学修方法を身に付ける。	
科目 全学共通教育	学びスキル・リテラシー 大学基礎セミナーⅡ	大学基礎セミナーⅠで身に付けたことがらを発展させ、情報を正確に読み取り、多角的に問い、自らの考えを適切に表現できる力とともに、多様な他者との協働して課題を解決する力を身に付ける。少人数グループによるPBL(Problem-Based Learning: 問題を基盤とした学修)を導入し、現実的で具体的な問題との出会い、解決すべき課題の発見、自己やグループでの行う知識の獲得、討論を通じた思考の深化、問題解決という過程を経た学びを実践する。	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー ICTリテラシーⅠ	本科目は、全学共通教育科目の学びスキル・リテラシーに区分される科目である。情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力 ・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力 ・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力 テキストとデジタル教材を併用し、以下にあげる内容の授業を行う。 ・インターネット等を使った情報検索 ・情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法 ・文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法 ・プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等	
全学共通教育教育科目	学びスキル・リテラシー ICTリテラシーⅡ	本科目は、全学共通教育科目の学びスキル・リテラシーに区分される科目である。情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力 ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力 テキストとデジタル教材を併用し、以下にあげる内容の授業を行う。 ・コンピュータを利用した数値分析の基礎 ・データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法 ・インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー 英語総合Ⅰ	英文で書かれた情報や考えなどを、多様な社会的・文化的・歴史的背景を踏まえて読み取る技能を高めるとともに、異なる文化に対する理解を深める。授業では、さまざまな分野の英文に触れることにより、語彙・語法・文法などに関する知識の積み上げを行うと同時に、文章の概要や要点を読み取る読解演習を行い、リーディングに必要な技能の向上を図る。また、読んだ内容について意見をまとめ、平易な英語を用いたグループ・ディスカッションを行うなど、書く・話す・聞く技能とも関連付け、読みの深化を図る活動を行う。	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー 英語総合Ⅱ	異文化や社会問題等について書かれたさまざまな英文を、語彙・文法・背景知識や、リーディングに必要な技能等、英語総合Ⅰで学んだことがらを駆使して読み、書き手の意図を正確に捉えることのできる力を養う。授業では、多読や速読を通じて、文章の構成やキーワードを意識して内容を把握する技能を高め、その定着を図る。さらに読んだ内容に対する意見をパラグラフの構成法に従ってまとめ、英語を用いたグループ・ディスカッションやプレゼンテーションを行い、読みの深化から書く・話す・聞く技能につながる活動を行う。	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー 英語総合Ⅲ	英語総合Ⅰ・Ⅱで学んだ英文を正確に読み取る知識・技能をさらに高めることに加え、批判的な読みのできる思考力・判断力と、意見を述べる表現力を養う。授業では、書かれた内容を分析して課題を把握し、問いを立て、多様な解の可能性を踏まえながら英文の理解を深める。このような批判的な読みを通じて自らの意見を組み立て、複数のパラグラフからなる英文で書くとともに、グループ・ディスカッションやプレゼンテーションの場で的確に英語で相手に伝える活動を行う。	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー 英語総合Ⅳ	英語総合Ⅰ～Ⅲで学んだことがらを踏まえ、学術的な英文を正確に読んで理解し、自らの意見を的確に表現できる力を養う。授業では、人文・社会・自然科学等の専門分野で用いられる用語や表現に対する理解を深め、内容の正確な把握と、批判的な読みを実践する。さらに読んだ英文の概要や、その内容に関する意見を英文でまとめ、プレゼンテーションを通じて発言の論理性を高める。また、複数のパラグラフを組み合わせたエッセイとしてまとめる活動を行う。	
全学共通教育科目	学びスキル・リテラシー 英語表現Ⅰ	さまざまな日常生活や社会的な場面を想定し、定型的・慣用的な表現が自由に使えるよう、スピーキング及びリスニング能力の基礎的なコミュニケーション能力の養成を目的とする。自然な速度で話される英語を聞き取りその内容を理解する力を伸ばすため、多様な素材を用いた十分なリスニング演習を行うとともに、基本的な英語を用いて自発的に表現できる能力の習得を目指す。この科目では、対話において、的確な内容理解に基づく受け答えをし、自らも問いを発するなど会話を発展させる演習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	英語表現Ⅱ	英語表現Ⅰで獲得した技能の発展を目指し、日常生活や社会的な場面における実用レベルのリスニング、スピーキング能力の養成を目的とする。自然な速度で話される英語を聞き取りその内容を理解することに加え、日常的、社会的な話題について、基本的な英語を用いて自発的に表現できる能力の習得を目指す。この科目では、対話において、十分な内容を伴う受け答えをし、グループ・ディスカッションやプレゼンテーションなどにおいて、適切かつ十分な自己表現ができることを目指した演習を行う。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	英語表現Ⅲ	ライティングによる発信を行うための、基礎的な文章作成能力を身につけることを目的とする。基本的な語彙や文法、文型、表現等を再認識しながら、幅広い分野における文章構成のルールを確認するとともに、メールの返事や簡単なビジネスレター、電話に対応した内容のメモ、ポストカードや手紙など、さまざまな英文を書く練習を行ない、発進力の向上を目指す。単に「書く」活動にとどまらず、考えをまとめたり、語彙を拡充したりするために「聞く」「話す」「読む」活動を取り入れ、総合的な英語表現能力を養う演習を行う。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	英語表現Ⅳ	英語表現Ⅲで獲得した技能の発展を目指し、実用レベルの文章作成能力を身につけることを目的とする。情報や意見を明確に伝えるため、パラグラフ・レベルにおける論理的な文章作成法や、複数のパラグラフからなるエッセイの技法を学ぶ。さらに学術的な分野における文章構成のルールを確認し、英文による研究成果発表の素地を養う。伝えるべき情報や意見をまとめたり、的確に伝える表現方法を学んだりするために「聞く」「話す」「読む」活動も取り入れ、総合的な英語表現能力を養う演習を行う。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	中国語Ⅰ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 中国語の基本的な文法を学び、初歩的な読解力を養成するとともに、簡単な会話ができる能力を養成する。 【授業の内容】 発音の練習、単語の音・意味・漢字表記とを結びつけた練習をするとともに、簡単な会話文を用いて、基本的な語彙・語法の習得を目指す。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	中国語Ⅱ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 中国語の基本的な文法を学び、初歩的な読解力を養成するとともに、簡単な会話ができる能力を養成する。 【授業の内容】 発音の練習、単語の音・意味・漢字表記とを結びつけた練習をするとともに、簡単な会話文を用いて基本的な語彙・語法、及び文法面での基礎の習得を目指す。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	韓国語Ⅰ	はじめに韓国語を学ぶ学生を対象として、基礎文法の習得に重点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」ための基礎力を養うことを目標とする。本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられる。本授業では「ハングル能力検定試験」の5級に含まれる語彙や表現の一部を使い、基礎文法を学修すると同時に、韓国文化関連CMや歌、視聴覚教材を取り入れ、聞き取りの練習や簡単な会話文の音読や書く練習を行ない、聞く・読む・話す・書くための基礎力を養い、韓国語運用能力を高めていく。合わせて、言語を通して、韓国社会や韓国文化に対する理解を深めていく。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰで学んだ語彙や文法表現などを踏まえながら、初級レベルの韓国語の基礎的な語彙や文型、文法の知識を固めると同時に「ハングル能力検定試験」の5級のレベルに至る韓国語運用能力を身に付けることを目標とする。本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられる。授業では、教科書だけではなく、日常生活における様々なテーマを取り上げ書く練習や話す練習を行い、より実践的な韓国語を駆使できるように学修する。また、韓国文化関連DVDや視聴覚教材を取り入れ、韓国の社会文化についての理解を図る。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	ドイツ語Ⅰ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】：ドイツ語の単語や簡単な文を発音できる。冠詞や名詞などについて「性・数・格」を判断できる。現在形で書かれた簡単な文を和訳できる。本科目は、「全学共通教育科目」の「学びスキル・リテラシー」の一つである。【授業の内容】：ドイツ語のアルファベットを覚え、文字や単語の発音、動詞の人称変化、名詞の格変化、人称代名詞、前置詞、名詞の複数形、所有冠詞、形容詞、簡単な挨拶表現などを学ぶ。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	ドイツ語Ⅱ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】：ドイツ語の文章を発音できる。辞書を使ってドイツ語の文章を和訳できる。簡単な独作文ができる。本科目は、「全学共通教育科目」の「学びスキル・リテラシー」の一つである。【授業の内容】：数字、命令文、再帰動詞、複合動詞（分離動詞・非分離動詞）、語法の助動詞、動詞の三基本形、現在完了形、受動文、関係文、接続法、比較表現、zu不定詞句、よく使われる簡単な日常会話表現などを学ぶ。	
全学共通教育科目 学びスキル・リテラシー	アカデミック日本語Ⅰ	この科目は全学共通科目における学びスキル・リテラシー科目の一つとして、履修者が各学部における専門科目を学修するにあたって必要となるアカデミック日本語の基礎を学ぶ。主な内容は、大学での学修活動に必要な語彙や表現を身に付けるとともに、大学での学修活動に必要な場面（レポートを書く、プレゼンテーションをする、指導教員に向けてメールを書く等）での表現力を高める。さらに、プレゼンテーションでは、自らの発表を分かりやすく伝える方法を身に付けるだけではなく、他者の発表を理解し、その場で公的に質問を行えるように演習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通 教育 科目	学び スキル・ リテ ラシー	アカデミック日本語Ⅱ	この科目は全学共通科目における学びスキル・リテラシー科目の一つとして、「アカデミック日本語Ⅰ」で培った言語力を土台にし、履修者が各学部における専門科目を学修するにあたって必要となるアカデミック日本語の基礎を学ぶ。主な内容は、大学での学修活動に必要な語彙や表現を身に付けるとともに、大学での学修活動に必要な場面（レポートを書く、プレゼンテーションをする、指導教員に向けてメールを書く等）での表現力をさらに高める。特に、レポート、スライドの作成において必要となる日本語を、話し言葉と区別し、場面に適切な表現を用いることができることを重視する。
全学 共通 教育 科目	学び スキル・ リテラ シー	スポーツ実技Ⅰ	この科目では、生涯にわたって運動・スポーツに携わる上で必要となる基本的知識、技能、態度を身につけることを目標とする。 この科目は、大学で学ぶ基礎・基盤として、全学共通教育科目「学びスキル・リテラシー」に区分されている。 授業の内容として、他者とコミュニケーションを取りながら主体的に運動・スポーツを実践するとともに、バレーボール、フットサル、バドミントンといった様々なスポーツ種目の特性や技術・戦術を修得する。授業は、他者と協働しながら、6名ほどのグループ毎に技能習得の目標と練習メニューの考案、実践および評価を行い、これにより主体的に運動・スポーツに携わる態度を身につける。
全学 共通 教育 科目	学び スキル・ リテラ シー	スポーツ実技Ⅱ	この科目では、自ら運動プログラムを作成・実践し、生涯スポーツ・健康づくりに必要となる知識・技能を習得することを目標とする。 この科目は、大学で学ぶ基礎・基盤として、全学共通教育科目「学びスキル・リテラシー」に区分されている。 授業内容として、体力評価テストによって自身の体力の現状を知り、目標ならびに運動プログラム（有酸素性運動および筋力トレーニング）を作成・実践し、その効果を自身で把握する。健康づくりに必要な運動トレーニングとは何かを学んだ後、ウォーキングやジョギング、スポーツ種目を行った際の運動強度について心拍数を用いて評価する。さらに、半期に渡る運動の継続が、自身の体力にどのような影響を及ぼすのか実践を通して理解する。
全学 共通 教育 科目	学び スキル・ リテラ シー	保健体育理論	この科目では、運動・スポーツと健康との関係について理解し、生涯に渡って運動・スポーツを実施するために必要となる基本的な知識や技能を修得することを目標とする。 この科目は、大学で学ぶ基礎・基盤として、全学共通教育科目「学びスキル・リテラシー」に区分されている。 授業前半は、「健康と運動」について、日本人の健康状態や運動・スポーツと健康との関わり、さらに運動・スポーツの継続に必要な環境や取り組みについて理解する。授業後半は、「運動時の身体のしくみ」について、運動による身体の変化や適応、さらにそれら身体的変化と健康との関わりを理解する。加えて、「運動・トレーニングの実際」について、実習を交えながら、運動を実施する上で必要となる基本的な技能（適切なウォーミングアップ、ストレッチ、クールダウンの方法および目的に応じた運動トレーニングの種類や方法の選択）を身につける。
全学 共通 教育 科目	学 際 知	哲学	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】：哲学の特質と基本問題を理解し、その要点を記述できる。さまざまな哲学的問題について、つねに複数の視点を保ちながら多角的に検討することができる。個々の哲学的問題の解決方法について、分析的・論理的に自分なりの考えを文章にすることができる。本科目は、「全学共通教育科目」の「学際知」の一つである。【授業の内容】：「philosophia」「科学」「因果」「心」「身体」「他者」「自由」「正しさ」「功利主義」「定言命法」「知覚」「知識」といったトピックについて、テキストを読み、議論構成の把握に努めながら、哲学的な考え方を学ぶ。
全学 共通 教育 科目	学 際 知	文学	本科目は、全学共通科目のうち学際知に区分されている。本科目は、まず、履修学生が文学作品を鑑賞することを楽しむこと、そして、文学に関する基本的な概念、基礎的内容を理解することを目標とする。 現代日本の社会状況に深く根ざし、時代の推移と社会の変貌につれ、その時々課題に取り組んできた、時代を捉える指標になると思われる作品をテキストとし、現在の我々を考える上で必須の、ジェンダー、仕事と家庭、グローバル化などの問題がどのように表象されているかを読み取っていく。そして、それらの表象がその時々読者にどのように理解されてきたのかを考察する。それを通じて、自らがどのような時代の変化を内包した現在の状況の中で生きているのかを理解し、その中で生き方を確立していくための問題提起と手がかりとする。
全学 共通 教育 科目	学 際 知	芸術	本授業は、映画を中心に、現代の視覚芸術を取り巻く新しい状況に関する知識と方法論を修得するとともに、映像学の基本発想を学び、現代社会において視覚芸術と共存していくための素養を身に付けることを目標としている。 かつては、映画は映画館でしか見ることができなかったが、現在ではスマートフォンなどを通じて、好きな映画をいつでも見ることができる。また、撮影・編集機材の普及によって、映画の制作も身近になった。そうした背景から、本授業では次の内容で構成する。第1段階は映画史の理解である。初期映画から現代の映画に至るまでの流れを概観する。第2段階は映画理論の理解である。映画のフォーマットや映画表現の構成要素などについて説明を加え、理解を深める。第3段階ではいくつかの作品の研究を通じて映画の見方を解説する。また、スマートフォンの動画撮影機能を用いた超短編映画の能動的な制作演習を実施する。

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	学際知 心理学	私たちは自分の心の働きについて、ある程度までは自分で知ることが可能である。このような経験に基づいた心理学的知識を「素朴心理学」の知識という。問題なのは、この「素朴心理学」の知識と「学問としての心理学」の知識にしばしば大きな隔りがあることである。本科目では、「学問としての心理学」の全般的な内容について学ぶ。そして、素朴心理学に基づいた、心理学に対する誤解を解き、学問としての心理学を生活の中で役に立つような知識として身につけることを目標とする。この科目は、心理学についてこれまで学習していない学生を対象としており、「全学共通教育科目」の「学祭知」に位置づけられる。	
全学共通教育科目	学際知 社会学	【授業の目標】①社会学における基本的な概念や考え方を習得する。②「私」、友人関係、家族などの身近な関係性や出来事について、社会的に考える力を身につける。【カリキュラム上の位置づけ】この授業は、「全学共通教育科目」の「学際知」に位置づけられる。【授業の内容】①友人関係や家族などの社会関係について講義していく。②統計的差別の問題などの社会問題について、具体的な事例を提示しながら、講義を進めていく。	
全学共通教育科目	学際知 歴史学	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】この科目は全学共通教育科目の学際知に位置づけられており、歴史を動かしてきた科学・技術に焦点を当て、それらに突き動かされる歴史のダイナミズムを検討する。本科目の目標は、まず歴史学の考え方に基づいて歴史の中での科学・技術の役割を分析する思考力を身につけること、その上で科学・技術が人類の歴史と分かち難く結びついてきた有り様を理解することである。 【授業の内容】人類の歴史を動かしてきた科学や技術について、「時空を把握する」「生命を手懐ける」「認識を共有する」という3つのテーマから検討を加える。これらのテーマはいずれも近代以降の「国民国家」形成につながるものであることを確認するために、取り扱う時代としては、16～19世紀のいわゆる「近世」に重点を置くものとする。また、ヨーロッパで発展した現代科学を相対化する立場から、対象地域は基本的にアジアとする。	
全学共通教育科目	学際知 倫理学	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】：倫理学の基本問題（とりわけ生命倫理や環境倫理の諸問題）を理解し、その要点を記述できる。さまざまな倫理的問題について、つねに複数の視点を保ちながら多角的に検討することができる。個々の倫理的問題の解決方法について、分析的・論理的に自分なりの考えを文章にすることができる。本科目は、「全学共通教育科目」の「学際知」の一つである。【授業の内容】：「文化相対主義」「徳」「快楽」「幸福」「善悪」「正不正」「帰結主義」「義務論」「生殖補助医療」「エンハンスメント」「動物の権利」「安楽死」「環境汚染」といったトピックについて、テキストを読み、議論構成の把握に努めながら、倫理的問題を考える。	
全学共通教育科目	学際知 経済学	経済学概念を利用し、経済学的思考ができることを目指す。経済、経営、社会の仕組みに関する基本的知識を学ぶとともに、社会人としての教養を醸成する科目でもある。本講義では、経済学の基本的な概念（希少性、機会費用、サンクコストなど）について、身近な事例を取り上げながら、わかりやすく説明する。座学を中心とした静的授業だけでなく、動的授業を取り入れながら、経済学的思考を実践する。	
全学共通教育科目	学際知 科学史	今日の科学の諸領域は、過去に遡ると生きるための技術の開発を出発点とし、科学・技術と人間の生活は密接に関わりながら発展してきた。例えば人類にとって最古の産業といえる農業は、その歴史の中で、より多くの食料を生産するための技術の発達が求められた。近現代において科学と技術が大きく進歩し、農業の生産性向上によってより多くの人口を養うことが可能となった。それと同時に、農業以外の産業と文化の発展、社会の変化をみることになる。この講義では、産業革命期（17世紀後半）以降の科学と技術が産業をどのように変化させ、それが私たちの生活に影響を及ぼしたかを理解する。	
全学共通教育科目	学際知 生命倫理	現代の保健医療福祉分野における倫理的問題を理解するための知識を習得し、自立的に倫理的問題を分析し、とり得る行動の選択肢を考える機会を提供する。専門的実践の場で遭遇する倫理的問題を敏感に感じ取り、よりよい行動を志向する態度を育成する。生殖操作、遺伝子治療、臓器移植、終末期医療などの今日生命倫理の問題について論じる。倫理的問題を理解するための倫理原理や理論について教授し、比較的身近な事例を通して倫理的思考を経験する。自らの価値観と他者の価値観に気づき、ディスカッションを通して自らの認識の深まりを経験する。	
全学共通教育科目	学際知 基礎数学	この科目は全学共通科目における学際知科目の一つとして、履修者が各学部における専門科目を学修するにあたって必要となる線形代数の基礎を学ぶ。主な内容は、ベクトル・行列を定義し、基本的な数学的性質を確認し、基本演算、行列の階数、行列の基本変形、連立1次方程式の解法、行列式、対角化の習得である。本講義を通じて、履修者がこれまで学修したスカラー演算と同様にベクトル・行列演算を身につけることを目標とする。随時、演習や小テストを行い、履修者の理解を深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通 教育 科目	学際知	統計入門	この科目は全学共通科目における学際知科目の一つとして、履修者が各学部における専門科目を学修するにあたって必要となる統計的な考え方の基礎を学ぶ。主な内容は、数値や記号の羅列に過ぎないデータから有用な情報を取り出し要約すること、他者に分かりやすく説明することを目的とした「記述統計学」、一部の調査から調査対象全体の特徴を予想することを目的とした「推測統計学」である。本講義を通じて、データから得られた情報を客観的根拠とした意志決定プロセスの基本的な考え方を理解することを目標とする。随時、演習や小テストを行い、履修者の理解を深めていく。
全学 共通 教育 科目	学際知	家族社会学	家族はどのように変化し、それらの変化はどのような要因から生み出されているのだろうか。この授業では、まず、歴史社会的な視点にたつて、家族をめぐる概念の変遷について学ぶ。そして、質的研究の知見を紹介しながら、私たちが当たり前と思っている「家族」像が歴史的社会的に形成されてきたことへの理解を促す。さらに、家族と家族を取り囲む社会や制度のありかたについて、量的なデータを用いたり、外国（他の社会）との比較を行ったりすることで、家族を比較社会的に捉える方法を学ぶ。以上を通じて、家族問題について多角的な視点から理解する力を身に付けることが授業の目的である。
全学 共通 教育 科目	学際知	文化人類学	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】</p> <p>文化は人間が物事を認識し、行動する基準の体系であるが、文化は時に「常識」という形でマイノリティを抑圧する道具になることもある。その点について世界の生活習慣の多様性から学生が理解し、より良い社会の構築に寄与する思考を身につけることを目標とする。具体的には、①日本とは異なる文化のありようを知る、②異文化の習慣の背景を理解する、③異文化理解の基本的ありかたを深める、④私たちの常識が持つ問題点をマイノリティの観点から指摘できるようにする。</p> <p>【授業の内容】</p> <p>文化とは何か、文化を調べる手法としてのフィールドワークという文化人類学の基本的知識を説明し、セクシャリティ、ジェンダー、多様な婚姻と家族、現代社会の民族について解説する。これらの授業内容を通じて、学生は自文化中心主義の問題点を理解し、文化相対主義的思考を身につける。</p>
全学 共通 教育 科目	学際知	日本国憲法	<p>【目標】</p> <p>知識・技能の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的人権の内容を説明できる。 2 権力分立の意義と統治構造を説明できる。 <p>思考・判断・表現の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代の社会問題を憲法と関連づけて考察することができる。 2 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。 <p>主体性・協働性の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。 2 他者と協働して課題に取り組むことができる。 <p>【内容】</p> <p>この授業では、憲法の核である人権保障と統治機構の概要を習得し、現代社会が直面している憲法問題を考察する法的思考能力の一端を養うことを目指す。授業のおおまかな内容は、憲法を支える立憲主義の思想の歴史的展開を概観し、次いで日本国憲法が規定する基本的人権の具体的内容と統治機構について解説する。</p>
全学 共通 教育 科目	学際知	法学	<p>【目標】</p> <p>知識・技能の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法とは何か、現代社会における法や裁判の役割を説明できる。 2 刑法や民法の基本的な考え方を説明できる。 <p>思考・判断・表現の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代の社会問題を法と関連づけて考察することができる。 2 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。 <p>主体性・協働性の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。 2 他者と協働して課題に取り組むことができる。 <p>【内容】</p> <p>この授業では、まず、法とは何か、法の役割や用い方を明らかにする。これらは法を学ぶ上での基本的な知識である。次いで民法や刑法など、市民生活と特に密接に結びついた法の概要について解説する。具体的には、①犯罪と刑罰に関するルール、②家族生活に関するルールなどを取り上げる。</p>
全学 共通 教育 科目	学際知	食と健康	本科目は、高校までで学んだ化学の知識をより掘り下げて、「食」に関する講義を「健康」と関連づけて展開し、大学における研究活動に必要な化学的知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実を目的とし、初年次学生を想定して、模擬実験や測定機器を直接表示等、対面授業で理解を深める。身の回りにあふれる健康を志向した風潮と食と化学を結びつけた事例を紹介しながら、化学への興味・関心を高め、化学の役割を理解し、化学的な思考ができるようになることを目指す。

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	学際知 いのちと科学	<p>バイオテクノロジーは、日進月歩で急速に進展し、ともすれば社会の受け入れが追いつかないという状況にある。現代人は、バイオテクノロジーの恩恵を受け、かつ、一方でそのリスクと隣り合わせでもある。現代に生きる我々にとり避けては通れないほどその技術が浸透している。これら技術が関わる生命現象の基本について学び、これら技術が関わる領域、すなわち、食と健康、生活習慣病、がん、感染症や、さらに、地球環境問題について幅広く理解し、「いのち」にどのように科学が関わっているかを考えることを目標としている。カリキュラム上では、全学生に必要とされる教養科目として、また理系学生の基礎科目として位置付けられる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (63 入船 浩平 2／15回) バイオテクノロジーの基本技術について概説し、ヒトの社会生活の営みとの関わりから始まって、近代・現代の先端的話題まで講義する。</p> <p>(64 五味 正志 3／15回) 地球環境問題に関して、生物と環境との関係から講義する。</p> <p>(76 長尾 則男 3／15回) 特に、動物やヒトにおけるバイオテクノロジーについて講義する。</p> <p>(55 岡田 玄也 3／15回) 食と健康、加齢や老化について講義する。</p> <p>(27 北台 靖彦 3／15回) 病(生活習慣病、炎症やがん)と健康について講義する</p> <p>(83 加藤 洋司 2／15回) 細胞のメカニズムや遺伝現象などに焦点をあて分子メカニズムの観点から講義する。</p>	オムニバス方式
全学共通教育科目	学際知 環境と科学	<p>今後の持続可能な社会に貢献する理系学生が、知っておくべき下記の環境科学の内容について説明できることを本講義の目的とする。 大気環境(地球環境とのかかわり・汚染の循環・大気汚染問題・汚染物質除去技術) 水環境(地球環境とのかかわり汚染の循環・水質汚濁問題・汚染物質除去技術) 土壌環境(土壌汚染の実態・調査と対策) 環境中の化学物質(生物に及ぼす影響・毒性化学物質) 廃棄と循環(処理・循環型社会)</p>	
全学共通教育科目	学際知 生活に役立つ力学	<p>物理学は自然科学の基礎であり、私たちの生活の様々な場面で役立っている。本授業では、物理学の中で基盤となる力学について、身近な事例を通して深く理解することを目的とする。ニュートン力学、流体力学、熱力学、電磁気力をもとに、人間の体の動きについて、大気圧や水圧について、川や地盤内の水の流れについて、冷房・暖房の仕組み、発電について等を、関連分野の知識とともに理解する。本授業によって、複雑な事象であっても、要因を分けて理解する柔軟な思考力が身に付く。</p>	
全学共通教育科目	学際知 地域社会と言語	<p>【授業の目標】①フィールドワークの経験を通して、積極的に現場に出て、自ら情報を収集しようとする態度を身に付ける。②フィールドワークによって得られた言語データを、整理し、分析し、効果的な方法で提示(プレゼンテーション)できるようになる。【カリキュラム上の位置づけ】この科目は、言語学についてこれまで学習していない学生を対象にしており、「全学共通教育科目」の「学際知」に位置づけられる。【授業の内容】街の言語景観についての調査に基づき、多文化共生社会において求められる言語標識や公共サイン、石碑・記念碑等について考察し、発表する。</p>	
全学共通教育科目	論理思考表現 アカデミック・ライティング	<p>学修や研究の成果を発表するために作成するレポートやレジュメ、卒業論文や研究学術論文などの学術的な文書を書く技術や行為、または書いた物のことをアカデミック・ライティングと呼ぶ。この授業では、その基本的な技法、いわゆる「論文作法」の基礎を学ぶことを目的とする。情報を整理してまとめ、論理的に主張を展開するための手順や方法とともに、参照した文献を正しく引用し、他者の意見と自らの意見とを明確に区別して述べる方法などを学ぶ。</p>	
全学共通教育科目	論理思考表現 クリティカル・シンキング	<p>クリティカル・シンキング(批判的思考)とは、情報を収集して理解したり、自身の主張を構成して発表したりする際、根拠にもとづいて論理的・合理的に思考し、適切な結論や判断を導く思考過程を指す。この授業では、大学での学問はもちろん、あらゆる生活の場面で重要とされる批判的思考力の向上を目指す。自ら入手したり他者から与えられたりした情報を鵜呑みにするのではなく、さまざまな問いを発しながらその情報を批判的に吟味し、情報を取捨選択して自らの言動を決定するにいたる思考法を身に付ける演習を行う。</p>	
全学共通教育科目	論理思考表現 プレゼンテーション演習	<p>プレゼンテーションに求められる論理的な思考や伝達技術の基礎を学び、設定したテーマのプレゼンテーションを実際に組み立て、実演し、表現力の向上を目指す。授業では、プレゼンテーションの構成法やスライドを作成するソフトウェアの操作法、効果的な発表を実現する技法(発声法やアイコンタクト等を含む)について理解を深めるとともに、各自の設定したテーマに関するプレゼンテーションを学生相互で吟味しあう演習を行い、実践力を身に付ける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目 地域課題	ひろしま理解	全学共通教育科目の地域課題に位置づける科目である。地域への理解を深めるための導入に位置する科目として、最も身近な地域である広島県域を理解するための、初歩的・基礎的事項を学修する。 具体的には、この地域の歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、解決に取り組むための基礎的知識の修得をめざす。必要に応じ、現地見学などのフィールドワークを実施する。	
全学共通教育科目 地域課題	国際社会の理解	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 現在、地域社会で働く外国人、地域での外国人観光客の受入、地域産品の国外展開など、ローカルのグローバル化は地域の重要な課題である。これらの地域での課題を発見し、理解し、対応するため、国際社会に関する基礎的知識を学生が身につけることを目標とする。具体的には①地域社会にみる国際化の現状を理解する、②地域社会の多文化共生の実状と課題を把握する、③主要な関係国の基礎的状況を知る、④地域社会の諸課題を解決する方策を他国から学ぶ視点を持つことができるようにする。 【授業の内容】 人口減など日本の構造的変化、過疎化と高齢化する地域社会などの地域社会の国際化の背景を説明し、学生が観光、労働、ビジネスの現場における外国人の地域社会への貢献と摩擦を見出すようにする。そのため地域社会と関係が深い諸外国の基礎的情報を学生自身で集めさせ、学生の地域の国際化への関心を高める。	
全学共通教育科目 地域課題	地域情報発信論	本講義では、地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び、地域に密着した課題について取材、記事の編集、発信に至る一連の流れを体験することを通じて、地域情報の発信力を身につけることを目的とする。具体的には、新聞で報じられた地域の情報を素材として、新聞の読み方、取材対象の見方、記事作成の手法を学ぶとともに、新聞情報の分析を通じて地域の諸課題を掘り下げていく。その上で、課題を設定し、現地へ出向いて取材し、意見交換を経て記事をまとめるなど、地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに、グループで課題解決への提案をまとめ、ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。	
全学共通教育科目 地域課題	地域教養ゼミナールA	広島県内の特定地域に絞ったテーマを設定し、小集団形式で調査や討議、発表を行うことを通じて、各地域固有の課題を発見し解決へ向けて踏み出す力を養う。授業では様々な文献やメディアから情報を集め、テキストを批判的に読み、対話を通じて理解を深める。テーマに関する実地見学や体験を行い、自らの考えを深めて発信する。想定されるテーマとしては、具体的な地域の特性を活かした観光や産業振興、特産品の開発のほか、特色ある歴史や言語、環境や生態系などが考えられる。地域に密着したテーマを掘り下げて学ぶことにより、課題発見、解決、発信能力を身に付ける。	
全学共通教育科目 地域課題	地域教養ゼミナールB	広島県全域にわたるテーマを設定し、小集団形式で調査や討議、発表を行うことを通じて、広島県の課題を発見して解決へ向けて踏み出す力を養う。授業では様々な文献やメディアから情報を集め、テキストを批判的に読み、対話を通じて理解を深める。テーマに関する実地見学や体験を行い、自らの考えを深めて発信する。想定されるテーマとしては、広く県内全域にわたる防災、医療、福祉、教育、行政などが考えられる。テーマに応じて各界との連携をはかり、多様な学びを実践する。	
全学共通教育科目 キャリア開発	キャリアビジョン (デベロップメント)	本科目の目標は、社会や職場で必要となる基礎的・汎用的能力の重要性について認識し、必要なスキルや有用な手法について理解したうえで、能力を高める方法を知ることである。基礎的・汎用的能力には、コミュニケーション力を含む対人関係のスキル、課題発見・問題解決力、ストレスへの対処などの能力が含まれる。この科目では、まず、社会や職場で求められる基礎的・汎用的能力とその重要性について説明し、有用なスキルや手法について具体的に示し、理解を深めるための演習を実施する。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通 教育 科目	キャリア 開発	ライフデザイン	オムニバス方式
		<p>【目標】 知識・技能の観点 1 リプロダクティブヘルス、金融、労働法の基本的内容を理解している。 2 リプロダクティブヘルス、金融、労働法の知識を実生活に応用できる。 思考・判断・表現の観点 1 実生活で直面する課題を、多面的かつ論理的に考察することができる。 2 他者の声に真摯に耳を傾けつつ、集団の中で多様な自己表現ができる。 主体性・協働性の観点 1 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。 2 他者と協働して積極的に課題に取り組むことができる。</p> <p>【内容】 本科目は、将来のライフデザインを描く上で重要となる①リプロダクティブヘルス、②金融、③労働法について学ぶ。グループディスカッションやプレゼンテーションなど協働参加型の学修を積極的に活用する。 オムニバス科目</p> <p>(67 日高陵好 5 / 15回) 「リプロダクティブヘルス」</p> <p>(17 村上恵子 5 / 15回) 「資産運用論」</p> <p>(71 岡田高嘉 5 / 15回) 「労働法」</p>	
全学 共通 教育 科目	キャリア 開発	ボランティア	
		<p>社会や人に関心のある社会人としての感性を磨き、将来積極的に社会貢献に参加し続けることができることを授業の目的としている。また、社会福祉分野でボランティア活動を行い社会福祉の課題を実践的に学ぶことで、社会福祉の対象者を理解し、福祉マインドを備えた社会人となることも目的としている。授業の内容は、(1) ボランティア活動とボランティアとして関わる社会福祉の対象者に関する基礎的な内容の理解を担当教員の講義・演習とボランティア活動の実践者による講義、(2) 受講生のボランティア活動の実習、(3) 担当教員による演習でのボランティア活動の振り返り、が主な内容である。</p>	
全学 共通 教育 科目	キャリア 開発	インターンシップ	
		<p>本科目の目標は、多様な職場や職業に対する関心を持ち、就業体験を通して自身の志や将来の進路・職業選択について深く考えることである。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、プレゼンテーション講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成することにより、あらためて就業体験の振り返りを行う。</p>	
全学 共通 教育 科目	キャリア 開発	リーダー論	
		<p>本科目の目標は、社会や職場で必要となるリーダーシップについて理解し、その重要性について理解することである。職場や社会においてチームのメンバーが協働して仕事を進める場面では、リーダーシップは必要不可欠なものである。そして、キャリア形成という視点でみると、求められる役割に応じて段階的にリーダーシップを身につける必要がある。この科目では、リーダーシップの6つのタイプとそれぞれの特徴について説明する。そのうえで、リーダーシップに必要なことを具体的に示す。その中でも重要となる傾聴的なコミュニケーションや、問題解決に有効なソリューション・フォーカス・アプローチについては、演習を実施しながら詳細な解説を行う。</p>	
全学 共通 教育 科目	ダイバー シティ	多様性理解 (ジェンダー 論)	
		<p>「多様性」は、誰もがその存在を肯定されて生きる社会を作るための重要概念である。性自認や性指向は、人格や尊厳と結びついており、基本的人権として保障されなければならない。しかしながら、日本社会ではその理解が未だ十分に浸透しておらず、そのためLGBT当事者が必要な医療を受けられずに健康を害したり、家族を形成するといった幸福追求権が奪われていたりする現状がある。この授業では、ジェンダーおよびセクシュアリティの多様性についての理論的な知見や具体的な事例を学んでいくことで、専門職として必要な多様性理解を深め、その実践力を高める。</p>	
全学 共通 教育 科目	ダイバー シティ	人間関係論	
		<p>本講義は、人間が生活していく上で、人間関係や対人関係がなぜ大事なのか理論的に理解することを目的とする。さらに、それに関わる心理社会的要因を学び、日常生活において人間関係を円滑に結ぶためのポイントを習得するとともに、集団活動や協働作業により主体的に関わるようになることを目指す。授業では個人と社会の関係性に関する様々な意識のあり方を解説し、対人関係を規定している印象形成の心理的要因を詳しく解説する。また、個々人が他者の内面性を推測する際に働く社会的認知のメカニズムを最近の若者の対人態度の特徴を引き合いに出しながら解説する。最後に、円滑な人間関係を結ぶためのポイントを社会的スキルの視点から解説する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	ダイバーシティ 人権論	<p>【目標】 知識・技能の観点 1 多種多様な人権問題の概要、発生原因を説明できる。 2 人権問題の解決策を指摘することができる。</p> <p>思考・判断・表現の観点 1 現代の人権問題を多角的かつ冷静に考察することができる。 2 直観に頼らず、論理的な思考を用いて説得力ある論述ができる。</p> <p>主体性・協働性の観点 1 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。 2 他者と協働して課題に取り組むことができる。</p> <p>【内容】 人権思想の歴史、その発展過程を踏まえ、今日、我々に保障される自由・人権の内容を概観する。その上で、日本の社会における人権問題を考察する。また、人権の尊重は、全人類にとって最重要課題の1つであるから、外国で起こっている人権問題にも目を向ける必要がある。したがって、外国の人権問題についても、日本との関係を意識しつつ、適宜取り扱っていく。</p>	
全学共通教育科目	ダイバーシティ 世界の宗教	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 学生が他者の宗教に配慮し、文化的背景が異なる人々と協働ができる教養と能力の獲得を目的に多様な宗教と現代社会の在り方について理解できることを目標とする。知識・技能の点では、①宗教の機能を知る、②多様な宗教の基本的事項を理解する、③現代社会と宗教の関わりを考える知識を身につけることを目的とする。</p> <p>【授業の内容】 日本では社会と対立する宗教という印象も強く、無宗教と考える人々も多い。授業では、日本社会における身近な宗教行為、複雑化する現代社会にみる宗教の意義、近代の始まりと宗教、国家と宗教（国家統合としての宗教や国家権力と対峙する宗教）、宗教と文明対立、宗教とジェンダーという観点からキリスト教、仏教、イスラム教の世界三大宗教に加え、チベット教やヒンドゥー教、神道、新興宗教などについて論じる。</p>	
全学共通教育科目	ダイバーシティ 世界の言語と文化	<p>本科目は、教育課程上「学びスキル・リテラシー」科目として開講されていない複数の言語について、その成り立ちや仕組みを学ぶとともに当該言語の背景にある多様な暮らしぶりやものの見方・考え方に触れ、世界に暮らすさまざまな文化を持つ人々と分け隔てなく交流できる素地を身に付けることを目的とする。1言語について4時間程度の演習が設定される。これを通じて各言語に関する知識・技能を習得し、あわせて設定された課題に基づき言語と関わりのある文化について知見を広める。また、受講者間の議論を通じ異文化交流のあり方や進め方について理解を深める。</p>	
全学共通教育科目	ダイバーシティ 海外研修	<p>本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる。海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し、その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合、この科目で単位を認定する。海外で、語学研修やその他の活動に自主的に参加した後、所定の書類と研修や活動に関する報告（A4用紙1～2枚、1200字以上）を提出し、その内容が、90時間の学修（2単位分）に相当すると判断されれば、単位を認定する。研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については、各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めること。</p>	
全学共通教育科目	入門演習 英語入門演習	<p>日常の意思疎通に不可欠な語彙、文法、発音の知識と技能を高めるとともに、大学での学びに必要なとされる英語4技能（聞く、話す、読む、書く）の基本を学ぶ。授業ではまず英語のインプット量を増やすことを目指し、平易な英語で書かれた文章の多読とともに、基礎的なリスニング練習を繰り返す。さらに発音、音読練習を徹底的に行い、英語に対する苦手意識を克服する。</p>	
全学共通教育科目	入門演習 数学入門演習	<p>大学における幅広い学修に必要なとされる数学的知識を正しく理解するために、代数学、解析学、幾何学、確率論といった数学の基礎的内容を学修し、実際の問題を解くことでそれら能力や思考方法も身に付ける。生活や社会における数学の活用・理解から、専門的な数学用語や記号についても学び、学士課程における専門科目を学修・理解する上で必要な基礎計算力及び論理思考能力を身に付ける。</p>	
全学共通教育科目	入門演習 国語入門演習	<p>現代日本語で書かれた文章や名作古典を読むことからはじめ、さまざまなテーマの文章や作品に興味関心を持つことで、自分の考えを深めたり、文章の構成や展開に注意して述べられている論旨を正確に読解する力を身に付ける。また、修辭的表現や、比喩等の表現方法を理解して、描かれた世界観を味わうとともに、論理的かつ適切な文章表現力や言語能力、文章作成能力を身に付ける。授業の中では、精読した文章についてグループ等でのディスカッションを行うことで、他者との討論力を身に付ける。</p>	
全学共通教育科目	入門演習 社会入門演習	<p>幅広い教養と、高度な専門性を身に付けるために必要となる基本的な知識として、過去から現在にいたるまでの歴史的事象、世界各地の文化的背景や地理的關係など、幅広く学んでいく。また、我々が生きる現代社会において用いられている法律や社会的概念、実際に起きた社会的現象、経済の仕組みやその動向などにも触れることで、自分を含めた人と社会の関わりを身近なものとして理解し、様々な社会現象に関する知識を得る。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育 入門演習	生物入門演習	高等学校までに学んだ下記の内容を振り返りながら、生物・細胞の働きや構造といった知識、遺伝子についての仕組みとDNA研究に関する歴史等について、幅広く学ぶ。 テーマ) 生体物質、細胞、代謝、遺伝情報、発生・分化、反応と調節、生態、進化ほか	
全学共通教育 入門演習	物理入門演習	入学後に広く理系分野を学ぶ学生だけでなく、文系学生であっても必要となる物理学の基礎知識、基礎的概念について学ぶ。生活の中での関わりを意識し、自然科学的な考え方を身に付ける。 テーマ) 運動、力学の基礎法則、エネルギー、運動、剛体、振動、電荷、電流、電位、磁場、電磁誘導、電磁波など	
全学共通教育 入門演習	化学入門演習	理系系の学部学科コースのみならず、文系の在学者も対象として、化学の基本的な知識について、広く学ぶ。また、化学を学ぶことの意義を明確に意識するため、化学の知識が日常の場面でどのように役立っているかを明らかにしつつ、化学のおもしろさを掘り下げて理解する。 テーマ) 物質の構成・構造・状態、変化と化学反応、無機物質、有機化合物、光など	
専門教育科目 学部学科共通科目	多文化共生入門Ⅰ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 多文化共生コアユニットにおける学びの具体的なイメージを把握する。個々の専門領域についての基本的な前提と、専門領域相互の関連性について理解する。それらの理解を通じて、自らの適性と問題関心について自覚し、今後の履修方針と専門領域の適切な選択を行う能力を身につける。 【授業の内容】 「異文化との接触」という共通テーマに対して、複数の教員の専門領域からアプローチしてゆく授業である。様々な視点からの講義を受講しながら、多文化共生コアユニット専門科目の多様性と、それらの相互の関連性を理解し、自身の興味や関心の方向性を探る手がかりとする。	共同
専門教育科目 学部学科共通科目	多文化共生入門Ⅱ	【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 「多文化共生入門Ⅰ」に引き続き、多文化共生コアユニットにおける学びの具体的なイメージを把握する。個々の専門領域についての基本的な前提と、専門領域相互の関連性について理解する。それらの理解を通じて、自らの適性と問題関心について自覚し、今後の履修方針と専門領域の適切な選択を行う能力を身につける。 【授業の内容】 「多文化共生と地域社会」という共通テーマに対して、複数の教員の専門領域からアプローチしてゆく授業である。様々な視点からの講義を受講しながら、多文化共生コアユニット専門科目の多様性と、それらの相互の関連性を理解し、自身の興味や関心の方向性を探る手がかりとする。	共同
専門教育科目 学部学科共通科目	文化継承入門Ⅰ	学部学科共通科目として文化継承コアユニットの入門に位置づける科目で、文化研究に必要とされる基本的な方法論を学修する。 日本・東アジア、英米という3つのフィールドを設定し、授業を進める。それぞれの地域の伝統文化がこれまでどのような形で継承され、あるいは他地域の文化の影響のもとにどのように変容してきたのかを、具体的な事例に拠りながら学修する。最終回には、その成果をグループごとに発表し、相互に評価する。	共同
専門教育科目 学部学科共通科目	文化継承入門Ⅱ	学部学科共通科目である文化継承入門Ⅰを発展させた科目である。 この授業では、文化継承ユニットに配置された諸科目を履修する際の基本となる原資料の特質や解読方法の基礎を学修する。日本・東アジア・英米の3地域それぞれのフィールドにおいて、現在の研究の到達点や、議論されている学問上の課題が、原資料のどのような読み解きのなかから形成されてきたものかを学修することにより、それぞれの専門領域研究の魅力に触れる。最終回には、その成果をグループごとに発表し、相互に評価する。	共同
専門教育科目 学部学科共通科目	政治学	学部学科共通科目に位置づける科目で、日本やそれを取りまく諸地域の政治を、民主主義と自由という観点から議論できるようになることを目的とする。 授業は講義と学生による発表、それにもとづく議論によって進める。まず、民主主義という考え方について、その成立に大きく関与した権利章典から理解を進展させていく。つづいて、日本と米国の政治形態の違いや特徴を理解するため、日本国憲法と米国憲法を比較することにより、議院内閣制と大統領制、小選挙区制、政党政治などの概念を具体的な事例によりながら学修を深める。さらに、多文化主義や安全保障などについて、自由と民主主義との関係を考えながら理解する。	
専門教育科目 学部学科共通科目	国際経済論	学部学科共通科目に位置づける科目である。国際社会において各国経済が相互依存・相互補完によって成り立っている現実に基づき、さまざまな活動の基盤となる経済取引や企業の動きを理解しながら社会を見る目を養うことを目的としている。グローバル化の進展のスピードは、この20年あまりで顕著なものがあり、その結果として、各国間の経済格差、所得格差が地球全体で広がっている現状を理解する。これらの要因や解決策を探るため、モノ（製造業）のみでなくサービスを含めた貿易の動向、国際社会の中心的アクターである多国籍企業、国際金融などについての理解を深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部学科共通科目	地誌学	学科専門科目を履修していく上で基礎的な視点を提供する科目として、「地域性」が理解できるよう、具体的事例をもとに、地域固有の生活様式とその形成に関与した自然環境と人文・社会環境を学修する。世界各地で人々は地形・気候・経済・政治・社会・文化に適合した生活様式を築き上げ、またその変化にも対応してきた。よりよい生活を求めて、この過程は常に反復される。学生は一連の過程を理解し地域や環境を自分のものとして考えることができるよう、日本・インド・英国を中心に関連諸地域の事例にふれ、最近の各国情勢や国際関係にも目を向け、地誌学的視点に立った地域の見方を獲得していく。	
専門教育科目	学部学科共通科目	人文地理学	学科専門科目を履修していく上で基礎的な視点を提供する科目として、人文地理学の諸領域における分析事例を検討することにより、系統地理学的な視点と方法を学修する。地表面には人間の諸活動が営力となって一定の空間構造が形づくられる。その検討において地域区分は重要な意味をもつ。区分された地域単位を等質地域ととらえるか、機能地域ととらえるかによっても地域に対する見方は大きく異なってくる。機能論に立脚すれば、ネットワーク・人口移動・機能的地域分化・立地論等は有効な分析枠組みとなる。学生はこれらの空間構造を地域の実態に即して考え、人文地理学的視点に立った地域の見方を獲得していく。	
専門教育科目	学部学科共通科目	自然地理学	学部学科共通科目に位置づける科目で、人間が多様な営みを展開する地球上のそれぞれの地域の自然環境の特性を、地理学的な視点から理解するための基礎知識を学ぶ。履修生が自然環境に関する文献を検索し、理解するうえで必要なキーワードの意味を理解することが、本科目の最大の目的である。そのため、前半ではプレートテクトニクス理論から日本列島の成り立ちと地震・火山活動のしくみを学び、活断層・火山がつくる地形についてをテーマに、後半では気候変動によって生じた地形や植生の変化をテーマに取り上げる。また、宮島でのフィールドワークを実施し、地質と地形、土石流災害の跡を見学する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	国際法	学部学科共通科目に位置づける科目である。グローバル化の進展により、日常生活のなかでも国際法の知識が問われる場面が増えているため、テレビ・新聞等でも話題になる世界情勢も題材にしつつ、生きた国際法の知識を身に付けることを目的とする。まず、国際の平和と安全の観点を中心に、平和実現のための国際諸機関の役割、戦後の平和構築に向けての取り組み、さまざまな兵器の軍縮・不拡散について、被爆地・広島での立場に留意しながら理解する。続いて、世界平和と人権をめぐる問題を扱い、国際人道法、国際刑事司法制度などについて学修を深める。	
専門教育科目	学部学科共通科目	国際政治論	学部学科共通科目に位置づける科目で、世界各国の政治・経済状況に関し、いろいろなシンクタンクのサイトから素早く情報を得る能力を学ぶ。さらにその情報を使い、特定の国の状況を発表する能力を身に付ける。欧米の有力なシンクタンクである“Freedom in the World 2018”, “Freedom of the Press”, “Freedom on the Net”, “2018 Index of Economic Freedom”の使い方を学修し、そこから得た情報によって、ある一つの国の状況を発表する。その内容を学生相互で議論・批判することにより、情報収集、プレゼンテーション、ネゴシエーションの能力を身に付ける。サイトはすべて英語で書かれているため、ある程度の英語力は必要であるが、発言・発表は日本語でも英語でもかまわない。	
専門教育科目	学部学科共通科目	経営学概論	経営学概論は1年次以上の学部共通専門科目として、これから初めて企業の経営学を学ぶとする学生の基礎・専門科目として位置づけられる。本授業の目的は、1. 地域企業を含め、企業経営とは何か。経営学全般の基礎的な専門知識を身に付ける。2. 現代組織におけるビジネスパーソンとして必要な基礎的・実践的スキルやマナーをグローバルな視点から身に付ける。3. 地域を含め、現代経営者の生き方を学ぶことを通じて、学生個々人が自らの人生の経営を考えることができるように幅の広い視野や器量、倫理性、人間性を養う。そして、4. 今日だけでなくも広範囲な経営諸問題の理解から、地域における経営的諸課題を発見し、その課題解決のための新しい方法や実践的に課題解決できる能力を養う。具体的には、現代経営学の目的や体系及び方法、企業論（現代企業の本質と活動）、企業の社会的責任（CSR）論、コーポレート・ガバナンス論、経営学説史、現代経営者論とマネジメント論等、幅広く学ぶ。	
専門教育科目	学部学科共通科目	会計学概論	本講義の目的は、ビジネスの共通言語と呼ばれている会計の役割・機能について理解を深め、会計の基礎となる簿記の基本的知識と技術を身に付けることにある。講義の前半では、会計情報が組織や経済社会においてどのように利用されているのかを概観し、会計の役割・機能について理解を深める。講義の後半では、会計の基礎となる簿記の知識や技術を解説する。本講義を履修することにより、企業会計、公会計、非営利会計など多様な会計実務の基礎である複式簿記の基本的知識と技術を習得することが出来る。また、会計学を含む社会科学全般を専門的に学ぶための土台を築くことが出来る。	
専門教育科目	学部学科共通科目	マーケティング概論	この講義では、統合的マーケティングの本質を理論体系から理解するとともに、実際の企業活動を事例にして、われわれの生活と密接に関連していることを理解します。まず、モダンマーケティングの基本的概念を理解した上で、顧客価値と顧客満足・環境分析・消費者行動・マーケティングのSTPとブランド戦略・コミュニケーション戦略・サービスマーケティングなどを取り上げます。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部学科共通科目	簿記原理	本講義の目的は、財務諸表を作成するための一連の簿記手続きを理解することにある。講義では、複式簿記の基礎を整理したうえで、財務諸表を作成する簿記手続き（決算手続き）について解説する。簿記は一組の基本的な手続きの集合体であり、会計実務においてはその手続きの合理性を理解することが重要となる。 本講義を履修することにより、日商簿記検定3級に相当する簿記の知識と技術を習得することが出来る。また、より複雑な取引についても会計処理を行い、有用な情報にまとめ上げるための基礎的知識を築くことが出来る。	
専門教育科目	学部学科共通科目	ファイナンス概論	本授業の目標は、これまでファイナンスについて学習したことのない学生が、ファイナンスの基礎的な知識を修得し、その考え方と活用法を理解することにある。この科目は、金融・ファイナンスを学ぶ上での導入科目であり、地域創生学部の学部学科共通科目に位置付けられる。 学生は、ファイナンスの基本的概念である「貨幣の時間価値」や「機会費用」の考え方を知り、企業のファイナンス（コーポレートファイナンス）と家計のファイナンス（パーソナルファイナンス）の基礎概念を学ぶ。具体的には、家計の資産・負債管理、企業の資本・負債管理と投資管理、ペイアウト政策、ファイナンス理論のコアである資産価値の評価（債券価値の評価、株式価値の評価）の理解を目指す。また、ファイナンスの新しい研究領域である「行動ファイナンス」の考え方も学ぶことができる。	
専門教育科目	学部学科共通科目	ミクロ経済学	本授業の目標は、はじめて経済学を学ぶ学生が、経済学の考え方の基本となるミクロ経済学の基礎理論を習得し、社会・経済の現象を読み解いたり、社会・経済問題への対策を考えたりできるようになることにある。この科目は学部学科共通科目に位置付けられる。 学生は、ミクロ経済学の基本的な考え方や分析方法を学ぶ。具体的には、消費者や生産者の行動原理と、市場経済のしくみと役割について学ぶ。さらに、市場経済が私たちに与えるどのような意味で覆れているのか、市場にはどのような限界が及び、それに対してどのような対応が考えられるのかを考察する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	経営管理論	本講義の目的は2つある。第1に、学生が、経営管理論の基礎的な概念と枠組みを理解することである。第2に、学生が、これらの概念および枠組みを活用し、多様な経営現象に関して論理的に考える能力・スキルを修得することである。 本講義では、経営管理論の歴史的な系譜を、科学的管理法、人間関係論、知識経営論等の概要を順に学習し、その現代的な意義を考察する。今日の企業環境の変化に注意しながら、授業を通して次の問題意識を深めてほしい。(1)生産性の概念の発達と変化(2)創業者や専門経営者の登場、および、起業家の社会的役割(3)生活の質的变化やグローバル化がもたらす外部環境の変化(4)組織の競争優位構築における知識創造の役割	
専門教育科目	学部学科共通科目	中級簿記	日商簿記検定(2級)レベルの知識を身に付けることを目標とします。日商簿記検定(2級)は、高校卒業程度の商業簿記及び工業簿記(初歩的な原価計算を含む。)を習得し、財務諸表を作成並びに読解できる力をつけ、企業の財政状況も理解できるようになり、株式会社の経営管理に役立つ知識を習得を目標とします。日商簿記(2級)レベルの知識は、大学生にとって、将来、経理及び財務関連業務に従事するかどうかに関わらず、ビジネスパーソンとして割いて最低限、身につけなければならない知識です。	
専門教育科目	学部学科共通科目	工業簿記	(目標)受講生が、日商簿記2級程度の工業簿記の知識を身につけ、財務諸表作成や原価管理・利益管理への工業簿記の役立ちを理解できるようになること。 (カリキュラム上の位置づけ)1年次会計学科目の発展編として、製造業の製造活動に特化した工業簿記の手続きを学ぶ。 (授業の内容)この講義では、製造業を念頭に置きながら、財務諸表の作成や原価の管理を目的とした、ものづくりの活動を記録するための基本的な手法を学ぶ。より具体的には、1年次会計学科目で学習した内容を振り返りながら、日商簿記2級レベルの工業簿記を学ぶ。	
専門教育科目	学部学科共通科目	経営戦略論	本講義の目的は、Garth Salonerらの『戦略経営論』を参考文献として用いながら、代表的な理論であるM. E. Porterのポジションニング戦略とJ. B. Barneyの経営資源に基づく戦略について学び、両理論の共通点と相違点を理解することで実際の企業の経営戦略について理解を深めることである。 本講義を履修することにより、学生は代表的な経営戦略論としてポジションニング戦略と経営資源に基づく戦略について理解できる。さらに、学生はこれらの概念および枠組みを活用しながら、多様な企業の経営戦略について論理的に考える能力・スキルを修得することになる。	
専門教育科目	学部学科共通科目	入門統計学	この科目は地域創生学部における学部学科共通科目の一つとして、履修者が同学部における専門科目を学修するにあたって必要となる統計学の理論的基礎を学ぶ。主な内容は、履修者が身の回りで目にするデータの特性を正しく理解し、実社会で使われている統計情報から得た知識を意思決定に活用するために必要な統計学の理論基礎である。本講義を通じて、データから得られた情報を客観的根拠とした意志決定プロセスを構築する基本的なスキルを身につけることを目標とする。随時、演習や小テストを行い、履修者の理解を深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部学科共通科目	IoT・情報システム基礎学	本科目は、地域創生学部（仮称）の学部学科共通科目に区分される科目である。情報システムの基本的な構成と、応用されている要素技術に関する理解を深めることを第一の目標とする。さらに、身近な情報システムの実例を題材にして、UML（Unified Modeling Language）を用いたシステム記述を学習することにより、情報システムのモデリング手法を身につけることを第二の目標とする。具体的には、コンピュータ構成要素（プロセッサ、記憶装置、入出力デバイス等）の機能と役割、情報システムを構成するハードウェアおよびソフトウェアの基礎知識、技術要素（ヒューマンインタフェース、マルチメディア、データベース、ネットワーク、セキュリティ等）について講義する。また、UMLを用いたモデリング手法について解説し、これを取り入れた情報システムのモデリング演習を行う。	
専門教育科目	学部学科共通科目	経営情報論	本講義では、経営と情報の関わりを理解し、情報を経営に上手く生かす方法を習得することを目的とする。経営に対する情報の関わりは2種類存在し、1つ目としては従来の経営学でも扱っているヒト、モノ、カネに加えて情報も資産として扱う考え方も、もう1つは情報を経営問題に対する問題解決のツールとして捉える考え方がある。前者に関しては経営情報システムとして扱う事が多く、前半で種々の経営情報システム及びその活用方法・問題点について講義を行う。後半では、問題解決のツールとしていくつもの問題に対して情報を用いて解決する事例およびツールとして用いる場合を知っておくべき技術者倫理について講義する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	基礎プログラミング入門	プログラミングは、コンピュータに行わせる命令を書くことであるが、希望通りに動作するようにプログラムを書くためには論理的な思考力が必要である。この科目では、プログラミングの導入として、ブロックによるビジュアルプログラミングを行う。プログラミング言語の仕様や構文にとらわれず、視覚的および直感的にプログラムを作成することにより、プログラムの基本的な構造（順次、反復、分岐）を理解し、論理的な思考力を養うとともにプログラミングの楽しさを体験することを目的とする。特に演習を中心として授業を行う。	
専門教育科目	学部学科共通科目	基礎情報学入門	本科目は、地域創生学部（仮称）の学部学科共通科目に区分される科目である。情報学とは、情報によって世界に意味と秩序をもたらすとともに社会的価値を創造することを目的とし、情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探索する学問であると定義されている。情報学は裾野がとて広い学際的な学問分野であるため、最も基本的な事項を体系的に学び理解することを目標とする。具体的には、情報一般の原理、コンピュータで処理される情報の原理、情報を扱う機械および機構を設計し実現するための技術、情報を扱う人間社会に関する理解、社会において情報を扱うシステムを構築し活用するための技術・制度・組織について講義する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	基礎情報活用演習	情報を活用するためには、得られた情報を適切に整理・加工する力が必要である。この科目では、情報処理に関する総合的なスキルアップを目指す。具体的には、文書作成、表計算、プログラミング等の各処理を通じて情報処理に関する総合的な知識と技術を学ぶ。これらの処理方法を学ぶことで、独力で情報を整理・加工し活用できる力を身につけることを目的とする。また、後に続く高度な専門科目を学ぶための基礎を固めることに重点を置く。特に演習を中心として授業を行う。	
専門教育科目	学部学科共通科目	人工知能概論	人工知能に関する基礎概念とその方法論を修得し、実社会における応用可能性と計算機による知能の実現について、人工知能に対する基本的な知識の修得を目的とする。代表的な人工知能の方法として、「知識表現、論理と推論、探索、知識表現、機械学習、自然言語処理」を取り上げ、基礎的な概念と問題解決の考え方、実社会におけるAIの応用可能性を、コンピュータ演習を取り入れながら、講義形式で学修する。また、新しい情報科学の展開を達観するために、コンピュータによる感情表現・分析を事例ベースで学修する。	
専門教育科目	学部学科共通科目	データサイエンス入門・同演習	この科目は地域創生学部における学部学科共通科目の一つとして、履修者が同学部における専門科目を学修するにあたって必要となるデータマネジメントおよびデータ分析の基礎を統計ソフトウェアによる演習を交えて学ぶ。主な内容は、身の回りのデータを収集・加工・解析するために必要なデータハンドリング、入門統計学で学修した理論を実際のデータ分析に応用するために必要なプログラミング技術を身につけることである。本講義を通じて、これまで学修した統計理論を実データに応用する基本的なプロセスを身につけることを目標とする。随時、演習や小テストを行い、履修者の理解を深めていく。	
専門教育科目	学部学科共通科目	生命科学	この科目では、正常な人体の仕組みの理解に資する遺伝子や細胞レベルからの組織や器官レベルまでの構造や機能に関する基礎的内容を学び、併せて暮らしの中の生命科学の話題を理解し評価できる力の修得を目標とする。学部・学科共通科目である本科目は、管理栄養士養成課程に係る専門基礎分野「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」の科目の一つとして位置づけられている。初めに、分子や細胞レベルでのミクロの事象（生体物質の構造や機能・代謝、細胞の構造や機能）を中心に、生命の基本的な仕組みを学ぶ。次に、遺伝子の形・働き・制御、細胞増殖や生殖に関する項目を取り上げ、遺伝子と生命の連続性を学ぶ。また、ゲノム情報の医学への応用、再生医学の現状と将来、植物バイオテクノロジー、生体における安全性、感染症との闘い、先端医療技術と生命倫理など、暮らしや社会における生命科学の話題を提示し、私たちが直面している課題を理解し評価できる力の修得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学部学科共通科目	基礎化学	この科目では、物質の基礎的・化学的性質に関する知識を修得することを目標とする。特に、化学結合、分子構造、濃度、化学平衡、反応速度、有機化学という、化学の基礎的内容を理解することを主たる目標とする。本科目は、専門科目・「学部学科共通科目」に位置付けられ、専門科目の他の応用化学的科目の基礎となっており、それらの応用化学的科目を学ぶための基礎知識としての化学について、初歩的なことから、身近な事例についての説明を含む専門的内容（物理化学、無機化学、分析化学、有機化学）の全般について学ぶ。有機・生体化学の導入として、化学と人間との関わり合いに始まり、物質のマクロな性質とミクロな原子の構造との関係、化学結合の成り立ち、物質の状態変化（気、液、固）と性質、化学反応の基本となる酸塩基と酸化還元、化学反応とエネルギーの関係を学ぶ。化学を苦手とする学生は、環境や生命と化学の接点についての具体的な例を参考にして学力を修得する。	
専門教育科目 学部学科共通科目	微生物学	管理栄養士や食品衛生監視員として必要な微生物学の知識を身につけることを目的としている。本科目の目標は、どのような種類の微生物がいて、どのような生活をしているかを知り、微生物とどのように共存するか、あるいは微生物から身を守るかを説明できるようになることである。具体的な授業の内容は、下記のとおりである。①細菌、酵母、かび、きのこ、放線菌、微細藻類、ウイルスの形態的特徴や性質②食中毒を含む感染症とその感染の仕組み③発酵食品や抗生物質④遺伝学や遺伝子治療の基礎的研究に使われている微生物。尚、本科目は、地域創生学部の学部共通科目に区分されている。	
専門教育科目 学部学科共通科目	予防医学	主に生活習慣病を主体とした予防活動について、地域保健、母子保健、学校保健、産業保健など、いろいろな側面からとらえ、また、メタボリックシンドローム予防のための運動療法や禁煙支援について理解する。授業の内容は、メタボリックシンドローム予防、運動療法、禁煙支援、生活習慣病予防、地方分権の推進と地域保健予防サービス提供体制、学校保健での予防対策、母子保健での予防対策、性感染症予防対策、インフルエンザ予防対策、ノロウイルス感染症予防対策などである。	
専門教育科目 学部学科共通科目	保健政策論	健康危機管理の具体的な対応、医療安全対策の考え方、地域保健、学校保健、産業保健など、さまざまな分野における保健医療福祉の現状と課題について理解する。授業の内容は、地域保健サービスの提供体制と地方分権の推進、精神保健福祉サービスと社会復帰支援サービス、障害者総合支援法、学校保健安全法、過重労働による健康障害、労働者のメンタルヘルス、アスベスト健康障害対策、健康危機管理について、食と感染症、医療安全対策、地方分権の推進と地域保健医療の課題などである。	
専門教育科目 学部学科共通科目	公衆衛生学	地域保健、産業保健、学校保健、健康危機管理のなどいろいろな分野における実践事例について検討する。予防医学からの観点から、生活習慣病・メタボリックシンドローム予防について、適切な食生活、適度な運動をする習慣、禁煙などについて、災害時における公衆衛生活動についても学習する。授業の内容は、地域保健・母子保健サービス、産業保健、精神保健福祉サービス、学校保健、結核予防対策、ノロウイルス感染症予防対策、食中毒対策、エイズ予防対策、鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ対策などである。	
専門教育科目 学部学科共通科目	環境衛生学	公衆衛生の中の特に環境要因が、疾病の発生あるいは健康の保持増進に関連することを学ぶ。この科目は学部学科共通科目として区分され、管理栄養士専門科目においては、「社会・環境と健康」として位置づけられ公衆衛生学と連続して学習する。授業の内容としては、①疫学の定義、公衆衛生の歴史、②環境と健康（1）環境汚染と健康、③環境と健康（2）環境保健、④食中毒発生時の疫学調査（演習）、⑤産業保健・国際保健、⑥感染症対策、⑦情報の入手と取扱い、⑧生活習慣の現状と課題について学修する。	
専門教育科目 学部学科共通科目	健康科学情報処理演習	この科目では、基本的な情報処理演習を通して、実験データ等をコンピュータ上で解析するために必要な知識と実践的なデータ処理の方法を修得することを目標とする。学部・学科共通科目である本科目は、管理栄養士養成課程に係る専門基礎分野「社会・環境と健康」の科目の一つとして位置づけられている。講義内容については、主に表計算ソフトウェアを用いたデータ処理およびインターネットに関する演習を行い、データの収集と整理に関する基本技術、収集したデータに基づく検定や回帰分析などの統計処理の方法、関数の利用法、データのデータベース化ならびにグラフ化の方法などを修得する。また、インターネット上での文献検索、データベース検索、ソフトウェア解析などを通してコンピュータの多様な利用法を身につける。	
専門教育科目 運動・生体	基礎生化学	この科目では、生体や細胞を構成する基本的な物質である糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質および核酸などの特徴とそれらが関わる生命現象の基礎を理解することを目標とする。この科目は、専門科目「運動・生体」に区分されており、管理栄養士専門科目においては、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」に位置づけられている。講義内容については、まず、生体を構成する基本的な物質である糖質、アミノ酸、脂肪および核酸などの低分子について化学構造と特徴を理解し、次に、タンパク質、多糖および核酸などの高分子について化学構造と特徴を理解する。また、生体触媒である酵素について、酵素と基質の相互作用や反応速度論など生体内で起こる化学反応の性質を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	運動・ 生体 生化学	この科目では、基礎生化学で学んだ糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質および核酸などの生体成分の生合成および代謝によるエネルギーの獲得について理解を深めることを目標とする。この科目は、専門科目「運動・生体」に区分されている。講義内容については、まず、エネルギー代謝の中核をなす解糖系、ミトコンドリアにおけるクエン酸回路と電子伝達系、糖新生、糖原性アミノ酸とケトン性アミノ酸のエネルギー代謝回路への導入などの代謝化学とDNAの修復と複製、RNAへの転写と翻訳によるタンパク質の生合成などの分子生物学の基本事項について理解する。また、物質輸送、細胞外からの刺激の受容、細胞内での情報伝達などの生命現象を生化学の側面から学ぶ。	
専門 教育科目	運動・ 生体 生化学実験	この授業では、実際の実験を通じて、基礎生化学で学んだ知識の理解を深めるとともに、高度な生化学実験を行うための基礎を身に付けることを目標とする。この科目は、専門科目「運動・生体」に区分されており、管理栄養士専門科目においては、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」に位置づけられている。授業内容については、生体の構成成分であるDNAについて抽出操作、得られた試料の定性および定量分析、電気泳動による分離検出を行い、タンパク質について等電点沈殿とカラムクロマトグラフィーによる精製、得られた試料の定性および定量分析、電気泳動による分離検出を行い、これらの生体成分の性質を理解する。さらに、酵素反応の最適pHと最適温度を求める実験を行い、生体触媒である酵素について理解を深める。また、緑色蛍光タンパク質(GFP)のプラスミドベクターを大腸菌に形質転換する実験を行い、初歩的な遺伝子工学的手法を学ぶ。	
専門 教育科目	運動・ 生体 生体防御学	この科目では、生体が自己の恒常性と統一性を維持するために備えている仕組みについて、それを構成する器官・細胞・分子の概要を学び、自然免疫、液性獲得免疫、細胞性獲得免疫、免疫系の制御に関する基礎的な理解を目標とする。また、感染に対する免疫の仕組み、感染の部位によって異なる免疫の働き、病原微生物の種類と感染防御機構に注目して学ぶ。コア・ユニット「運動・生体」を構成する本科目は、管理栄養士養成課程に係る専門基礎分野「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」の科目の一つとして位置づけられている。具体的には、自然免疫において自己と非自己の識別にかかわる分子、獲得免疫において特異性、多型性に関与する細胞（リンパ球や抗原提示細胞）や分子（免疫グロブリン、T細胞レセプター、主要組織適合抗原など）について学ぶ。また、免疫系に関する基礎的理解を通して、移植片の拒絶反応やアレルギー疾患の発症の仕組みを学ぶ。	
専門 教育科目	運動・ 生体 免疫学実験	この科目では、免疫系を構成する分子や細胞に関する基礎的理解を目標とし、抗原抗体反応や補体結合反応などに関する実験を行うとともに、免疫系を構成する細胞や組織の顕微鏡観察を行う。併せて、実験結果を観察・記録し、それに基づいて考察する力や姿勢を醸成する。コア・ユニット「運動・生体」を構成する本科目は、管理栄養士養成課程に係る専門基礎分野「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」の実験科目の一つとして位置づけられている。具体的には、分析用試薬としての抗体の有用性を理解するため、アガロースゲルを支持体とする沈降反応、抗体を含む同ゲルを支持体に用いるロケット免疫電気泳動法、赤血球の凝集反応や溶血反応を体験する。また、電気泳動法により分離した抗原を支持体に転写し、抗原抗体反応により支持体上で同定するイムノプロット法を体験する。併せて、胸腺やリンパ節等の組織学的観察を通じて、免疫系に関する理解を深める。	
専門 教育科目	運動・ 生体 解剖学・病理学Ⅰ	本科目の目的は二つある。一つは「医学とは何か」「それがどのような方向に発展しつつあるか」という医学の本質について、医学の歴史も学びながら理解・考察すること、もう一つは、解剖学、病理学を通して、人体の構造について理解を深めることである。医学には、自然科学としての医学（基礎医学、臨床医学、予防医学と保健学、環境医学、産業医学、医療情報学）、社会科学としての医学（医療システム、福祉医療、医療経済学）があり、その特徴を理解する。運動・生体科目である本科目は、管理栄養士養成課程に係る専門基礎分野「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」の科目の一つとして位置づけられている。	
専門 教育科目	運動・ 生体 解剖学・病理学Ⅱ	解剖学・病理学は、医学の中で最も基本的で大事な領域である。下記の授業内容を十分理解することを目標とする。この科目は、専門科目「運動・生体」に区分されており、管理栄養士専門科目においては、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」に位置づけられている。人間の構造と機能の両者を系統的に学習する。特にからだの運動に必要な、骨格と筋肉からなる運動器系と食物の消化、栄養の吸収に関与する消化器系を主体に講義し、循環器、呼吸器、神経等の全身の諸臓器を機能面からも関連づけて学習する。細胞の機能、血液、間質液、リンパおよび生体防御機構、心臓血管系の役割、呼吸運動、呼吸調節、消化管ホルモン、消化液の分泌、腎臓による体液調節、神経の興奮についても学習する。	
専門 教育科目	運動・ 生体 解剖学・病理学実習	生活習慣病について、組織形態からそれらの疾患の成り立ちを理解することを目標にする。この科目は、専門科目「運動・生体」に区分されており、管理栄養士専門科目においては、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」に位置づけられている。生活習慣病についての各論の講義を行い、代表的な疾患（糖尿病、動脈硬化症、心肥大、心筋梗塞、肺炎、結核、間質性肺炎、肝炎、肝硬変、食道静脈瘤、食道炎、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌、肺癌、前立腺癌、乳癌、子宮癌）について、各自顕微鏡観察でそれらの形態変化をスケッチし病態を理解するための学習をする。また実際解剖検例を用いて、人が生活習慣病で死亡する場合、全身の主要臓器に種々の形態的变化が系統的に発症していることを示し、その病気の成り立ちを理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	運動・ 生体 生理学	この科目では、生体の仕組みと機能について正しく理解することを目標とする。この科目は、健康科学コースの専門科目「運動・生体」に区分されており、管理栄養士専門科目においては、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」に位置づけられている。講義内容について、生体における生理的メカニズムとして、食事と呼吸、食事量とエネルギー代謝、血液循環、体液と酸塩基平衡、内呼吸と外呼吸、呼吸調節、水分均衡、水分均衡の生理的メカニズム、尿生成、腎機能について理解する。特に、食事量とエネルギー代謝については、生体が必要とする酸素量、血液の酸素運搬量、組織から放出される二酸化炭素量等エネルギー代謝と食事量の関係について、生理学の視点から理解する。	
専門 教育科目	運動・ 生体 生理学実験	この科目では、身体の生理機能を臓器レベルで理解するとともに、臓器を構成する個々の細胞レベル、さらに細胞を構成する分子レベルまで繋がりを持って理解することを目標とする。この科目は、健康科学コースの専門科目「運動・生体」に区分されており、管理栄養士専門科目においては、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」に位置づけられている。授業内容として、ヒトの生理的メカニズムを理解するために、個体、器官系、器官・組織、細胞、分子の各レベルで実験を行う。具体的には、動植物の細胞および細胞小器官の観察、動物(ウシガエル)の解剖、座骨神経-腓腹筋標本の作製と神経刺激による筋収縮の観察、グリセリン筋を用いた筋収縮、血液の観察や血漿タンパク質分画の測定を通して、細胞の構造や細胞小器官のはたらき、ヒトの内臓の諸器官、神経伝達メカニズム、筋収縮のメカニズム、ヒトの血液の構造とはたらきについて、それぞれ理解する。	
専門 教育科目	運動・ 生体 健康スポーツ科学	本講義を受講することによる具体的な到達目標は以下である。①現代の健康問題について自然科学的観点に基づいて、自分の意見を述べるができるようになる、②ライフスタイルとしての運動習慣と健康のかかわりについて考える上で基本となる、公衆衛生的な考え方を身につける、③ヒトの健康問題に常に興味、関心をもつようになる。この科目は、専門科目・「運動・生体」に区分されており、必修科目に位置づけられている。講義内容の概略を述べる。導入として、「現代における健康科学・健康科学情報とは何か」について学ぶ。次に本講義の主題である、運動-体力(フィットネス)-健康の3者それぞれと、相互の関連性について理解する。健康スポーツ科学への多面的な理解を通して、生涯にわたる自己の健康管理といった視点による、積極的な健康増進を目的とした具体的な方法の考え方とその実際を習得する。	
専門 教育科目	運動・ 生体 運動生理学	本講義を受講することによる到達目標は以下である。①運動に対する生理的反応を学ぶことを通して、生体の巧妙な調節系への基本的な理解がもてるようになる、②ヒトが1回の運動を行った際に、身体の内部で起こっている適応的な生理機能調節のしくみの概略について、主に生理学的用語を使って、一般の人に説明できるようになる、③ヒトの健康に果たす運動の役割について、運動生理学の視点から関心を持ち、自分の意見を述べるができるようになる。この科目は、専門科目・「運動・生体」に区分されており、選択科目に位置づけられている。また、管理栄養士専門科目においては、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」に位置づけられている。健康科学的な視点をふまえて、生涯にわたる健康の保持・増進に果たす運動習慣の役割についての理解に必要な運動生理学の基本的知識を中心に学ぶ。	
専門 教育科目	運動・ 生体 運動生理学実験	本実験の履修による到達目標は以下である。①実際の測定を通して、「運動生理学」の知識を体験的に理解する、②測定データ解析を行う具体的な方法を学ぶことによって、ヒト集団を対象として実測データの取り扱いに慣れ、その統計解析の基本的な方法を理解し、使うことができるようになる。この科目は、専門科目・「運動・生体」に区分されており、選択科目に位置づけられている。また、管理栄養士専門科目においては、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」に位置づけられている。運動生理学の理論的背景を理解する上で必要な生理的測定項目のいくつかについて、その測定法の実際を体験・習得する。取り上げる生理機能は、呼吸機能、循環機能、骨格筋機能ならびに神経機能で、具体的には、ガス交換諸量(肺換気量、酸素摂取・炭酸ガス排出量)、心拍数(心電図)、血圧、血流、筋電図を取り上げ、その具体的な測定方法を習得する。	
専門 教育科目	運動・ 生体 体力科学	この科目では、健康管理科学の専門性を身につけるうえで基礎となる、「ヒトの体力」及び「健康と体力の関係」について正しく理解することを目標とする。この科目は、専門科目「運動・生体」に区分されており、管理栄養士専門科目においては、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」に位置づけられている。講義内容については、まず、行動体力と防衛体力を構成する要素を理解し、それらと健康の関係について考察する。次に、ヒトの身体活動を引き起こす筋の構造と形態およびその機能について体力という観点から知識を深める。続いて、持久性能力としての有酸素性作業能力の指標である、最大酸素摂取量・疲労性作業閾値・無酸素性作業閾値などを、運動負荷試験の実際と共に理解する。また、高齢者については、自立した日常生活動作を支える体力テストとその評価法について学ぶ。子どもの体力についても、成長期の体力特性や年齢に応じた諸能力の発達について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	運動・生体 トレーニング科学	この科目では「ヒトに対する身体トレーニングの効果」についての知識を正しく身につけた上で、健康の保持増進やスポーツの競技力向上のための運動トレーニングの実践方法について理解し、運動処方作成ができる力を修得することを目標とする。この科目は、専門科目「運動・生体」に位置づけられている。講義内容については、まず「トレーニングの基本5原則」を理解する。その上で、トレーニング効果が生じる運動の条件や人間の適応能力の限界について、過去の研究知見を学ぶ。さらに、健康の保持増進や、スポーツの競技力向上のための身体トレーニング方法の具体例を、有酸素性トレーニングと無酸素性トレーニングおよび筋力トレーニングに分けて理解する。特に、生活習慣病予防を目的とした高齢者のための有酸素性トレーニングや、自立歩行能力を維持するための筋力トレーニングの実践方法については、運動の強度、回数や運動時間、頻度、運動のフォームについて具体的に修得する。	
専門教育科目	運動・生体 体力評価実習	この実習では、健康の維持増進という観点から運動処方を作成するうえで必要となる「体力の測定・評価方法」について実習し、ヒトの体力を評価できる力の修得を目標とする。この科目は、専門科目「運動・生体」に区分されており、管理栄養士専門科目においては、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」に位置づけられている。具体的には、ヒトの日常生活動作を支える身体機能の測定評価を試みるという観点から、ヒトの体力の測定・評価方法を修得する。自らが、被験者・実験者となり、①筋機能の測定、②有酸素性作業能力の測定、③無酸素性作業能力の測定評価法を修得する。さらに、④身体組成の評価法として形態計測（超音波法による四肢組織厚計測）、や⑤日常生活の活動度評価のためのエネルギー消費の推定を修得する。最終的には、得られた測定データを処理・解析した上で、グループに分かれて、テーマごとにパワーポイントを使って「全体発表会」で発表する。	
専門教育科目	運動・生体 スポーツ科学実習	この科目では、健康の保持増進に効果的な、生活の中に取り入れることのできる体力トレーニング方について、運動の種類、強度、継続時間、および頻度を自ら設定し、実践できるようにすることを目標とする。この科目は、専門科目「運動・生体」に区分されており、管理栄養士専門科目においては、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」に位置づけられている。実習形式で、健康の保持増進を目指した安全で効率のよい体力トレーニング方法を、生涯にわたる健康管理・生活習慣病の予防という認識のもとに修得する。まず、全身持久力を高めるような有酸素性トレーニング運動の種類、強度、継続時間、および頻度について修得する。また、中高年を対象とした、筋力の維持・増進のための筋力アップ運動の実習を行う。さらに、障害の予防のためのウォーミングアップ（ストレッチング）や疲労軽減のためのクーリングダウンについて、その意義を理解しながら修得する。	
専門教育科目	運動・生体 スポーツ医学	本講義を受講することによる目標は、今日のヒトへの予防医学方策の中で、栄養・食品以外の生活習慣として重要な要因、定期的な運動習慣が果たす役割について、常に関心をもつようになることをめざす。最終的な到達目標は、肥満、高血圧、脂質異常症、糖尿病、動脈硬化といった生活習慣病について、疫学・発症機序の概略、運動がもたらす一次・二次予防効果、その背景にある奏功機序、ならびに具体的な運動処方について、現時点での最新の知識を理解し、対象疾患患者あるいはその予備軍を主な対象として、それらをわかりやすく説明できるようになることである。この科目は、専門科目・「運動・生体」に区分されており、選択科目に位置づけられている。また、管理栄養士専門科目においては、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」に位置づけられている。	
専門教育科目	運動・生体 スポーツ環境科学	この科目では、「特殊環境条件下における身体特性と栄養管理」および「身体の形態および機能の加齢変化」について正しく理解することを目標とする。この科目は、健康科学コースの専門科目「運動・生体」に区分されている。講義内容として、特殊環境（高温・低温環境や高所、水中、無重力環境）によって安静時や運動時の生理反応がどのような影響を受けるのか、さらに、これら特殊環境下における効果的な栄養摂取（飲料や食事）について理解する。加えて、身体の形態および機能が加齢に伴ってどのように発育発達するのか、さらに性別の違いによってどのように異なるのかを理解する。その中で、実習を交えながら、幼少期、青年期および中高齢期に適した運動やトレーニングの内容、さらには高齢者の体力評価法について理解する。	
専門教育科目	食 分析化学	この科目では、定量分析法（滴定分析）や分光分析法など、化学的・生物学的学問分野に必要な分析法の基礎となる酸-塩基反応、酸化-還元反応、錯形成反応などの溶液内反応の定量的取り扱いをモル濃度の計算演習を行いながら修得することにある。本科目は、専門科目・「食」に位置づけられており、専門科目の他の応用化学的科目に関する実験実習を学ぶ上でもっとも基本となる主要な科目の一つである。基本的には、化学反応に基づいた物質の量的関係、平衡移動の法則に特に視点を向ける。即ち、物質の濃度の認識は化学を学ぶ上で非常に重要であり、濃度の取り扱いに慣れることをめざし、定量分析化学に基本的な質量作用の法則を理解し、沈殿平衡、緩衝作用、酸塩基反応、酸化還元反応、錯形成反応、電極反応の性格とそれらに係わる平衡の取り扱いを学ぶ。測定データの統計的処理および具体的に平衡定数の取り扱いから化学種の濃度計算ができるように演習を通して学力を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	食 分析化学実験	この実験では、分析化学の知識を用いて、生活における身近な物質の分析実験を行う。本科目の目標は、履修学生が分析化学実験を通じて、化学実験全般に通ずる様々な基本的知識や基本的操作法・技術を修得することである。本実験科目は、専門科目・「食」に区分されており、管理栄養士専門科目においては、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」に位置づけられ、他の応用化学的実験の基礎となる実験科目である。生活の中に存在する身近な物質を分析の対象として、それらの物質の定性分析および定量分析化学実験を行う。定性分析としては、陽イオンの定性分析を、定量分析としては、中和滴定、酸化還元滴定、キレート滴定、比色分析、などを行う。これらの分析化学実験を通じて、化学実験全般に共通の、基本的な心構え、化学試薬の秤量と溶液の調整、ガラス器具と機器の操作法や知識、測定したデータの処理の仕方を修得する。	
専門 教育 科目	食 食品学	管理栄養士として必要となる食品学の基礎的知識を身につけることを目的としている。また、本科目の目標は、下記の項目についてできることである。(1)食と生活の関わりについて説明できる。(2)食品成分(嗜好成分を含む)および食品の物性について説明できる。(3)食品成分の変化について説明できる。具体的には、食と生活、食品の分類、日本食品標準成分表、食品成分(水分、炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、無機質)、食品の色、味、香り、食品の物性、食品成分の変化について解説する。本科目は、健康科学コースの専門科目「食」に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「食べ物と健康」の規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。	
専門 教育 科目	食 食品化学	管理栄養士や食品衛生監視員として必要な食品化学の知識を身につけることを目的としている。また、本科目の目標は、下記の項目についてである。(1)食品および食品の加工・貯蔵における化学的、生化学的变化について説明できる。(2)食品の3次機能について化学的に説明できる。(3)特定保健用食品、栄養機能食品、特別用途食品、健康食品について説明できる。(4)食品成分の化学分析法について説明できる。(5)食品化学に関する内容について発表し、質問に対して自分の意見を述べることで、他者の発表に対して主体的に質問することができる。対面授業では、食品および食品の加工・貯蔵中における科学的、生化学的变化、食品機能化学、特定保健用食品、栄養機能食品、特別用途食品、健康食品、食品成分の化学分析法について解説する。演習授業では、食品化学の内容について調べ学習を行い、発表する。本科目は、健康科学コースの専門科目「食」に区分されている。	
専門 教育 科目	食 食品学実験	管理栄養士として必要となる食品学に関する基礎的な要素について実験を通じ身につけることを目的としている。また、本科目の目標は、下記の項目についてできることである。(1)実験器具や化学薬品の取り扱いなど基礎的な実験操作ができる。(2)食品に含まれる栄養素についての定量・定性分析ができる。(3)成分分析の結果や食品成分の加工・貯蔵中の変化など食に関わる諸現象を考察できる。(4)他者と協働して実験を主体的に取り組むことができる。具体的な内容として、食品を試料として、水分、タンパク質、炭水化物、灰分、ビタミンなど栄養素の分析を行う。また、食品成分の貯蔵加工中の変化についての実験を行う。本科目は、健康科学コースの専門科目「食」に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「食べ物と健康」の規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。	
専門 教育 科目	食 食品加工学	管理栄養士として必要となる食品加工の基礎的知識を身につけることを目的としている。また、本科目の目標は、下記の項目についてできることである。(1)食品加工の目的について説明できる。(2)原料の食品加工特性や加工方法を説明できる。(3)食品の保存方法の原理について説明できる。(4)食品の規格・表示について説明できる。具体的講義内容として、食品加工の目的、意義、原理、農産食品の加工、水産食品の加工、畜産食品の加工、油脂およびその加工品、発酵食品の製造、食品貯蔵の原理、包装、食品の表示・規格について解説する。本科目は、健康科学コースの専門科目「食」に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「食べ物と健康」の規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。	
専門 教育 科目	食 食品加工学実験	食品の加工過程における成分変化や現象を理解し、その制御に視点をおいた食品加工工程を構築する力を備えることを目標とする。本科目では、人がおいしさ(嗜好性)を感じる仕組みを理解した上で、おいしく加工する工程を科学的に解析し、制御する視点を養う。貯蔵性を目的とした伝統的な食品加工に加え、生産性を目的としたクックチルシステムなどの仕組みを学び、導きだした加工理論・加工技術を、状況にあわせて応用する力を身につける。なお、食中毒へのリスク対策として可能な限り「大量調理施設衛生管理マニュアル」に基づいて加工操作を行う。	
専門 教育 科目	食 食品衛生学	本授業の目標は、管理栄養士として食品衛生の課題や制度に充分対処できることである。具体的な授業内容は、下記のとおりである。①食品行政・食品衛生法・輸入食品の問題(コーデックス委員会を含む)・食と安全②食中毒菌および寄生虫および食中毒の予防対策(HACCPを含む)③食品中の天然有害物質④食品添加物の種類や役割⑤食品汚染物質(重金属、放射性物質、洗剤、家畜飼料と抗生物質)⑥農薬や遺伝子組み換え食品。本科目は、健康科学コースの専門科目「食」に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「食べ物と健康」の規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	食 食品衛生学実験	管理栄養士として必要となる食品衛生学に関する基礎的なについて実験を通じ身につけることを目的としている。また、本科目の目標は、下記の項目についてできることである。(1)微生物に関する基礎的な実験操作ができる。(2)食品添加物についての定量および定性分析ができる。(3)分析の結果に基づき食品衛生に関わる諸現象を考察できる。(4)他の学生と協働して主体的に実験を行なうことができる。具体的な実験内容としては、微生物の取り扱い方やグラム染色、保存料や着色料についての分析を行う。これらの中で有機溶媒の取り扱い、水蒸気蒸留法、クロマトグラフの原理および機器分析法についても学ぶ。本科目は、健康科学コースの専門科目「食」に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「食べ物と健康」の規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。	
専門 教育 科目	食 調理学	食品の調理過程でおこる成分変化や現象、その制御方法を理解し、また、人が食べることの意味(食文化を含む)を考え、献立作成を含めた食事計画の力を備えることを目標とする。調理の目的は、人が必要とするエネルギーや栄養素を、食事としておいしく摂取できるようにすることであり、本科目では、調理過程におこる成分変化や現象を、理化学的、組織学的、物性学的に理解する力、献立作成を含めた食事計画ができる力を身につける。また、味覚の計量方法(官能評価)、食品成分表の構成と内容も理解する。	
専門 教育 科目	食 調理科学実験	食品の調理過程における成分変化や現象について系統的に考え、理論的に制御した調理工程によって食事(料理)を作成する力を備えることを目標とする。おいしく調理する技術は、経験によって体得されるものであり、調理理論に裏打ちされている。本実験では、おいしさの構成要素を理解した上で、さまざまな要因が錯綜している調理工程を解析する科学的・分析的視点と、導きだした調理理論を多様な食材を対象に実践できる力を身につける。また、食中毒へのリスク対策として可能な限り「大量調理施設衛生管理マニュアル」に基づいて調理操作を行う。	
専門 教育 科目	食 基礎栄養学	栄養とは、食物を摂取し、体内で消化・吸収し、代謝して、エネルギーや身体の構成成分をつくることといった現象をいう。この科目では、栄養について食品化学、生理学、生化学等の面から総合的に理解するための基礎を修得することを目標とする。適正な栄養とは何かを科学的根拠のもとに学び、栄養に関する基礎的知識を健康の維持・増進、疾病の予防・改善の活用発展させる能力を修得する。本科目は、健康科学コースの専門科目「食」に区分され、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門分野の教育内容である「基礎栄養学」の1つの科目として位置づけられている。授業の内容は、基礎的知識として、栄養の概念について学び、栄養素(糖質、脂質、蛋白質、ビタミン、無機質、水・電解質)の種類・機能・代謝を理解する。また、消化吸収、エネルギー代謝、摂食行動について、生理学及び生化学的理解を深める。	
専門 教育 科目	食 基礎栄養学実験	この科目では、栄養学の基礎的知識について実験を通して理解することを目的としている。具体的には、生体のエネルギー代謝、糖代謝、タンパク質代謝について実験を行い、得られたデータを分析し、考察する。この実験を通して、実験技術の習熟を図るとともに、レポート作成によって科学的根拠に基づいた論理的思考能力を修得することを目標とする。本科目は、専門科目「食」に区分され、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門分野の教育内容である「基礎栄養学」の科目として位置づけられている。実験の主な内容は、人体模型のスケッチを行い、解剖学的知識を深める。唾液アミラーゼ活性を測定し、糖の分解を理解する。タンパク質量や塩分量の異なる食事を摂取した後、尿中成分などを測定し、タンパク質やナトリウムの代謝を理解する。ダグラスバックを用いて基礎代謝量を測定し、エネルギー代謝量測定の原理について理解を深める。	
専門 教育 科目	食 応用栄養学	授業の目標とカリキュラム上の位置付け 本科目は、専門教育科目の「栄養・食品科学」に区分されている。また、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門分野の教育内容である「応用栄養学」の科目として位置づけられている。 授業の内容 妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分に理解することにより、栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)の基本的考え方を修得する。また、健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能等を理解し、健康への影響に関するリスク管理の基本的考え方や方法について理解する。 授業の形式・方式 対面授業。授業日程に従いパワーポイント等のメディアを使用し、講義形式で授業を進める。	
専門 教育 科目	食 ライフステージ栄養学	この科目では、ライフステージごとの人体の構造や機能、栄養状態、心身機能といった特性について理解し、対象者に応じた栄養状態の評価・判定の基本的な考え方を修得することを目標とする。また、健康維持・増進および疾病予防に寄与する栄養素の機能等を理解し、各ライフステージにおける健康への影響に関するリスク管理の基本的考え方や方法を修得する。本科目は、専門科目「食」に区分され、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門分野の教育内容である「応用栄養学」の科目として位置づけられている。授業の内容は、妊娠期、授乳期、新生児期、乳児期、成長期、成人期、更年期、高齢期の身体的・生理的特性について理解し、それぞれの特性に望ましい栄養管理の具体的な方法について学ぶ。また、応用的知識として、運動時、ストレスおよび特殊環境下での生理的特徴や栄養管理について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	食 スポーツ栄養学	この科目では、運動と栄養の関係について、運動生理学、トレーニング科学、スポーツ医学、栄養学の基礎的知識を深め、応用的知識や実践技術として、健康増進とスポーツ競技力向上のための栄養に関する知識を修得することを目標とする。本科目は、専門科目「食」に区分され、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門分野の教育内容である「応用栄養学」の科目として位置づけられている。授業の内容は、基礎的知識として、栄養素の種類・機能・代謝、エネルギー代謝、運動時の生理的特徴、特殊環境下の生理的特徴について理解を深める。また、応用的知識として、運動時の栄養補給、運動時の水分補給、サプリメントとエルゴジェニックエイド、試合前後及びトレーニング期の食事について学ぶ。健康づくりのための運動指導からスポーツ選手の競技現場まで、幅広く活用できるスポーツ栄養学を科学的根拠に基づいて学ぶ。	
専門 教育 科目	食 応用栄養学実習	この科目では、乳幼児から高齢者までのライフステージの特性を理解し、対象者の性、年齢、生活・健康状態等に応じた適切な栄養管理能力を修得することを目標とする。本科目は、専門科目「食」に区分され、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門分野の教育内容である「応用栄養学」の科目として位置づけられている。実習の内容は、乳児期、妊娠期、乳児期、幼児期、学童期、成人期、高齢期、運動・スポーツ時の栄養について、ケースをもとに、栄養アセスメントの内容を評価し、対象者の問題点について、改善目標とケアプランを作成する。また、対象者の食事記録をもとに対象者に提案する食事プランを考える。上記のライフステージごとに作成した栄養管理についてグループ毎に発表し、発表をもとに討論を行う。作成した基本献立をグループ単位で実習し、試食、評価を行う。これらの実習を通して、各ライフステージに適切な栄養管理について理解を深める。	
専門 教育 科目	健康 栄養教育概論	授業の目標とカリキュラム上の位置付け 本科目は、専門教育科目の「健康管理科学」に区分されている。また、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門分野の教育内容である「栄養教育論」の科目として位置づけられている。 授業の内容 対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう健康や生活の質(QOL)の向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な健康・栄養教育の理論と方法を修得する。さらに身体的、精神的、社会的状況等ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方、方法について修得する。 授業の形式・方式 対面授業。授業日程に従いパワーポイント等のメディアを使用し、講義形式で授業を進める。	
専門 教育 科目	健康 世代別栄養教育論	この科目の目標は、各世代に応じた健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また各世代に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう健康や生活の質(QOL)の向上につながる主体的な実践能力形成の支援に必要な健康・栄養教育の理論と方法を修得する。さらに身体的、精神的、社会的状況等ライフステージ(世代)、ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方、方法について修得することである。 妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期・思春期、成人期、高齢期に応じた栄養教育のあり方、方法について学ぶ。 本科目は、健康科学コースの専門教育科目「健康」に区分され、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門分野の教育内容「栄養教育論」の1科目として位置づけられている。	
専門 教育 科目	健康 臨床栄養教育論	授業の目標とカリキュラム上の位置付け 本科目は、専門教育科目の「健康管理科学」に区分されている。また、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門分野の教育内容である「栄養教育論」の科目として位置づけられている。 授業の内容 高齢社会が進展する中で、平成28年度より、低栄養、摂食嚥下障害、がん患者の栄養指導に保険点数が付与された。管理栄養士としてこれらの疾病を理解し、栄養指導できるような知識技能が要求される。本科目では、低栄養に関連する疾患、摂食嚥下障害に関する疾患を中心にその概要と食事療法、栄養指導方法について講義する。 授業の形式・方式 対面授業。授業日程に従いパワーポイント等のメディアを使用し、講義形式・演習形式で実施する。	
専門 教育 科目	健康 栄養教育論実習Ⅰ	授業の目標とカリキュラム上の位置付け 本科目は、専門教育科目の「健康管理科学」に区分されている。また、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門分野の教育内容である「栄養教育論」の科目として位置づけられている。 授業の内容 対象者から聞き取ったデータを基に、日常生活から消費エネルギー量を算定し、食生活状況から、摂取エネルギー量や栄養素量を算定する。得られたデータを基に対象者の問題点を把握し、その改善を提案する。また、個人のデータを集約し、全体での傾向を算定する。最後の授業では、パワーポイントを用い発表を行う。 授業の形式・方式 課題をグループで検討し、まとめをパワーポイントで発表する。授業の半分は情報処理室を使用。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	健康 栄養教育論実習Ⅱ	<p>授業の目標とカリキュラム上の位置付け 本科目は、専門教育科目の「健康管理科学」に区分されている。また、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門分野の教育内容である「栄養教育論」の科目として位置づけられている。</p> <p>授業の内容 症例を基に、病態の把握、アセスメント、プランニングを行い、パワーポイントを用いて発表を行う。実験では、①トロミ剤を用い、種々の液体にトロミ付けを行い、そのトロミの程度を測定するとともに官能評価を行う。②ゲル化剤を用い、種々の液体をゲル化し、その物性を測定するとともに官能評価を行う。③離乳食と咀嚼機能や嚥下機能の低下した高齢者食との比較を行う。</p> <p>授業の形式・方式 対面授業。作成したスケジュールに従い、実験および実習を行う。実験についてはレポートを作成、実習については発表を行う。</p>	
専門 教育科目	健康 臨床医学	<p>疾病発症のメカニズム、診断、検査法、さらには治療法を学ぶことを目標とする。臨床医学を学ぶためには生化学や分子生物学、また、病理学の習得が必要不可欠な学問である。この科目は、専門科目「運動・生体」に区分されている。病気の成り立ちに加え、診断・治療について講義を行う。循環障害、炎症、腫瘍について病理学総論を復習したのち、循環器（動脈硬化、狭心症、心筋梗塞、心不全、ショック）、呼吸器（肺炎、肺結核症、肺癌）、消化器（食道炎、食道癌、慢性胃炎、胃十二指腸潰瘍、胃癌、大腸癌、肝炎、肝癌、膵炎、膵癌）領域の疾患について講義を行う。</p>	
専門 教育科目	健康 臨床栄養学Ⅰ	<p>この科目は、専門科目「健康」に区分されており、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは専門分野の「臨床栄養学」の一つに位置づけられている。この科目では、病態の理解に基づく栄養療法を行う上で必要な基礎知識について学び、臨床栄養学の意義と医療人としての心構え、医療・介護制度や他職種との連携（チーム医療）および管理栄養士の役割について理解することを目標とする。栄養状態を評価するために必要な臨床診査、臨床検査、身体計測、食事調査、栄養管理方法について理解する。適切な栄養管理を行う手順（栄養管理計画の作成・実施・評価）と考え方について理解する。栄養補給法の選択方法や特徴について理解する。食品と医薬品の相互作用について理解する。</p>	
専門 教育科目	健康 臨床栄養学Ⅱ	<p>この科目は、専門科目「健康」に区分されており、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは専門分野の「臨床栄養学」の一つに位置づけられている。この科目では、栄養障害、消化器疾患、内分泌・代謝性疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、腎臓疾患等の病態や症状、経過およびライフステージ別の栄養評価、栄養管理について学び、各疾患の原因や背景、症状や病態を総合的に理解することを目標とする。適切な治療が施されない場合の経過や合併症について学び、病態の特徴や診療ガイドラインに基づく治療・予防法の意義と手法を理解する。栄養学的観点から病態を分析し、実践に活用できる総合知識を習得する。</p>	
専門 教育科目	健康 臨床栄養アセスメント	<p>この科目は、専門科目「健康」に区分されており、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは専門分野の「臨床栄養学」の一つに位置づけられている。この科目では、各疾患の症例、およびライフステージ別の事例を基に、摂取量、身体計測、臨床検査、身体所見、既往歴等の情報を収集・整理することにより、栄養状態を的確に評価・判定し、適正な栄養管理計画を立案する能力を身につけることを目標とする。各疾患の症例・ライフステージ別の事例を基に、診療録（カルテ）の見方・書き方、カンファレンス、栄養指導、他職種との連携など管理栄養士が臨床業務を行う上で必要となる専門的知識および実践的技術を習得する。</p>	
専門 教育科目	健康 病態別栄養マネジメント	<p>この科目は、専門科目「健康」に区分されており、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは専門分野の「臨床栄養学」の一つに位置づけられている。この科目では、傷病者の身体状況・病態、薬剤の服薬状況、摂食機能や要介護度等を含めた身体状況、生活・居住環境、およびその栄養状態のアセスメントに基づいた栄養管理計画を作成・実施・モニタリング・評価し、それに基づいた栄養補給、栄養教育を関連専門職との連携の下に行う能力を身につけることを目標とする。各疾患の症例を基に、診療録（カルテ）の見方・書き方、カンファレンス、栄養指導、他職種との連携など管理栄養士が臨床業務を行う上で必要となる専門的知識および実践的技術を習得する。</p>	
専門 教育科目	健康 臨床栄養学実習Ⅰ	<p>この科目は、専門科目「健康」に区分されており、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは専門分野の「臨床栄養学」の一つに位置づけられている。この科目では、臨床栄養管理の一連の流れを理解し、傷病者の病態や栄養状態、摂食機能等に応じた栄養管理計画、献立作成、実現可能な栄養指導が行える実践的な能力と技術を習得することを目標とする。栄養アセスメントの指標として用いられる身体計測、食事摂取量（食事調査）、臨床検査等について計測方法、調査方法の実践的技術を身につける。経静脈栄養法、経腸栄養法、経口栄養法の手法を理解し、各栄養補給法の適応、合併症とその対策への技能を身につける。栄養評価、栄養診断に基づく栄養補給計画を作成し、計画に応じた食事を調製できるようになる。</p>	
専門 教育科目	健康 臨床栄養学実習Ⅱ	<p>この科目は、専門科目「健康」に区分されており、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは専門分野の「臨床栄養学」の一つに位置づけられている。この科目では、臨床栄養管理の一連の流れを理解し、傷病者の病態や栄養状態、摂食機能等に応じた適切な栄養管理計画、献立作成、実現可能な栄養指導が行える実践的な能力と技術を習得することを目標とする。栄養評価、栄養診断による具体的な栄養管理計画を作成する。各種疾患に応じた食事計画（治療食の献立作成や食品選択）の立案、栄養指導媒体作成、ベッドサイドでの栄養指導ロールプレイングを実習する。栄養指導報告書を診療録に記載する技能を身につける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	健康 臨床栄養臨床実習Ⅰ	この科目は、健康科学コースの専門科目「健康」に区分され、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門基礎分野の教育内容である「臨床実習」の1つの科目として位置づけられている。病院における栄養アセスメントに基づいた栄養ケアプランの作成・実施・評価についての総合的なマネジメント、チーム医療における管理栄養士の役割などの実際を学習し、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理に必要な専門的知識及び技能を修得する。施設の状況に応じて、指導担当者の指示に従った内容となるため、学内において専門領域の基礎的な知識・技術・態度を身につけ、目標を明確にしておくことが重要である。施設での実習期間は1週間（40時間）であり、給食経営管理臨床実習Ⅰ、臨床栄養臨床実習Ⅱとあわせて3週間（120時間）の実習期間とする。施設では、自らの学習目標を明確にした上で、施設の指導担当者の指示に従って実習する。	
専門 教育 科目	健康 臨床栄養臨床実習Ⅱ	この科目は、専門科目「健康」に区分されており、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは専門分野の「臨床実習」の一つに位置づけられている。この科目では、実践活動の場で専門知識および技術の統合を図る。施設の状況に応じて、指導担当者の指示に従った内容となるため、学内において専門領域の基礎的な知識・技術・態度を身につけ、目標を明確にしておくことが重要である。具体的には、以下の事項を参考に、個人およびグループで目標を設定する。 (1) 診療科やベッドサイドへの訪問・患者対応 (2) 外来・入院患者を対象とした栄養・食事指導（集団および個別）の実際 (3) カルテの閲覧、栄養問題の実際 (4) 栄養アセスメントの実施、栄養ケアプランの立案、クリニカルパスの実際 (5) カンファレンス、病棟回診への参加、チーム医療における他職種との連携（栄養サポートチームの実際） (6) 栄養管理計画書および報告書の実際	
専門 教育 科目	健康 臨床栄養臨床実習Ⅲ	この科目は、専門科目「健康」に区分されており、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは専門分野の「臨床実習」の一つに位置づけられている。この科目では、実践活動の場で専門知識および技術の統合を図る。施設の状況に応じて、指導担当者の指示に従った内容となるため、学内において専門領域の基礎的な知識・技術・態度を身につけ、目標を明確にしておくことが重要である。具体的には、以下の事項を参考に、個人およびグループで目標を設定する。 (1) 診療科やベッドサイドへの訪問・患者対応、(2) 外来・入院患者を対象とした栄養・食事指導（集団および個別）の実際、(3) カルテの閲覧、栄養問題の実際、(4) 栄養アセスメントの実施、栄養ケアプランの立案、クリニカルパスの実際、(5) カンファレンス、病棟回診への参加、チーム医療における他職種との連携（栄養サポートチームの実際）、(6) 栄養管理計画書および報告書の実際	
専門 教育 科目	健康 公衆栄養学	この科目の目標は、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を習得することである。 公衆栄養の概念、健康・栄養問題の現状と課題、栄養政策、栄養疫学について学ぶ。 本科目は、健康科学コースの専門教育科目「健康」に区分され、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは、専門分野の教育内容「公衆栄養学」の1科目として位置づけられている。	
専門 教育 科目	健康 地域栄養論	この科目の目標は、地域の保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を習得する。さらに地域の各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解することである。 地域栄養マネジメント、地域栄養プログラムの展開、地域栄養プログラムの課題と展望について学ぶ。 本科目は、健康科学コースの専門教育科目「健康」に区分され、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは、専門分野の教育内容「公衆栄養学」の1科目として位置づけられている。	
専門 教育 科目	健康 公衆栄養学実習	この科目の目標は、①地域や集団の健康・栄養問題、ニーズ等を情報収集・分析できる ②適切な課題分析・診断に基づく公衆栄養プログラムの作成・実施ができる ③総合的な評価を行う公衆栄養マネジメントの技術・技能を修得することである。 ①公衆栄養学実習の基本的な考え方 ②地域や集団の健康・栄養状況の実態把握・課題分析・診断の方法 ③公衆栄養計画・目標の立て方 ④公衆栄養活動の進め方と評価方法について体験的に学び、授業内で実践する。 本科目は、健康科学コースの専門教育科目「健康」に区分され、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは、専門分野の教育内容「公衆栄養学」の1科目として位置づけられている。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	健康 地域保健臨地実習	この科目の目標は、①保健所・保健センターが果たす役割と業務を理解する ②健康・栄養問題を取り巻くさまざまな情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定できる ③対象に応じた適切な健康関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の過程を通じて総合的なマネジメントに必要な事項の実際を学ぶことである。以上の目標を達成することにより、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図ることを目的とする。 施設（保健所・保健センター）での実習である。 本科目は、健康科学コースの専門教育科目「健康」に区分され、管理栄養士養成施設の臨地実習4単位のうち、「公衆栄養学」に係る臨地実習1単位の位置づけられている。	
専門 教育 科目	健康 給食栄養・安全管理論	特定給食施設における給食経営管理のうち、「栄養・食事管理の基礎となる献立作成、実施、評価」および「給食を安全に提供するためのリスクマネジメント」に関する力を備えることを目標とする。給食提供の目的は、喫食者に食物選択行動の自己管理能力を身につけさせ、心身の発達・発育、健康維持・増進、疾病の治療・予防などを行うことであり、栄養教育の媒体として給食献立の役割は大きい。また、喫食者の特性に合わせた食事を生産する工程は極めて複雑である。そのため、管理栄養士には、栄養教育の媒体としての食事（給食）を確実に生産する力と、食中毒などのリスクが低い生産工程を構築する力が求められる。本科目では、病院、学校、福祉施設などの特定給食施設の栄養・食事管理システムの実例、HACCPの概念に基づいたリスク対策について学び、給食運営（給食実務、給食サービス）ができる力を身につける。	
専門 教育 科目	健康 給食経営管理論	特定給食施設における給食経営管理のうち、「喫食者が給食に求める品質を保証した食事を提供するためのマネジメント能力」を養うことを目標とする。給食における栄養管理、安全管理を十分に理解した上で、給食経営の方針を決め、効率的に人的資源、物的資源、財務的資源を活用すること、さらに、自身の有する栄養管理、安全管理に関する知識、技術、情報などを統合することの重要性を理解する。そのために、関連の資源（食品の流通や食品開発の状況、給食に係る組織や経費等）を総合的に判断しマネジメントできる能力を養うとともに、マーケティングの原理や応用を理解し、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。	
専門 教育 科目	健康 給食経営管理実習	給食栄養・安全管理論、給食経営管理論で修得した知識を基に、100-150食規模の給食を提供し、給食サービス提供に関する技術を体得するとともに、「喫食者に食物選択行動の自己管理能力を身につけさせ、心身の発達・発育、健康維持・増進、疾病の治療・予防などを行う」という給食提供の目的達成のためには組織管理などのマネジメントが重要であることを理解する。具体的には、①給食の目標を達成する給食サービス実施のための方針、危機管理体制を定めた上で、②栄養・食事管理（栄養アセスメントの実施、栄養教育計画、給与栄養目標量、荷重平均成分表、実施献立、食品構成表の作成）、③生産・安全管理（作業指示書、作業工程表、作業動線図、機器・什器管理マニュアル、衛生管理マニュアルの作成）を行い、④人的資源、物的資源、財務的資源の効率的な活用に取り組む。最終回では実施した給食サービスを評価し、改善案を作成する。	共同
専門 教育 科目	健康 給食経営管理臨地実習Ⅰ	病院における食事の計画や調理を含めた給食管理業務を体験し、喫食者の栄養状態とニーズに対応した給食サービス提供に必要な専門的知識及び技能を修得する。また、栄養士・管理栄養士の役割や業務について理解を深め、実践活動の場での課題発見、解決を通して専門知識および技術の統合を図ることを目標とする。具体的な実習内容は、実習施設、担当教員、履修学生で決定するが、以下を含むものとする。①施設の組織・運営の特徴、給食部門・栄養部門・各種委員会の位置づけと目的的理解、②給食管理業務の体験（献立作成や材料発注などの食事計画、衛生管理や施設設備のレイアウトを考慮した調理作業計画、給食関連帳簿の作成など）、③給食における個人対応と食数管理の実際。	
専門 教育 科目	健康 給食経営管理臨地実習Ⅱ	学校における食事の計画や調理を含めた給食管理業務を体験し、児童・生徒の栄養状態とニーズに対応した給食サービス提供に必要な専門的知識及び技能を修得する。また、栄養士・管理栄養士の役割や業務について理解を深め、実践活動の場での課題発見、解決を通して専門知識および技術の統合を図ることを目標とする。本実習は、給食経営管理臨地実習Ⅰ（病院における校外実習（給食の運営））を履修済みの学生を対象とし、給食実務の学修にとどまることなく、教職員、厨房職員等との関わりの中で、学校給食のマネジメントの考え方や方法を理解することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	健康 総合演習	<p>授業の目標とカリキュラム上の位置付け この科目では、「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育概論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」などで習得した知識・技能を統合し、栄養評価・判定に基づいた適正な栄養管理を行う能力を身につけるため、科目横断的な講義を行う。</p> <p>また、「臨地実習」の事前・事後教育を行い、実践の場での問題解決ができる能力を養う。本科目は、管理栄養士養成施設カリキュラムにおいて、専門分野「総合演習」として位置づけられる。</p> <p>授業の内容 専門分野の教育で習得した知識・技能を統合し、医療機関および行政機関などで管理栄養士の業務を遂行する能力を養う。</p> <p>「臨地実習」に向けて、病院や保健センター等の管理栄養士の先生方による講義を受け、臨地実習に向けて準備すべき事柄を整理し、自らが取り組むべき課題を設定する。また、地域保健臨地実習については実習施設ごとの事前指導、実習後の報告会も行う。</p> <p>成績評価の方法 課題の取り組みなどを基に総合的に判断する。</p>	共同
専門 教育科目	健康 健康科学総合演習	<p>この科目は、専門科目「健康」に区分されており、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは専門分野の「総合演習」の一つに位置づけられている。この科目では、専門分野の教育で習得した知識・技能を統合し、医療機関および行政機関などで管理栄養士の業務を遂行する能力を養う。</p> <p>「臨床栄養・給食経営管理臨地実習」に向けて、糖尿病食と腎臓病食を3日間調理・試食することで、管理栄養士として求められることを体験を通して考え、臨地実習に向けて準備すべき事柄を整理し、自らが取り組むべき課題を設定する。また、臨床栄養・給食経営臨地実習については実習施設ごとの事前事後指導、実習後の報告会も行う。</p> <p>(28 杉山寿美 6/15回) 糖尿病・腎臓病の食事計画</p> <p>(51 神原知佐子 2/15回) 患者さんから学ぶ</p> <p>(51 神原知佐子・26 栢下淳・28 杉山寿美 5/15回) 事前・事後指導</p> <p>(51 神原知佐子・26 栢下淳・28 杉山寿美・33 森脇弘子 2/15回) 実習報告会</p>	オムニバス方式
専門 教育科目	地域 協働演習	<p>【授業の目標とカリキュラム上の位置づけ】 履修生が大学での学びを生かし、それぞれの専門性と相互の協働性をもって、広島を中心とした地域社会における課題解決にむけて主体的に取り組む科目である。</p> <p>【授業の内容】 少人数のセミナー形式で広島の地域問題解決に向けたプロジェクトチームを組織し、異なるコースに所属する学生同士がそれぞれの学びを通して修得した知識・技能を生かしながら、地域社会との実践的な関わり合いを通して協働することの重要性や意義を理解する。社会人として必要とされる互いの専門性を尊重するマインドを身につけると同時に、具体的な地域課題に触れることにより、地域の将来に関わる社会的な問題意識を醸成する。</p>	
専門 教育科目	卒業 論文・ 卒業	卒業論文Ⅰ	<p>本科目は、健康科学コースの専門教育科目・卒業論文・卒業研究に区分されており、3年次の必修科目である。専門教育科目の「食、運動・生体、健康」コアユニットを専攻する学生が本科目の履修対象者になる。学生は各自が興味関心を持つ研究領域を取り扱う研究室を選択する。選択した研究室では、指導教員のもとで、文献（論文）検索による研究課題の設定、背景の整理、目的の明確化、実験や調査方法の理解、データの収集と整理、結果の考察等の素養を修得するとともに、研究を進める上での倫理的な配慮、研究規範について学ぶ。</p>
専門 教育科目	卒業 論文・ 卒業 研究	卒業論文Ⅱ	<p>本科目は、健康科学コースの専門教育科目・卒業論文・卒業研究に区分されており、4年次の必修科目である。「卒業論文Ⅰ」を修得した学生が、指導教員のもとで各自の研究テーマに主体的に取り組む過程を通じて、研究課題（仮説）の検証に関する科学的な研究方法を修得する。具体的には、3年次末までに修得した幅広い教養及び「食、運動・生体、健康」に関する知識を応用し、研究課題（仮説）の検証のための1年間の研究計画の作成、調査・実験の実施、データ解析と結果の考察を指導教員のもとで進める。最終的には、研究の背景・目的・方法、結果と考察（論議）等を卒業論文としてまとめるとともに同論文の内容を一般公開形式により口頭発表する。</p>
専門 教育科目	卒業 論文・ 卒業	地域課題解決研究Ⅰ	<p>本研究着手までに学修した成果を活かし、身に付けた専門知識や課題発見能力、また資料収集などの技法を用いて、本学での学びの集大成となる論文等の成果物の作成に着手する。学生は、各学部・学科・コースが有する専門性に即して、自身が持つ興味・関心・目的に応じて自らテーマや題材を選択し、その専門性を活かしつつ地域や社会に関連する、または地域課題の解決につながる学際的なテーマを設定する。また、選択したテーマ等に応じて、複数教員による指導体制をとることで、多面的な指導を行う。</p>

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	卒業論文・卒 業研究	地域課題解決研究 II	地域課題解決研究 I を踏まえ、本学での学びの集大成となる論文等の成果物作成を行う。学生は、各学部・学科・コースが有する専門性に即し、興味・関心・目的に応じて自ら設定したテーマや題材について、さらに追及し、同時にその専門性を活かすことで、地域や社会に関連する、または地域課題の解決につながる論文等を作成する。また、地域課題解決研究 I に引き続き、選択したテーマ等に応じて、複数教員による指導体制をとることで、多面的な指導を行う。
その他科目	教職関連科目	学校栄養教育論 I	栄養教諭の職務内容や使命・役割および学校給食の意義・役割、歴史などについて、学校における児童・生徒の食の現状の事例とともに説明する。また、学校給食を「生きた教材」として、根拠に基づいた食育を展開するために、食や栄養に関する調査データと歴史的・文化的事項や社会事情等を併せて考察する。 本科目は栄養教諭一種免許取得のための「栄養に係る教育に関する科目」として位置づけられており、「栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項」「幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項」「食生活に関する歴史のおよび文化的事項」を学ぶ科目である。
その他科目	教職関連科目	学校栄養教育論 II	【授業の目標】 食に関する指導方法を理解するとともに、栄養教諭として効果的な指導ができるように指導計画を立て、学習指導案の作成ならびに授業（模擬）を行うことができる。 【カリキュラム上の位置付け】 本科目は、栄養一種免許取得に必要な「栄養に係る教育に関する科目」のうち、「食に関する指導の方法に関する事項」科目の2単位に位置付けられる。 【授業の内容】 学校における食に関する指導は、教育活動全体を通して行うことが重要で、本授業では、各教科（家庭科、技術・家庭科、体育科、保健体育科、理科、社会など）や総合的な学習の時間、特別活動（給食の時間、学級活動、学校行事など）など様々な場面における食に関する指導ならびにその評価について学び、理解を深めていきます。これら食に関する指導の方法について理解した後、自身で学習指導計画案を作成し、それを用いて模擬授業を行います[TT(Team Teaching)指導の授業]。この学習指導案および模擬授業について、相互批評を行います。
その他科目	教職関連科目	教育学概論	本授業は、施行規則に定める科目区分のうち、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に該当する科目である。教育の初学者を対象として、教育学の概要や教育の基本的な概念について講述する。教育の理念について理解すること、主要な人物の教育思想を理解すること、学校教育の成立過程について理解すること、現代の教育の動向に触れることが目標である。 大学入学以前に生徒として関わっていた学校教育について、その成立の過程を教育の通史や教育の思想から考える。それらの内容を踏まえ、教育の意義や目的、現代の教育に関する制度、教育実践、教育問題の解説と考察を行う。教育学の入門としての内容で構成する授業である。受講者がいままで当然のように接してきた学校教育がどのように成立してきたのか、その一端に触れるとともに、学びは学校に通う時期のみならず、生涯にわたることを理解することを目的とする。
その他科目	教職関連科目	教職入門	本授業は、施行規則に定める科目区分のうち、教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）に該当する科目である。教職課程の入門科目である。教職に関する基礎知識を身に付け、教職に就くためのプロセスを把握して進路選択を行い、教師としての意識付けを行う。教師の役割について考察すること、教師の職務内容や心がけるべきことにはどのようなものがあるか説明できるようになること、自らの教師としての資質能力について省察すること、教師としての使命感を培うことを目標とする。 また近年、学校の担う役割が拡大・多様化している。担当教員単独で対応するのが難しいこともある。学校内外の教職員や専門家等と連携・分担する必要性について理解する。
その他科目	教職関連科目	教育社会学	本授業は、施行規則に定める科目区分のうち、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）に該当する科目である。学校や子ども、教師を巡る近年の社会的状況を理解し、その変化が学校教育に与える影響を理解する。それに対応するための教育政策や学校の取組について、事例を通じて理解する。 近年、我が国では様々な教育改革が進められている。時に児童生徒の人命にも関わるといった様々な教育課題が山積する現代において、一人の教員のみで対応することには限界がある。従来、児童生徒の指導は担当教員や学校がすべて担うものとされてきたが、これからの教員には学校内外での連携・協働が求められている。教員として勤務し、地域と連携しながら生徒を指導する上で必要な教育法規や教育制度、学校経営、教員の服務に関する事項を学修する。
その他科目	教職関連科目	教育心理学	この科目では、教員免許取得を希望する学生を対象にして、児童・生徒の発達や学習過程など教育活動に関わる心理学について、基本的な内容を学習する。将来、教育現場に立つときに必要となる教育心理学の基礎知識を身につけること、また、そのような知識をどのようにして教育活動に生かすことができるかを常に考える態度を身につけることを目標とする。本科目は、中・高等学校教諭及び栄養教諭の免許に係る教職に関する必修科目で、教育の基礎理論に関する科目の一つとして位置づけられている。生徒・進路指導論、教育相談等の他の教職に関する科目で扱う内容は扱わない。

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
その他科目	教職関連科目 特別支援教育	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解に該当する科目である。到達目標としては、以下の7つが挙げられる。①インクルーシブ教育を含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。③様々な障害のある生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。④特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法を示すことができる。⑤通級による指導、自立活動の教育課程上の位置づけと内容が理解できる。⑥個別の指導計画及び個別の教育支援計画の必要性が理解できる。⑦母語や貧困、生育環境等により、教育や発達援助における特別なニーズのある幼児、児童、生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性が理解できる。	
その他科目	教職関連科目 教育課程論	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）に該当する科目である。教育課程の意義及び編成原理に関する理解を深め、中学校・高等学校におけるカリキュラム・マネジメントの具体的な実践の検討を通して、教育課程編成にかかわる内的要因と外的要因の関係をとらえるとともに、カリキュラムを評価することの意義や課題について理解することが目標である。到達目標としては、教育課程・カリキュラムの概念や類型について説明できること、これらの歴史的変遷について説明できること、これらを編成する上でのポイントが説明できることである。	
その他科目	教職関連科目 道徳教育論	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、道徳の理論及び指導法に該当する科目である。学校における道徳教育の目的と内容・方法について理解することが目標である。子どもの各発達段階の特徴に基づいて道徳の授業は類型化できることを理解し、発問の工夫、板書構成、道徳科の学習指導案作り、模擬授業の実践、道徳授業の評価などを行うことで、発達段階に応じた道徳教育の在り方について理解する。	
その他科目	教職関連科目 総合的な学習の時間の指導法	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、総合的な学習の時間の指導法に該当する科目である。総合的な学習の時間の歴史、目標、内容とその実践についての理解を深め、教師として総合的な学習の時間を指導する力を身につけることが目標である。総合的な学習の時間の目標や内容、その指導法について説明できるようになること、総合的な学習の時間の歴史や教育的意義について説明できるようになること、総合的な学習の時間を自ら計画し、実践の見通しを立てることができるようになることが到達目標である。	
その他科目	教職関連科目 特別活動論	本授業は、施行規則に定める科目区分のうち、特別活動の指導法に該当する科目である。特別活動は、学校内における児童生徒の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、集団や社会における生活や人間関係を形成する重要な役割を持っている。特別活動の目標や意義などの基本理念について理解すること、特別活動の具体的な内容と指導方法について理解すること、特別活動を学校での教育活動の中に位置づけ、地域住民や教職員と連携しながら、特別活動の企画・運営を行う基礎を養うことが目標である。 本授業では、まず、歴史的変遷を踏まえつつ、特別活動の意義、目標、内容を理解する。それとともに、具体的な特別活動の事例を用いながら、学生自身によってその運営と実施について検討し、報告・実践を行う。	
その他科目	教職関連科目 教育方法学	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）に該当する科目である。これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法を理解することが目標である。具体的には、①主体的・対話的で深い学びの実現に向けての教育方法の在り方が理解できる。②教育方法の知見を深めるために、学級・生徒・教員・教室・教材などを歴史的に、実践的に理解できる。③学習評価の基礎的な考え方が理解できる。④生徒理解、説明、発問、指示、語り掛け等の授業を行う上での基礎的な技術を身に付ける。⑤学習理論を踏まえて、学習指導案を作成することができる。⑥生徒の学習課題を明確にしたり、学習内容を深めたりすることができる情報機器を活用して、効果的に教材などを作成・提示することができる。⑦情報倫理などの情報活用能力を育成するための指導法を理解できる。	
その他科目	教職関連科目 生徒・進路指導論	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、生徒指導の理論及び方法、進路指導（キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。）の理論及び方法に該当する科目である。生徒指導の意義や原理、生徒指導の基礎となる生徒理解の方法とその留意点、学級を望ましい教育集団にする学級経営について必要な知識、課題を抱える子供たちへの対応、進路指導・キャリア教育の意義や原理、進路指導の在り方や考え方などについて解説し、教師として生徒指導、進路指導を進める上で必要な知識、スキルを獲得することが目標である。	
その他科目	教職関連科目 生徒指導論	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、生徒指導の理論及び方法に該当する科目である。多くの学生は、生徒指導は生活指導と同義と捉え、本来の生徒指導の意義や目的を理解していない現状がうかがえる。まずは生徒指導とは何を指す教育活動なのかを理解することが目的である。具体的には、生徒指導の意義や原理、生徒指導の基礎となる生徒理解の方法とその留意点、学級を望ましい教育集団にする学級経営について必要な知識、課題を抱える子供たちへの対応などについて解説し、教師として生徒指導を進める上で必要な知識、スキルを獲得することが目標である。	

授 業 科 目 の 概 要

(地域創生学部地域創生学科健康科学コース)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
その他科目	教職関連科目 教育相談	本講義は、施行規則に定める科目区分のうち、教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法に該当する科目である。学校における教育相談の意義と理論、教育相談を進める上で必要となる心理学的な知識（カウンセリングの基礎的な姿勢や技法を含む）等について解説し、それらに必要な知識、スキルを獲得することが目標である。それとともに、教育相談の機能が期待される具体的な事象について提示し、習得した知識やスキルを使って、どのような対応が考えられるか検討することで、知識、スキルが活用できるようにする。	
その他科目	教職関連科目 教育実習指導	教育実習Ⅰ・Ⅱの事前および事後の指導を行う。事前指導では、教育実習の内容・方法、心構え、事前の準備などについて理解することを目標とする。事後指導では、教育実習の内容・体験の反省、総括、評価などを行う。この授業は、「その他の科目」の「教職関連科目」に位置づけられる。	
その他科目	教職関連科目 教育実習Ⅰ	すでに教職関連科目で学校教育について理論面を中心に学んできたことを踏まえ、さらに実地での経験をもつために、学校での実習を行う。実習校では担当教員の指導のもとに、実習校の生徒や学習環境に応じて、学習指導、生徒理解、教師と生徒との人間関係など、指導の実際について体験し、学校実務に対する補助的な役割を担いながら、教師としての基本的資質を養い、学校経営、および、教育活動の特色を理解する。この授業は、「その他の科目」の「教職関連科目」に位置づけられる。	
その他科目	教職関連科目 教育実習Ⅱ	すでに教職関連科目で学校教育について理論面を中心に学んできたことを踏まえ、さらに実地での経験をもつために、学校での実習を行う。実習校では担当教員の指導のもとに、実習校の生徒や学習環境に応じて、学習指導、生徒理解、教師と生徒との人間関係など、指導の実際について体験し、学校実務に対する補助的な役割を担いながら、教師としての基本的資質を養い、学校経営、および、教育活動の特色を理解する。この授業は、「その他の科目」の「教職関連科目」に位置づけられる。	
その他科目	教職関連科目 教職実践演習（中・高）	本演習は、施行規則に定める科目区分のうち、教職実践演習に該当する科目である。教職課程の個々の科目の履修により習得した専門的な知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情をもって、学級を経営したり、教科を担当したりしながら、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できるように必要な資質・能力を獲得することが目標である。そのために、役割演技、事例研究、中学校・高等学校などでの授業参観、模擬授業などを実施する。また、教員勤務経験者による演習も実施する。	
その他科目	教職関連科目 介護等体験	義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、介護等体験特例法の規定に基づき、中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行う。これらの体験を通して、教職志望学生が自他の価値観の相違を認め、人の心の痛みがわかるようになることなどを目標とする。この授業は、「その他の科目」の「教職関連科目」に位置づけられる。	
その他科目	教職関連科目 教育実習指導（栄養教諭）	この科目では、学校栄養教育論Ⅰ・Ⅱおよび教職に関する科目などで習得した知識・技術を統合し、小学校・中学校において教育実習（栄養教諭）を行うための能力を身につけることを目標とする。本科目は、栄養一種免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「栄養教育実習」科目の1単位に位置づけられている。授業内容は、教育実習前の事前指導として、教育実習（栄養教諭）の意義や目的、心構え、実習の評価の方法、実習後の提出物（実習ノートや指導案など）、実習中の大学との連絡方法などについて説明する。また、指導案の実践的な作成と発表、模擬授業などの演習、評価を通して、食に関する指導法の体得を図る。さらに、事後指導として、実習の反省、問題点の整理、今後の課題の明確化等を行う。	
その他科目	教職関連科目 教育実習（栄養教諭）	この科目では、実際の学校教育現場で、栄養教諭の仕事内容を総合的・体験的に学ぶことを目的とし、教育活動全般の研修を通して、学校教育に関する理解と知識を深めるとともに、栄養教諭の心構えや態度を学修し、栄養教諭に求められる役割を理解することを目標とする。また、学校給食管理の実際を把握し、生きた教材としての給食と食に関する指導との一体化について理解する。本科目は、栄養一種免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「栄養教育実習」科目の1単位に位置づけられている。実習の主な内容は、1) 指導教諭等からの説明、2) 児童及び生徒への個別な相談、指導の実習、3) 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習、4) 食に関する指導の連携・調整の実習、である。	
その他科目	教職関連科目 教職実践演習（栄養教諭）	この科目では、栄養に係る教育に関する学びによって、学生が身につけてきた知識技能を確認し、不足している知識や技能を補うとともに、これまでに得た資質能力を有機的に統合し、学校現場に適応できる実践的能力を身につけることを目標とする。具体的には、この授業を通して、①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③児童・生徒理解や学校給食等に関する知識、④「食育」等の指導力などを育成する。本科目は、栄養一種免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教職実践演習」科目の2単位に位置づけられている。授業の内容は、教職の意義や教員の役割、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解、学級経営、食に関する指導力などについて、ロールプレイング、グループ討論、事例研究、学校現場の見学・調査、模擬授業、教育関係機関から講師を招いた学修などを行う。	

公立大学法人 県立広島大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度			入学 定員	収容 定員	令和2年度			入学 定員	収容 定員	変更の事由
県立広島大学					県立広島大学					
人間文化学部	国際文化学科		85	340			0	0	令和2年4月学生募集停止	
	健康科学科		35	140			0	0		
	学部計		120	480			0	0		
経営情報学部	経営学科		60	240			0	0	令和2年4月学生募集停止	
	経営情報学科		40	160			0	0		
	学部計		100	400			0	0		
生命環境学部	生命科学科		110	440			0	0	令和2年4月学生募集停止	
	環境科学科		55	220			0	0		
	学部計		165	660			0	0		
→										
					地域創生学部	地域創生学科	地域文化コース	75	300	学部の設置(届出)
							地域産業コース	90	360	
							健康科学コース	35	140	
						学部計		200	800	
					生物資源科学部	地域資源開発学科		40	160	学部の設置(届出)
						生命環境学科		100	400	
						学部計		140	560	
					保健福祉学部	看護学科		60	240	
						理学療法学科		30	120	
						作業療法学科		30	120	
						コミュニケーション障害学科		30	120	
						人間福祉学科		40	160	
						学部計		190	760	
-----					-----					
学部合計			575	2,300	学部合計			530	2,120	
県立広島大学大学院					県立広島大学大学院					
総合学術研究科	人間文化学専攻	修士課程	10	20	総合学術研究科	人間文化学専攻	修士課程	10	20	課程名の変更 課程の変更(認可申請)
	情報マネジメント専攻	修士課程	10	20		情報マネジメント専攻	修士課程	10	20	
	生命システム科学専攻	博士課程前期	30	60		生命システム科学専攻	博士課程前期	30	60	
		博士課程後期	5	15			博士課程後期	5	15	
	保健福祉学専攻	修士課程	20	40		保健福祉学専攻	博士課程前期	20	40	
							博士課程後期	5	15	
						研究科計		80	170	
-----					-----					
経営管理研究科	ビジネス・リーダーシップ専攻	専門職学位課程	25	50	経営管理研究科	ビジネス・リーダーシップ専攻	専門職学位課程	25	50	
						研究科計		25	50	